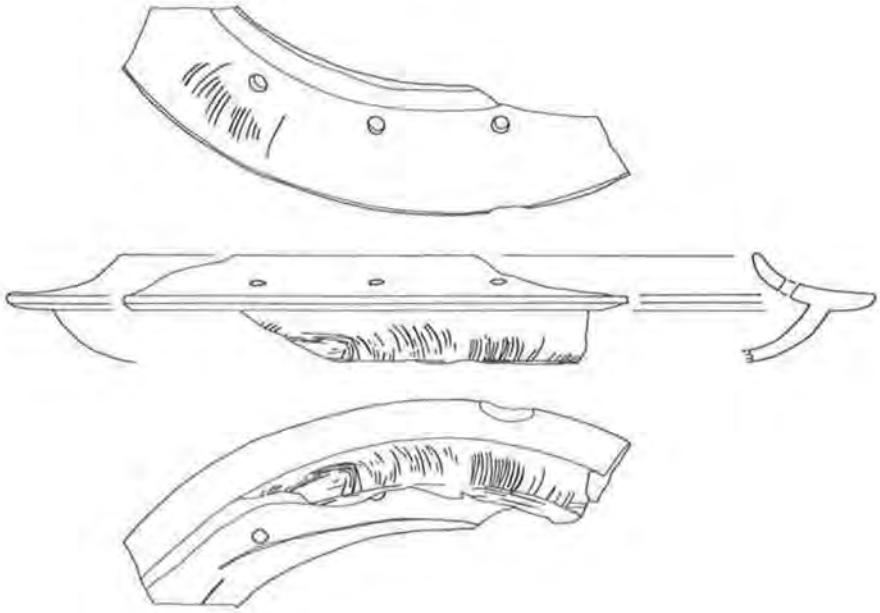
小暮地区遺跡群

広面遺跡

ひろ　めん

平成２年度県営ほ場整備事業嶺地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



１９９４

群馬県勢多郡富士見村教育委員会

広面遺跡Ａ～Ｄ区全景（南上空から）

序　　文

富士見村は、赤城山の南西麓に位置し、西に榛名山、妙義山を望み、南に西上州の山々、さらには遠く富士山が見えるということが村名の由来になったように、豊かな自然に囲まれた風光明媚な地であります。また、赤城山の南麓から南西麓にかけては、広く遺跡の宝庫として知られており、近年の発掘調査の増加によって、具体的な歴史事象が次第に明らかにされつつあります。

農業を主産業とする富士見村は、農業を巡る環境の変化に伴い、平成元年度から県営嶺地区の圃場整備事業を行ってりましたが、今回の調査はその3年次事業に伴い行われたものであります。

広面遺跡からは縄文時代前期後半の住居跡・土坑、前期中葉の土坑、中・後期の土器、平安時代の住居跡、江戸時代の暗渠等が検出され、多量の遺物が出土しました。これらの成果の内の一部については平成4年度に概要報告書として刊行しておりますが、概要報告では社会的な責任を果たせないことは十分承知しているところであり、今回改めて本報告書を刊行する次第と成ったわけであります。

本報告書についても必ずしも十分な時間と費用をかけて行ったわけではありませんが、本地域の歴史を解明する一助として戴ければ幸いに存じます。

最後に、発掘調査にあたりご尽力いただいた関係諸機関、地権者の方々、さらには、現場で調査に携わった作業員の皆様に心より感謝申し上げ、序といたします。

平成6年3月

富士見村教育委員会

教育長　鈴　木　清　茂

例　　言

1．本書は県営ほ場整備事業に伴い事前調査を行った群馬県勢多郡富士見村大字小暮に所在する広面遺跡の発掘調査報告書である。

平成３年度に概要報告書が刊行されているが、本報告書との間で異同があった場合には、本報告書の記載を優先する。

2．発掘調査は平成２年５月10日から７月28日まで行った。

整理作業並びに報告書刊行作業は平成３年６月１日から平成６年３月31日まで行った。

3．発掘調査は前橋土地改良事務所の委託により富士見村教育委員会直営で実施した。

4．発掘調査・整理組織は以下のとおりである。

教　育　長　鈴木清茂

社会教育課長　狩野　透（～平成４年３月）　青木鶴男（平成４年４月～）

〃　係長　本多幸一（～平成５年３月）　樺沢幹夫（平成５年４月～）

〃　文化財係　羽鳥政彦（調査担当）

5．本書の編集・執筆は羽鳥が行った。遺物実測・トレース、遺構図面トレース、実測図版版組写真図版版組は舩津かほるが行った。また、拓本・遺物実測・トレースに塩沢雪江　関口照子　関口すみ子　中東彰子　久保学が従事した。さらに、遺物実測・図面トレースの一部は技研測量設計㈱に委託している。

6．発掘調査及び整理作業にあたり、ご指導・ご助言いただいた下記の関係諸機関、諸氏に心より感謝申し上げます。　（敬称略、順不同）

群馬県教育委員会文化財保護課　前橋土地改良事務所　富士見村土地改良課

嶺土地改良区　勢多郡事務研社会教育部会文化財分会

小島純一　細野高伯　松田光太郎　長谷川福次　山下歳信　大工原豊　関根慎二　谷藤保彦

7．発掘調査・整理作業員は以下のとおりである。

青木幸栄　青木とくよ　阿久沢志津子　天田トキ　伊藤ふさ枝　狩野かほる　木暮朱実

木村利男　小林ふじ子　小林としえ　斎藤正子　鈴木朋茂　田中き代子　田中秀道

田中よし　田村節子　南雲友枝　荻原やす　平沢小夜子　福田松江　福田みね　舩津かほる

塩沢雪江　関口照子　関口すみ子　中東彰子　久保学

8．出土遺物、調査資料類は一括して富士見村教育委員会に保管してある。

凡　　例

1．遺構番号は基本的に調査時点のものを用いている。
　土坑は各区毎に付している。(例：A区のＪ１号土坑はＡＪ１号土坑と表記)
　それ以外の遺構は遺跡内で通し番号となっている。

2．遺構図方位記号は座標北を表している。

3．第２図は建設省国土地理院発行の２万５千分の１地形図（渋川）を加筆して使用している。
　第３図は富士見村役場発行２千５百分の１現形図を２分の１縮尺して用いている。

4．挿図縮尺は以下のとおりである。石器については同一器種でも統一を図らず、非常に繁雑な見難いものとなってしまったが、挿図中にスケール、縮尺を付したので参照して戴きたい。

遺構	竪穴住居跡	1/80	遺物	縄文土器　完形、復元実測、展開図	1/4
	土坑	1/60		縄文土器片拓本	1/3
	4号溝	1/120		土師器・須恵器・陶磁器	1/4
				石器　石鏃　1/1、1/2　　尖頭器　1/2	
				石錐・石匙　1/1、1/2、1/3	
				打製石斧・スクレイパー・石核　1/3	
				磨石・凹石　1/4　　石皿、多孔石　1/6	

5．土器実測図版中で1/3と1/4が併存する場合には1/4の番号を丸囲み数字とした。

6．石器計測表中の石材の粗輝安は粗粒輝石安山岩の略である。また、石材についての専門的な鑑定を行っていないため、誤認しているものもあると思われる。

目　　次

カラー巻頭図版
序　文
例　言
凡　例
目　次
図版目次
表 目 次
写真図版目次
抄　録

I　発掘調査の経緯
1．発掘調査に至る経緯……1
2．調査の経過……1
3．調査地の位置と立地及び周辺の遺跡……1
4．調査の方法……3
5．土層堆積状況……4
II　検出された遺構と遺物
1．概　　要……8
2．縄文時代の竪穴住居跡……8
3．縄文時代の土坑……18
4．縄文時代の出土土器……24
出土土器観察表……85
5．縄文時代の石器……112
出土石器数量表……112
出土石器計測表……120
6．その他の遺構と遺物
(1)　平安時代の住居跡……132
(2)　江戸時代の暗渠……133
(3)　時期不明の遺構……133
III　まとめにかえて……136
広面遺跡の諸礒b～c式土器変遷表……138

図版目次

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡……2
第２図　遺跡周辺の地形……4
第３図　調査区配置図……5
第４図　広面遺跡Ａ・Ｄ区全体図……6
第５図　広面遺跡Ｂ・Ｃ・Ｅ区全体図……7
第６図　Ｊ１Ａ・Ｂ号住居跡……9
第７図　Ｊ２号住居跡……10
第８図　Ｊ３号住居跡……11
第９図　Ｊ４号住居跡……12
第10図　Ｊ５号住居跡……13
第11図　Ｊ６Ａ・Ｂ・Ｃ号住居跡……15
第12図　Ｊ７・８号住居跡……17
第13・14図　Ａ区縄文土坑……20・21
第15図　Ｂ・Ｃ区縄文土坑……22
第16図　Ｄ区縄文土坑……23
第17～19図　Ｊ１Ａ号住居跡出土土器……27～29
第20図　Ｊ１Ｂ号住居跡出土土器……31
第21図　Ｊ１Ａ・Ｂ号住居跡出土土器……32
第22図　Ｊ２号住居跡出土土器……33
第23～25図　Ｊ３号住居跡出土土器……34～36
第26図　Ｊ４号住居跡出土土器……37
第27～31図　Ｊ５号住居跡出土土器……38～42
第32～35図　Ｊ６Ａ号住居跡出土土器……44～47
第36図　Ｊ６Ｂ号住居跡出土土器……48
第37～39図　Ｊ６Ｃ号住居跡出土土器……49～51
第40～42図　Ｊ７号住居跡出土土器……52～54
第43～51図　Ｊ８号住居跡出土土器……55～63
第52・53図　ＡＪ１号土坑出土土器……65・66
第54図　ＡＪ２号土坑出土土器……67
第55図　ＡＪ３・６・７号土坑出土土器……68
第56図　ＡＪ４・８・11・14・15・16・17・19号土坑出土土器……69
第57図　ＢＪ１・３・５・６号土坑出土土器……70
第58図　ＣＪ１・３号土坑出土土器……71
第59図　ＤＪ１・４・６・13号土坑出土土器……72
第60図　ＤＪ５・14・18・19号土坑出土土器……73
第61・62図　Ｂ区包含層出土土器……74・75
第63・64図　Ｊ８Ｅ出土土器……76・77
第65図　井戸・水路出土土器……78
第66図　倒木痕出土土器……79
第67・68図　遺構外出土土器―含繊維―……81・82
第69図　遺構外出土土器―諸磯期―……83
第70図　遺構外出土土器―中後期―……84
第71～73図　Ｊ１Ａ号住居跡出土石器……113～115
第74図　Ｊ１Ｂ・Ｊ２号住居跡出土石器……116
第75～77図　Ｊ３号住居跡出土石器……117～119
第78図　Ｊ４号住居跡出土石器……121
第79図　Ｊ５号住居跡出土石器……122
第80・81図　Ｊ６Ａ号住居跡出土石器……123・124
第82図　Ｊ６Ｂ・Ｊ６Ｃ号住居跡出土石器……125
第83図　Ｊ７号住居跡出土石器……126
第84～87図　Ｊ８号住居跡出土石器……127～130
第88図　土坑・遺構外出土石器……131
第89図　１号住居跡……132
第90図　２号住居跡……132
第91図　４　号　溝……134
第92図　平安時代・近世出土遺物……135

表目次

第１表　縄文土坑一覧表……18
第２表　Ｊ１Ａ号住居跡出土土器観察表……85
第３表　Ｊ１Ｂ号住居跡出土土器観察表……85
第４表　Ｊ１Ａ・Ｂ号住居跡出土土器観察表……86
第５表　Ｊ２号住居跡出土土器観察表……86
第６表　Ｊ３号住居跡出土土器観察表……87
第７表　Ｊ４号住居跡出土土器観察表……88
第８表　Ｊ５号住居跡出土土器観察表……88
第９表　Ｊ６Ａ号住居跡出土土器観察表……90
第10表　Ｊ６Ｂ号住居跡出土土器観察表……92
第11表　Ｊ６Ｃ号住居跡出土土器観察表……92
第12表　Ｊ７号住居跡出土土器観察表……94
第13表　Ｊ８号住居跡出土土器観察表……95
第14表　ＡＪ１号土坑出土土器観察表……99
第15表　ＡＪ２号土坑出土土器観察表……100
第16表　ＡＪ３号土坑出土土器観察表……101
第17表　ＡＪ６号土坑出土土器観察表……101
第18表　ＡＪ７号土坑出土土器観察表……101
第19表　ＡＪ８号土坑出土土器観察表……101
第20表　ＡＪ４号土坑出土土器観察表……102
第21表　ＡＪ11号土坑出土土器観察表……102
第22表　ＡＪ14号土坑出土土器観察表……102
第23表　ＡＪ15・16号土坑出土土器観察表……102
第24表　ＡＪ17号土坑出土土器観察表……102
第25表　ＡＪ19号土坑出土土器観察表……103
第26表　ＢＪ１号土坑出土土器観察表……103
第27表　ＢＪ３号土坑出土土器観察表……103
第28表　ＢＪ５号土坑出土土器観察表……103
第29表　ＢＪ６号土坑出土土器観察表……103
第30表　ＣＪ１号土坑出土土器観察表……104
第31表　ＣＪ３号土坑出土土器観察表……104
第32表　ＤＪ１号土坑出土土器観察表……104
第33表　ＤＪ４号土坑出土土器観察表……104
第34表　ＤＪ６号土坑出土土器観察表……104
第35表　ＤＪ13号土坑出土土器観察表……104
第36表　ＤＪ５号土坑出土土器観察表……105

第37表　ＤＪ14号土坑出土土器観察表 ……105
第38表　ＤＪ18号土坑出土土器観察表 ……105
第39表　ＤＪ19号土坑出土土器観察表 ……105
第40表　Ｂ区包含層出土土器観察 ……105
第41表　Ｊ８Ｅ出土土器観察表 ……107
第42表　１号井戸出土土器観察表 ……108
第43表　２号井戸出土土器観察表 ……108
第44表　水路出土土器観察表 ……108
第45表　倒木痕出土土器観察表 ……109
第46表　遺構外出土土器観察表 ……109
第47表　遺構外出土土器観察表―中期・後期― ……111
第48表　出土石器数量表 ……112
第49表　Ｊ１Ａ号住居跡出土石器計測表 ……120
第50表　Ｊ１Ｂ号住居跡出土石器計測表 ……120
第51表　Ｊ２号住居跡出土石器計測表 ……120
第52表　Ｊ３号住居跡出土石器計測表 ……120
第53表　Ｊ４号住居跡出土石器計測表 ……121
第54表　Ｊ５号住居跡出土石器計測表 ……120
第55表　Ｊ６Ａ号住居跡出土石器計測表 ……124
第56表　Ｊ６Ｂ号住居跡出土石器計測表 ……124
第57表　Ｊ６Ｃ号住居跡出土石器計測表 ……124
第58表　Ｊ７号住居跡出土石器計測表 ……121
第59表　Ｊ８号住居跡出土石器計測表 ……126
第60表　土坑・遺構外出土石器計測表 ……131
第61表　広面遺跡の諸磯ｂ～ｃ式土器変遷表 ……138

写真図版

カラー巻頭　広面遺跡Ａ～Ｄ区全景（南上空から）

ＰＬ１　１．広面遺跡全景（上空から―上が北）
ＰＬ２　１．広面遺跡Ａ～Ｄ区全景（南上空から）　２．広面遺跡Ａ～Ｃ区全景（東上空から）
ＰＬ３　１．Ｊ１Ａ・Ｂ号住居跡全景（西から）　２．Ｊ１Ａ号住居跡遺物出土状態近接（東から）
　　３．Ｊ１Ａ号住居跡柱穴及び遺物出土状態（西から）　４．Ｊ１Ｂ号住居跡（北から）
　　５．Ｊ２号住居跡（西から）
ＰＬ４　１．Ｊ３号住居跡全景（南から）　２．Ｊ４号住居跡全景（西から）　３．Ｊ５号住居跡全景（東から）
　　４．Ｊ５号住居跡遺物出土状態（北から）　５．Ｊ６Ａ～Ｃ号住居跡全景（東から）
ＰＬ５　１．Ｊ６Ａ号住居跡遺物出土状態近接（南から）　２．Ｊ６Ａ号住居跡遺物出土状態近接（南から）
　　３．Ｊ６Ｃ号住居跡全景（東から）　４．Ｊ６Ｃ号住居跡埋甕（西から）
　　５．Ｊ７・８号住居跡（東から）　６．Ｊ７号住居跡遺物出土状態近接（南から）
　　７．Ｊ７号住居跡遺物出土状態近接（西から）　８．Ｊ７号住居跡遺物出土状態近接（東から）
ＰＬ６　１．Ａ区中央部縄文土坑群（南から）　２．Ａ区北半部縄文土坑群（北から）
　　３．ＡＪ１Ａ・Ｂ号土坑全景（南から）　４．ＡＪ１Ａ号土坑遺物出土状態近接（東から）
　　５．ＡＪ２号土坑全景（東から）　６．ＡＪ２号土坑遺物出土状態近接（南から）
　　７．ＡＪ７号土坑全景（南から）　８．ＡＪ８号土坑全景（西から）
ＰＬ７　１．ＡＪ９号土坑全景（北から）　２．ＡＪ10号土坑全景（東から）　３．ＡＪ13号土坑（北から）
　　４．ＡＪ14号土坑全景（西から）　５．ＡＪ15・16号土坑全景（東から）　６．ＡＪ17号土坑全景（西から）
　　７．ＡＪ19号土坑全景（南から）　８．ＡＪ20号土坑全景（北西から）
ＰＬ８　１．ＢＪ１号土坑全景（西から）　２．ＢＪ２号土坑全景（西から）　３．ＢＪ３号土坑全景（東から）
　　４．ＢＪ６号土坑全景（北から）　５．ＣＪ１号土坑全景（北から）　６．ＣＪ２号土坑全景（南から）
　　７．ＣＪ３・４号土坑全景（東から）　８．ＣＪ５号土坑全景（北から）
ＰＬ９　１．Ｄ区縄文土坑群（北西から）　２．ＤＪ１・２号土坑全景（北から）　３．ＤＪ９号土坑全景（東から）
　　４．ＤＪ７・８号土坑全景（東から）　５．ＤＪ10号土坑全景（西から）
ＰＬ10　１．１号住居跡全景（西から）　２．２号住居跡全景（西から）　３．１号溝（北西から）
　　４．２号溝（北西から）　５．３号溝（北東から）Ｃ区　６．３号溝（西から）Ｄ区
　　７．採石跡（北から）　８．作業風景　Ｊ８号住居跡
ＰＬ11　１．Ｅ区全景（上空から―上が西）　２．４号溝（北から）　３．４号溝（北から）
　　４．４号溝検出状況（北から）　５．４号溝蓋石除去（南から）
ＰＬ12　Ｊ１Ａ・Ｊ３・Ｊ５号住居跡出土土器
ＰＬ13　Ｊ６Ａ・Ｃ号住居跡、Ｊ７号住居跡出土土器
ＰＬ14　Ｊ８号住居跡、土坑、Ｂ区包含層出土土器
ＰＬ15　出土石器(1)―石鏃・石匙―
ＰＬ16　出土石器(2)―石錐―
ＰＬ17　出土石器(3)―Ｊ１Ａ・Ｊ３号住居跡出土石器―
ＰＬ18　出土石器(4)―Ｊ３号住居跡出土石器―

発掘調査報告書抄録

フリガナ	ヒロメンイセキ
書名	広面遺跡
副書名	県営圃場整備事業嶺地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	羽鳥　政彦
編集機関	群馬県勢多郡富士見村教育委員会
編集機関所在地	〒371－01　群馬県勢多郡富士見村大字田島866－1　　Tel 0272－88－6111
発行年月日	西暦1994年3月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
広面遺跡（ヒロメン）	勢多郡富士見村（セタグンフジミムラ）大字小暮字広面（コグレ ヒロメン）	10303		36°26′26″	139°6′30″	19900510 ～ 19900728	約2,500㎡	県営圃場整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
広面遺跡	集落	縄文	住居跡　11軒 土坑　50基	土器、石器	諸磯b～c式期の良好な資料
	集落	平安	住居跡　2軒 溝　1条	土師器	
		江戸	溝　1条	陶磁器	
		時期不明	井戸　2基 水口　2ケ所 採石跡 溝　2条		

Ⅰ　発掘調査の経緯

1．発掘調査に至る経緯

ここに報告する小暮地区遺跡群広面遺跡は、平成元年度から開始された県営嶺地区圃場整備の平成２年度事業に伴って発掘調査を行ったものである。

県営嶺地区圃場整備事業は前橋市の嶺地区を中心に、一部富士見村の南東部を含む面積103haで計画された。

平成元年の後半になって、前橋土地改良事務所から富士見村内の小暮地区で、平成２年度より面工事を開始したい旨連絡があった。これにより、事業実施予定地区の遺物散布調査を行い、年度末に試掘調査を行い、２年度調査の計画を立てた。

2．調査の経過

本調査の区域は工事計画と試掘調査の成果を合わせて検討した結果、工事予定地の道水路を主体として、一部切り土が予想される部分も調査を行うこととした。発掘調査は平成２年の５月10日にＡ区から開始した。重機による表土剝ぎ後遺構検出作業を行い、遺構の精査をＡ区→Ｂ区→Ｃ区→Ｄ区と順次進めていったが、個々の調査区の範囲が狭いため、いくつかの調査区を同時に調査するような状況も生じた。６月中旬の田植え時期になり、水揚げが始まると、遺跡内の各所から湧き水が出はじめ、出水対策が必要になった。急遽ポンプを導入したが、調査の進捗ははかばかしくなかった。また、梅雨時期でもあるため作業がまともに行えない日々が続いた。７月になっても状況は同様であったが、わずかずつ乍らも調査は進んでいった。７月28日足下からの湧き水と、頭上からの梅雨の長雨にたたられ、泥だらけになりながらの調査がようやく終わった。

3．調査地の位置と立地及び周辺の遺跡

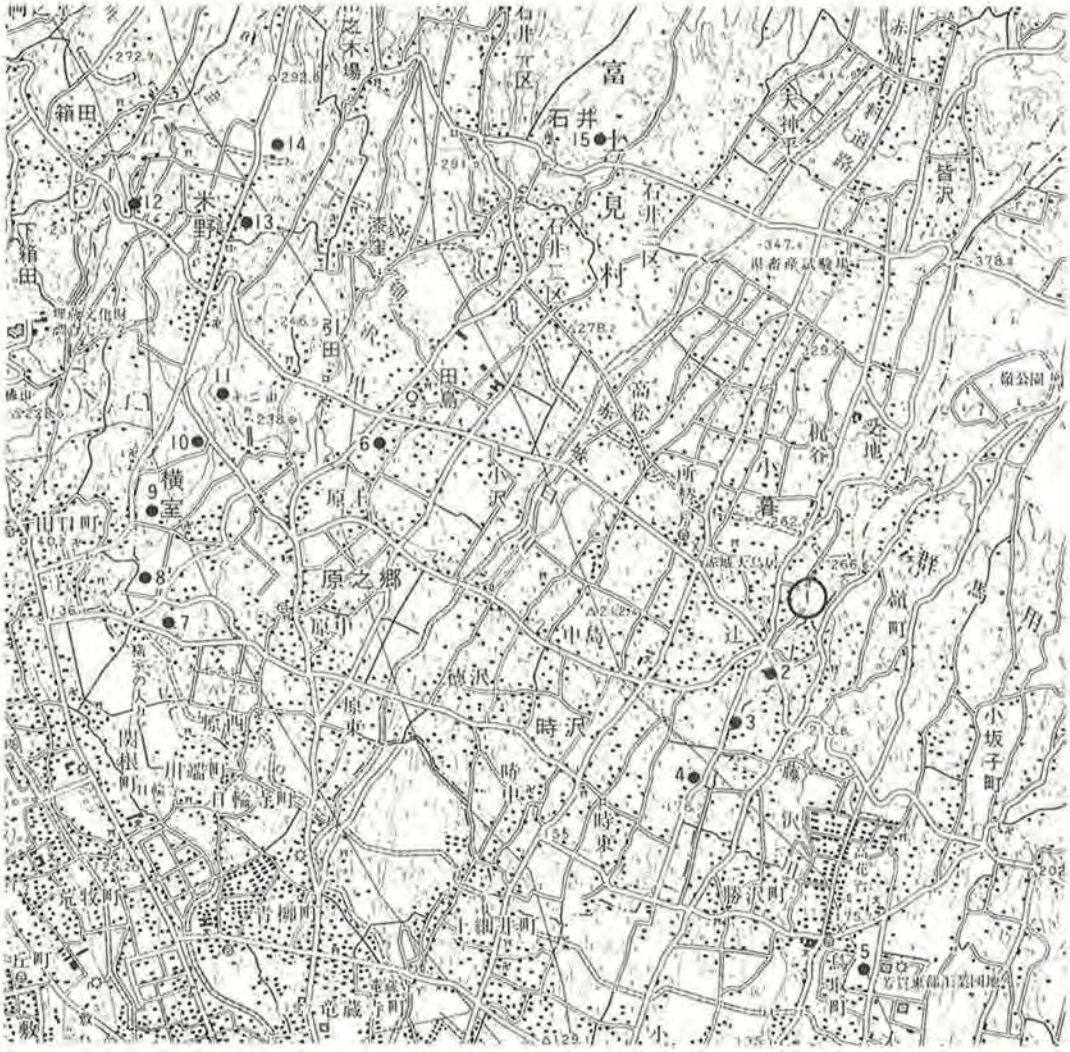
富士見村は赤城山の南西麓から山頂までを含む狭長な村である。前橋市の北方に位置し、東に大胡町、宮城村、西に北橘村等が接している。標高は南端の約150mから山頂の1,828mまであり、標高450m前後の傾斜変換点を境として、北東部の山岳地と南西の裾野部分とに２分され、さらに裾野部分は西側の丘陵地形と東側の扇状地形に２分される。

広面遺跡は富士見村の東端に位置し、前橋市と接している。赤城大鳥居の東約800m、県道渋川―大胡線の北側約300mに位置している。

広面遺跡は、富士見村とほぼ前橋市との境を流れる藤沢川に面する台地上に占地している。藤沢川は小さく蛇行しながら南流下しているが、広面遺跡の東側は直線的で、急崖となっている。南端は古く剔られたものと思われ、内湾状に台地が削り込まれている。台地の西側はさらに南側

に続いているが、遺跡はこの内湾部分を取り巻きやがて消滅する。北側は台地上に広く展開するが、北限は明瞭には把握できていない。調査地付近の標高は237～247mである。

広面遺跡の周辺は古くから濃密な遺物散布地として知られており、多数の土器・石器類が、採集されていたが、広面遺跡以前に富士見村内では発掘調査が行われたこと



第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡

はなかった。しかし、前橋市域では芳賀東部団地遺跡を初めとしていくつかの遺跡が調査されている。

ここでは、発掘調査の進んでいる本村西半部の遺跡も含めて、縄文時代前期後半の遺跡を中心に周辺の遺跡を概観してみたい。

広面遺跡（第１図１）の南約0.4kmの寺間遺跡(2)では諸磯ａ式期と有尾・黒浜式期の住居跡各１軒と土坑を調査している。さらに、その0.3km南の孫田遺跡(3)では諸磯ｃ式期の土坑（墓坑？）群を調査している。さらに、南約0.4kmの上百駄山遺跡(4)では諸磯ｂ～ｃ式期の集落を調査しており、結節浮線文土器も出土している。(5)は前橋市の芳賀東部団地遺跡で有尾・黒浜式期～諸磯ｃ式期の住居跡を調査している。図中には位置を明示していないが、芳賀東部団地遺跡の北西、上百駄山遺跡とのほぼ中間点の芳賀北曲輪遺跡でも諸磯ｂ～ｃ式期の集落を調査しており、良好な土器群が出土している。本村の西部では(6)の白川遺跡から諸磯ａ式期の住居跡１軒、(7)の岩之下遺跡でも諸磯ａ式期の土坑と遺物包含層、(8)の田中田遺跡で諸磯ｂ式期の住居跡と土坑を検出している。(9)の陣場遺跡は縄文時代中期後半～後期を中心とするが、関山式期、有尾・黒浜式期と諸磯ｂ～ｃ式期の住居跡４軒も検出されている。結節浮線文土器や小型石棒が出土している。(10)の上庄司原東遺跡も関山式期、有尾・黒浜式期と諸磯ｂ式期の住居跡が調査され、小型石棒が出土している。(11)の愛宕山遺跡は諸磯ｂ～ｃ式期の集落で有尾・黒浜式期の住居も１軒検出されている。(12)の向吹張遺跡では諸磯ｂ～ｃ式期の住居跡、(13)の米野田遺跡では諸磯ｂ式期と十三菩提～五領ケ台式期の住居跡・土坑、(14)の東上原遺跡では諸磯ｂ式期の土坑と遺物包含層を調査している。(15)の坂上遺跡では諸磯ｃ式期の土坑群を調査し、結節浮線文土器が出土している。

４．調査の方法

ほ場整備事業の道路予定地のほぼ中央に、重機によって幅１～２ｍの試掘トレンチを入れた。試掘調査によって遺構が検出された部分を拡幅し調査を行った。表土剝ぎはすべて重機によって行い、ローム層上面を遺構検出面とした。

遺構の調査は基本的に、ほぼ中心軸若しくは竈を通した位置で土層断面の観察を行い、順次掘り下げていった。遺物は基本的に床面直上・底面密着の物だけ位置を記録して取り上げたが、残存状態の良好なものなどは、埋土上層の物も記録している。

図面作成は平板実測で行い、遺構平面図・断面図は１/20、全体図は基本的に１/100で行った。炉の実測図・土坑の遺物出土状態実測図、溝断面図等は１/10で作成した。調査区域の設定はＡ区とした道路予定地部分のほぼ中央を縦断するように任意に縦軸を設定し、この縦軸からＢ区のほぼ中央を通るようにやはり任意に横軸を設定した。これを基準とし各区に基本的に10ｍピッチでグリッド設定を行った。但し、調査区域が狭いため、５ｍの位置に補助杭を多く設定した。

5．土層堆積状況

調査区域ごとに、かなり土層・自然礫の堆積状況が異なる。

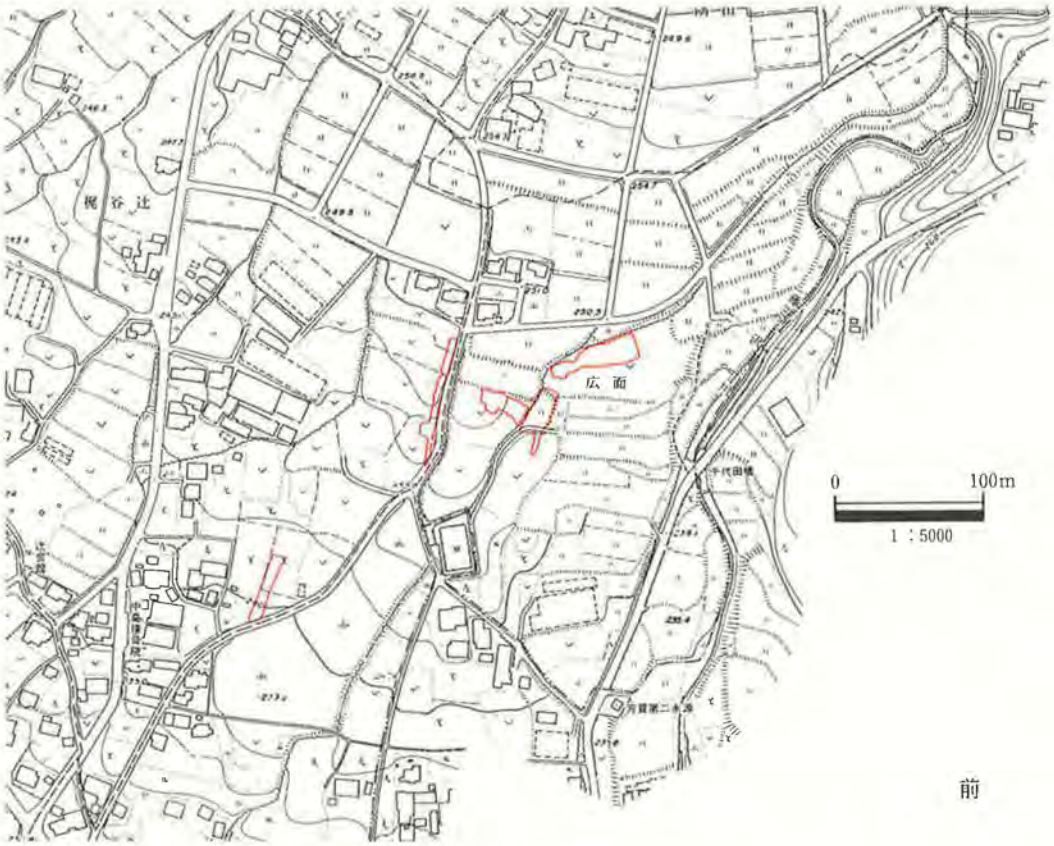
A区―耕作によりかなり激しく削平されており、表土層直下にローム層が現れる。検出面からかなり深いローム層中に礫が含まれる。

B区―耕作による削平はA区と同様であるが、検出面のローム層中に大小の礫が認められるようになる。遺構の床面や底面・壁面にも多量の礫が露出する。東半部の検出面には黒褐色土が堆積しており、隣接するC区には認められないことから、旧河川の流路と思われる。

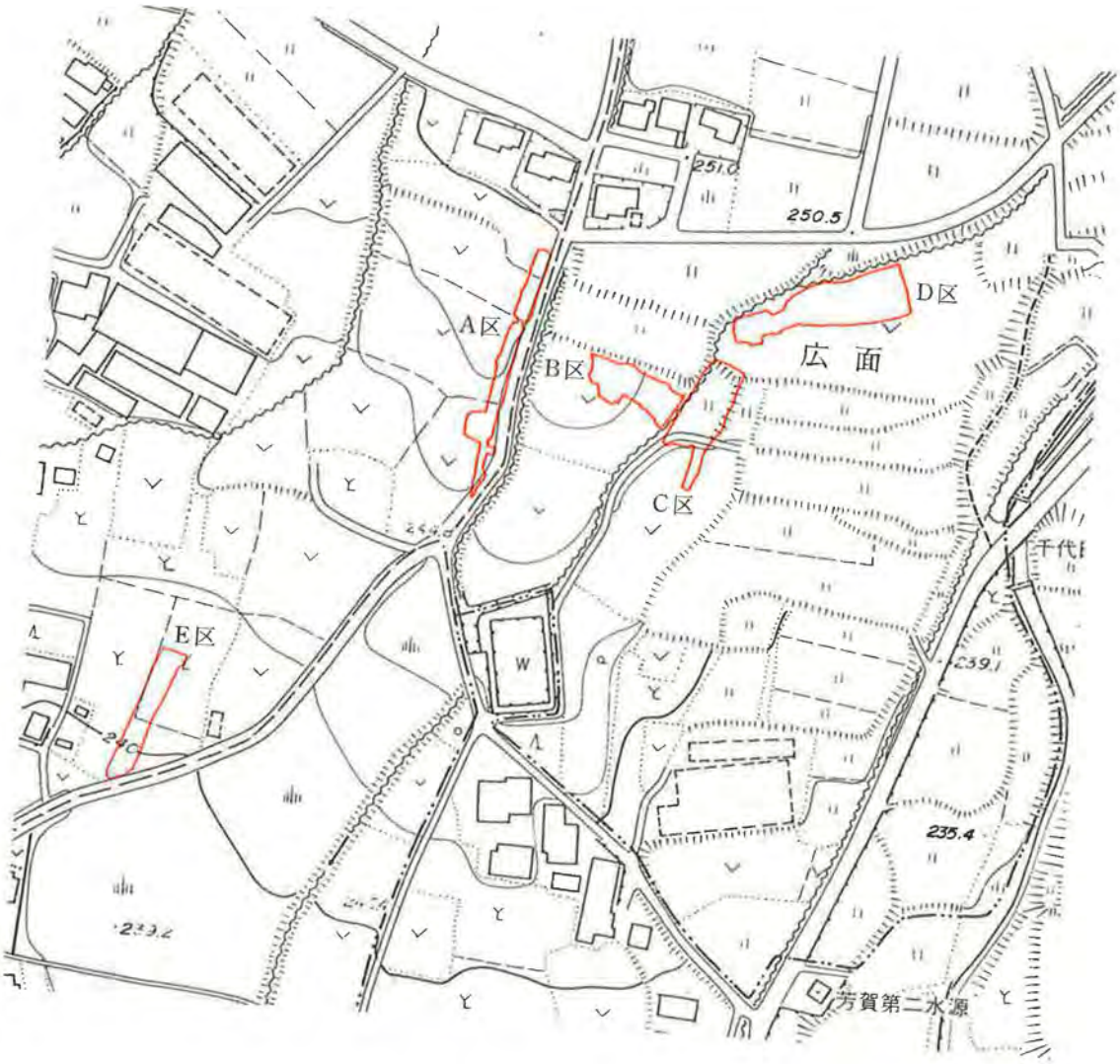
C区―ローム検出面において、すでに多量の礫が露出している。遺構内も礫が露出している。

D区―西端部では比較的きれいなローム堆積状況を示す。中央部西寄りでは礫の露出が激しい。中央部東寄りでは検出面で黒褐色土の堆積が認められ、窪地もしくは、旧河川跡のような状況を呈している。東端部ではまたローム層が検出面となるが、検出面直下から礫が多出する。

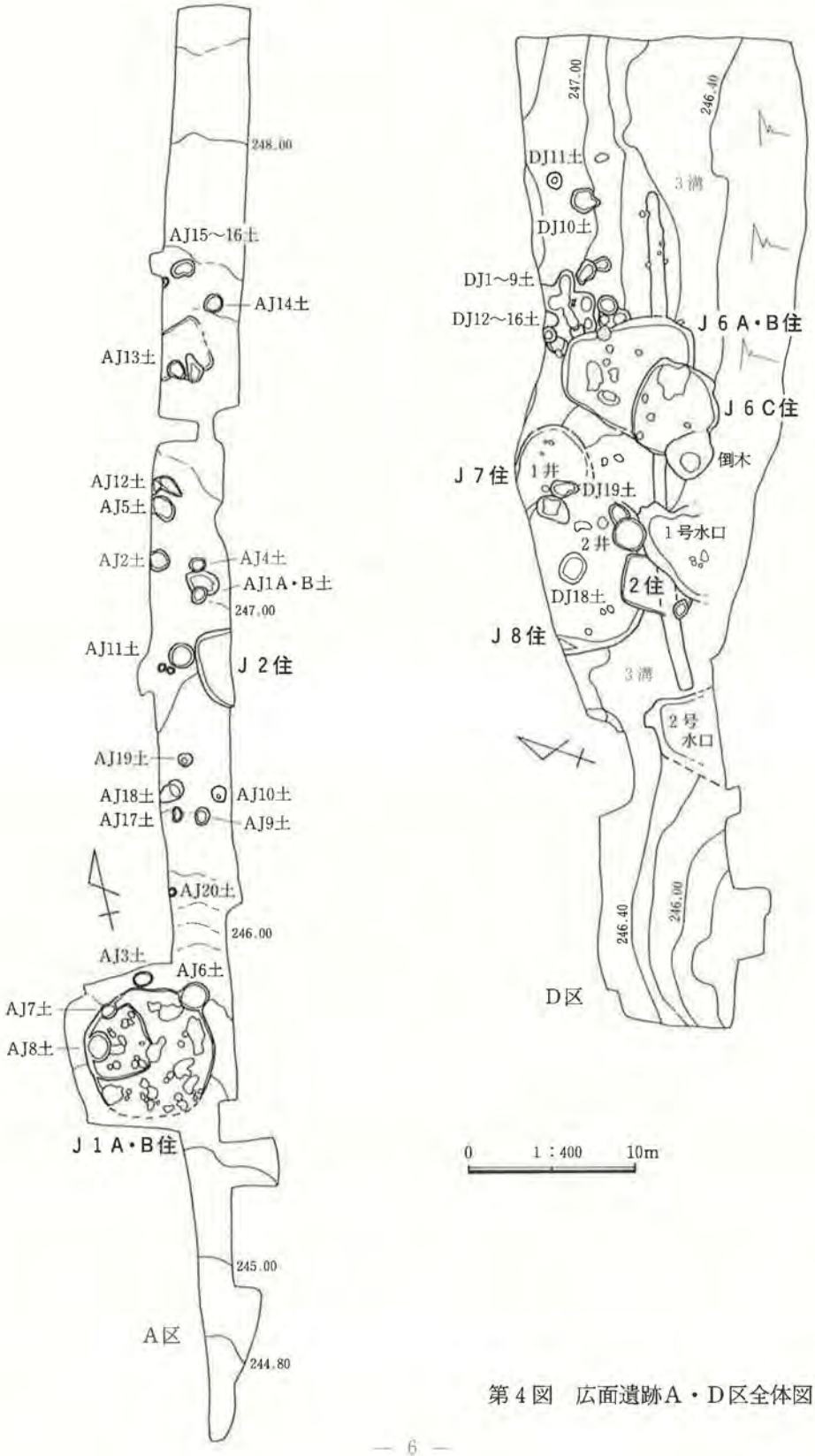
E区―表土とローム層の間に黒色土（C軽石―浅間山給源―を含む）が堆積する。ローム層中に礫が散在する。



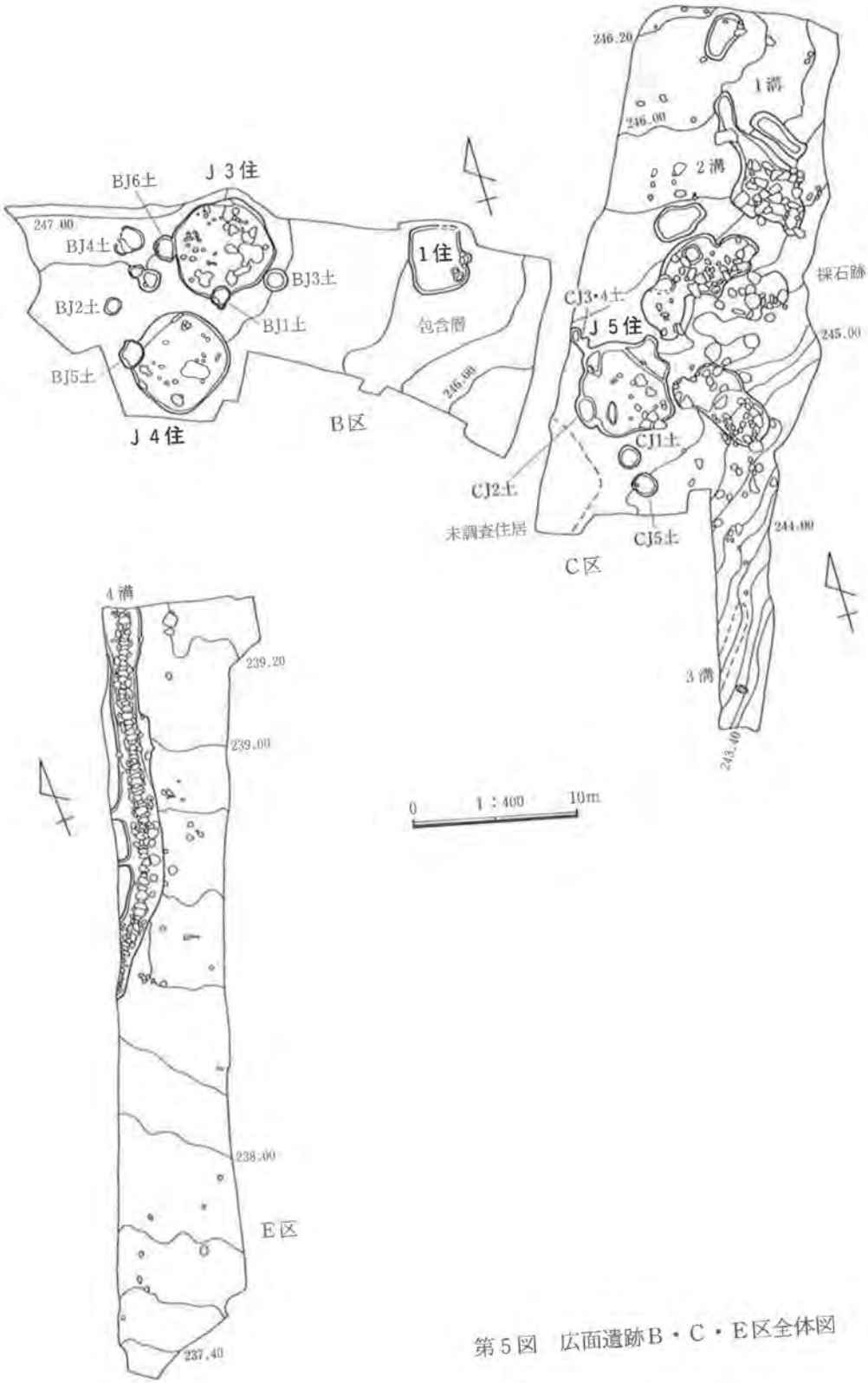
第2図　遺跡周辺の地形



第3図　調査区配置図



第4図　広面遺跡A・D区全体図



第5図　広面遺跡B・C・E区全体図

II　検出された遺構と遺物

1．概　　要

A区　縄文時代前期後半の竪穴住居跡３軒、前期中葉及び後半と思われる土坑26基、竪穴状遺構１基を調査した。遺物は遺構内外から遺構と同時期のものを主体として出土している。

B区　縄文時代前期後半の竪穴住居跡２軒、前期中葉及び後半と思われる土坑６基、平安時代頃と思われる竪穴住居跡１軒、時期不明の土坑２基と縄文時代前期中葉～後半の遺物包含層を調査した。遺物は遺構数に比例して前期後半が主体であるが中葉のものも少量出土している。

C区　縄文時代前期後半の竪穴住居跡１軒、前期中葉及び後半と思われる土坑５基、時期不明の溝３条、時期不明の石材採掘坑・加工跡を調査した。遺物は殆ど縄文時代前期後半のものである。なお、試掘調査ではC区の南側低地部分で縄文時代中期の遺物を若干検出しているが、遺構が検出されなかったため調査は行っていない。

D区　縄文時代前期後半の竪穴住居跡５軒、前期中葉及び後半と思われる土坑約19基、平安時代の竪穴住居跡１軒、ほぼ同時期と思われる溝１条、時期不明の水口状の遺構２基等を調査した。遺物は遺構内を中心として縄文時代前期前・後半、中・後期の遺物が出土しているが、主体は縄文時代前期後半である。また、溜井状の土坑からは土師器・須恵器も出土している。

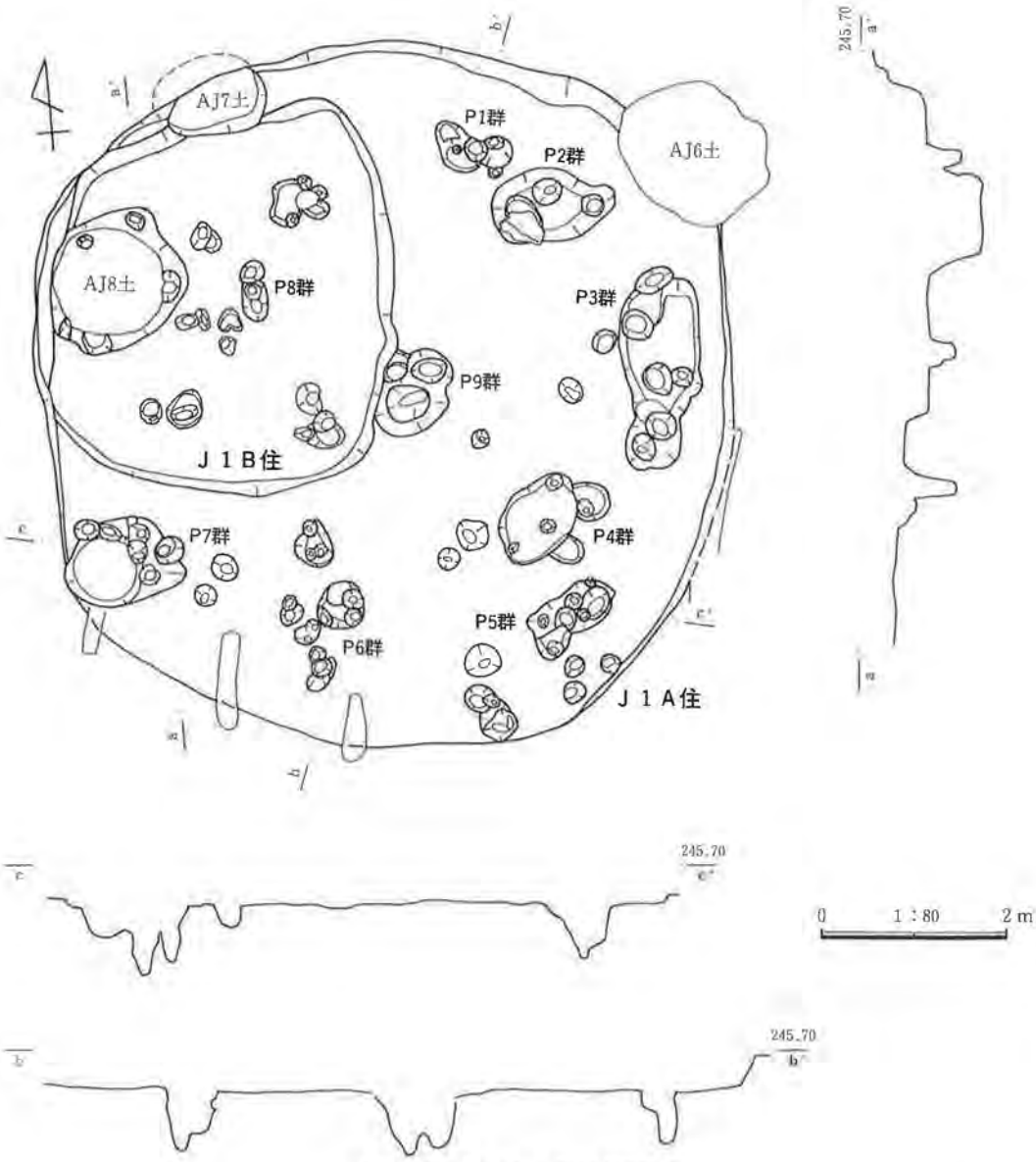
E区　江戸時代と思われる暗渠状の水路遺構が検出されている。遺物は掘り方等から陶磁器が出土している。縄文時代の遺物は後期の深鉢の底部が１点出土しただけである。

2．縄文時代の竪穴住居跡

Ｊ１Ａ号住居跡（遺構第６図、遺物第17～19図）

A区南端に位置する。Ｊ１Ｂ号住居跡が重複し、本跡が古い。A区Ｊ６・７・８号土坑とも重複し、Ｊ８号土坑が新しいが、他の土坑との新旧関係は不明である。土坑の位置・掘り形から判断するとＪ７号土坑は本跡に伴う可能性もある。Ｊ２号住居跡が北東約18mに近接する。

東西、南北ともに約7.6mを測り、若干南北に長い不正円形あるいは多角形状を呈する。検出面からの掘り込みは北側で30cm強あるが、南端は後世の耕作が床面近くまで達しており、壁の立ち上がりは明瞭には捉えられていない。床面は壁際を除いて比較的堅緻であり明瞭に捉えられた。柱穴は中央部と壁沿いに多数検出されている。また、浅い土坑が柱穴と重複しながら検出されている。便宜的に柱穴のまとまりごとに、柱穴群として説明すると、Ｐ１群、Ｐ３群、Ｐ５群、Ｐ６群、Ｐ７群、Ｐ８群（Ｊ１Ｂ号住居跡、Ｊ８号土坑と重複するが、深さ及び位置からＪ１Ａ号住居跡に帰属すると判断した。）、Ｐ９群の７ケ所に床面からの深さ60～70cmの柱穴があり、主柱穴と思われる。さらに、Ｐ３群、Ｐ５群、Ｐ６群、Ｐ７群、Ｐ９群の５ケ所には２基ずつが検出



第６図　Ｊ１Ａ・Ｂ号住居跡

されており、建て替えが行われたと思われる。主柱穴の配置は、Ｐ１群～Ｐ９群～Ｐ６群を中心軸として対称形に５角形に近い６角形で配置されている。主柱穴以外の柱穴、及び土坑については性格を明瞭に判断できるものはない。炉は残存する床面部分には検出されておらず、Ｊ２Ｂ号住居跡により削平された可能性がある。

遺物は床面密着状態で深鉢が数点出土したほかは、埋土中から少量出土しただけである。土器の帰属時期は大半が諸磯ｃ式期である。石器は石鏃、石錐、石匙、磨石等が多量に出土した。ま

た、柱穴、土坑の埋土中から比較的大型の４点の黒燿石の石核が出土したが、このうち２点は調査中に盗難にあった。

Ｊ１Ｂ号住居跡（遺構第６図、遺物第20図）

Ｊ１Ａ号住居跡、ＡＪ７・８号土坑と重複している。新旧関係はＪ１Ａ号住居跡よりも新しく、ＡＪ８号土坑よりも古い。ＡＪ７号土坑は本跡に伴う可能性がある。

形状は東辺が西辺よりも長い隅丸の台形状を呈している。規模は東辺が約４ｍ、西辺が約３ｍ、東西約4.5ｍを測る。検出面からの深さは約50cmで、Ａ号住居跡の床面からも約40cmの深さがある。床面は軟弱である。柱穴は多数検出されているが、ほぼ対角線上に乗る南北に若干長い長方形に配置されたものが主柱穴と思われる。炉は住居のほぼ中央部の床面に焼土が認められており、掘り込みが認められないことから地床炉と思われる。

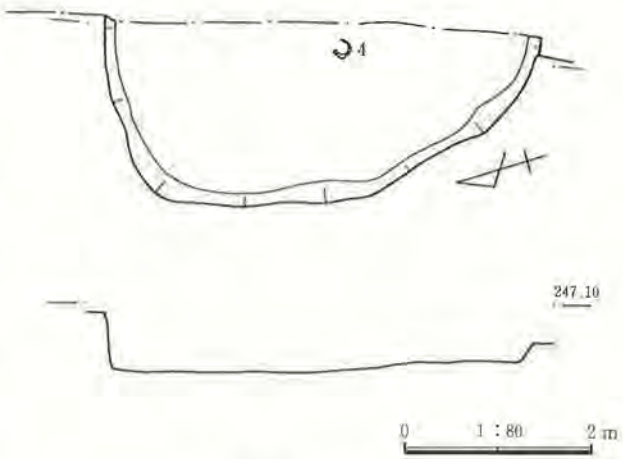
遺物はすべて覆土中からの出土である。土器は諸磯ｃ式期が主体である。石器は石鏃、石錐、石匙等が出土している。

Ｊ２号住居跡（遺構第７図、遺物第22図）

Ａ区のほぼ中央に位置する。東側半分は現用道路下のため未調査である。

形状は調査部分から推定すると隅丸方形である可能性が強い。規模は南北が約4.5ｍを測り、東西約２ｍの範囲を調査した。検出面からの深さは約60cmを測る。壁は急角度で立ち上がる。床面は軟弱である。柱穴は浅いものが１基西壁寄りに検出されただけで主柱穴等は不明である。炉は中央部若干西寄りと思われる床面部分に土器が正立状態で埋設されており埋甕炉と思われる。

遺物は炉体土器以外には床面、覆土中から少量出土しただけで、土器のほとんどは小破片である。土器の時期は諸磯ｃ式期を主体とする。石器は石鏃、石匙、磨石等が出土している。



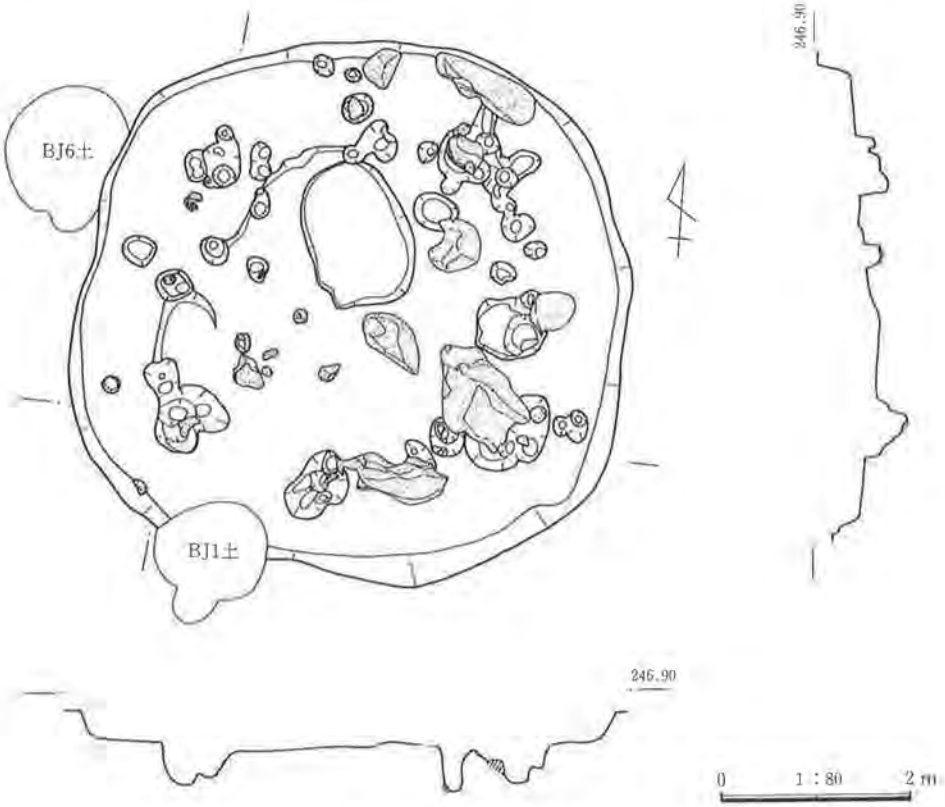
第７図　Ｊ２号住居跡

Ｊ３号住居跡（遺構第８図、遺物第23～25図）

Ｂ区西半部北側に位置する。Ｊ４号住居跡が南約２ｍに近接する。ＢＪ１号土坑、ＢＪ６号土坑と重複している。新旧関係はＢＪ６号土坑よりも新しく、ＢＪ１号土坑よりも古い。

形状はかなり円形に近い隅丸方形状である。規模は東西、南北ともに約5.8mを測る。壁の立ち上がりは比較的急角度であるが、南側東半部はやや緩やかに立ち上がる。床面は全体的には比較的堅緻である。但し、床面西半部には浅い段差が認められ、その内部には明瞭な床面が認められないことから、他の遺構が重複している可能性もある。床面の所々には地山の礫が頭を出している。最大のものは床面レベルで長径1.2m×短径0.8m、床面からの高さ0.3mを測る。柱穴は壁に沿って多数が検出されているが、この中には地山に含まれる礫を除去した痕等も含まれていると思われる。主柱穴はほぼ対角線上に位置する4基が考えられるが、建替えを行っている可能性がある。また、5～6本主柱穴の可能性もある。炉は多量の焼土が南西の柱穴寄りに検出されているが、位置的にも不自然で、重複する他の遺構に伴う可能性が強い。

遺物は重複する遺構との間で帰属が不分明な物が多いが、数点の石器を除いて覆土中からの出土である。土器はほとんど破片であるが、大破片も比較的多い。時期は諸磯b式期を主体とするが、諸磯c式期、有尾・黒浜式期のものも比較的多い。石器は石鏃、凹石、磨石等が出土している。尚、床面から突出している礫にも凹みや擦痕が認められるものがあり、台石その他の石器として利用していたものと思われる。



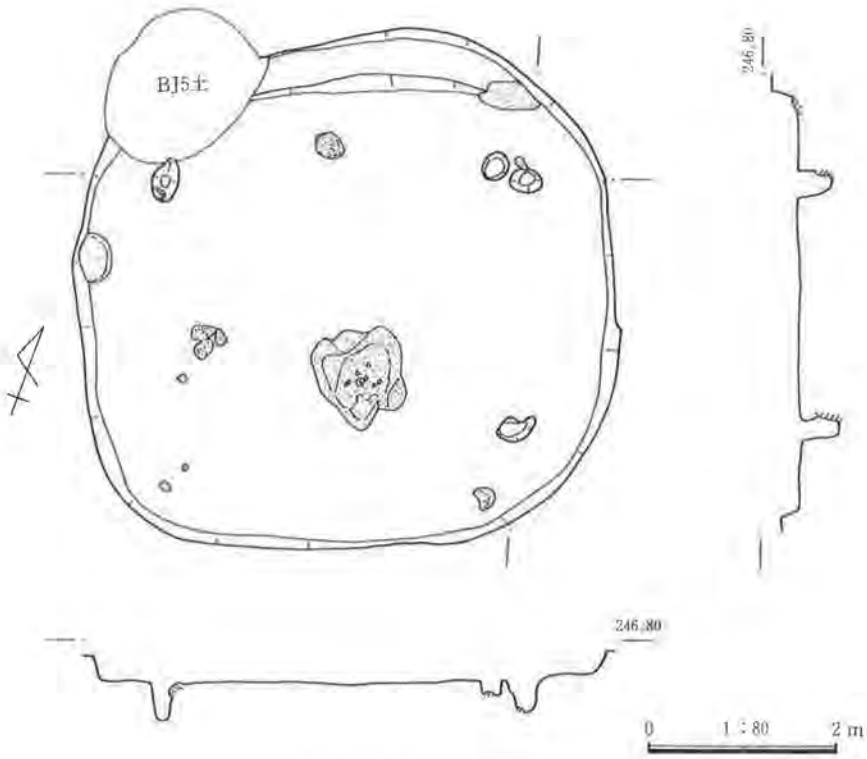
第8図　J3号住居跡

Ｊ４号住居跡（遺構第９図、遺物第26図）

Ｂ区に位置する。Ｊ３号住居跡が北約２ｍに近接する。北西隅にＢＪ５号土坑が重複し、本跡の方が古い。本跡の北端には床面から20cm高い位置に40cm幅のテラス状の部分（床？）があるが、本跡に伴うか、別の遺構が重複するかの判断はつかなかった。

形状は隅丸方形である。規模は東西約5.7m、南北約5.4mで、テラス部分の内側では約5.0mを測る。検出面からの深さは約30cmである。床面は比較的平坦であるが、北東から南西にかけて傾斜している。また、中央部がわずかであるが凹んでいる。北東隅と中央部南寄りには、地山から突出する礫が認められる。中央部のものは径１ｍ以上であり、床面からの高さ約30cmを測る。柱穴は南西を除く３ケ所に検出されており、主柱穴と思われる。また、２基検出されたり重複も認められるので、建て替えの可能性も考えられる。炉は床面のほぼ中央部に焼土が円形に検出されており、地床炉と思われる。

遺物は床面、覆土中ともにわずか出土しただけである。土器は諸磯ｃ式期の物が主体である。石器は石錐、凹石、磨石等が出土している。また、中央部南寄りに突出する礫の上には、10ケ所ほどの凹跡が認められ、凹石として使用していたものと思われる。



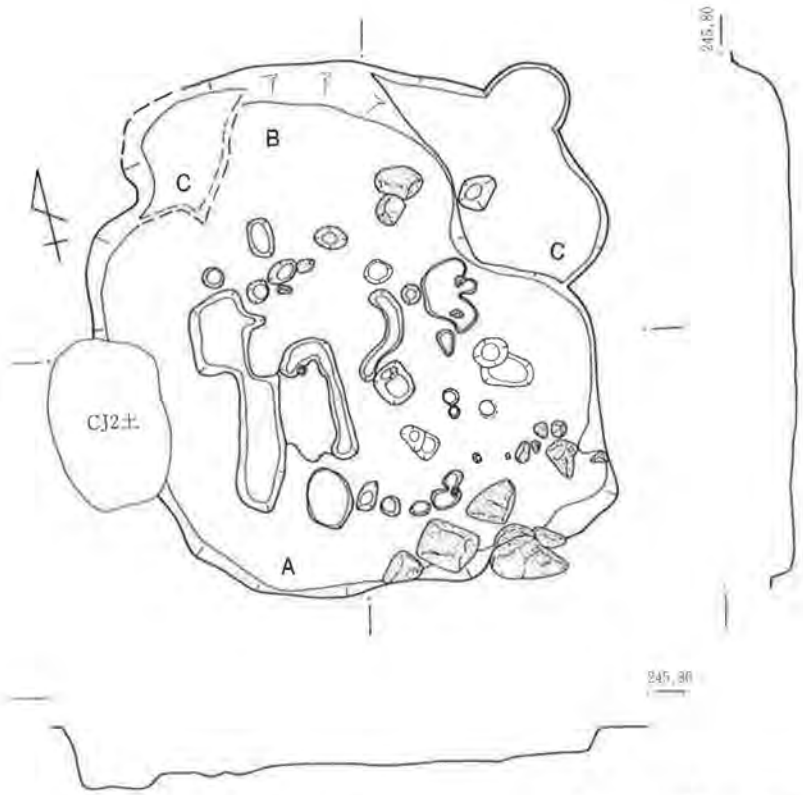
第９図　Ｊ４号住居跡

Ｊ５号住居跡（遺構第10図、遺物第27～31図）

Ｃ区南端に位置する。南西にほぼ同時期と思われる住居跡が近接していたが、工事によって削平される可能性は少ないため調査を行わなかった。西壁部分にＣＪ２号土坑が重複し、本跡の方が古い。北西隅にはＣＪ３号土坑が重複するが、新旧関係は不明である。本跡の北東及び北西には一段高くテラス状の部分が認められており、また、平面的にも壁に屈曲が認められることなどから、住居・土坑等の重複が考えられ、一応住居跡３軒の重複と考えた。便宜的に南半部をＡ、Ａと床面レベルが同じでテラス中に突き出た部分をＢ、テラス部分をＣとすると、土層断面の観察等からＣ→Ｂ→Ａの変遷が考えられる。

全体的な規模は東西約5.2m、南北5.6mを測る。Ａ部分で東西約5.2m、南北約4.4m、深さ50cmを測り、かなり東辺の短い隅丸台形状を呈する。Ｂ部分で東西2.6m、南北1.8m以上、深さ55cm、残存部の形状で隅丸方形状、Ｃ部分は東西5.2m、南北1.6m以上、深さ10cmを測り、不整な形状で北壁に円形の土坑が重複する。

遺物は覆土中から多量に出土したが、床面から出土したものは殆どない。Ｃ部分からは１点も出土していない。土器の時期は諸磯ｃ式期が主体であるが、諸磯ｂ式期も少量出土している。



第10図　Ｊ５号住居跡

0　1：80　2m

Ｊ６Ａ・Ｂ・Ｃ号住居跡（遺構第11図、遺物第32～39図）

Ｄ区中央部に位置する。西方約1.5mにＪ７号、約３mにＪ８号住居跡が近接する。西～南には、黒褐色土層が堆積しており、壁面を明瞭に捉えられなかった部分もある。Ａ・Ｂ号住居跡については、床面レベルが同様で、平面形状も多少は不自然なものの、余り明確な切り合い状態ではなかったが、土層観察の結果２軒の重複として捉えた。新旧関係はＢ→Ａである。Ｃ号住居跡についてはＢ号住居跡の床面との間に明瞭な段差があり、Ｂ号住居の床を切っているので、Ｂ→Ｃの新旧関係が確認できた。

Ｊ６Ａ号住居跡（遺構第11図、遺物第32～35図）

東西4.5m、南北3.2mを測り、歪んだ隅丸長方形状を呈している。検出面からの深さは40cmである。北側から東側にかけて土坑が多数重複しており、ＤＪ１号土坑よりも新しいことが確認されている。西・北側の壁は直に立ち上がるが、東側の壁は緩やかな角度で立ち上がる。床面は良く踏み固められており堅緻である。床面や壁面には地山の礫が多数突出している。北壁直下には幅10～20cmの浅い溝が掘られている。柱穴は何ケ所かで検出されているが、ほぼ長方形に検出された４本が主柱穴と思われる。炉は床のほぼ中央部が浅く掘り凹められており、焼土・炭化物も検出されたことから地床炉と思われる。

遺物は復元できるものは少ないが、比較的多量に出土している。土器は諸磯ｃ式期が主体で、諸磯ｂ式期の物も多い。黒浜式も少量出土している。石器は石鏃、磨石等が出土した。

Ｊ６Ｂ号住居跡（遺構第11図、遺物第36図）

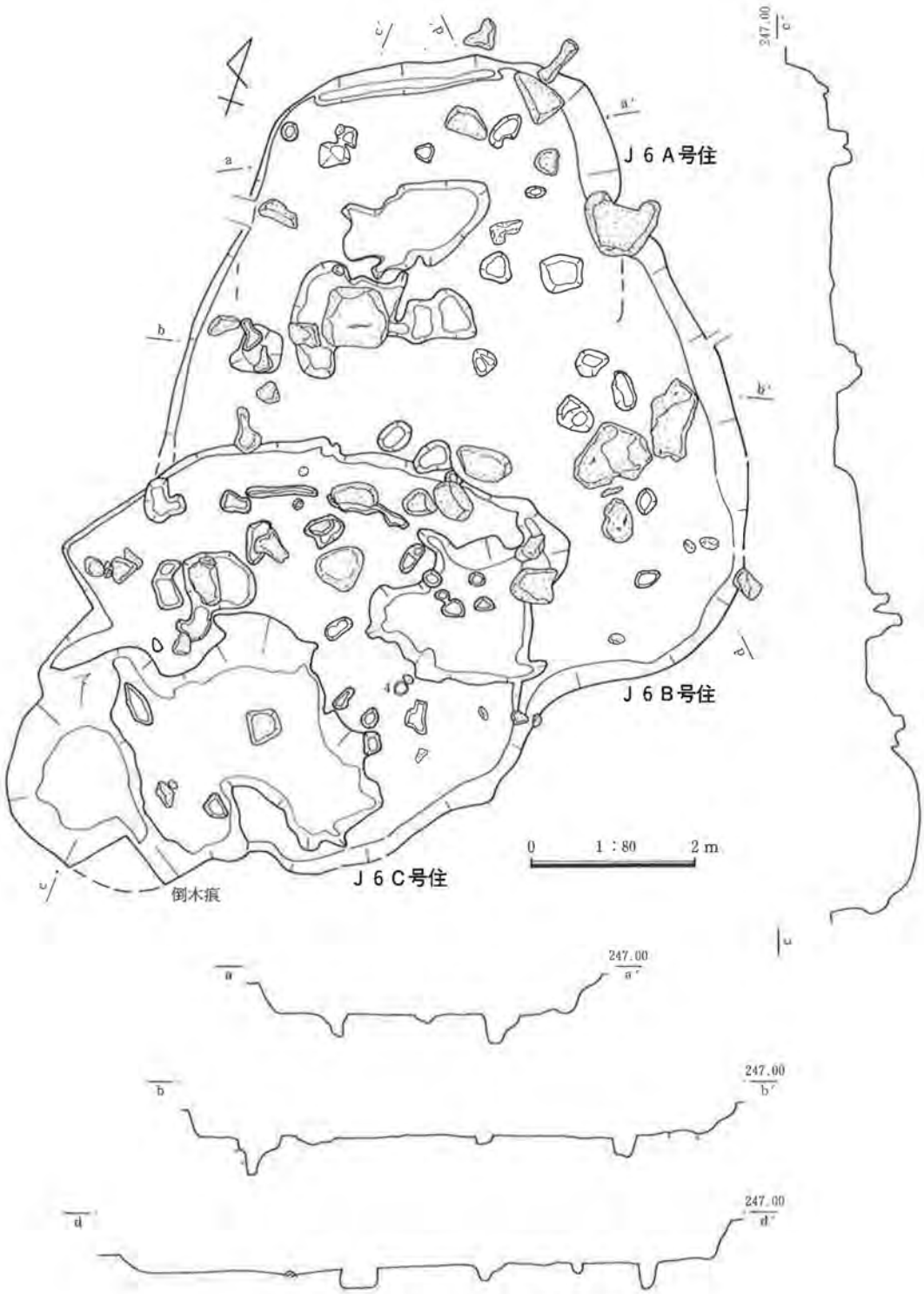
東西約7.2m、南北約6.0mを測り、隅丸長方形状を呈すると思われる。前述したように、南壁と西壁の立ち上がりは不明瞭である。床面は壁沿いを除いて比較的堅緻である。柱穴は床面のほぼ中央部と、壁に沿う何ケ所かに検出されているが、主柱穴は不明確である。Ａ号住居跡と同様に床面の数ケ所に地山に含まれる礫が突出している。炉は検出されていない。

遺物は床面、及び、覆土ともに少量出土しただけである。土器は諸磯ｂ・ｃ式期が多い。石器は石鏃等が出土した。

Ｊ６Ｃ号住居跡（遺構第11図、遺物第37～39図）

南西部に２基の倒木痕が重複し、住居のほうが古い。また東壁部にも土坑状の掘り込みがあるが、性格等不明である。西壁は明瞭に捉えられなかった。

東西約４m、南北約5.2mを測り、かなり歪んだ隅丸方形状を呈すると思われる。南壁は立ち上がりが認められたが、西壁は床面が地山の黒褐色土層とローム層の境目のため、明瞭には立ち上がりを捉えられなかった。床面は西端と南端を除いて非常に良く踏み固められており堅い。Ａ・Ｂ号住居跡と同様に床面、壁面に地山に含まれる礫が突出している。北壁に沿って約40cm内側には細い溝が検出されているが、性格は不明である。柱穴は数ケ所に検出されているが、主柱穴は特定できない。炉は中央部南寄りに口縁部と底部を打ち欠いた土器が正立状態で埋設されており、



第11図　J６A・B・C号住居跡

焼土が検出されたことから埋甕炉と思われる。

遺物は炉の周辺から比較的まとまって出土しているが、復元できたものは少ない。倒木痕中に落ち込む状態で出土したものもある。土器は諸磯ｃ式期が主体である。石器は石鏃、石錐、石匙、凹石、磨石等が出土している。

Ｊ７号住居跡（遺構第12図、遺物第40～42図）

Ｄ区のほぼ中央部北寄りに位置する。Ｊ８号住居跡と重複する。明瞭な切り合い関係は確認されなかったが、本跡が新しいと思われる。

北西端は調査区域外にかかる。南北は約４ｍほどで、東西はＪ８号住居跡との重複により不明である。形状も明瞭ではないが、長円形あるいは円形と思われる。

東壁、北壁はほぼ直に立ち上がる。床面は東壁から約２ｍの範囲はローム土中が床面になっており、比較的堅緻で明瞭に検出されたが、そこから西は黒褐色土中であり、床面を検出できなかった。柱穴は数基検出されているが、主柱穴と思われるものはない。炉も検出されていない。

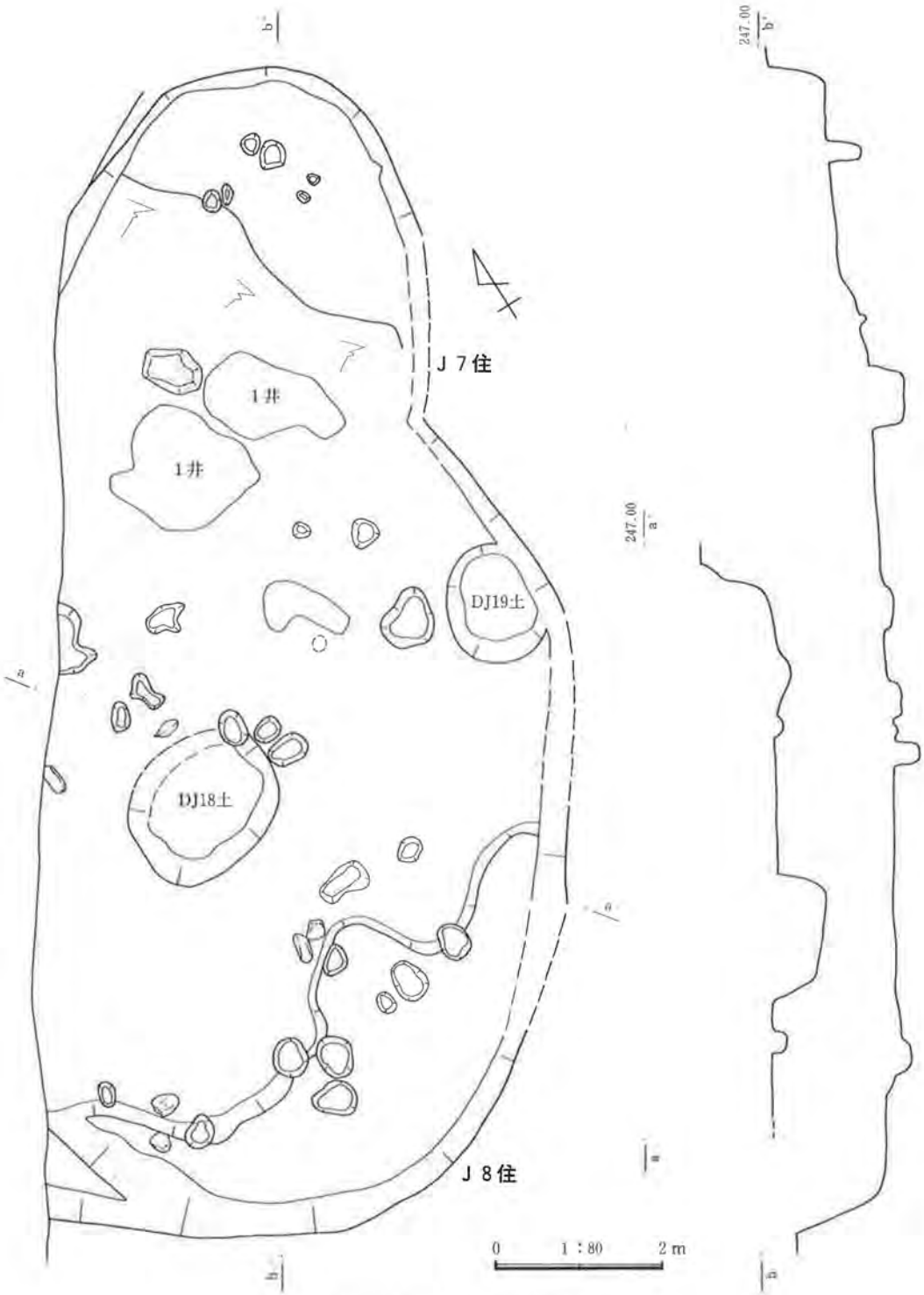
遺物は床面及び覆土中から比較的多く出土した。土器は諸磯ｃ式期が主体である。石器は石鏃、石皿、磨製石斧等が出土した。

Ｊ８号住居跡（遺構第12図、遺物第43～51図）

Ｄ区のほぼ中央部北端に位置する。Ｊ７号住居跡と重複し、本跡の方が古い。ＤＪ19号土坑と重複し本跡の方が古い。ＤＪ18号土坑とも重複するが新旧関係は不明であり、本跡に伴う可能性もある。なお、溜井状土坑や、それに係わるトンネル状の水路に床面下まで壊されている。湧水中での調査の為、不明な点が多い。北端部は調査区域外である。

東西約10ｍを測り、南北約６ｍの範囲を調査した。検出面からの深さ約１ｍである。形状は判然としないが、長円形と思われる。壁は全体的に急角度で立ち上がる。Ｊ７号住居跡との重複部分では明瞭な立ち上がりが検出されておらず、Ｊ８号住居跡の床面からＪ７号住居跡の床面にかけて、漸移的に登ってゆく。床面は精査時点では明瞭に把握できた部分も多く、良く踏み固められ堅緻であったと思われる。全体的には東から西に向かって傾斜している。また、住居の南西部は中央部よりも約10cmほど高くなっており、重複あるいは拡幅住居の可能性もある。柱穴は多数検出されているが、湧水中で調査を行ったため規模・形状、深さ等が不確実であり、主柱穴等は不明である。炉は中央から東に寄った床面に径20～30cmの不正円形に焼土が検出されており、地床炉と思われる。また、Ｄ－Ｊ18号土坑の部分にも多量の焼土が検出されているが、帰属は明瞭でない。

遺物は覆土中から多量に出土している。土器は諸磯ｂ・ｃ式期を主体とし、有尾・黒浜式期も比較的多く出土している。石器は石鏃、石匙、石斧、凹石、磨石等が出土している。



第12図　J 7・8号住居跡

3．縄文時代の土坑（遺構第13～16図、遺物第52～60図）

縄文時代の土坑は前記したようにＡ区が約26基(竪穴状遺構、柱穴状遺構を除く)、Ｂ区が６基、Ｃ区が５基、Ｄ区が約20基の計約57基である。Ａ区では散在して分布するが、Ｂ～Ｄ区では比較的集中して検出されている。これらの土坑の内、ＡＪ７号土坑、ＡＪ６号土坑、ＢＪ１号土坑、ＢＪ５号土坑、ＣＪ２号土坑は住居跡の壁面に掘り込まれており、すべてではないにしても、住居跡に伴う貯蔵穴の可能性がある。土坑の形状は円形、楕円形、長円形、隅丸長方形と様々である。規模も様々であるが、大半が１～２ｍの範囲に収まる。

各土坑の概要は一覧表を参照していただきたいが、数基の土坑について補足説明を行う。

ＡＪ１Ａ号土坑では胴部下半に焼成後穿孔した深鉢が、北壁に底部をもたせかけたような状態で出土しており、甕被葬の墓坑と思われる。

ＡＪ２号土坑の覆土中位から浅鉢が出土しており、その直下から底面までには黄白色粘土が堆積していた。土器製作用材の可能性がある。

ＡＪ７号土坑は検出状況や出土遺物からＪ１Ｂ号住居跡に伴う可能性がある。

ＡＪ13Ａ号土坑は土坑で扱っているが、底面は平坦であり、竪穴状遺構に近い。

ＢＪ１号土坑とＪ３号住居跡の間にはローム粘土を用いて隔壁が設けられている。

ＣＪ１・３号土坑出土土器は黒浜・有尾式期を主体とするが、諸磯式期の土器も出土しており、時期判断が難しい。

ＤＪ１号土坑からは北東隅の底面密着で２個体の深鉢が出土している。

ＤＪ13号土坑から出土した石皿はＤＪ５Ｂ号土坑に帰属する可能性もある。

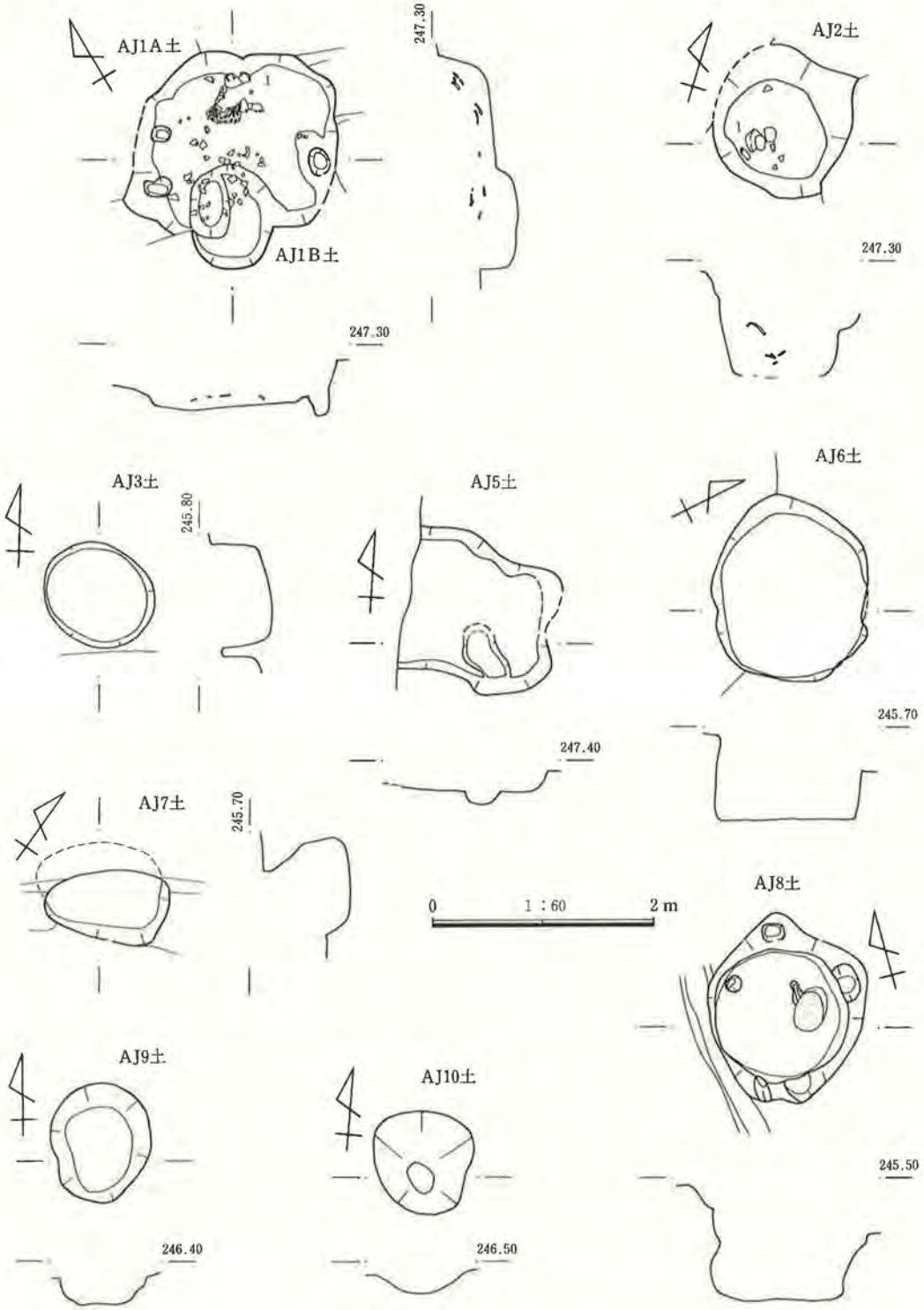
ＤＪ18号土坑はＪ８号住居跡のほぼ中央部に検出され、覆土中から焼土が検出されており、住居跡に伴う可能性もある。

ＤＪ19号土坑はＪ８号住居跡より新しいが、覆土中から多量の炭化物が出土している。

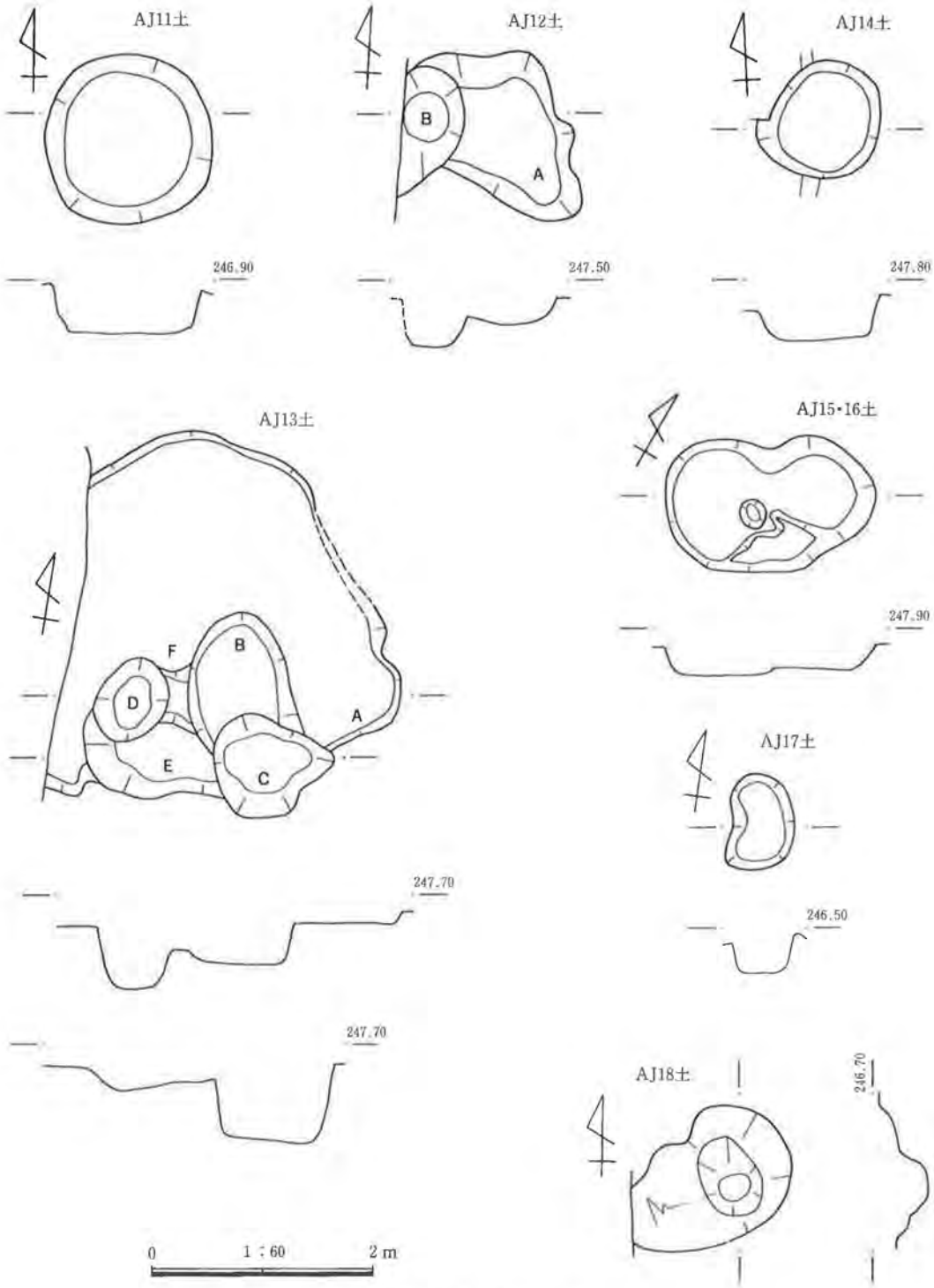
第１表　縄文土坑一覧表　（単位　m）

土坑番号	形　状	長径×短径×深さ	出土遺物	帰属時期	備考（重複・新旧など）
ＡＪ１Ａ号	隅丸方形	1.9×1.8×0.4	土器・石器	諸磯ｃ式期	墓坑
ＡＪ１Ｂ号	楕円形	0.6×0.8×0.6			Ｂ→Ａ
ＡＪ１Ｃ号	楕円形	0.6×0.3×0.7			新旧関係不明
ＡＪ２号	円形	1.2×1.0×0.9	土器・石器	諸磯ｂ式期	焼土・白色粘土出土
ＡＪ３号	楕円形	1.0×0.85×0.9	土器・石器	諸磯ｂ式期	
ＡＪ４号	楕円形	0.95×0.8×0.3	土器	諸磯ｃ式期	（未掲載）
ＡＪ５号	不整長方形	(1.5)×1.3×0.2	剝片		南壁際にピット
ＡＪ６号	楕円形	1.7×1.4×0.75	土器・剝片	諸磯ｃ式期	Ｊ１Ａ住と重複
ＡＪ７号	長円形	1.1×0.7×0.8	土器・石器	諸磯ｃ式期	Ｊ１Ｂ住の貯蔵穴？
ＡＪ８号	円形	1.4×1.4×1.0	土器・石器	諸磯ｃ式期	Ｊ１Ｂ住→ＡＪ８土

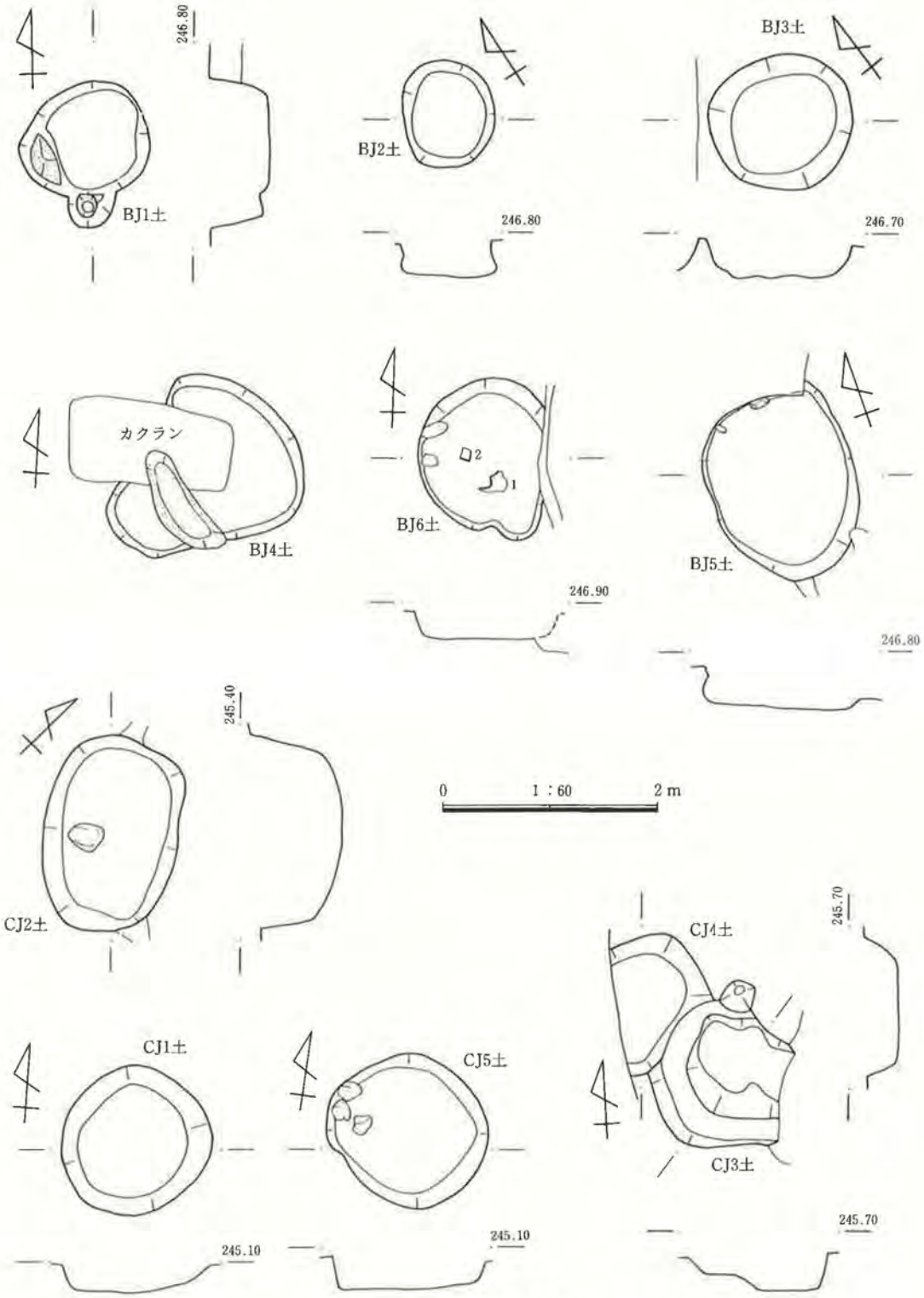
土坑番号	形　状	長径×短径×深さ	出土遺物	帰属時期	備考（重複・新旧など）
ＡＪ９号	不正円形	1.0×0.9×0.25	剝片		
ＡＪ10号	不正円形	0.9×0.9×0.2			
ＡＪ11号	円　　形	1.5×1.5×0.4	土器・剝片	諸磯ｂ式期	
ＡＪ12Ａ号	隅丸三角形	1.9×1.2×0.2			新旧関係不明
ＡＪ12Ｂ号	長　円　形	(1.0)×0.8×0.4			
ＡＪ13Ａ号	不整方形	3.3×3.3×0.1	剝片		竪穴状遺構？
ＡＪ13Ｂ号	楕　円　形	1.2×1.0×0.45			
ＡＪ13Ｃ号	不正円形	1.0×1.0×0.7			重複、新旧関係不明
ＡＪ13Ｄ号	楕　円　形	0.8×0.6×0.55			
ＡＪ13Ｅ号	長円形？	(1.3×0.7)×0.2			
ＡＪ14号	円　　形	1.1×1.05×0.35	土器・礫	諸磯ｃ式期？	
ＡＪ15号	円　　形	1.2×1.2×0.25	土器・石器	諸磯式期	重複、新旧関係不明
ＡＪ16号	円　　形	1.0×1.0×0.2			
ＡＪ17号	長　円　形	0.85×0.55×0.35	土器	有尾・黒浜式期	
ＡＪ18号	楕　円　形	1.5×1.15×0.35			中段0.7×0.5
ＡＪ19号	楕　円　形	0.9×0.7×0.3	土器	有尾・黒浜式期	（未掲載）
ＡＪ20号	円　　形	0.5×0.45×0.3			柱穴？　（未掲載）
ＢＪ１号	円　　形	1.0×1.0×0.6	土器・石器	諸磯ｃ式期	Ｊ３住重複、柱穴重複
ＢＪ２号	円　　形	1.0×0.85×0.3	剝片		
ＢＪ３号	円　　形	1.3×1.3×0.3	土器・石器	諸磯ｃ式期	Ｊ３住に接する
ＢＪ４号	不　正　形	1.9×1.3×0.1			地山礫が露出
ＢＪ５号	楕　円　形	1.7×1.3×0.35	土器・石器	諸磯ｃ式期	Ｊ４住の貯蔵穴？
ＢＪ６号	不正円形	1.4×1.3×0.25	土器	有尾・黒浜式期	ＢＪ６土→Ｊ３住
ＣＪ１号	円　　形	1.3×1.2×0.25	土器	諸磯ｂ式期？	有尾・黒浜式期が多い
ＣＪ２号	長　円　形	1.8×1.2×0.85			Ｊ５住の貯蔵穴？
ＣＪ３号	不正円形	(1.3×1.3)×0.3	土器・石器	諸磯ｂ式期？	有尾・黒浜式期が多い
ＣＪ４号	不正円形	1.1×(1.0)×0.25			重複
ＣＪ５号	円　　形	1.45×1.3×0.3			
ＤＪ１号	隅丸方形？	1.7×(1.3)×0.5	土器・石器	有尾・黒浜式期	ＤＪ２土→ＤＪ１土
ＤＪ２号	長　円　形	1.0×0.8×0.55			
ＤＪ３号	楕　円　形	(1.1×0.8)×0.3			ＤＪ12・13土と重複
ＤＪ４号	円　形　？	(1.4×0.6)×0.3	土器・石器	諸磯ｂ式期	ＤＪ12土と重複
ＤＪ５Ａ号	円　　形	1.2×(1.2)×0.5	土器・石器		有尾・黒浜式期、諸磯
ＤＪ５Ｂ号	円　　形	0.9×(0.9)×0.5			式期ともに出土
ＤＪ６号	長　円　形	(1.5)×1.1×0.5	土器・石器	有尾・黒浜式期	ＤＪ12土と重複
ＤＪ７号	長　円　形	(0.8)×0.7×0.35			ＤＪ７土→ＤＪ８土
ＤＪ８号	円　　形	0.8×(0.7)×0.4			
ＤＪ９号	円　　形	0.9×0.9×0.2			ＤＪ８土→ＤＪ９土
ＤＪ10号	円　　形	1.5×1.3×0.2			（未掲載）
ＤＪ11号	円　　形	0.95×0.8×0.2			（未掲載）
ＤＪ12号	不整長円形	1.8×1.2×0.5			ＤＪ３・４・６土と重複
ＤＪ13号	楕　円　形	(0.9)×0.9×0.25	土器・石器・礫	有尾・黒浜式期	ＤＪ３土と重複
ＤＪ14号	隅丸方形？	2.0×(1.2)×0.3	土器	諸磯ｃ式期	重複、新旧関係不明
ＤＪ15号	楕　円　形	0.8×0.65×0.65	礫		
ＤＪ16号	楕円形？	(1.1)×1.1×0.2			
ＤＪ17号					（欠番）
ＤＪ18号	楕　円　形	2.2×1.5×(1.4)	土器・剝片	諸磯ｃ式期	Ｊ８と重複、新旧関係不明
ＤＪ19号	楕　円　形	1.4×1.3×(1.2)	土器・剝片	諸磯ｃ式期	Ｊ８住→ＤＪ18土



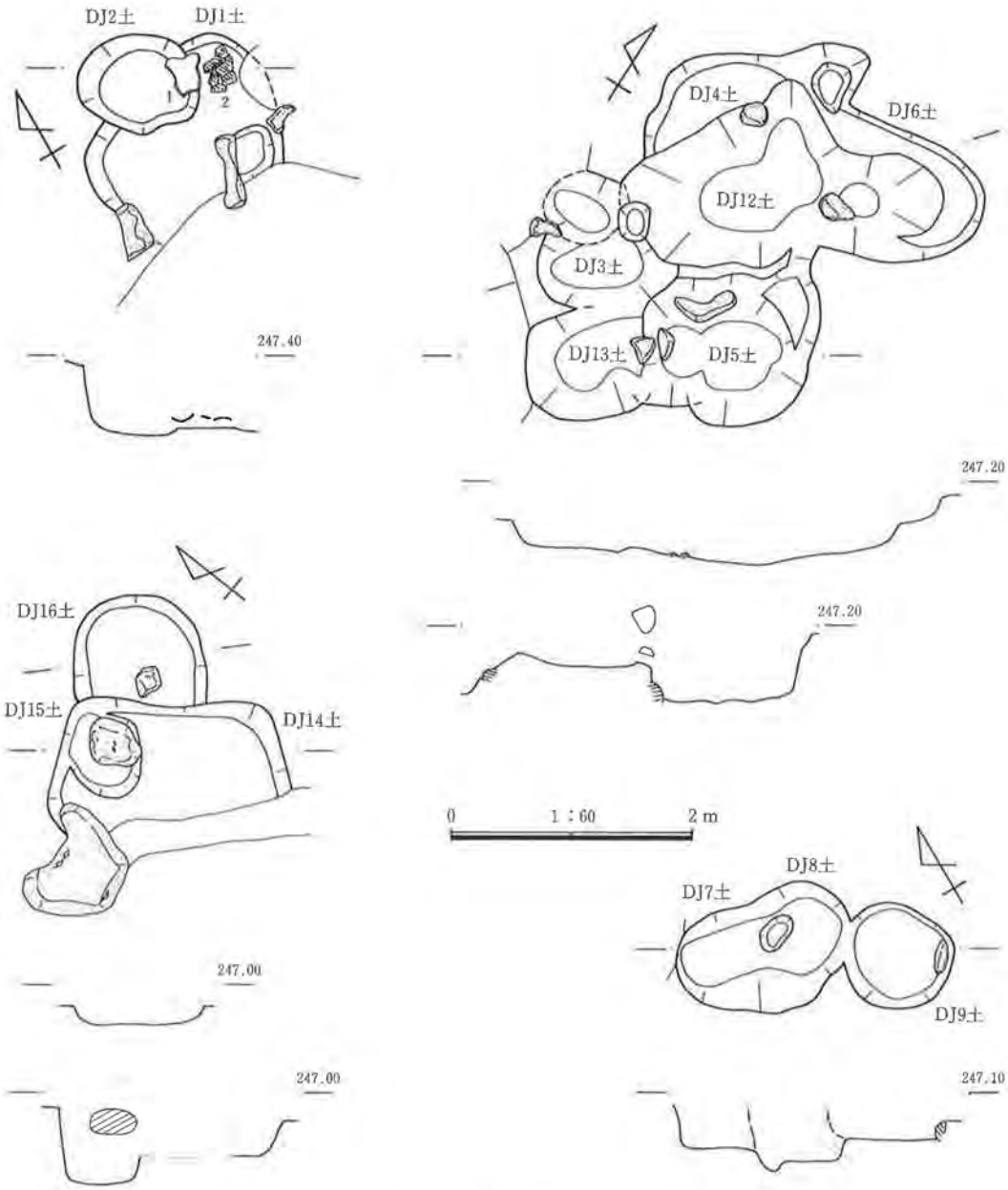
第13図　A区縄文土坑(1)



第14図　A区縄文土坑(2)



第15図　B・C区縄文土坑


DJ2土
DJ1土
1
2
247.40
DJ4土
DJ6土
DJ12土
DJ3土
DJ13土
DJ5土
247.20
247.20
DJ16土
DJ15土
DJ14土
0
1：60
2 m
DJ8土
DJ7土
DJ9土
247.00
247.00
247.10

第16図　D区縄文土坑

4．縄文時代の出土土器

出土した縄文土器は遺構の検出数量にほぼ対応し、諸磯ｂ～ｃ式が大半で、有尾・黒浜式期がある程度のまとまりを見せるが、中期・後期はごく少ない。また、大半の土器は住居跡を主とする遺構出土である。後世の遺構等から出土した遺物はすべて遺構外として一括して取り扱うことも考えたが、遺構の重複状況から１・２号井戸や水路はＪ８号住居跡、倒木痕はＪ６Ｃ号住居跡の遺物を主体とすると考えられるため、出土遺構ごとに掲載した。Ｊ７・８号住居跡とＪ６号住居跡の間に検出された遺物群は一応遺物包含層と捉えたが、何らかの遺構が重複している可能性もあり、この部分はＪ８Ｅと呼称し独立して資料提示した。尚、諸磯式期の住居跡とＪ８Ｅから出土した有尾・黒浜式期等の土器については基本的に遺構外で扱ったが、復元個体及び何点かの土器はレイアウトの都合により遺構内で扱っている。

本来ならば、土器の諸属性について分類・分析を行い、項目ごとに類型化して資料提示することも考えたが、時間の制約や筆者の力量の問題もあり、あまり細密な分析は行えず、また、まとめた形での資料提示も行えないため、ここでは遺構ごとに出土土器の様相を概略的に説明し、個々の土器の諸属性はこれも概略的ではあるが観察表に記すことにした。

本年度は諸磯ｂ～ｃ式期の集落跡である愛宕山遺跡の整理作業も同時に行っている。愛宕山遺跡の出土土器については松田光太郎（早稲田大学大学院生）が詳細な分析を行い、該期土器の諸属性についても細密な類型化を行っている。当然、多くの部分で広面遺跡の出土土器の内容ともオーバーラップするが、各属性の表現、特に器形や文様の表現等の統一は図っていない。

縄文土器説明・観察表の説明

土器の諸属性には器種、器形、文様、文様要素、地文、胎土、色調等がある。諸属性の内でも特に器形、文様、文様要素はバラエティーに富み、土器の相異や変化等を判断する上で大きなファクターである。属性を表現する語句は先学により様々に工夫されており、一般化した表現も多いと思うが、筆者の不勉強により一般的な表現、一般的でない表現、あるいはそれらの出典、さらには新たな造語であるかの判別が付かないため、まず最初に本書の用語・表記法を観察表中での使用法を中心に説明したい。

器種：大半は深鉢であるため、深鉢以外の器種だけ表示した。浅鉢、ミニチュア土器、土製品（土偶？）である。

器形：深鉢は口縁部の形状として平口縁と波状口縁がある。特に極端に大きな波状を呈するものは大波状口縁、わずかに波状を呈するものを小波状口縁としたが、厳密に規定しての表現ではなく、大・小波状を含めて単に波状口縁としたものも多い。尚、基本的に外反りする平口縁の口

縁部で、波頂部だけを内側に折り曲げ、側面観が平縁で上面観が花弁状を呈する口縁部を内折波状口縁と仮称している。また、波頂部下が袋状に突出する波状口縁には靴先状と追記した。底部は筒状の胴部下端から急に径を減じ、脚台状（外見的に）の底部に至る本期に特徴的な底部を屈曲底部と仮称しこれだけを記入した。

文様：本文中で多少の説明を行うが、観察表中では基本的に文様説明を行っていないので、実測図版・拓本から判断していただきたい。

文様要素：貼付文―かなりのバリエーションがあり、個別にすべての類型について表記するべきであるが、紙幅・字数の関係で一般的な棒状貼付文、ボタン状貼付文（刺突の有無も含めて）、耳朶状貼付文については貼付文で一括した。小ボタン状貼付文、横長貼付文、連続刺突が付される貼付文等については別記若しくは優先して表示している。

凹凸文―施文部位、段数の説明は行わず、凹凸文とだけ表記した。原体の種別や大小、凹みやメクレの程度による区分も可能と思うが行っていない。単純な刺突文やキザミとの判別は行っているが、必ずしも厳密に区別しているわけではない。

平行沈線―平行沈線の多くは半截竹管によって施されたものと思うが、沈線が深くても半截竹管内側の形状が認められないものも多く、厳密に原体の判別をすることは困難である。今回の観察では特に本期に特徴的な平行沈線の施文方法に観察の主眼を置いた。集合沈線と連続沈線は共に複数の平行沈線を密に施文する技法であるが、集合沈線は先の平行沈線の片側に次の平行沈線の片側を重ね合わせて施文していく技法であり、連続沈線は先の平行沈線とほぼ沈線間の幅に等しい間隔を開けて次の平行沈線を施文する技法である。最小単位は集合沈線が３本、連続沈線が４本である。実際の施文では必ずしも一貫した技法が用いられるわけではなく、また、施文部位や施文の段階によって使い分ける事例もある。具体的な一例として横帯文は連続沈線、縦区画施文部は集合沈線と使い分けているものが多く認められる。あるいは、基本的な施文は集合沈線で行い、付け足しの施文は連続沈線で行うような場合もある。但し、この用法は観察の途中で気付いたことなので、部位・施文段階での技法の違いは基本的に表記していない。観察表の集合・連続沈線という表記は基本的に残存部位において、前者が主体的に施文されていることを表す。但し、平行沈線との混用の場合には前後関係が使用頻度を表すわけではない。さらに、３者がある場合には平行沈線を略している。尚、平行沈線間の距離がある程度開いたものを平行沈線としたが、厳密に連続沈線と区別しているわけではなく、多分に感覚的な部分もある。平行沈線の沈線間の幅は基本的に沈線の中心部間の距離で計測している。平行沈線の深さは様々であるものの、大半は２本とも同じ深さで施文されている。しかし、少数ではあるが片側が深く、片側が浅く施文されたものが存在する。この場合には「深浅」と付記する。極端な場合は片側の痕跡がほとんど認められないものもあり、この場合拓本上では巾の広い平行沈線か単沈線のように見える。原体は大半は全体を同一の原体を用いて施文するが、施文技法と同様に横帯文と縦区画部の施文で

原体（幅）を変えているものがある。平行沈線には３本以上が同時に施文されたと思われるものがある。この中には半截竹管状工具を２本まとめて施文したと思われるものもあるが、多くは原体復元が困難である（いわゆる櫛歯状工具）。半截竹管状工具を用いたものは「半截竹管２本（沈線４本）」、櫛歯状工具を用いたものは「沈線５本」のように本数で表記した。また、これらの中で沈線間の幅が等しくないものについては「幅広―狭―広」或は数値を記した。さらに、沈線の深さが等しくないものについては「深―深―浅」のように付記した。沈線自体の幅も等しくないが計測・表記していない。原体幅の計測値は平行沈線と同様に外側の沈線の中心間距離である。

浮線―浮線の場合太さ（巾・厚さ）が大きな要素であるが、必ずしも一定して付されているとは限らないので、今回は計測していない。観察表では浮線上の施文（キザミ・刺突文・縄文施文）を主に記し、器壁と色調が異なる場合は色調の項目中に（　）で記した。

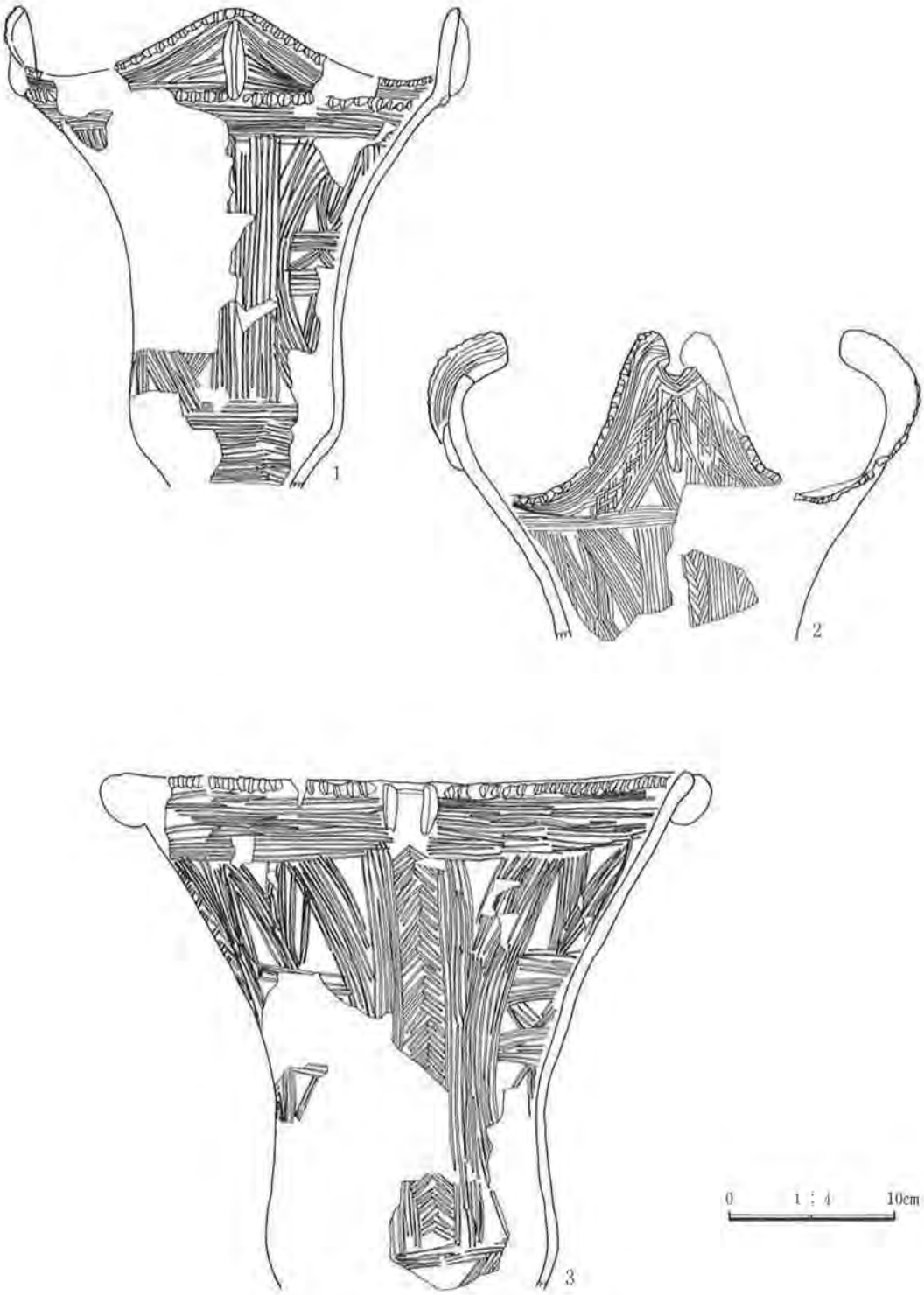
胎土：基本的に胎土に含まれる挟雑物について目に付いた順に記したもので、含有率を厳密に表示したものではない。また記入していないことが含まれていないことを意味するわけでもない。白色粒は軽石質の火山噴出物と思われる。赤色粒は発色の度合いによって、実際には褐色～黒色を呈する。黒色鉱物は輝石或は角閃石が多いと思われるが判別できない。黒色鉱物、石英、長石などは基本的に砂粒中に含まれると思われるため、特に目立つ場合に表記した。

色調：基本は外表面の色調である。内面の色調が特に異なる場合には（　）に付記したものもある。また、浮線文土器で器壁色と浮線の色調が異なる場合も（　）に付記した。色調の判別は標準土色帖（農林省農林水産技術会議事務局　監修）によった。

遺物を観察する場合にはまず観察の視点を明確に規定して行うべきであるが、土器の知識が余りなく、曖昧なまま開始したために、観察が進むにしたがって変化してしまったようである。本来ならば改めて観察をやり直すべきであるが、時間的に不可能である。本文・観察表ともに不十分・未完成であることを念頭に置いたうえで、参考としていただきたい。

Ｊ１Ａ号住居跡出土土器（第17～19図、観察表第２表）

１は４単位の（小）波状口縁、２は４単位の大波状口縁、３は平口縁の深鉢である。口縁端部にはいずれも凹凸文を付し、１には口縁立ち上りの稜部にも付す。１・２の波頂下には縦長の貼付文を付す。３は２個一対の貼付文を４単位に付す。３点とも底部は欠失するが、筒型若しくは多少膨らみをもった胴部下端から急激に細くなり、屈曲底部となる器形である。文様はごく細い半裁竹管を用いた平行沈線で施す。胴部文様は上下の端部を横帯文で区画し、この間をさらに懸垂帯で区画する。さらに、この縦位の区画内にレンズ状の区画文を施文する。この時期の平行沈線文の深鉢の多くが基本的にこの文様構成をとる。懸垂帯は縦位の平行沈線だけで構成される場合もあるが、懸垂帯内にさらに矢羽根状文や鋸歯状文などを施文する場合もある。レンズ状の区



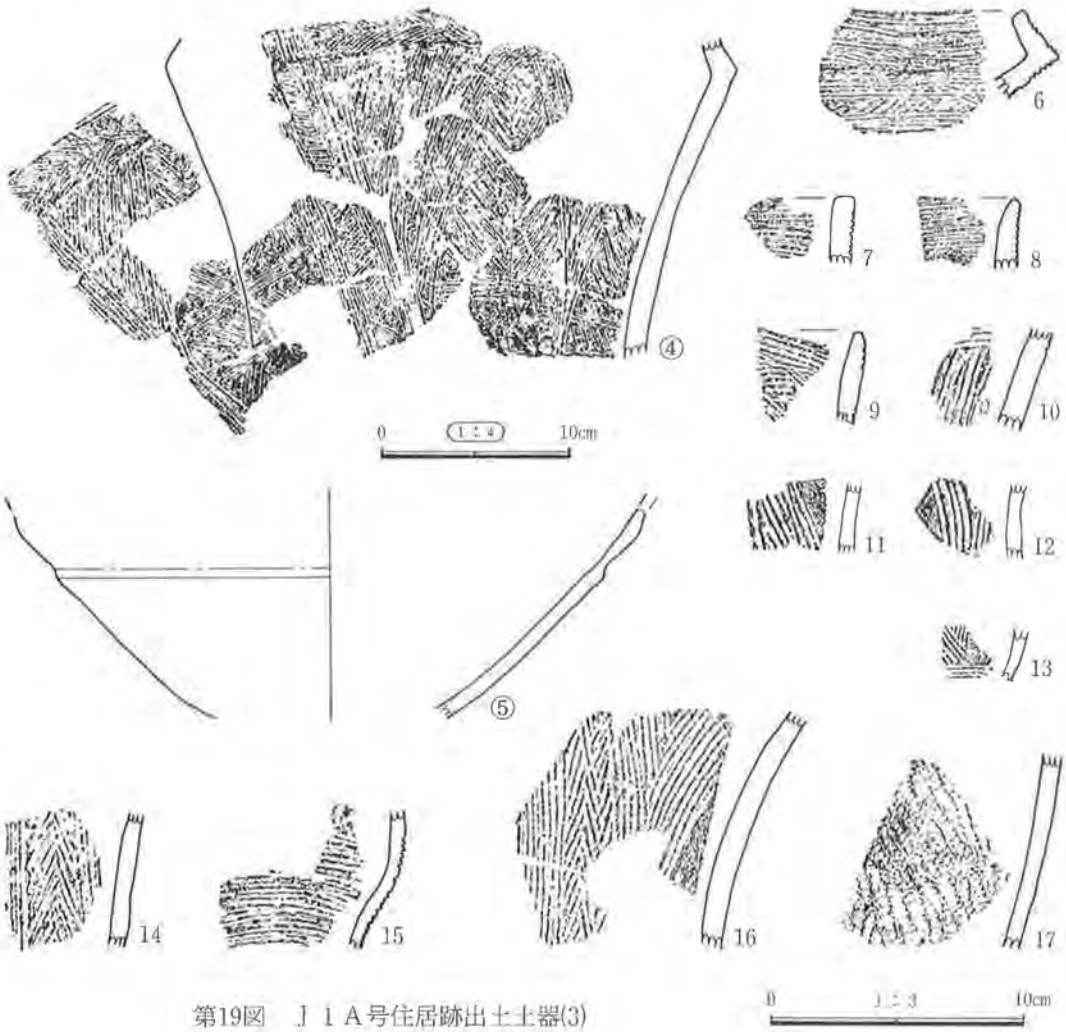
第17図　Ｊ１Ａ号住居跡出土土器(1)

第18図　Ｊ１Ａ号住居跡出土土器(2)

画内も同様にさらに区画し、孤線文と直線文を組み合わせて様々に文様構成をする。第21図の展開図のように同一個体内でも文様に変化を持たせて施文することが多い。

1の文様構成について説明すると懸垂帯は1ケ所が縦位の平行沈線文だけで、他3ケ所は内部に鋸歯状と斜位の施文帯を含む。レンズ状区画内の1ケ所は区画せずに孤線文を施文し、1ケ所は横帯区画し、この横帯区画内を含めて孤線文を施文する。3は懸垂区画帯内が矢羽根状に施文されるが、3ケ所は中央から方向を変え、1ケ所は一方向である。レンズ状区画内も1ケ所は横帯区画せずX字（背孤）状に施文するだけである。3ケ所は横帯区画し、上下に背孤線文を施文するが横帯区画内部に変化をつけている。法量は1が口径約28cm、残存高約28.5cm、2が口縁部最大径29.6cm、3が口径約35cm、残存高約31cmを計る。

4は器壁が厚く胴部上端が括れる器形で、器形的には諸磯b式的であるが、文様は平行沈線文



第19図　J 1 A号住居跡出土土器(3)

による縦区画施文で諸磯ｃ式的な土器である。括れ部分には横方向の矢羽根状文が施文される。5は無文の浅鉢、6～16は平行沈線文で、13・15は屈曲底部となる。17は縄文地文土器である。

Ｊ１Ｂ号住居跡出土土器（第20図、観察表第３表）

1～9、11～16は平行沈線で施文する。1は屈曲底部の深鉢の胴下半部である。口縁部は3を除いて平口縁で、密に貼付文を付すものが多い。胴部への貼付は割合としては少ない。6の胴部の細い棒状貼付文上には半截竹管状工具による連続刺突文が付される。4の口縁端には凹凸文を連続するが、6はＣ字状の刺突文である。10・17は貝殻文土器である。

Ｊ１Ａ・Ｂ号住居跡出土土器（第21図、観察表第４表）

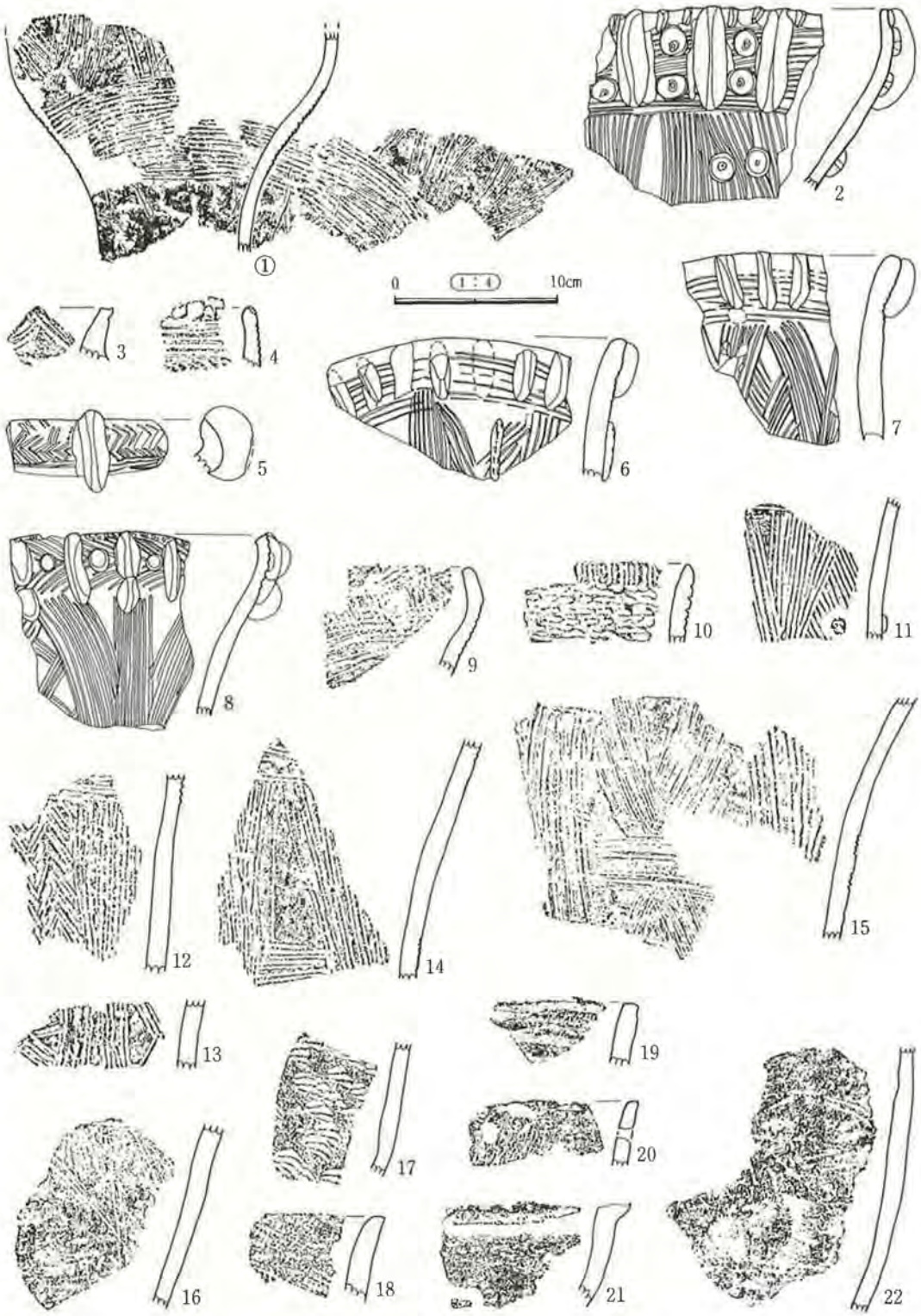
1は含繊維土器である。拓本上ではほとんど見えないが、ごく浅い爪形文を施文する。2～22は平行沈線で施文する。2・3は同一個体と思われる。口縁部はキザミ状の平行沈線を矢羽根状に連続させ、3は3段であるが、2は稜を越え4段に施文する。4は貼付文が口縁部に連続するが、内折部上には円盤状と円錐状の貼付文が混在する。5の口縁端は凹凸文が連続する。6も2・3と同様口縁部にキザミ状の平行沈線を矢羽根状に3段連続する。7は波頂部が切り欠きにより2山状となる波状口縁深鉢である。8は内折波状の口縁部で、左側が波頂で切り欠きがある。23・24は浮線文で浮線上にキザミを付すがキザミの方向は一定していない。25は平行沈線の脇にキザミを付す。26は沈線間にヘラ先状工具？で押し引く。28は3山状の波状口縁で全面に地文縄文を施文する。29・30は疎らに地文縄文を施文する。

Ｊ２号住居跡出土土器（第22図、観察表第５表）

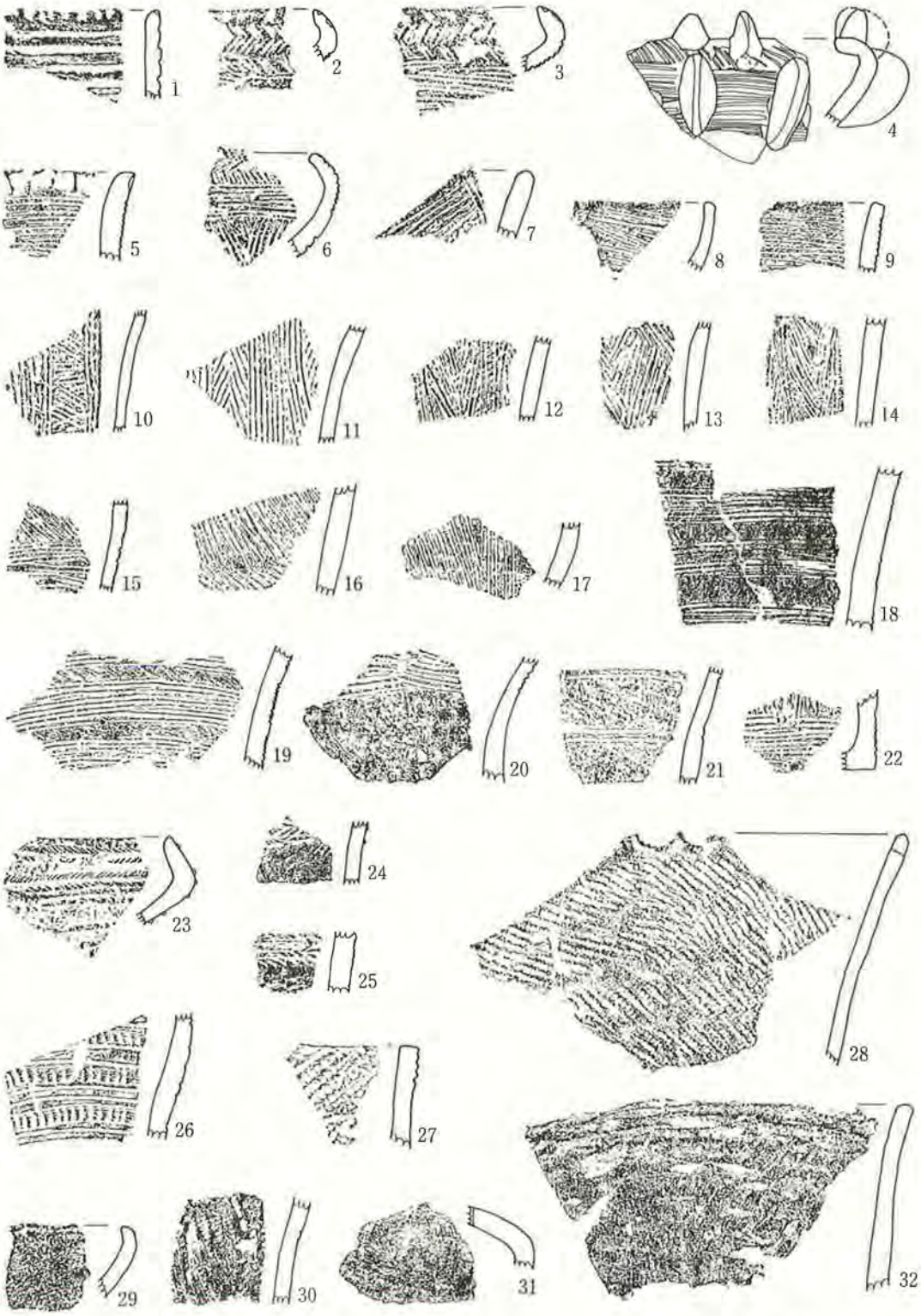
1～12・14～17は平行沈線で施文する。1～4は深鉢胴部で、4はウメガメである。胴部に貼付文を付すものも多い。5は平口縁で縦長貼付文の大半が欠落している。6の稜上には刺突文を連続する。13は縄文施文土器で小波状口縁と思われ、波頂下に貼付文を付す。19は浅鉢で黒色顔料で細線文を施文する。

Ｊ３号住居跡出土土器（第23～25図、観察表第６表）

1～7は平行沈線文土器で、1は内折波状口縁、2は小波状口縁、5は大波状口縁で地文縄文上に平行沈線文を横帯施文する。2は波頂下に貼付文を付し、横位の孤線文を施文する。5は波頂下に縦位のレンズ状文、胴部横帯文間にＸ字状に施文する。3は横帯文間に縦位施文、矢羽根状文を充填する。4は丁寧に集合施文する。6も横帯文間に矢羽根状文、斜位文を充填する。7は深一浅の平行沈線で横位施文する底部である。8は黒色顔料により施文する浅鉢である。9は繊維土器である。法量は1の口径が25.6cm、2の口縁部最大径も貼付文を含めて25.6cm、8の口



第20図　Ｊ１Ｂ号住居跡出土土器

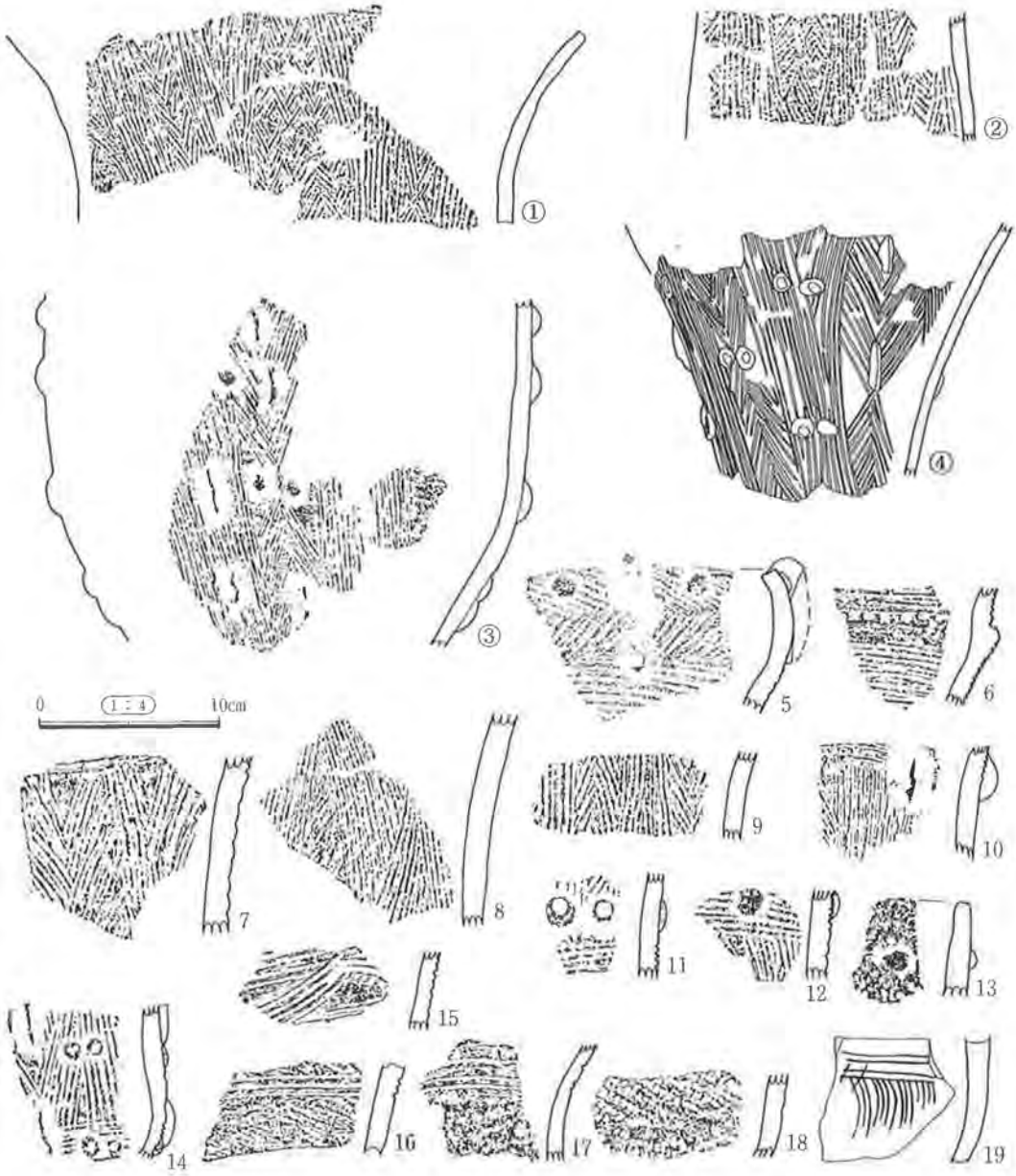


第21図　Ｊ１Ａ・Ｂ号住居跡出土土器

0　1：3　10cm

径が14.5cm、体部径が21.2cmを計る。

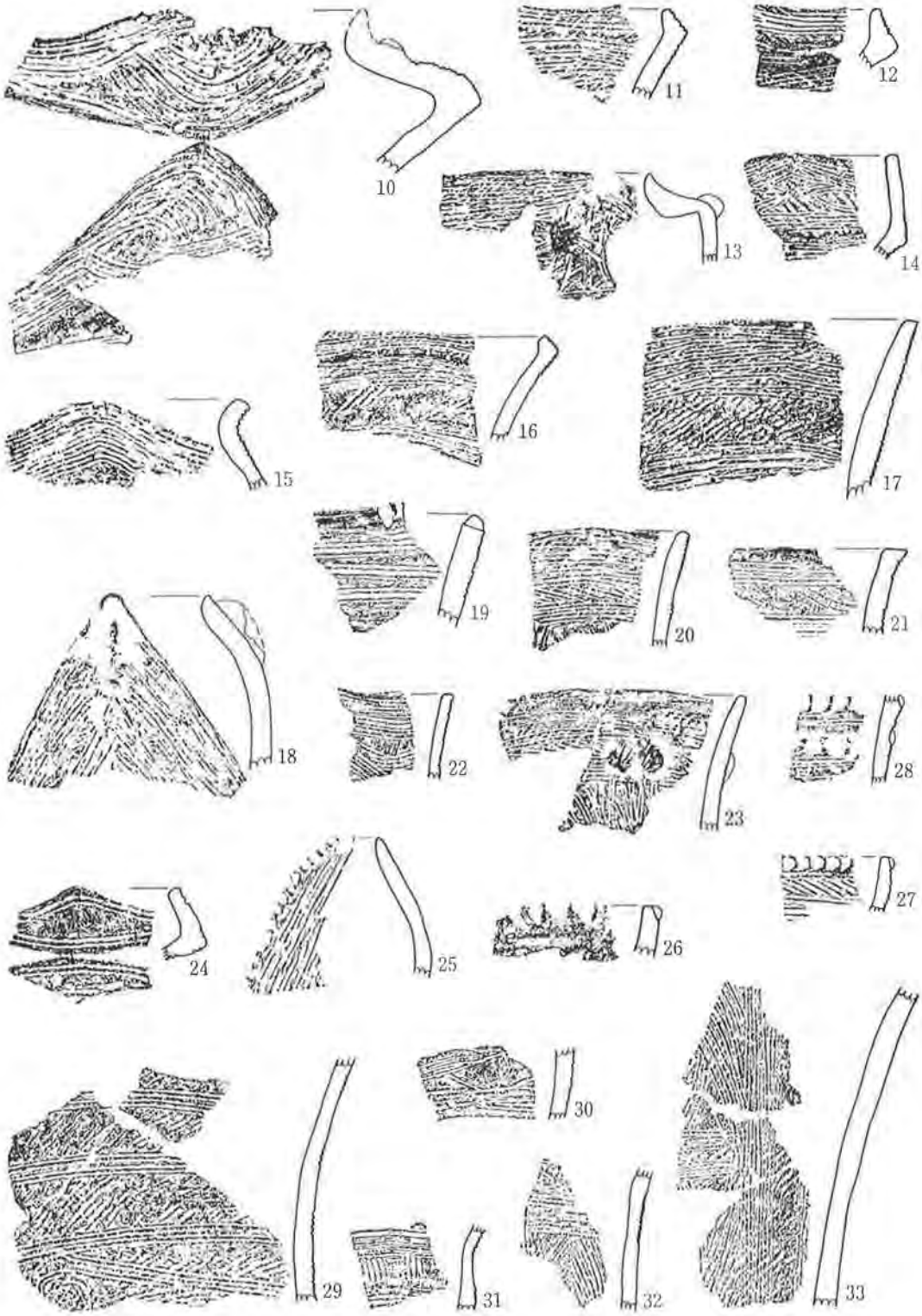
10～42は26を除き平行沈線文土器の破片である。10・18・25は大波状口縁、11・12・15・22・24は小波状口縁、13は内折波状口縁の深鉢で波頂下に2個一対の貼付文を付す(1個は欠失)。19は2以上のキザミ（切り欠き）が口縁端に付され、突起を付すか小波状を呈すると思われる。21の口縁端は外方に鋭角に張り出す。23は貼付文上にも縄文を付す。25～27は凹凸文を付す。40は



第22図　J 2号住居跡出土土器

第23図　Ｊ３号住居跡出土土器(1)

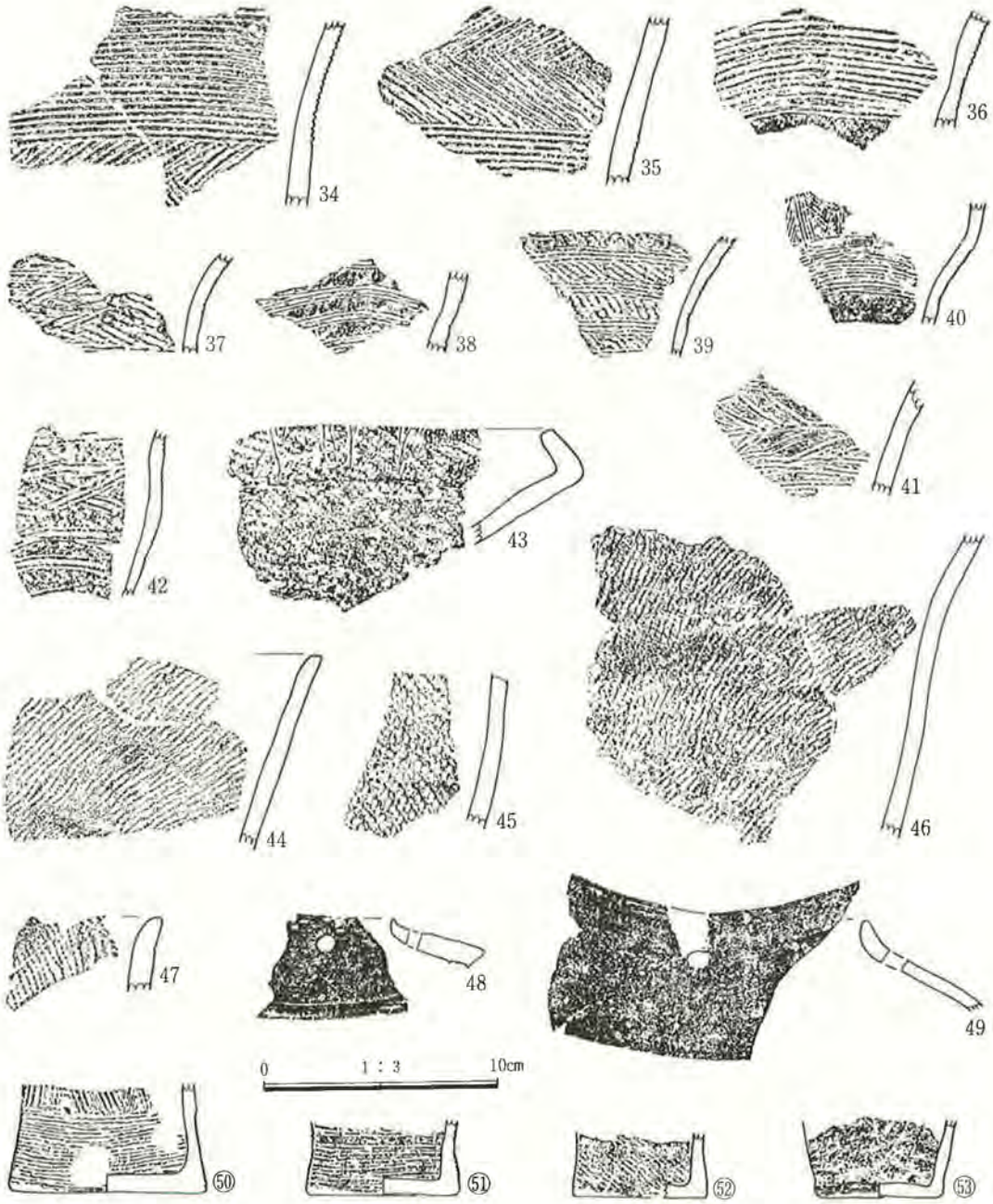
0　1：4　10cm



第24図　J 3 号住居跡出土土器(2)

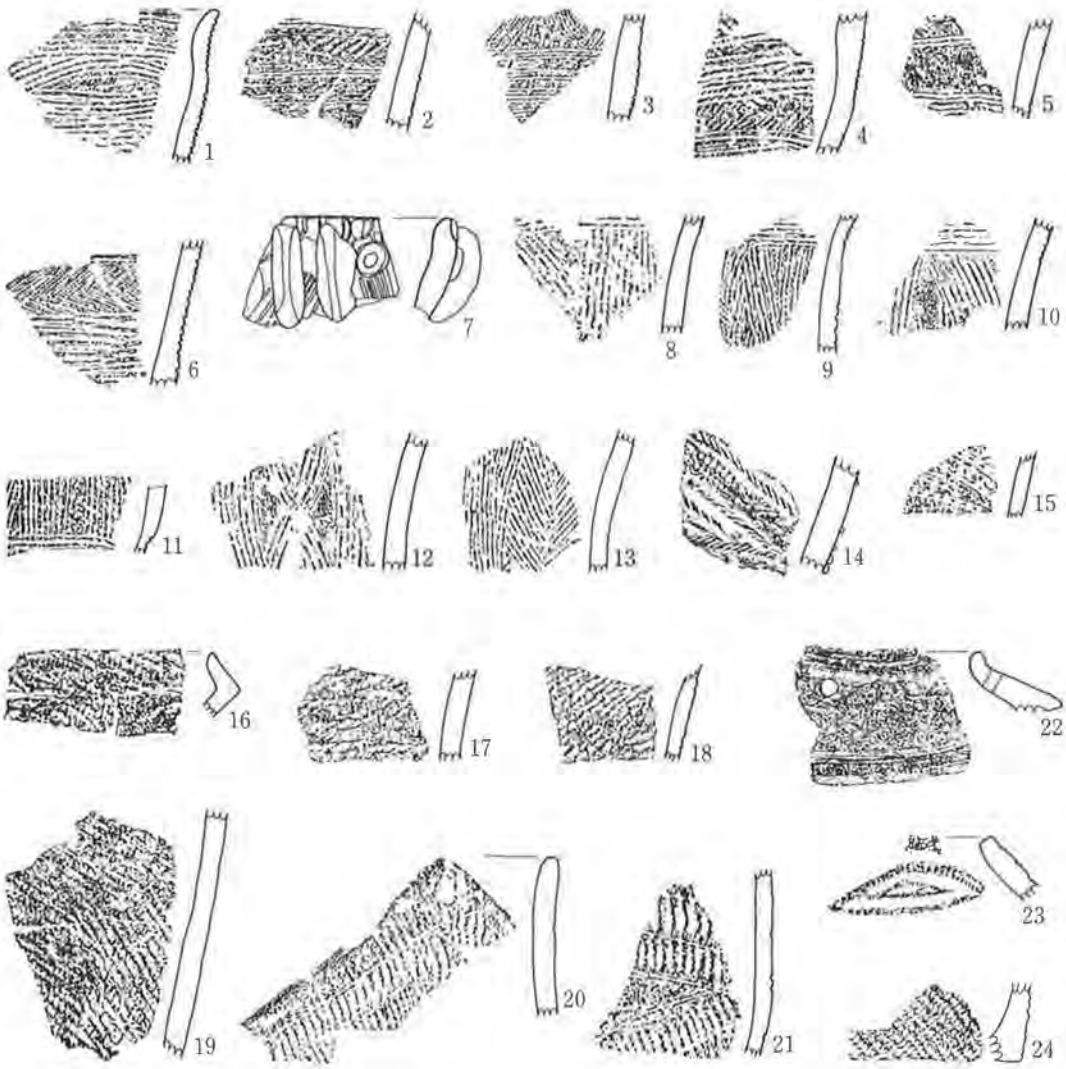
0　1：3　10cm

屈曲底部である。43～46は縄文、47は貝殻文である。48・49は無文の浅鉢、50～53は深鉢の底部である。50・51は平行沈線文、52は縄文、53は無文である。



第25図　J 3号住居跡出土土器(3)

0　1：4　10cm



第26図　Ｊ４号住居跡出土土器

0　1：3　10cm

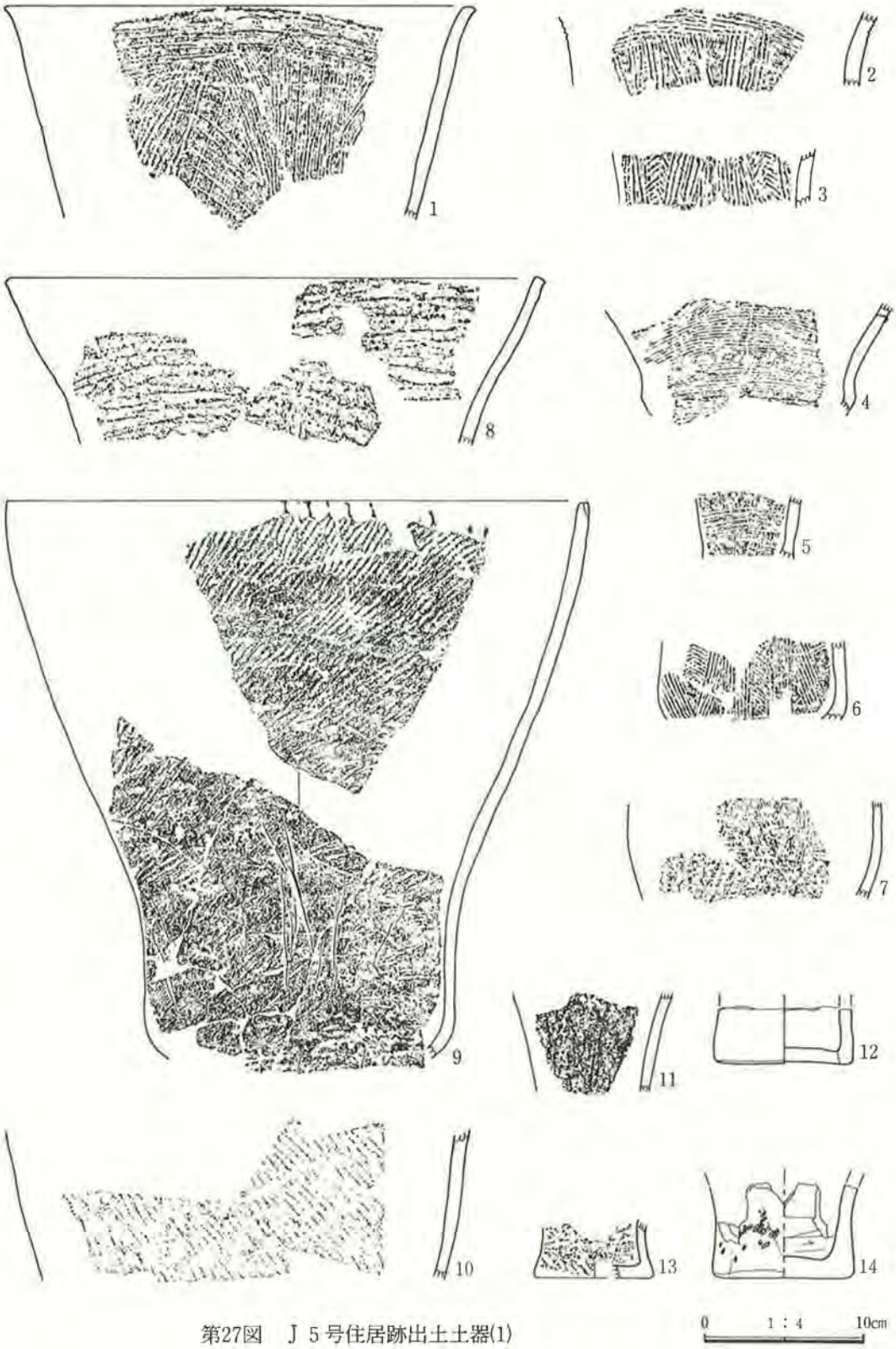
Ｊ４号住居跡出土土器（第26図、観察表第７表）

1～13は平行沈線文土器で、７には凹凸文・貼付文を付す。14は浮線文、15は爪形文、16～19は縄文、20・21は貝殻文の深鉢である。22・23は浅鉢である。24は含繊維土器の底部である。

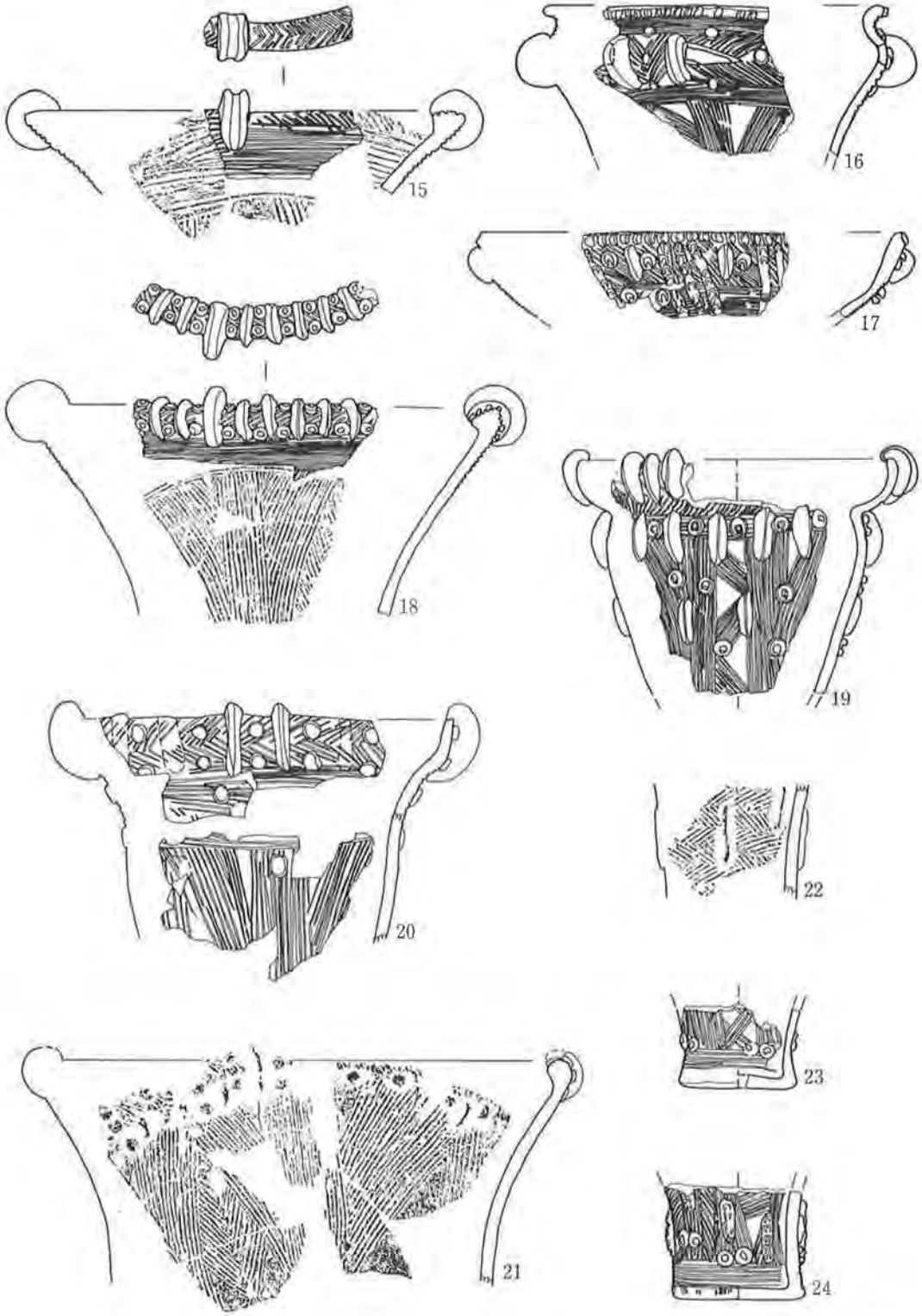
Ｊ５号住居跡出土土器（第27～31図、観察表第８表）

すべて深鉢である。１～７は平行沈線施文土器である。１は平口縁、４は大波状口縁である。５は小型土器。６は屈曲底部となる胴部下半である。８は横方向のナデ痕が顕著である。９は口縁端に凹凸文を付す平口縁深鉢で、胴部下端を除き縄文を施文する。屈曲底部と思われる。12～14

（Ｐ42に続く）



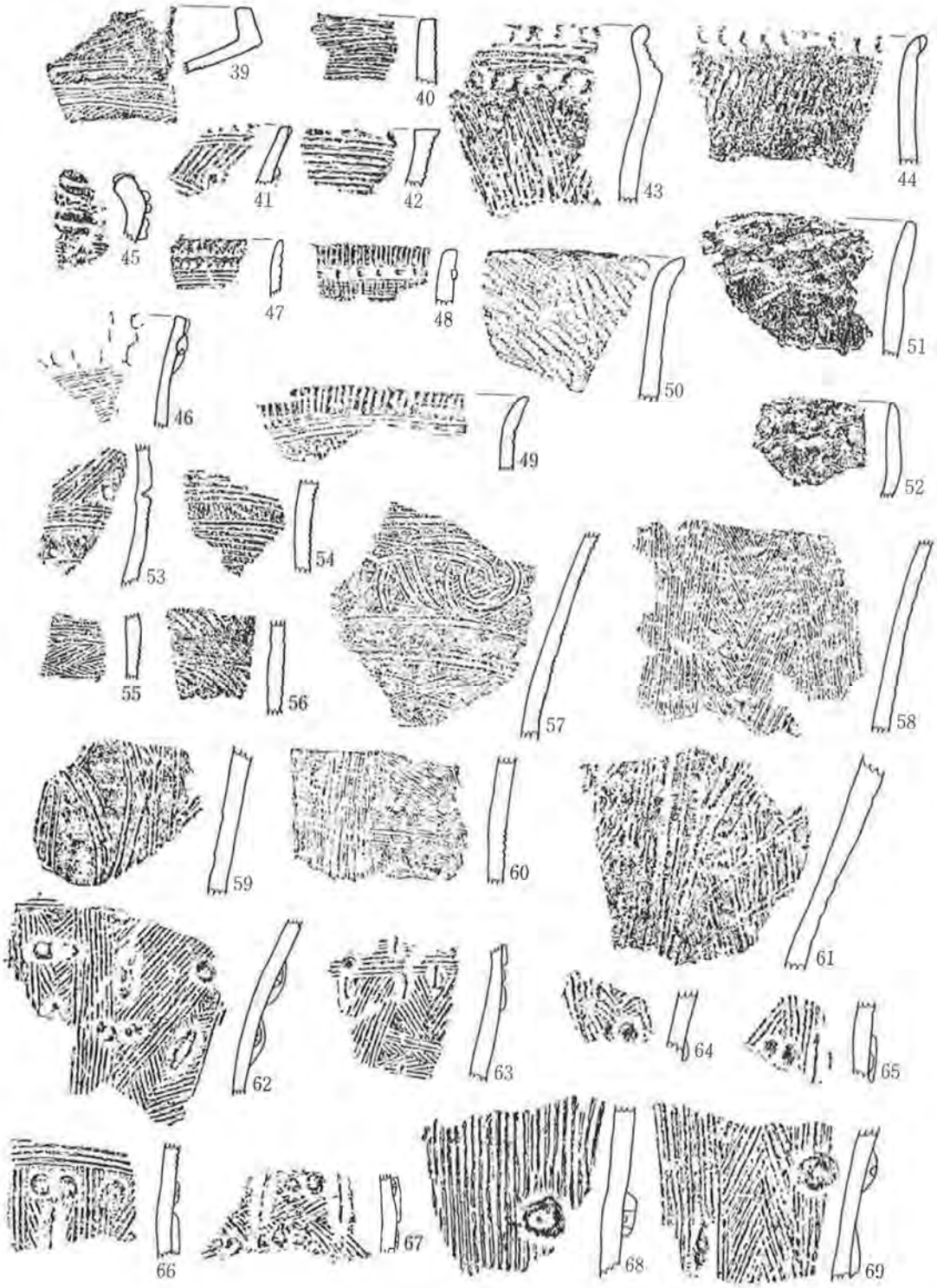
第27図　Ｊ５号住居跡出土土器(1)



第28図　J 5号住居跡出土土器(2)

第29図　Ｊ５号住居跡出土土器(3)

0　1：3　10cm



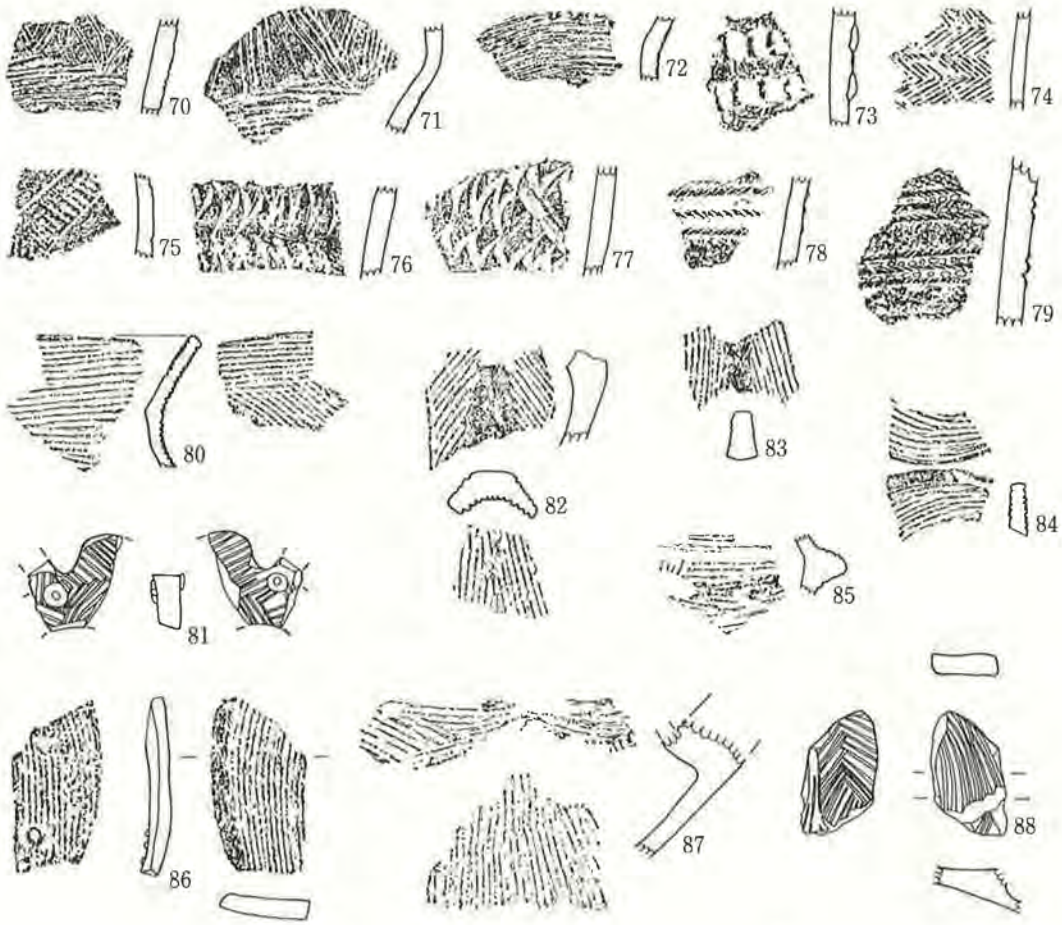
第30図　Ｊ５号住居跡出土土器(4)

0　1：3　10cm

は底部で、13は屈曲底部と思われる。法量は1の口径が29.6cm、8の口径が33.6cm、9の口径が36.4cm、残存高が34.8cmを計る。

15〜24は貼付文を付す平行沈線文土器である。15は外輪部中央に縦位の太沈線を施す半環状貼付文（滑車状貼付文と仮称）が4単位に付されると思われる。16は2個一対の半環状貼付文の両脇に三角形の切り欠きがある。口縁端は極端に外反する。17の3本一組の長棒状貼付文上は刺突文が連続する。18・20・21は口縁部に棒状貼付文とボタン状貼付文を交互に付す。18は4ケ所には大型の半環状貼付文で変化をつける。21はさらにボタン状貼付文を2段と3段に交互に付す。19は貼付文を密に付す。22は胴部で、平行沈線を矢羽根状に施文する。23・24は底部で棒状貼付文上に連続刺突する。口径（貼付文を除く）は15が27cm、16が20.8cm、17が26.4cm、18が29.2cm、19が19.6cm、20が24cm、21が32.8cmを計る。19の残存高は14.8cmである。

25以下は破片資料である。25は内折波状口縁で波頂の折りが激しく器壁に接し、他の口縁部分



第31図　J 5号住居跡出土土器(5)

0　1：3　10cm

よりも沈み込む。26は小波状口縁であるが、波頂部は内折の度合いが激しい。稜下はほぼ真横に開くことが特徴である。27は横長貼付文を付し、口縁部まで平行沈線を縦位施文する特異な土器である。28は薄めの横長貼付文上に連続刺突文を4～5列付す。32は小さめの土器で、貼付文、平行沈線文も丁寧に施され、繊細な感じの土器である。34・38は諸種の貼付文を密に付す。36の棒状貼付文は巾広く、連続刺突文を3列付す。39～52は口縁部破片である。39・40は波状口縁で他は平口縁である。39は拓本が逆である。45の貼付文はコーヒー豆を横にしたような形状を呈する。46は凹凸文を3段付す。51～52は無文であるが、ケズリ・ナデ痕が顕著である。53は口辺部破片で口縁部文様帯の波頂下空白部に円文を付す。54～72は平行沈線文土器の胴部破片で、62～69には貼付文を付す。70～72は底部近くで、71・72は屈曲底部である。73～79も胴部破片である。73は凹凸文、74は平行沈線で横位矢羽根状施文、75～77は貝殻文、78・79は浮線文である。81～84、86～88は大波状口縁の波頂周辺の破片である。80は部位不明であり、拓本の傾きなどの確証はない。85は口縁部と胴部の境が鍔状に突出する。

Ｊ６Ａ号住居跡出土土器（第32～35図、観察表第9表）

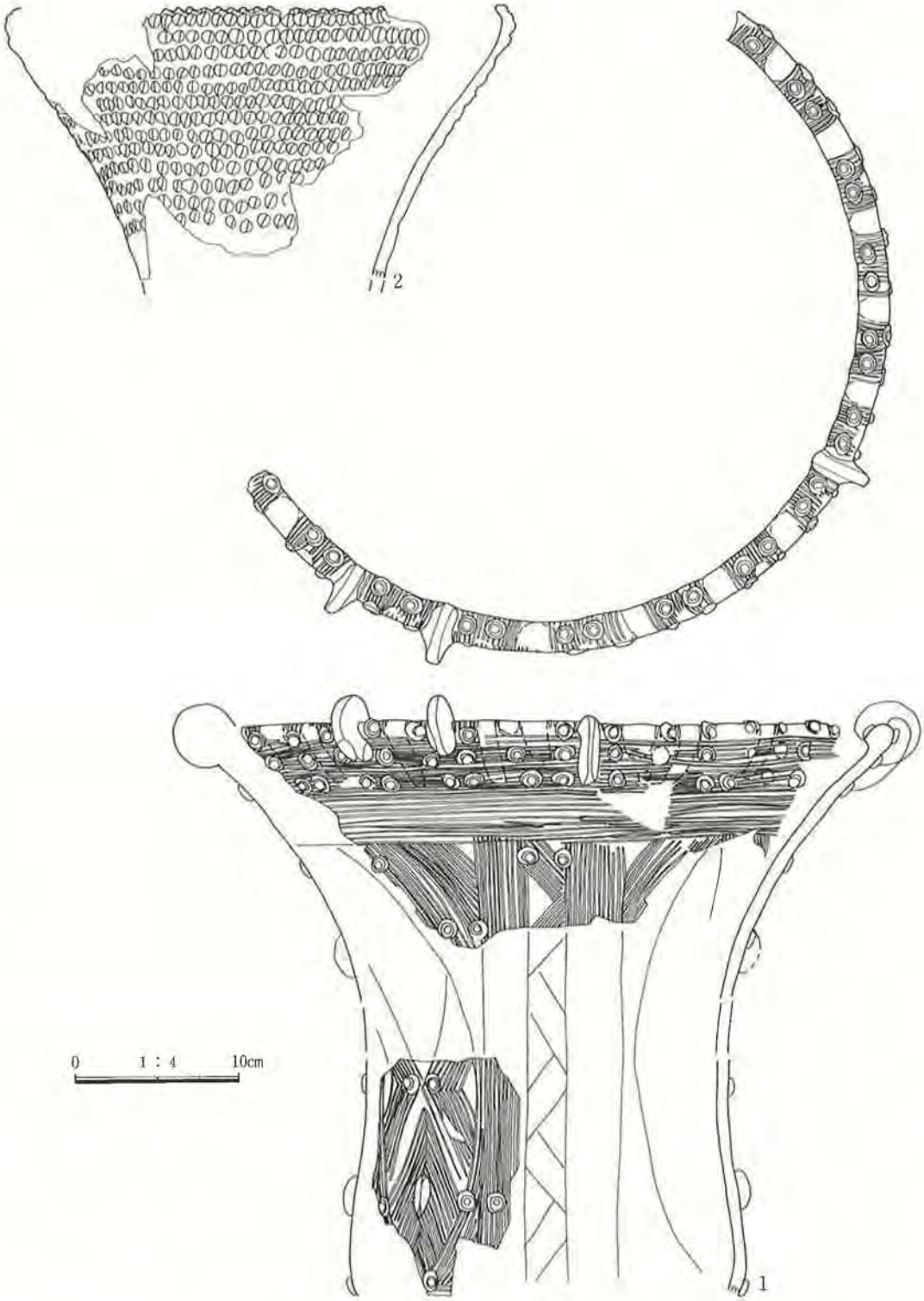
1は平口縁の深鉢で、底部は屈曲底部になる。口縁端部は内面側に肥厚する。欠失が多く実測図上では分かりにくいが、口縁部には棒状貼付文と3段のボタン状貼付文（円形刺突文付き）が交互に付される。さらに、棒状貼付文は口縁部から口唇部まで付すものと、口縁端を取り巻き半環状に付されるものとが交互する。胴部にも貼付文が付される。歪み多いが口径約43cmを計る。

2は胴部下端を除いて刺突凹凸文が密に付される平口縁の深鉢である。口径約31cmを計る。

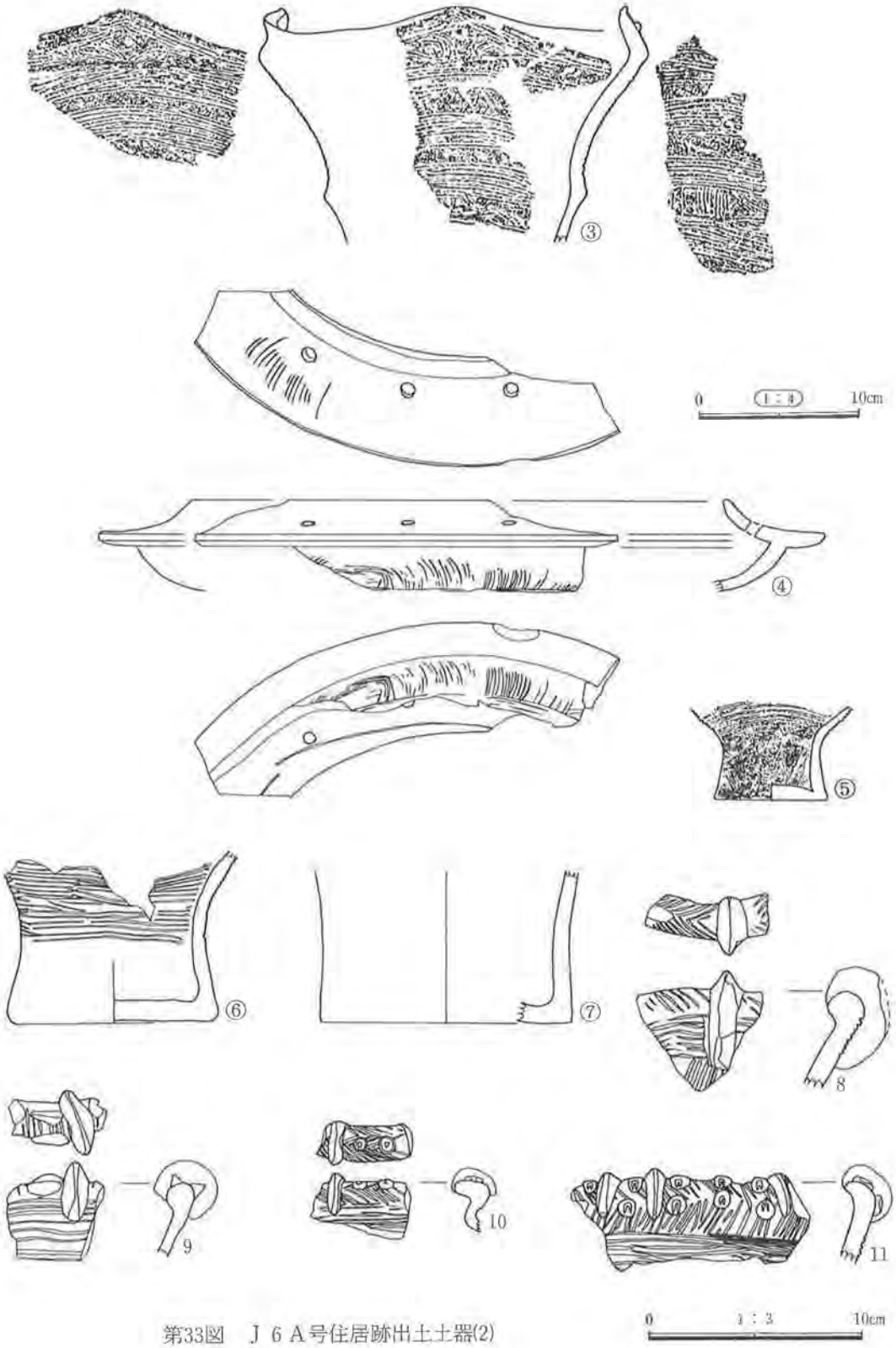
3は小波状口縁の深鉢である。口縁部は内折れし波頂下にボタン状貼付文を付す。胴部中位で屈曲する。胴部は間隔を開けて平行・連続沈線で横帯文を付し、屈曲の稜上の横帯文間には縦位沈線文などを充填する。口縁部最大径24.5cmを計る。

4は浅鉢で底部を欠失する。口縁部から若干距離を置いて円孔を連続する。口縁部と体部の境は鍔状に突出する。文様は黒色の顔料（漆？）を用いた細線文で施文するが、上部文様には部分的に浅い沈線も認められる。体（鍔）部最大径で45.6cmを計る。

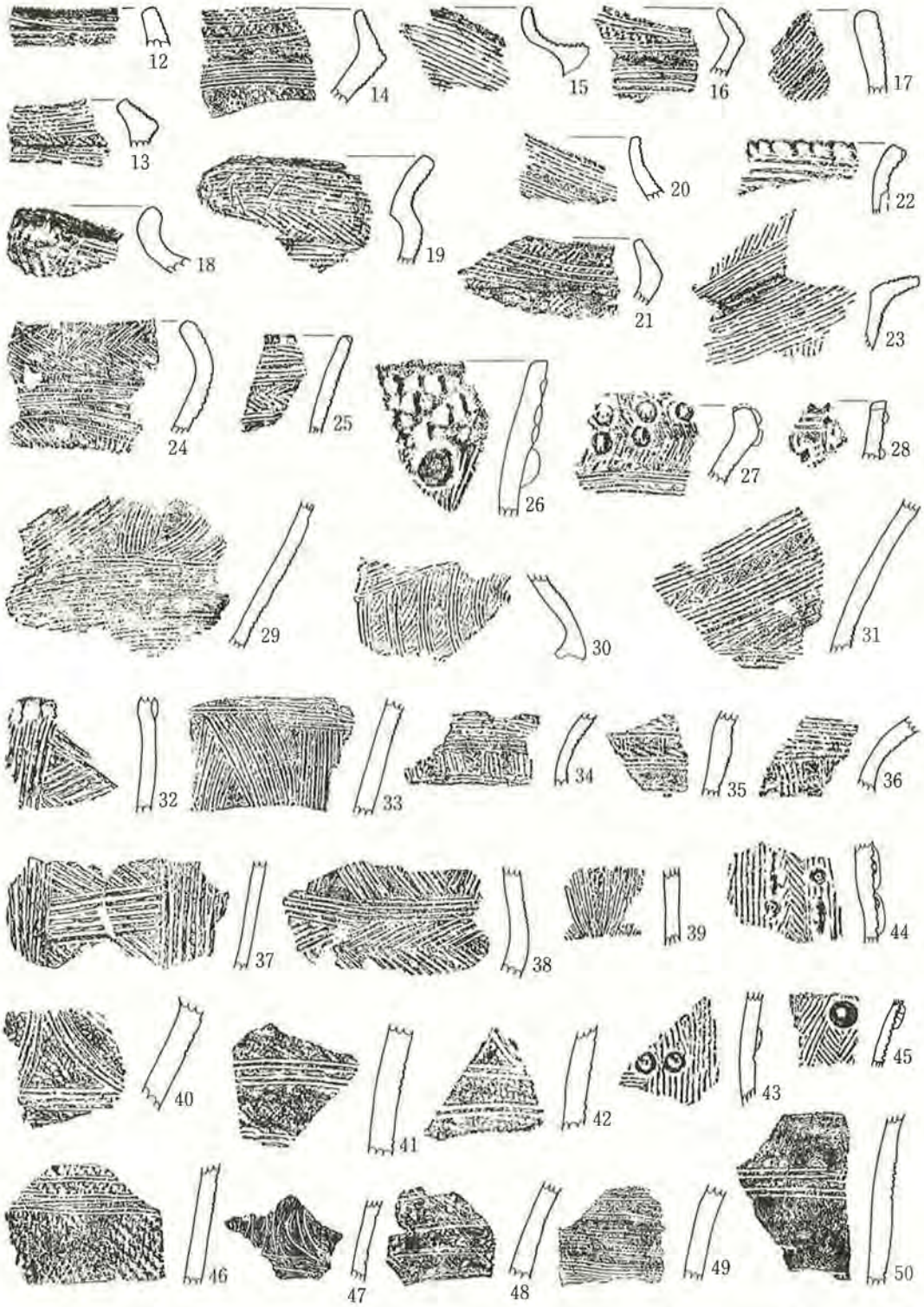
5・6は屈曲底部である。連続沈線で横帯文が施文される。7は無文の底部である。8～50は平行沈線文土器である。8～11は平口縁で貼付文を付す。12～21・23は波状口縁で15は靴先状を呈する。18は小波状口縁であるが、波頂部の内折れの度合いが激しい。19は内折波状口縁で、波頂部は切り欠く。拓本の左上から下段の横帯文上部までが切り欠き部分である。26は凹凸文を4段に付す。27は貼付文上の刺突がキザミ状を呈する。28は口唇部を鋸歯状に切り欠く。小ボタン貼付文を付し、平行沈線文も他とは異質な感じがする。30は靴先状を呈する口辺部である。32は頸部に凹凸文を付す。38は屈曲底部深鉢の胴部下半部である。47は単沈線、或は半截竹管状工具を片側主体に使用して施文したものである。51～63は平行沈線文土器以外である。



第32図　Ｊ６Ａ号住居跡出土土器(1)

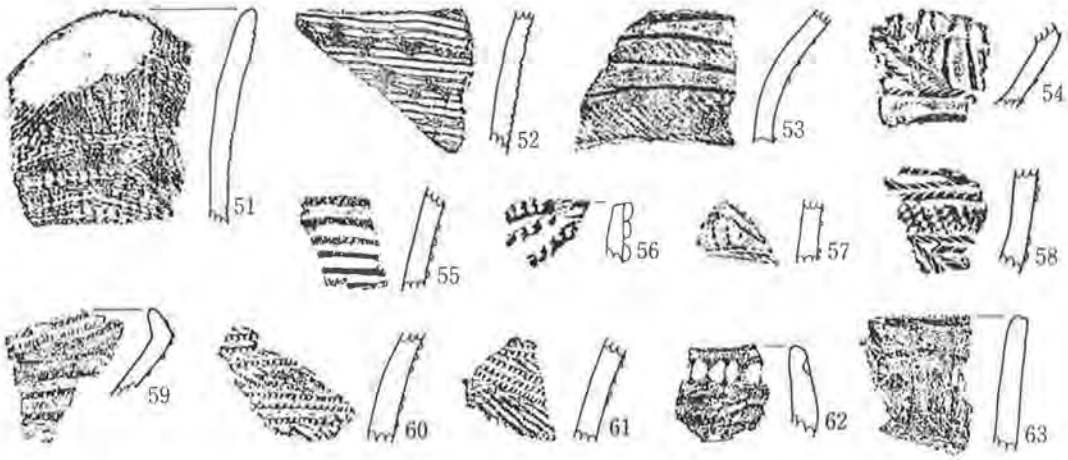


第33図　Ｊ６Ａ号住居跡出土土器(2)



第34図　Ｊ６Ａ号住居跡出土土器(3)

0　1：3　10cm



第35図　Ｊ６Ａ号住居跡出土土器(4)

0　1：3　10cm

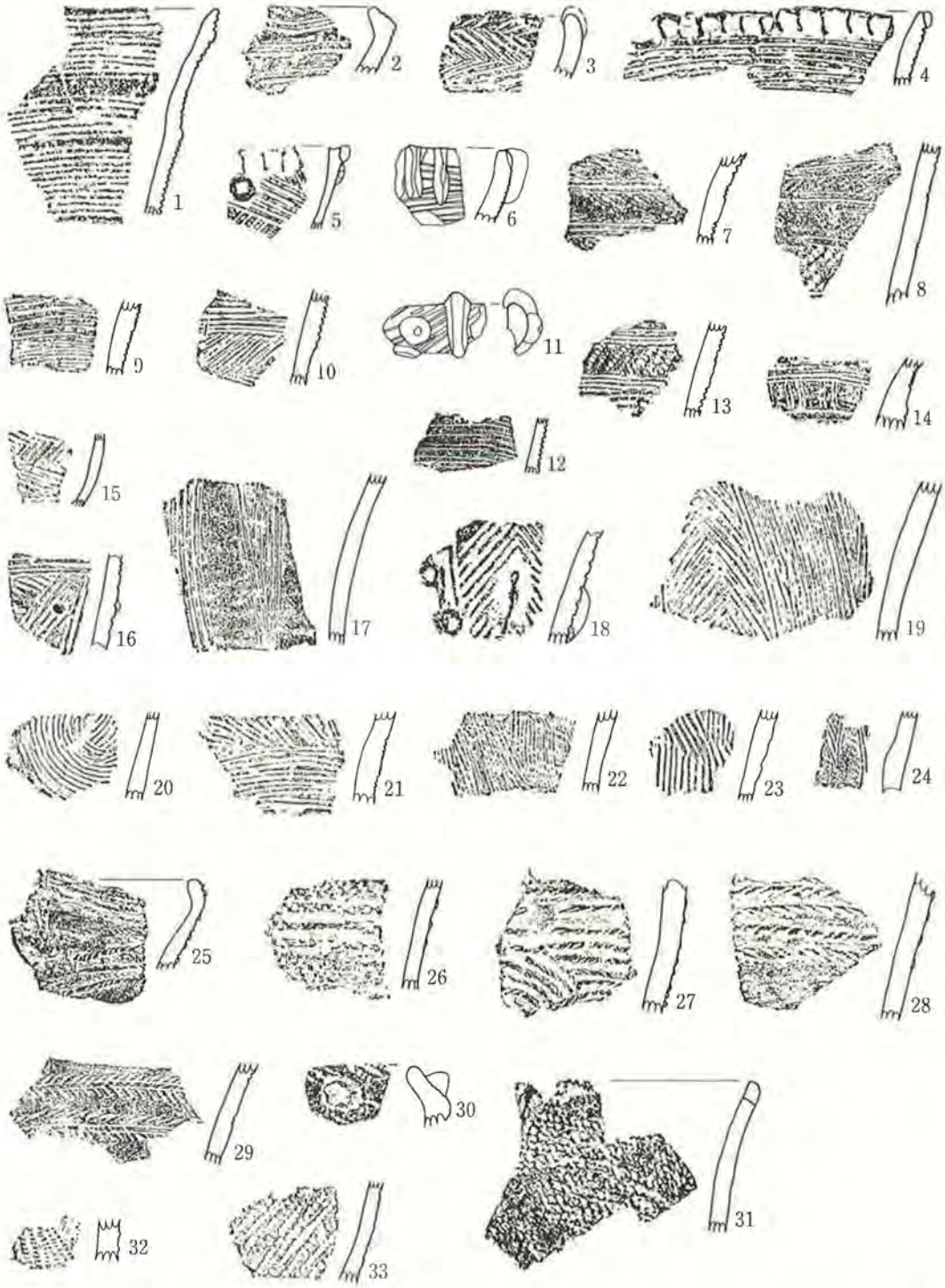
Ｊ６Ｂ号住居跡出土土器（第39図、観察表第10表）

１～24は平行沈線文土器である。20は円文若しくは渦巻文で後出するか？。25～28は浮線文土器である。29は平行沈線の縁辺にキザミを付す。32は結節浮線文土器である。

Ｊ６Ｃ号住居跡出土土器（第40～42図、観察表第11表）

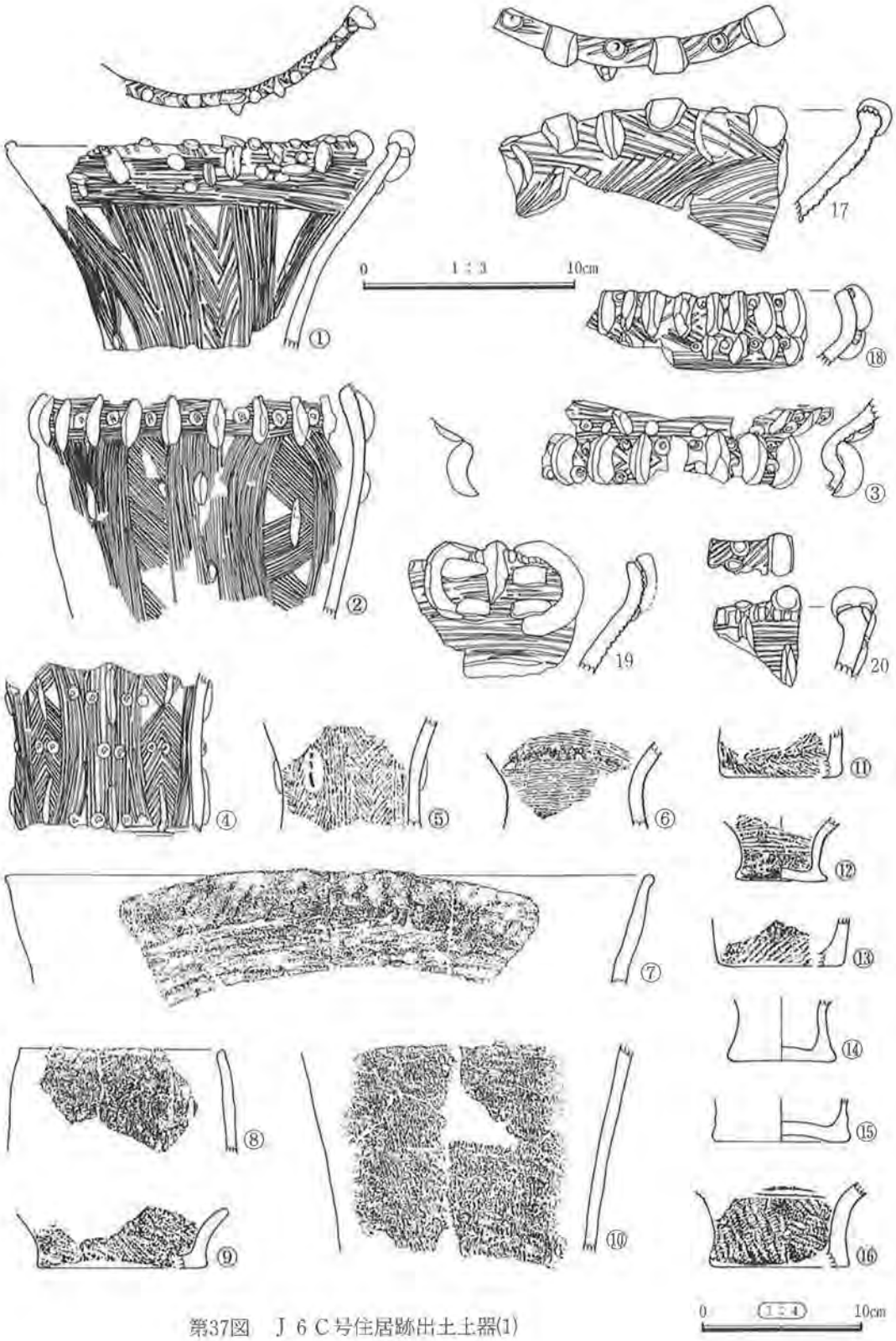
１は平行沈線文の平口縁深鉢である。口縁部に棒状、ボタン状、横長貼付文を密に付すが、胴部にはボタン状貼付文を疎らに付す。棒状・ボタン状貼付文ともに少数ではあるが刺突・キザミを付すものがある。胴部文様（第41図展開図参照）は矢羽根状施文帯を挟む懸垂帯２条で縦区画し、その間は単独のレンズ（向孤）状施文帯と２つが並列するレンズ状施文帯が配され、口縁部施文も含めて４単位の規制からは完全に解放されているようである。口径24.8cmを計る。２・３は口縁部が２段に屈曲し屈曲部に貼付文が密に付される深鉢と思われるが、２は胴部が丸みをもち下段の屈曲が弱い。３は下段部分である。４はウメガメである。胴部文様は懸垂帯区画とレンズ状の施文帯が４単位交互に施文される。懸垂帯は矢羽根状施文帯を挟むものと、挟まないものが相対するが、レンズ状施文部には変化が乏しい。底部は屈曲底部となる。地文縄文ＲＬを疎らに付す。７はナデ痕が明瞭で口縁部には斜位に指押さえ・ナデ施文？する。口径約41cmを計る。８は口径12.5cmを計る。９の底部は擬口縁と思われるが、これで完結する浅鉢の可能性もある。11～16は底部で、12・14・16は屈曲底部である。

21～32・42・43・47～49は口縁部で、27は波頂部は切り欠きにより２山状を呈する。31は大波状口縁の波頂部破片と思われる。32は小波状か平口縁で突起が付くと思われる。33～41・44～46・50～55は胴部で40は靴先状の口辺部片である。35・46は屈曲底部の胴部下端である。

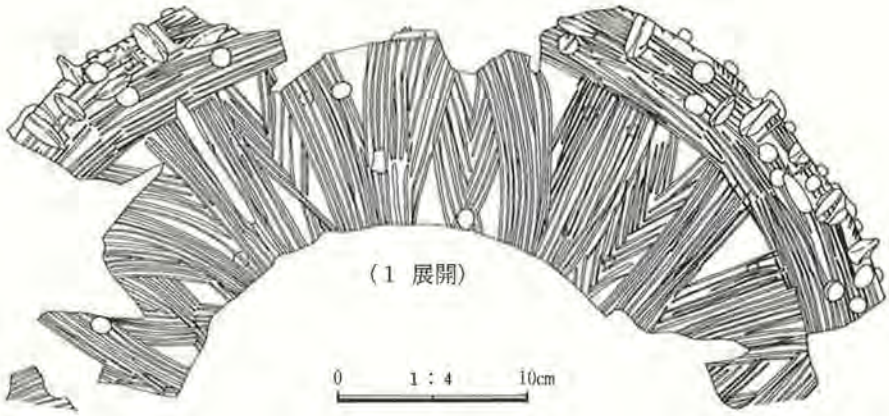


第36図　Ｊ６Ｂ号住居跡出土土器

0　1：3　10cm



第37図　Ｊ６Ｃ号住居跡出土土器(1)



第38図　Ｊ６Ｃ号住居跡出土土器(2)

Ｊ７号住居跡出土土器（第43～45図、観察表第12表）

１・２は口縁部が２段に屈曲し、屈曲部に棒状貼付文を付す平口縁の平行沈線文土器である。１は底部を、２は上段の屈曲部を意識的に打ち欠いている。１の口縁部の棒状貼付文は４ケ所が半環状に肥大する。胴部の貼付文は１が疎、２が密である。１の口径は29.6cm、残存高23.2cm、２の残存高約25cmを計る。３・４は貝殻文の深鉢で、４は図上復元・資料掲載していないが、同一個体と思われる底部が出土している。口径は３が26cm、４が24cmを計る。５は横方向のナデ痕を明瞭に残す平口縁の深鉢である。口径13.4cmを計る。６は屈曲底部の胴部下端である。７は土製品（板状土偶？）で左方と下方を欠失する。平行沈線文・円形刺突（印刻）文を施文する。

８～27・31は口縁部で、８・９・11～21は波状口縁で11は靴先状、19・20・21は内折波状口縁である。14は波頂部を切り欠き、貼付文を付す。24は棒状貼付文上にも平行沈線を施文する。21～27・31は口縁端に凹凸文を付す。28～30・32～39は胴部破片で、30は弱い屈曲の稜部に凹凸文を付す。32・35は口辺部である。38は屈曲底部の胴部下端である。

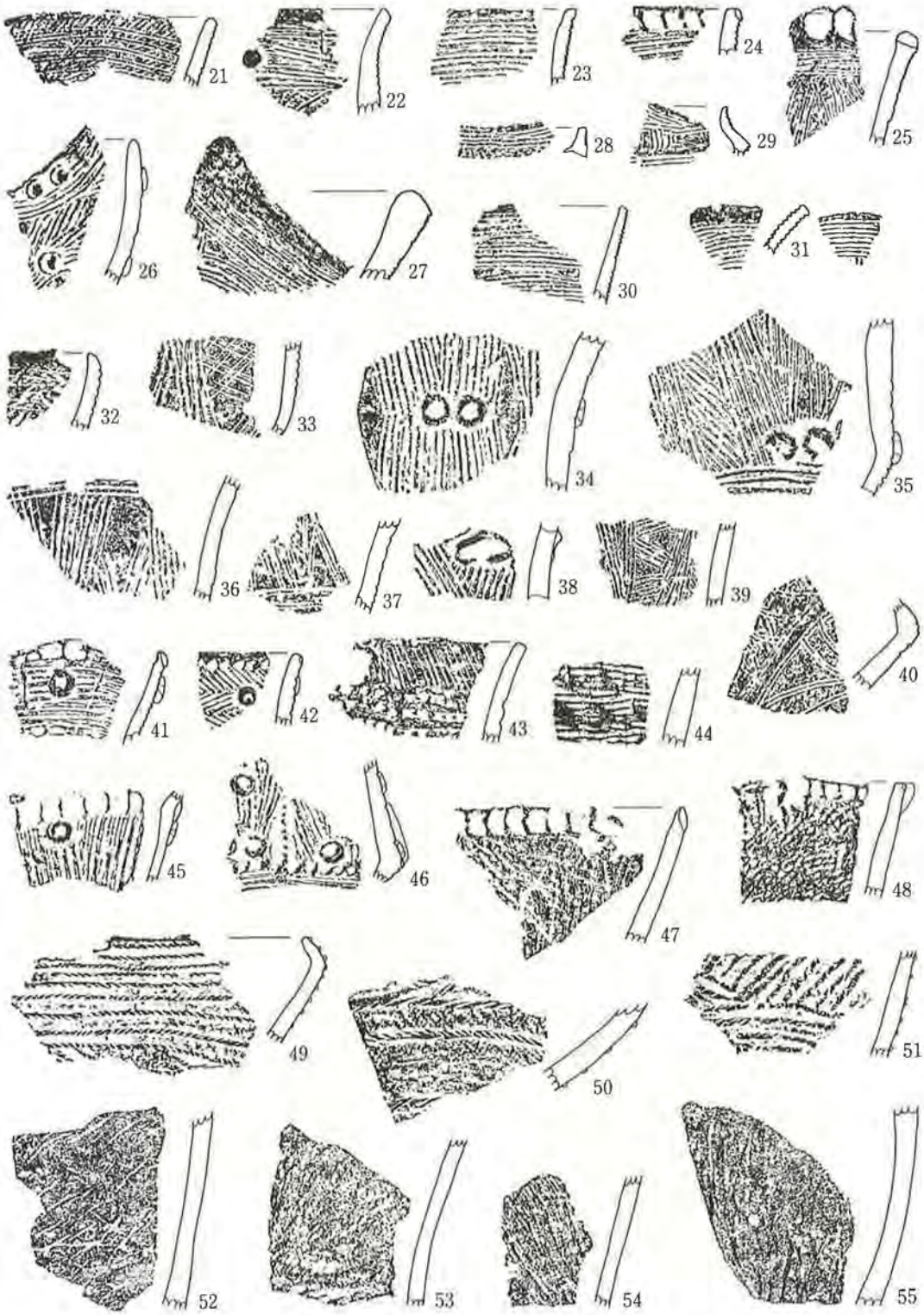
40～48は貼付文を付す平口縁の平行沈線文深鉢の口縁部破片である。42は横長の棒状貼付文上に連続刺突文を付す。46は口縁端が内側に、48は全体的に肥厚する。49・50・52～56は浮線文土器である。56は結節浮線文で２個一対の小ボタン貼付文を付す。51は口縁部に平行沈線、胴部に単沈線を横帯施文し、縁辺にキザミを付す。59～63は平行沈線文の底部である。63の胎土は精選され、丁寧な平行沈線文（集合施文）と小ボタン貼付文を付す。67は含繊維土器である。

Ｊ８号住居跡出土土器（第46～54図、観察表第13表）

１は口縁部が内折し小波状を呈する深鉢である。波頂下にボタン状の貼付文を付す。最大径31.6cmを計る。６は含繊維土器である。12・13は屈曲底部である。18はミニチュア土器である。

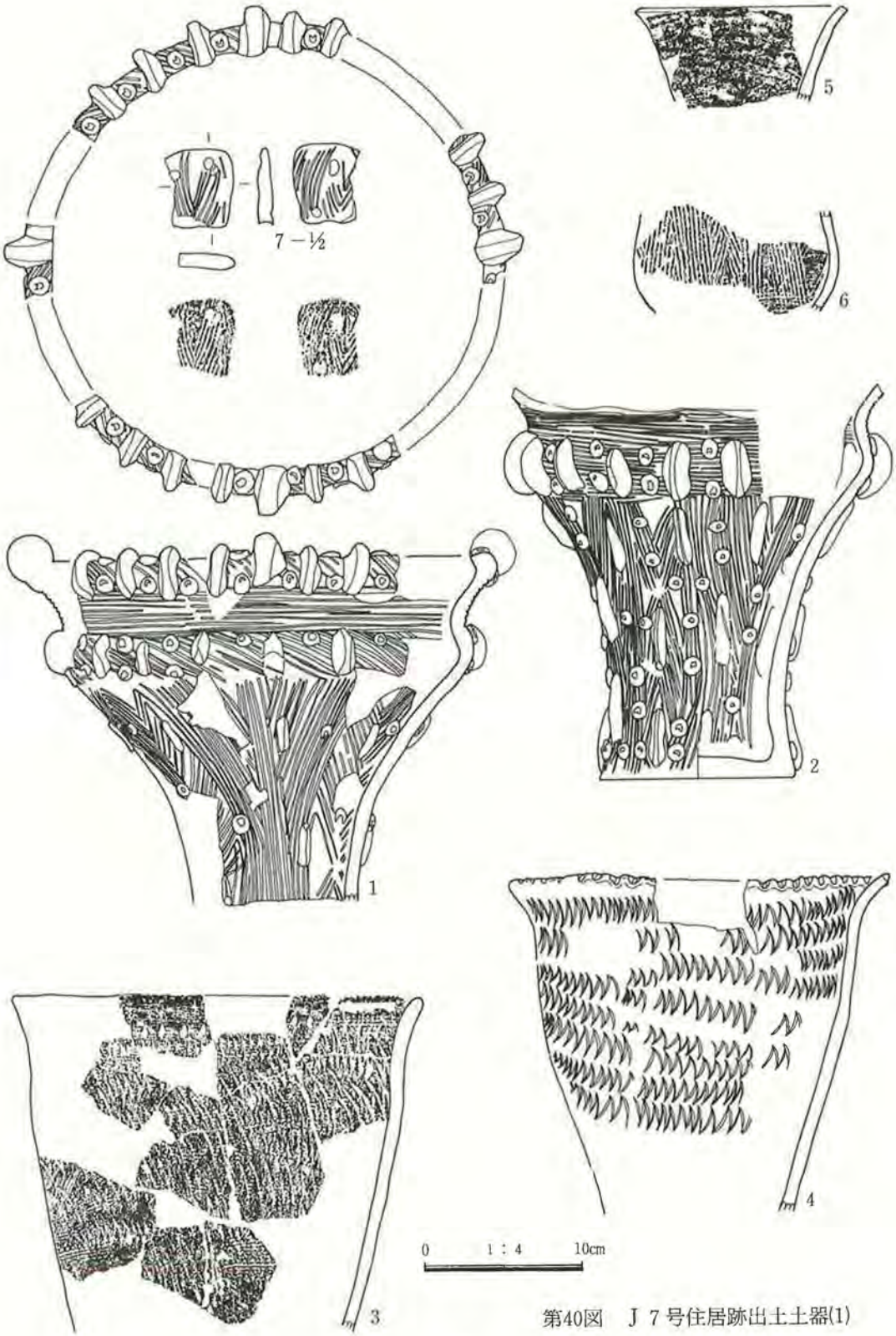
19は大半が剝落しているが、豆粒状の貼付文が密に口縁端部に一周する。21は胴部の上下が接

（Ｐ60に続く）

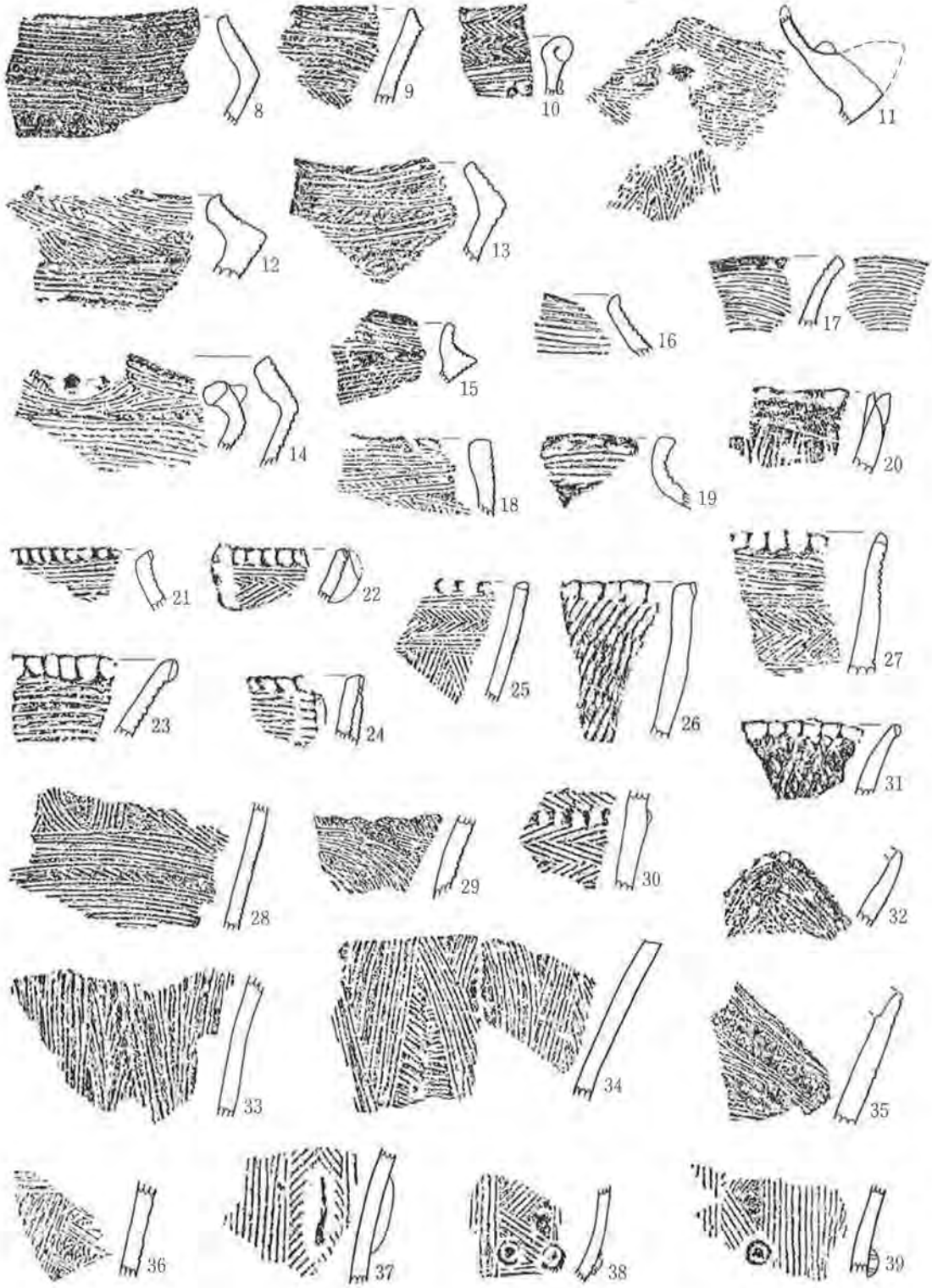


第39図　Ｊ６Ｃ号住居跡出土土器(3)

0　1：3　10cm

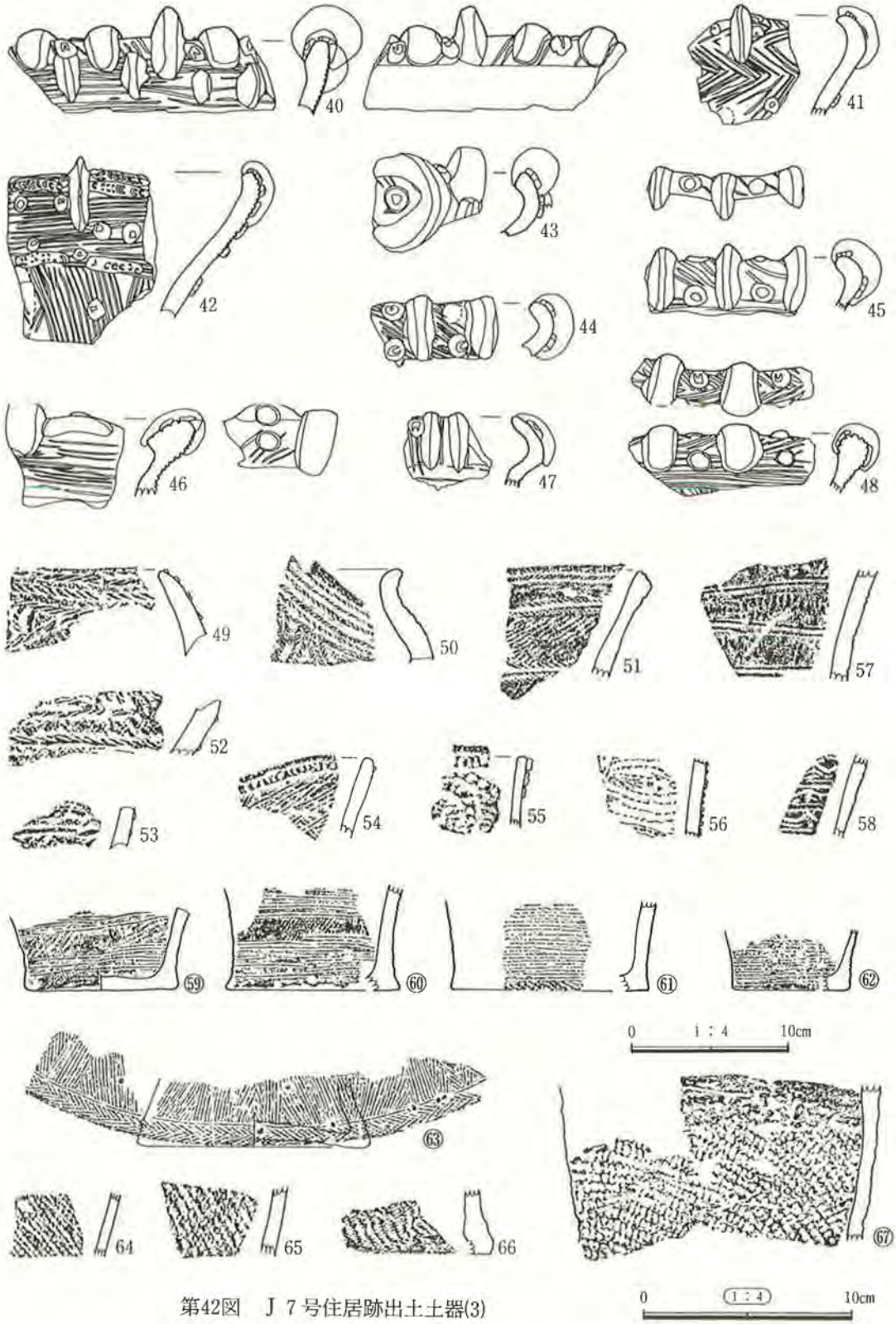


第40図　J 7 号住居跡出土土器(1)

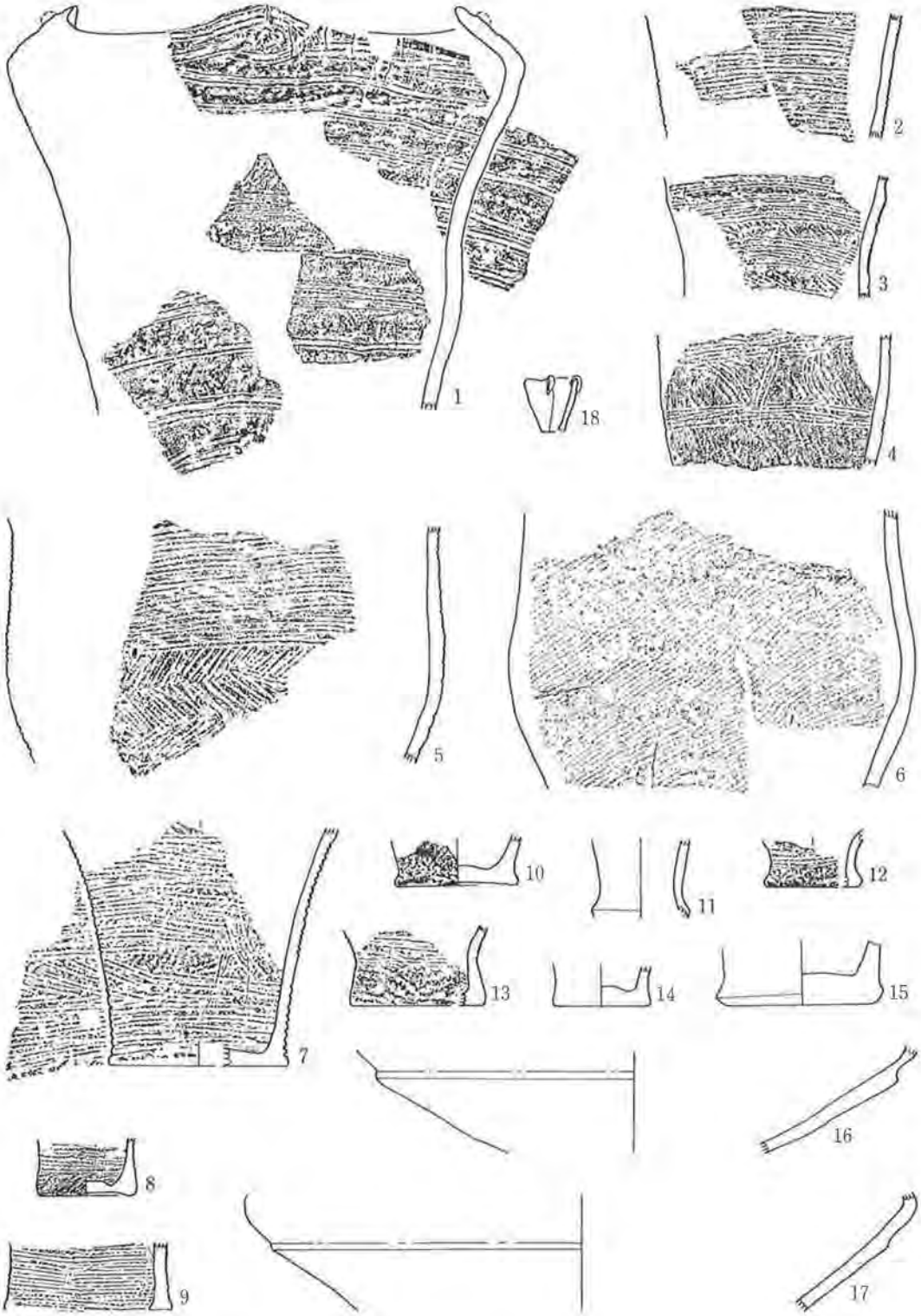


第41図　Ｊ７号住居跡出土土器(2)

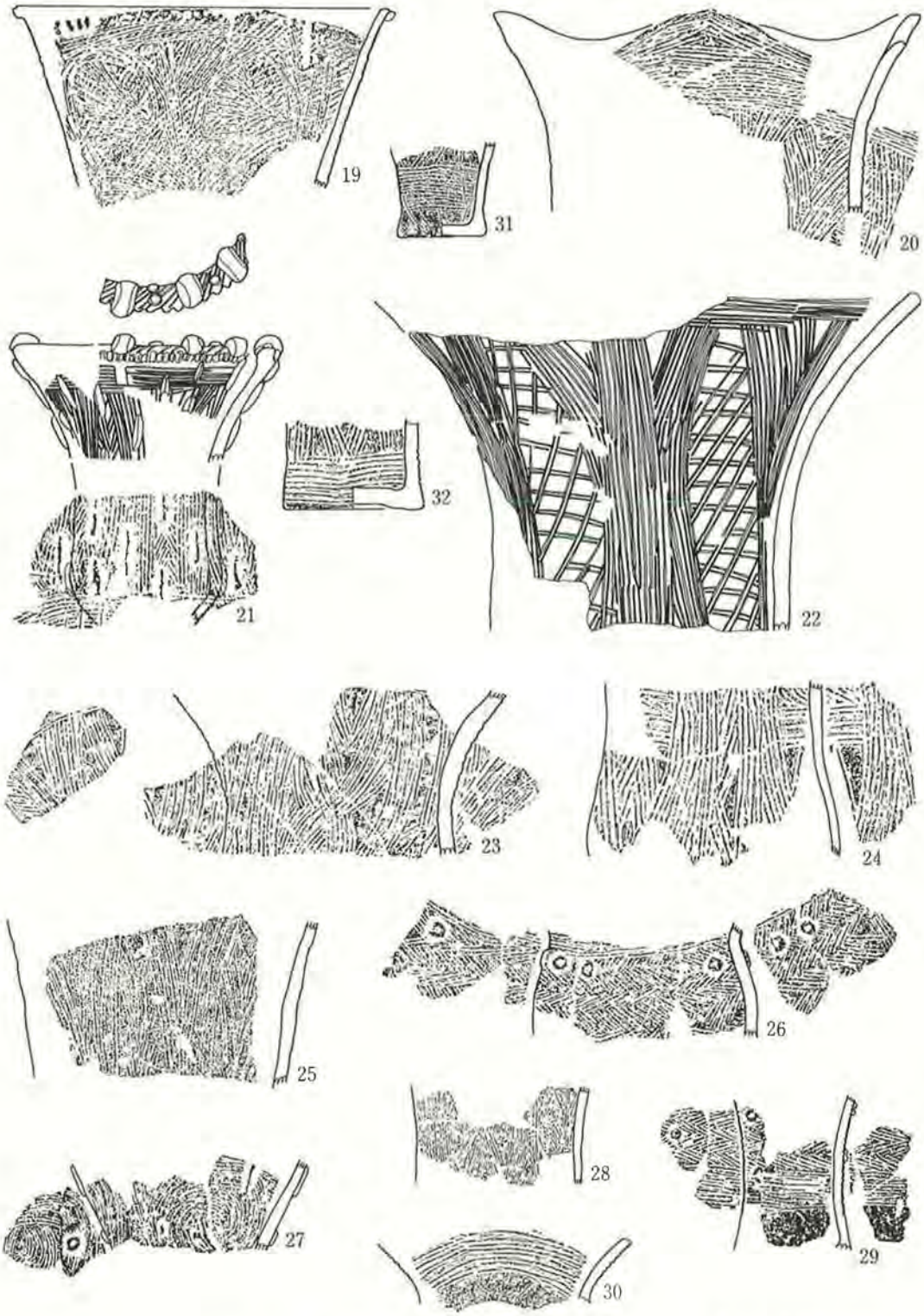
0　1：3　10cm



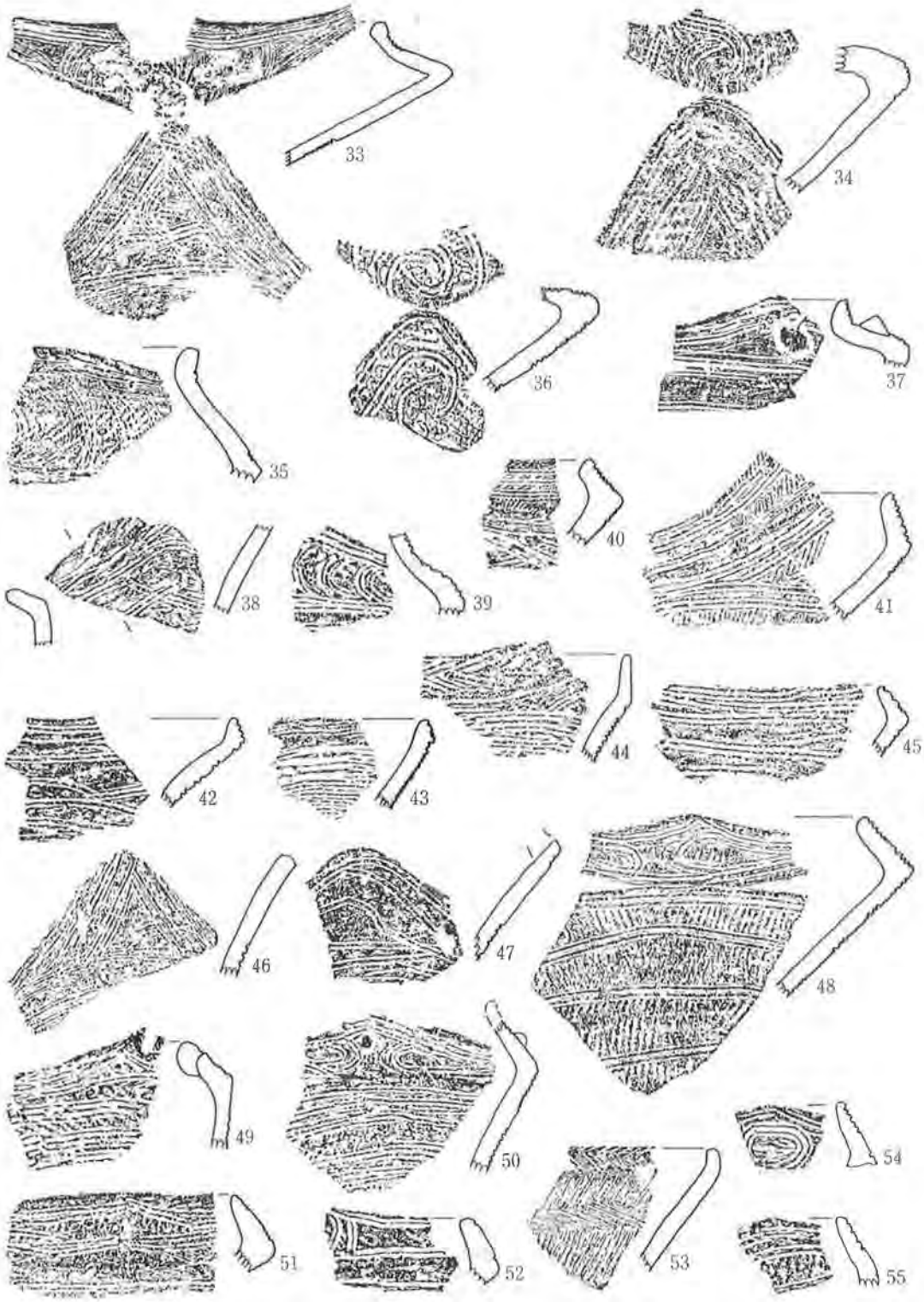
第42図　Ｊ７号住居跡出土土器(3)



第43図　J 8 号住居跡出土土器(1)



第44図　Ｊ８号住居跡出土土器(2)

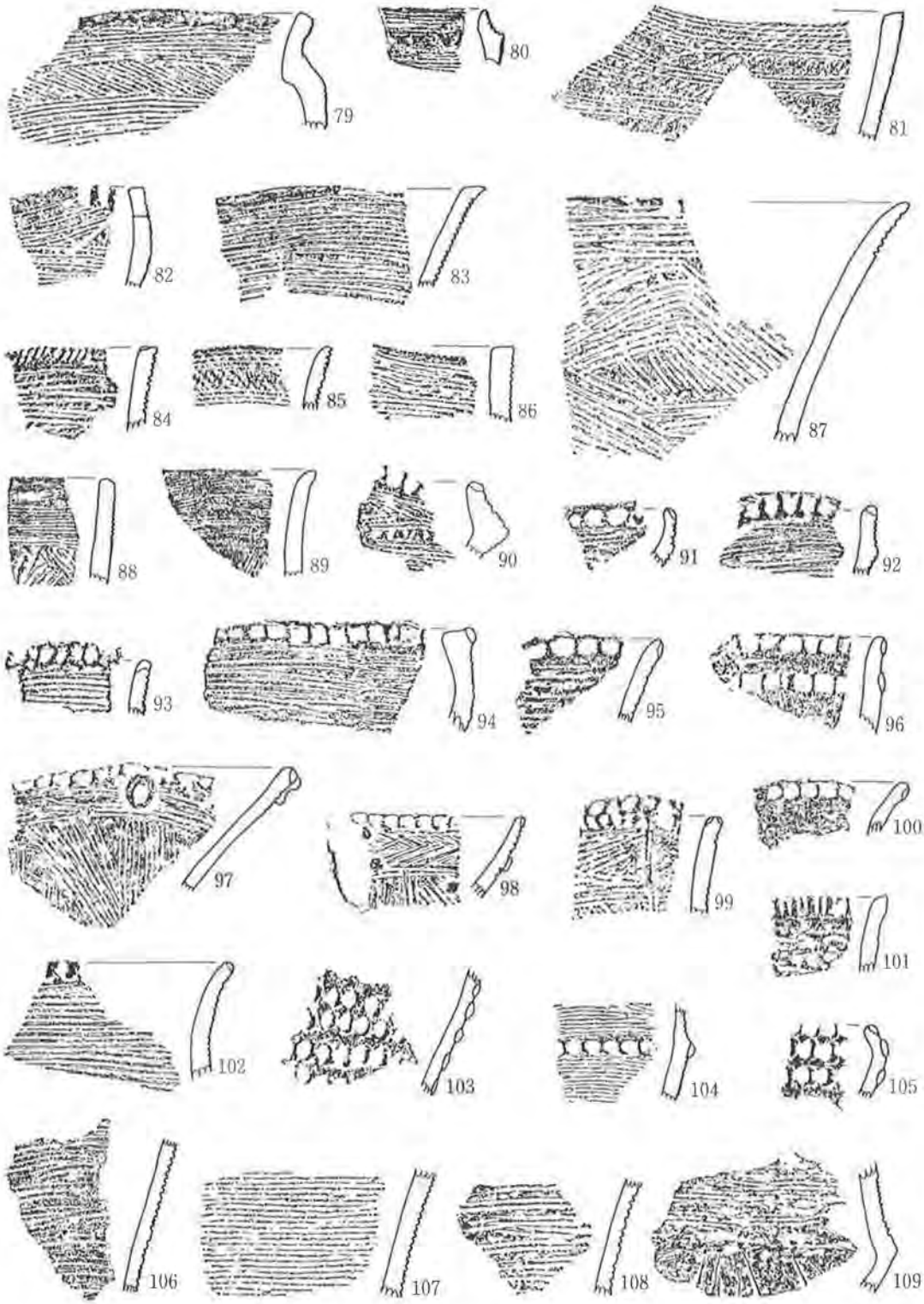


第45図　J 8 号住居跡出土土器(3)

0　1：3　10cm

第46図　Ｊ８号住居跡出土土器(4)

0　1：3　10cm



第47図　Ｊ８号住居跡出土土器(5)

0　1：3　10cm

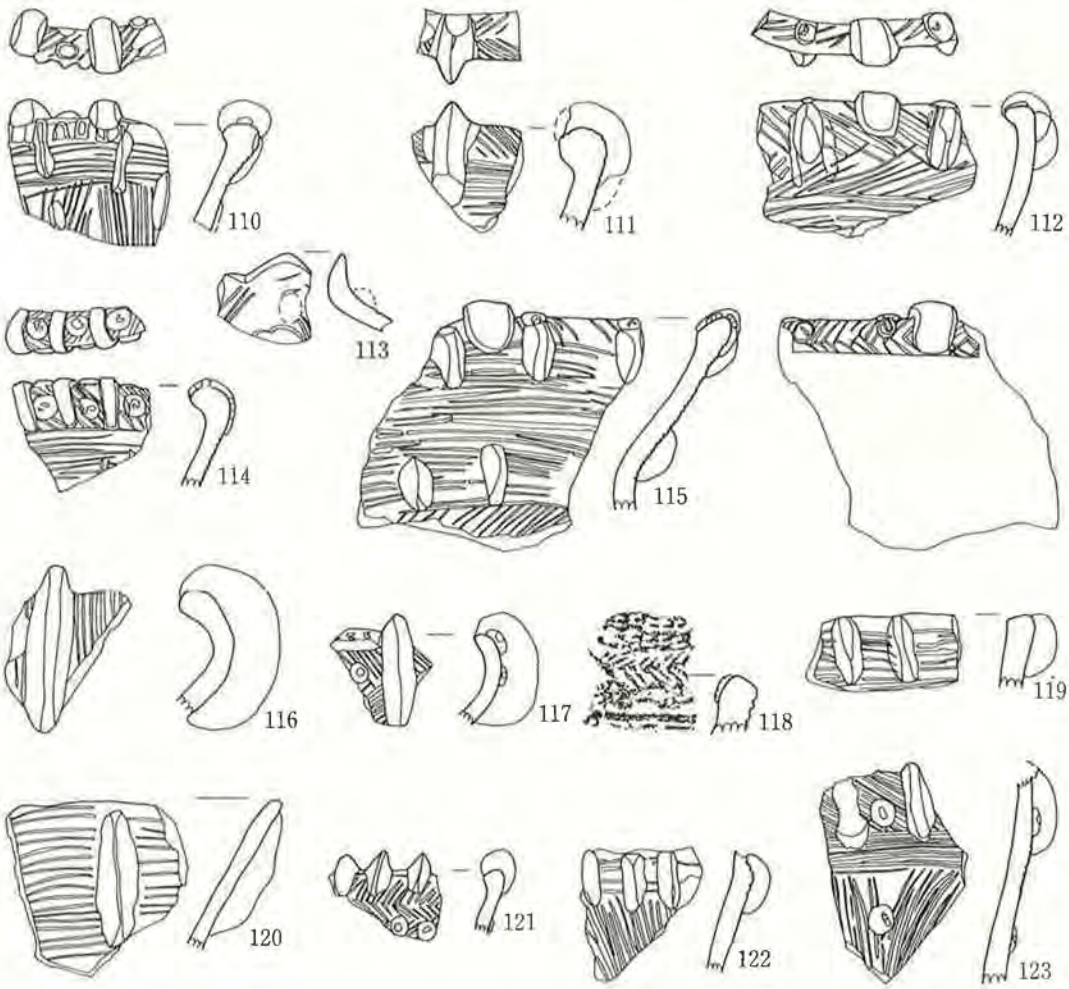
合しない。底部は屈曲底部である。24は屈曲底部となる胴部下半部である。26・29は胴部に平行沈線で横方向の矢羽根状文を施文する。27は渦巻文である。30も屈曲底部である。口径は19が22.8cm、20が26cm、21が16.2cmを計る。胴部最小径は28が10cm、29が6cmである。

33～36・39・47は靴先状を呈する波状口縁の口縁部・口辺部である。口縁部は53が平口縁で、43は平口縁？であるが、他は全て波状口縁である。49は波頂部を切り欠く。

56は内折する口縁部を省略したような口縁部である。57～78は胴部破片である。

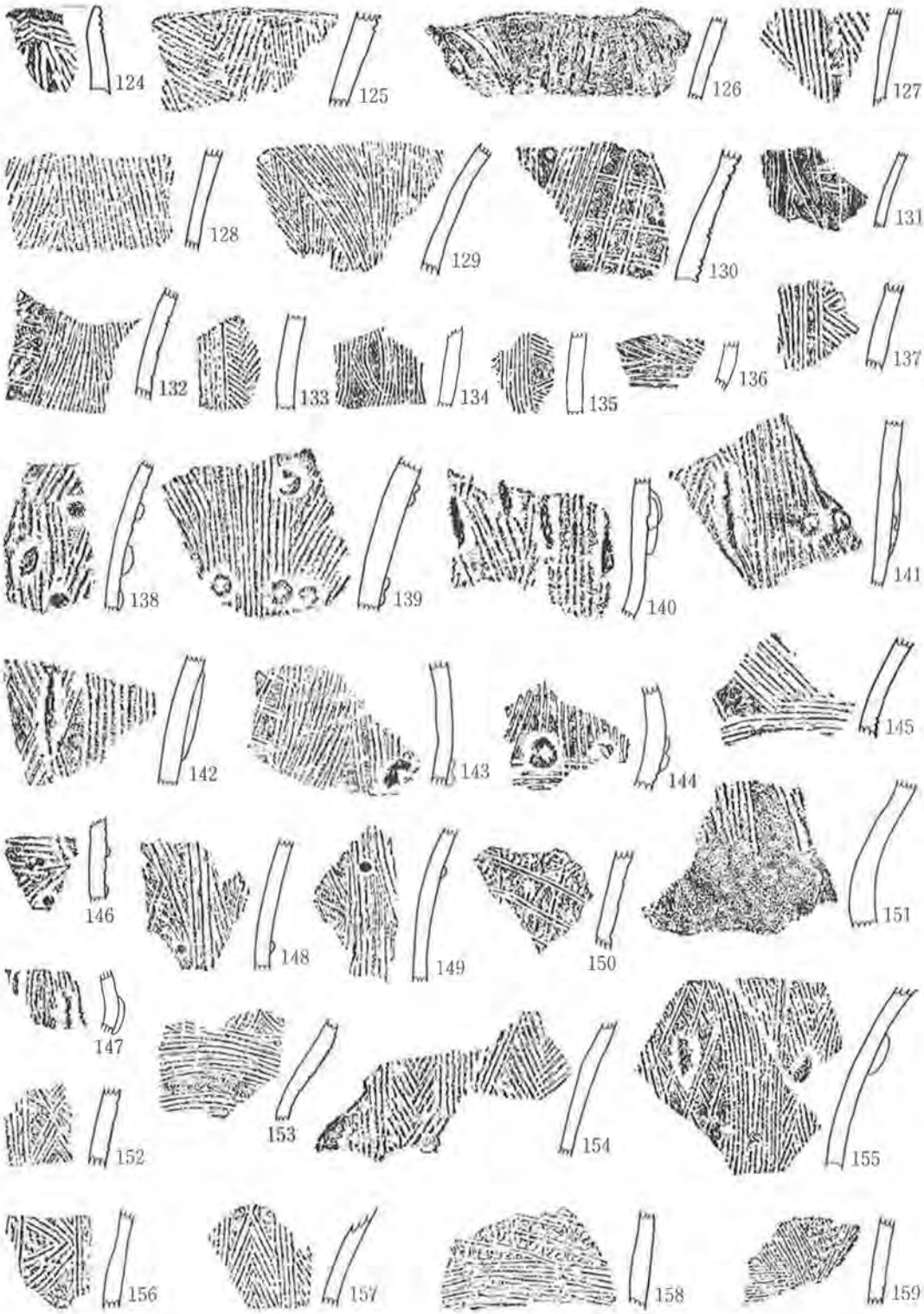
79～101・105は口縁部である。79はＪ６Ａ号住居跡19と同一個体の可能性がある。81・82・86・90以外は平口縁である。98はＤＪ18号土坑と同一個体である。103・105はＪ６Ａ号住居跡２と同一個体である。94の口縁端は外方に張り出す。99は口縁端の内外両面に凹凸文を付す。109は屈曲

（P64に続く）



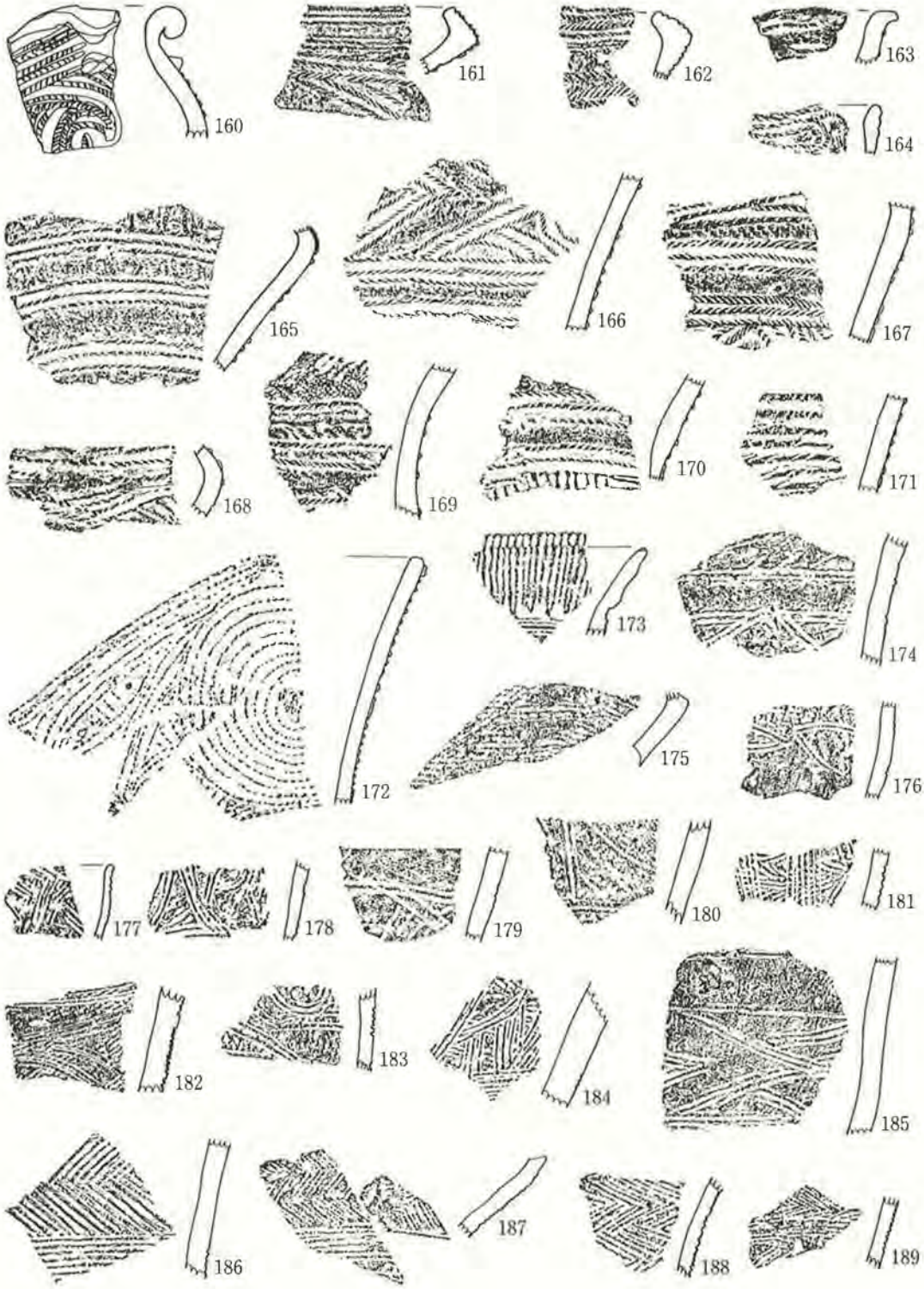
第48図　Ｊ８号住居跡出土土器(6)

0　1：3　10cm



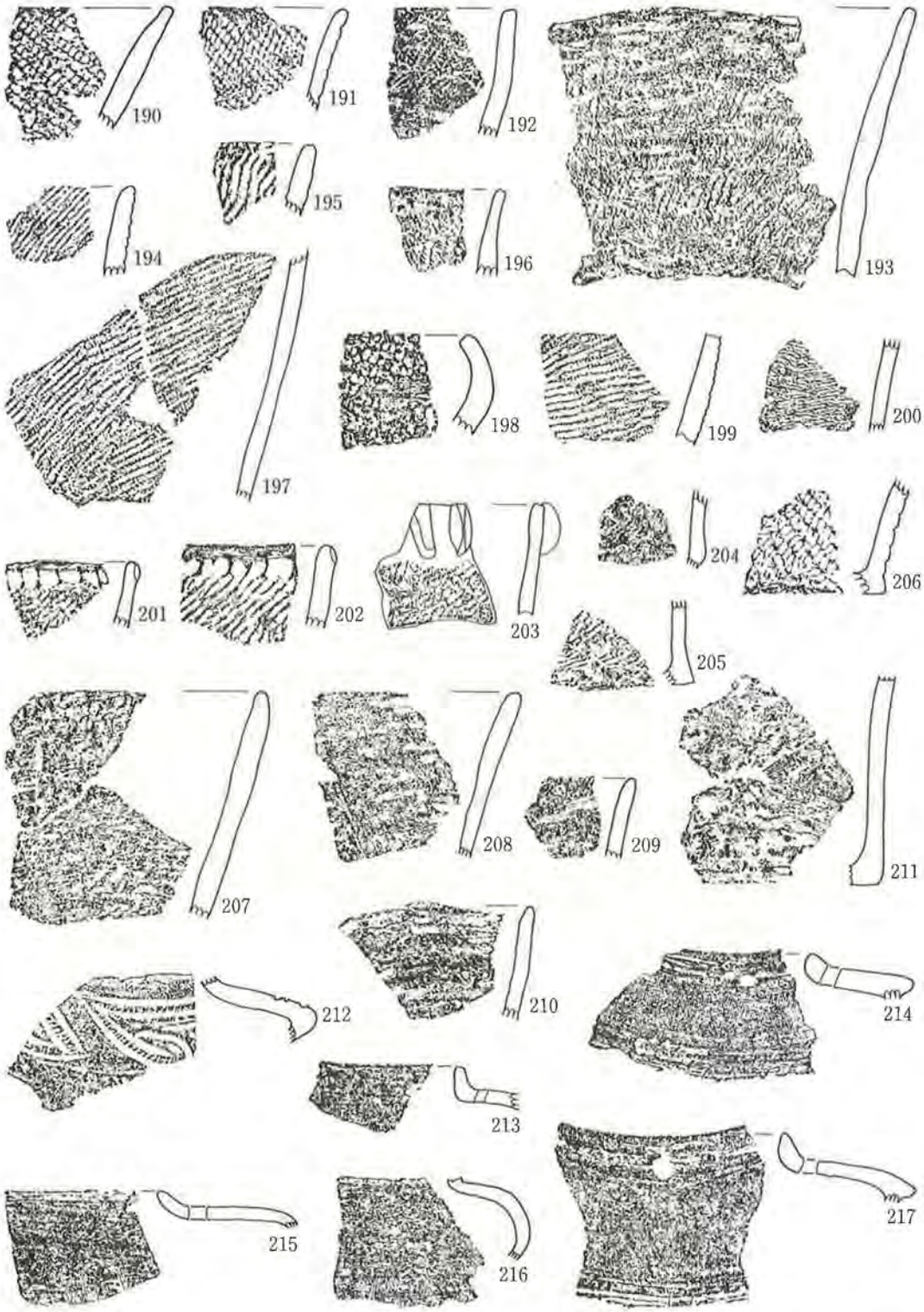
第49図　J 8 号住居跡出土土器(7)

0　1：3　10cm



第50図　J 8 号住居跡出土土器(8)

0　1：3　10cm



第51図　Ｊ８号住居跡出土土器(9)

0　1：3　10cm

底部となる胴部下端である。

110～121は貼付文を付す平行沈線文土器の口縁部である。113は３山状を呈する波状口縁で、波頂下の貼付文が剝落している。118は口縁部内面端に横長の貼付文を付し、上面に２列の連続刺突文を付す。122・123は胴部破片である。

124は小型深鉢の口縁部で、弱い波状を呈すると思われる。125～159は胴部破片である。144・147・153は屈曲底部の胴部下端である。146・148・149には小ボタン状貼付文を付す。

160～172は浮線文である。160は靴先状を呈する。162の浮線はごく薄く、浮線上だけでなく、浮線の縁辺にもキザミを付す。172は波状口縁の結節浮線文土器で、小ボタン貼付文を付す。173は口縁部に縦キザミ状に平行沈線を集合施文し、口唇部も刻む。口縁部下端には小三角印刻文を連続する。174～189は平行沈線文の胴部破片である。177は小型土器である。

190～206は縄文施文土器である。206は含繊維土器である。201・202は凹凸文、203は貼付文を付す。207～211は無文の深鉢で、ケズリ・ナデの痕跡が顕著である。212～217は浅鉢である。

ＡＪ１Ａ号土坑出土土器（第52・53図、観察表第14表）

１は平口縁の平行沈線文土器で、底部は屈曲底部である。口縁端部には凹凸文を付し、さらに大小の棒状貼付文を交互に付す。胴部の下端には焼成後の穿孔が認められる。口縁部径（貼付文を含まない）約40cm、器高（貼付文を含む）約45cmを計る。２は浅鉢で口径16.5cm、底径20cm、高さ15cm、体部最大径28cmを計る。口～体部外面に丁寧なミガキを施す。３は屈曲底部である。５の上下は意識的に打ち欠いている。

６～18は口縁部で15だけ波状口縁である。11は横長の棒状貼付上に連続刺突文を付す。19～32は胴部破片で、21・22は16と同一個体である。26と29は屈曲底部の胴部下端である。28の斜格子文は左下がりの平行沈線と右下がりの集合沈線（平行沈線２回施文―３本）で施文する。

ＡＪ２号土坑出土土器（第54図、観察表第15表）

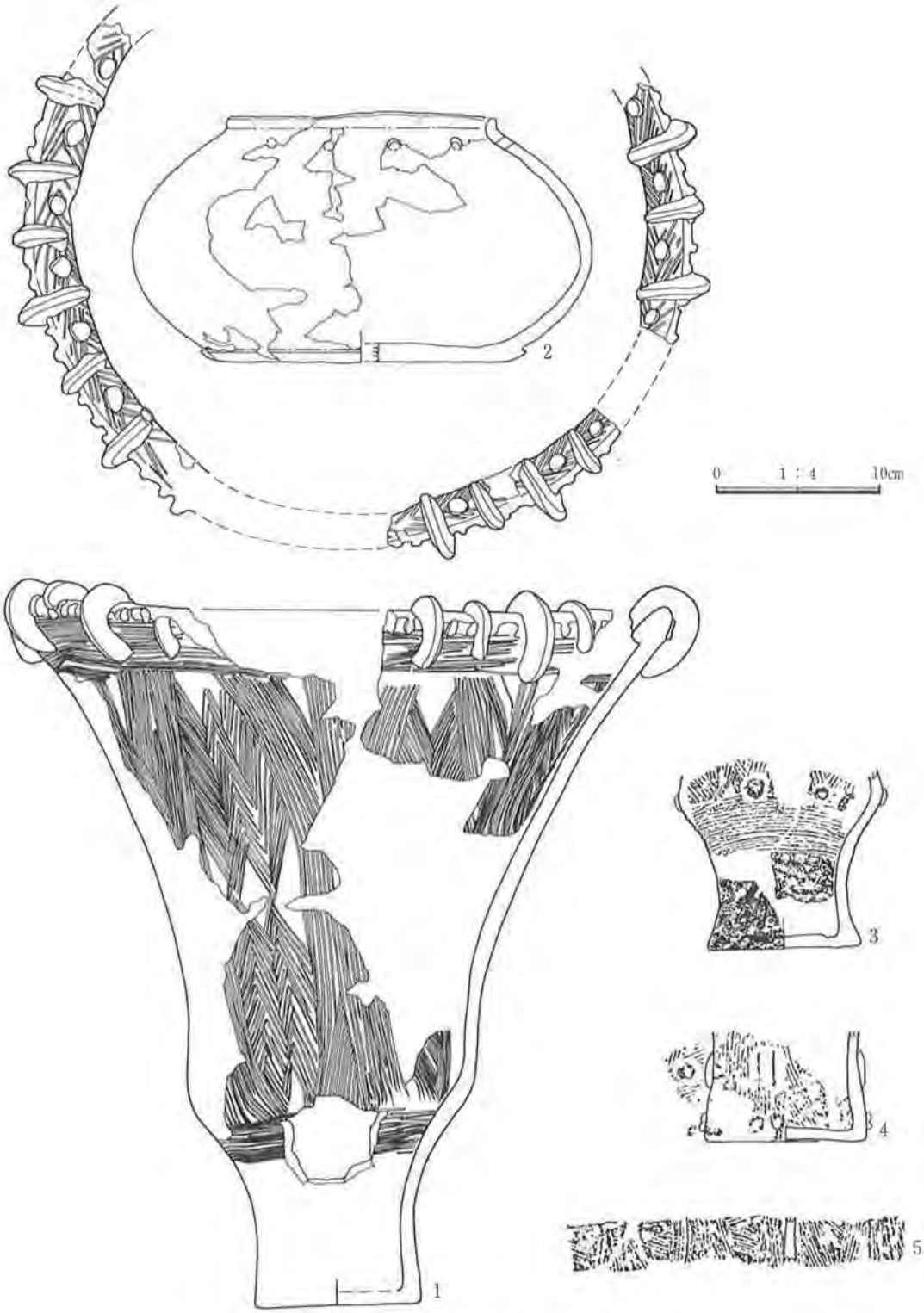
１は小波状口縁を呈する浅鉢で疎らに平行沈線で施文する。口縁部最大径25.6cm、高さ約８cmを計る。３は無文の深鉢の下半部である。４～６は全て波状口縁と思われる。平行沈線文土器の大半は横帯施文であるが、14だけは縦位施文土器である。

ＡＪ３・６・７号土坑出土土器（第55図、観察表16～18表）

ＡＪ３号土坑１は靴先状を呈する平行沈線文土器の口縁部で、波頂部は貼付文状に外方に折り返す。４～８は浮線文土器で、７を除き同一個体と思われる。

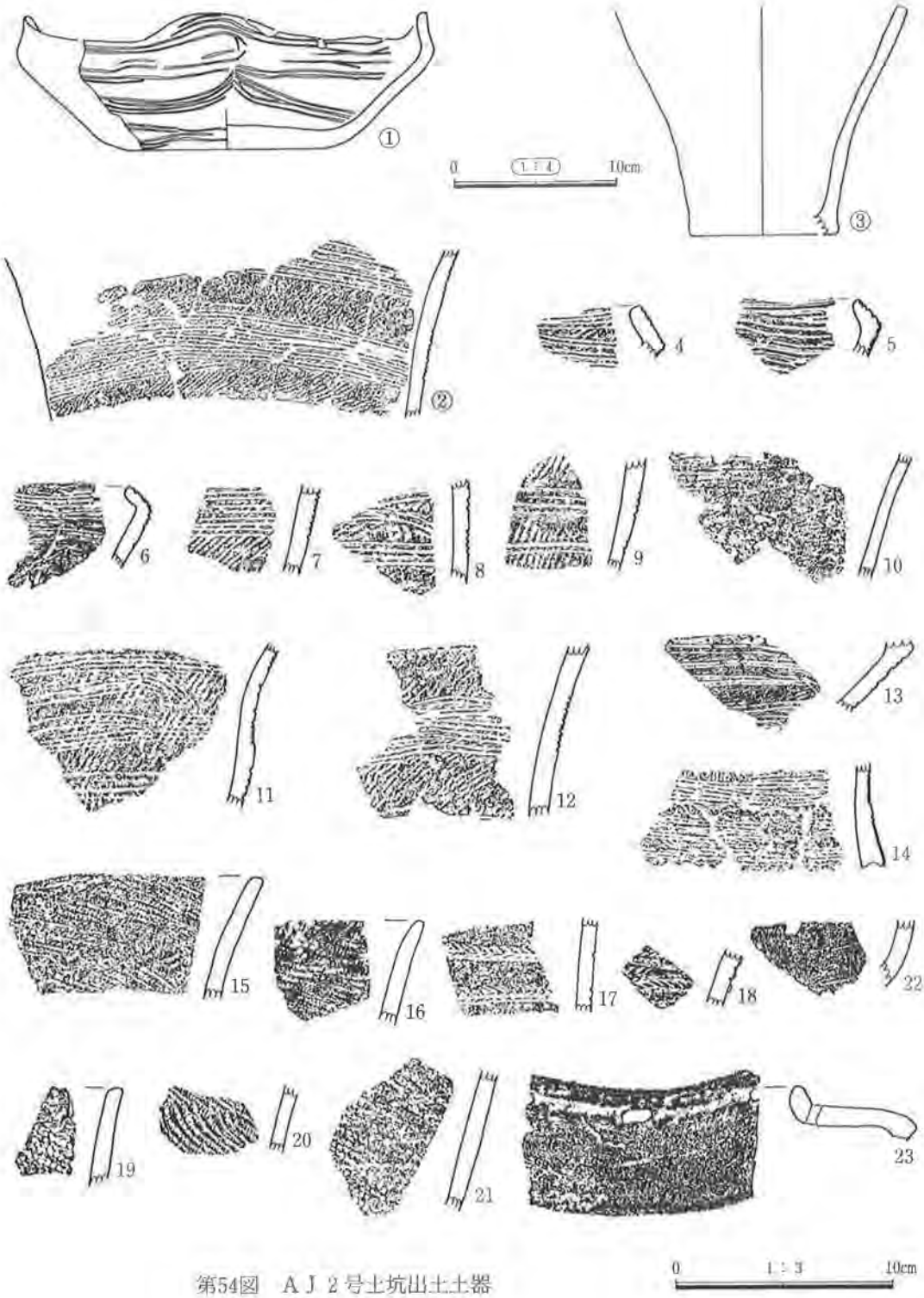
ＡＪ６号土坑１～３は横方向のナデが顕著な無文土器である。

ＡＪ７号土坑１は口縁部がほぼ真横に開く器形である。貼付文を付す平行沈線文土器が多い。

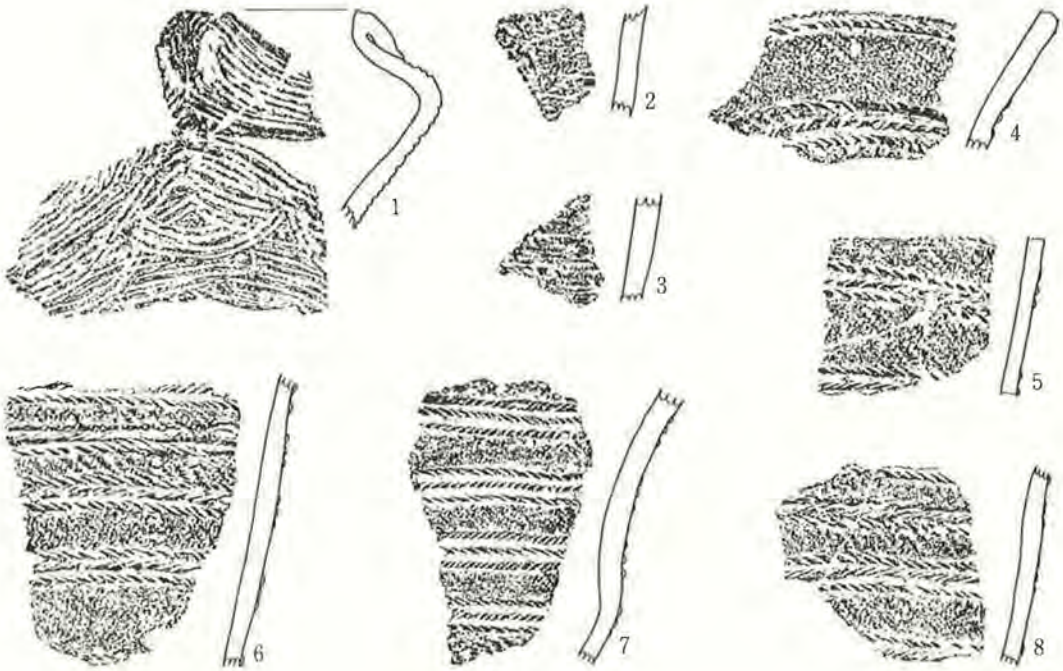


第52図　ＡＪ１号土坑出土土器(1)

第53図　ＡＪ１号土坑出土土器(2)



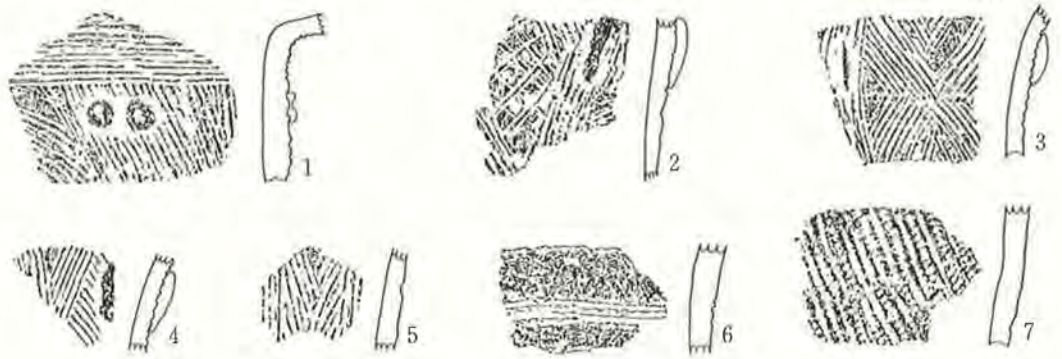
第54図　ＡＪ２号土坑出土土器



AJ3土

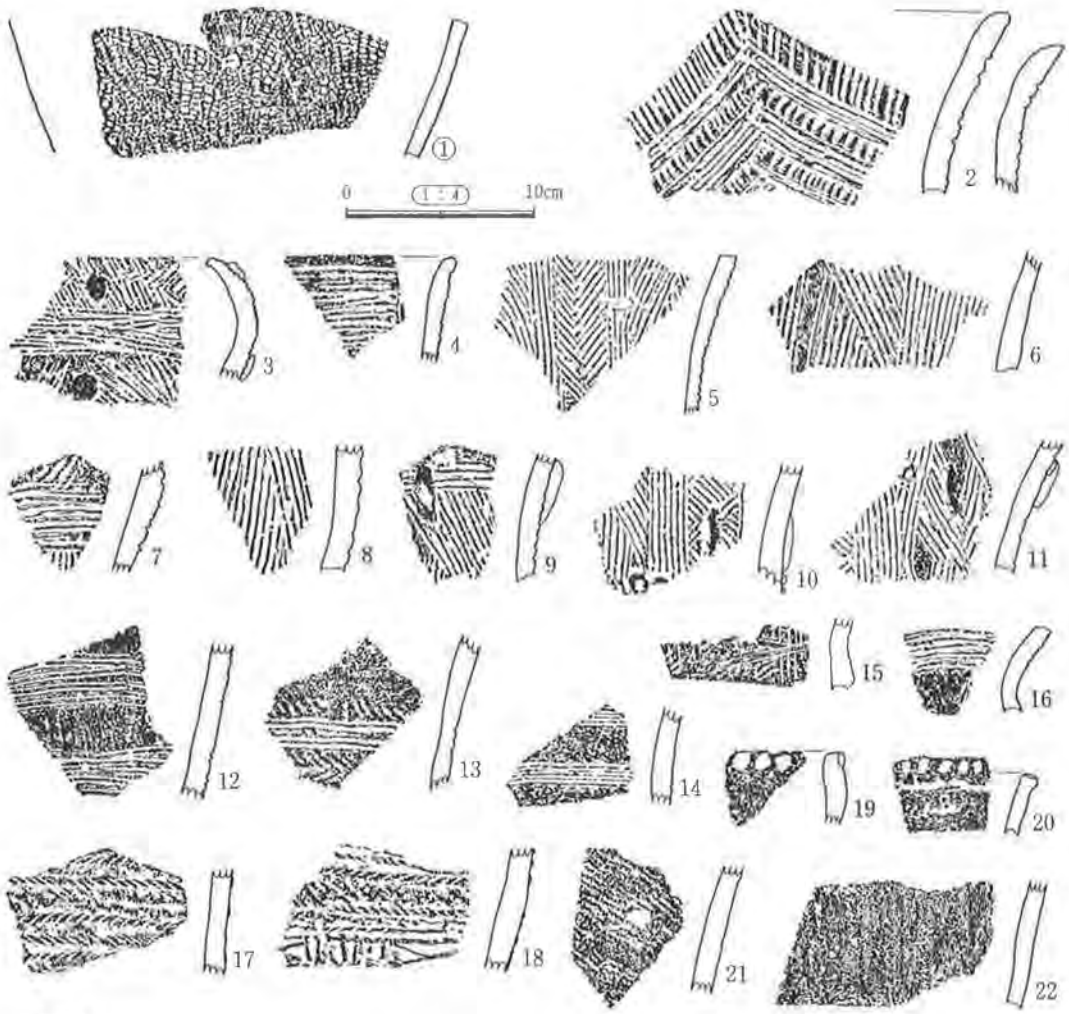
AJ6土

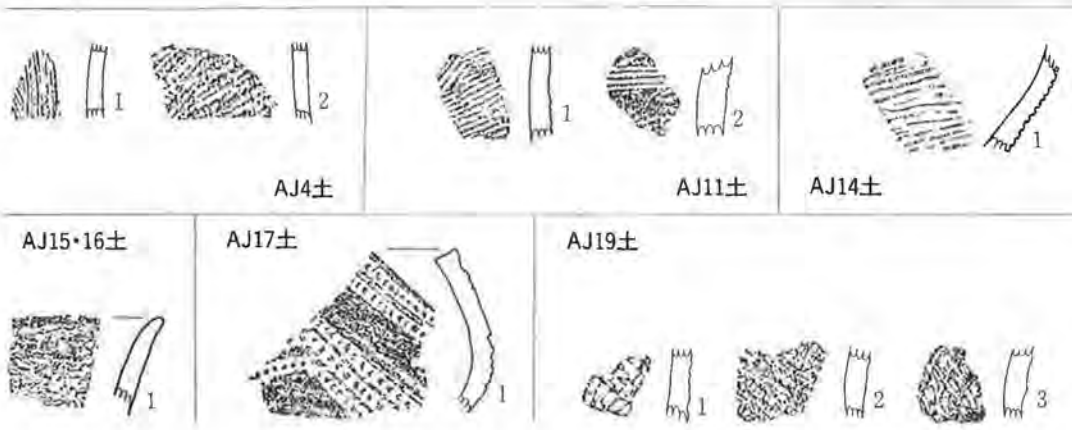
AJ7土



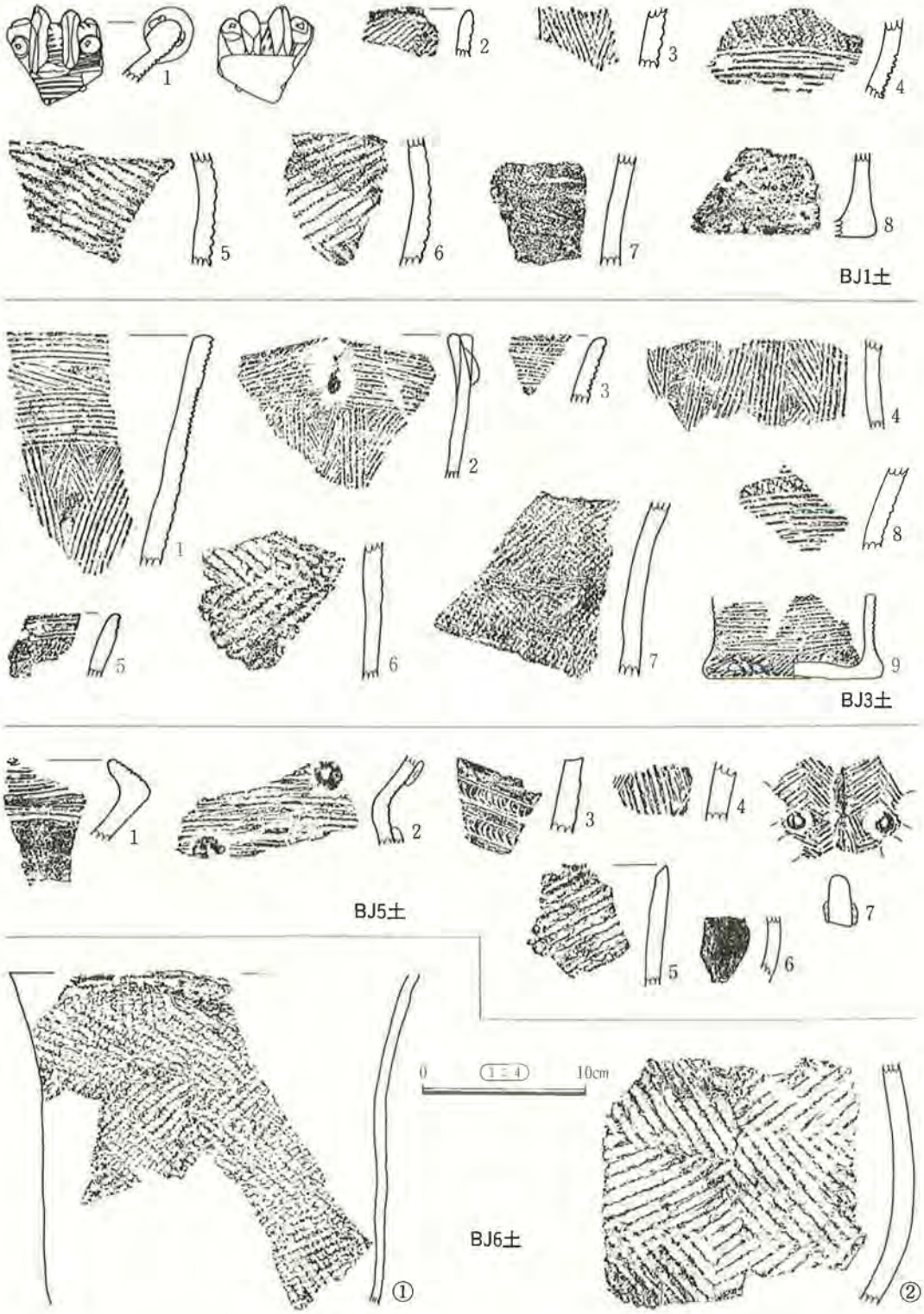
0　1：3　10cm

第55図　ＡＪ３・６・７号土坑出土土器





第56図　ＡＪ４・８・11・14・15・16・17・19号土坑出土土器　0　1：3　10cm



第57図　ＢＪ１・３・５・６号土坑出土土器

ＡＪ８・４・11・14・15・16・17・19号土坑（第56図、観察表19～25表）

ＡＪ８号土坑２は口縁端にキザミを付し、ヘラ状工具で平行沈線間を押し引く。３～16は平行沈線文土器で16は屈曲底部である。20は胴部が無文の深鉢であるが口縁部が肥厚し、口唇部にキザミを付す。

ＡＪ17号土坑１は含繊維土器で波状口縁を呈し、爪形文で施文する。

ＢＪ１・３・５・６号土坑出土土器（第57図、観察表第26～29表）

ＢＪ３号土坑１は平口縁である。２は内折波状口縁で波頂下に貼付文を付す。３は２と同一個体の可能性がある。５は平口縁と思われる。６は含繊維土器である。

ＢＪ５号土坑７は大波状口縁深鉢の波頂辺（把手）部である。３・５は含繊維土器である。

ＢＪ６号土坑１・２は含繊維土器である。１の口径約25cm、残存高約20cmを計る。

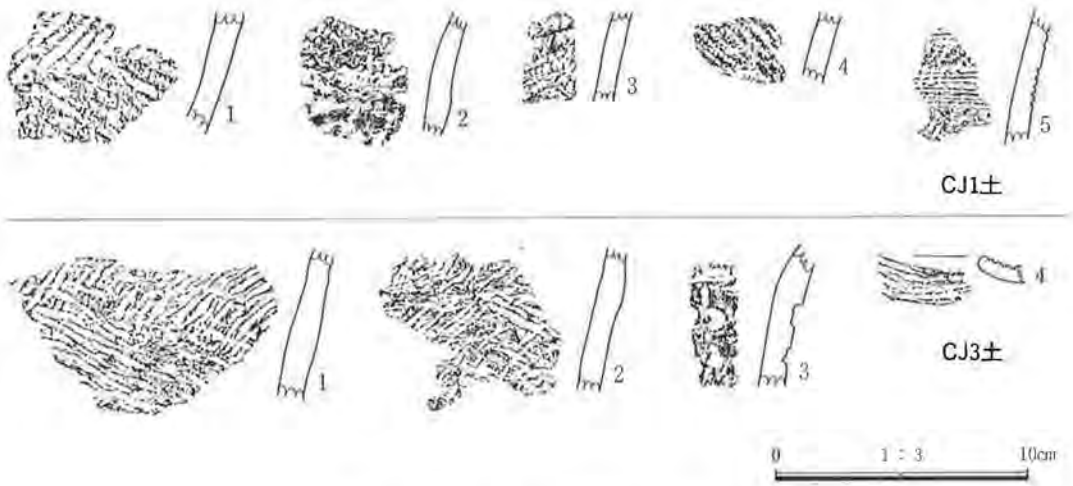
ＣＪ１・３号土坑出土土器（第58図、観察表第30・31表）

ＣＪ１号土坑１～３とＣＪ３号土坑１～３は含繊維土器である。ＣＪ１号土坑５とＣＪ３号土坑４は平行沈線文土器であり、遺構の時期判断が難しい。

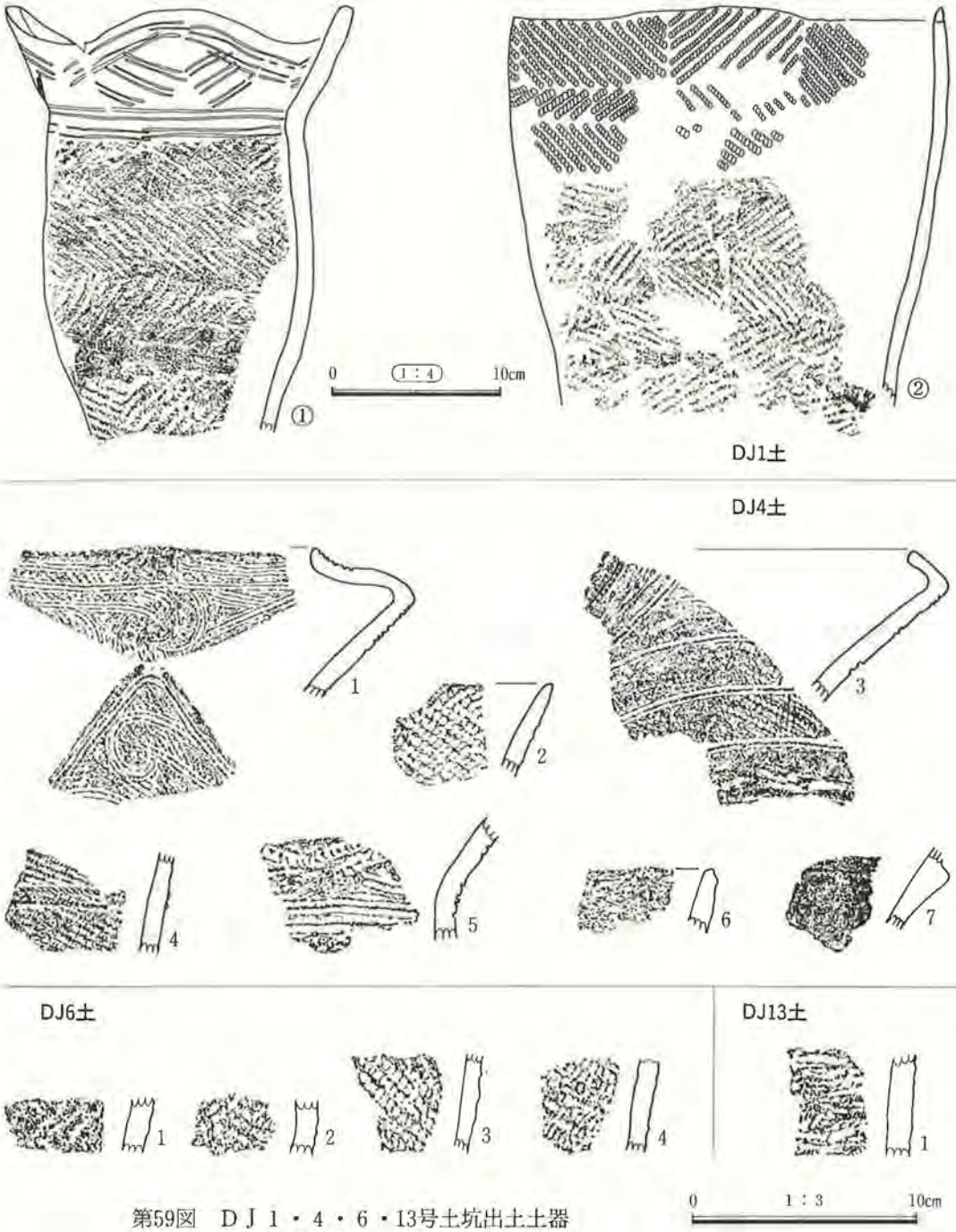
ＤＪ１・４・６・13号土坑出土土器（第59図、観察表第32～35表）

ＤＪ１号土坑１・２とも含繊維土器で、１は４単位、２は２単位の波状口縁（低い山型突起）である。１は口径15.5cm、残存高24.8cm、２は口径25.4cm、残存高23.2cmを計る。

ＤＪ４号土坑１は靴先状の波状口縁を呈する。３も波状口縁土器で、口縁部の平行沈線内に細



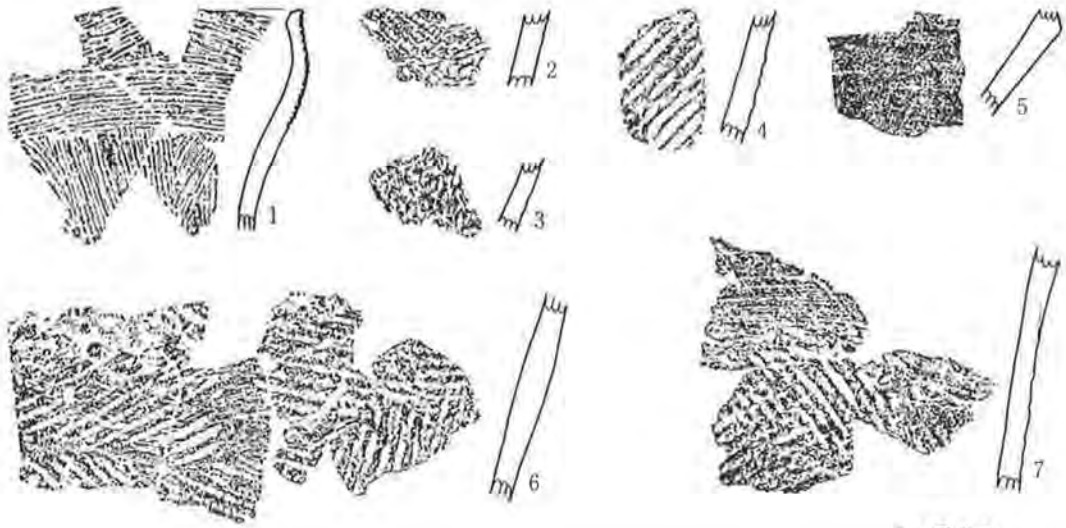
第58図　ＣＪ１・３号土坑出土土器



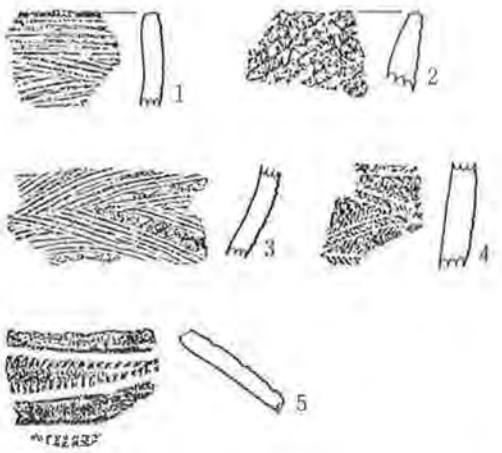
第59図　ＤＪ１・４・６・13号土坑出土土器

い棒状工具により刺突文を連続する。２・５・６は含繊維土器である。

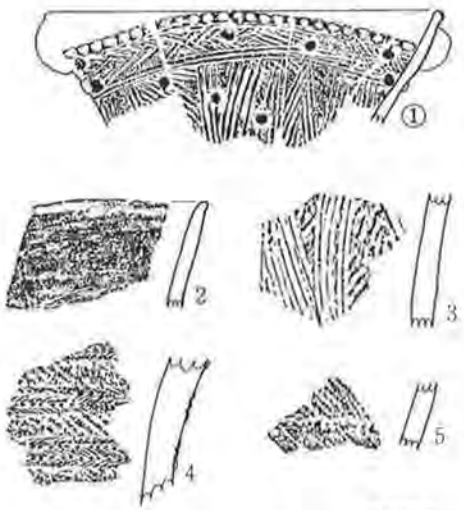
ＤＪ６号土坑・ＤＪ13号土坑出土土器は含繊維土器である。



DJ5号土坑

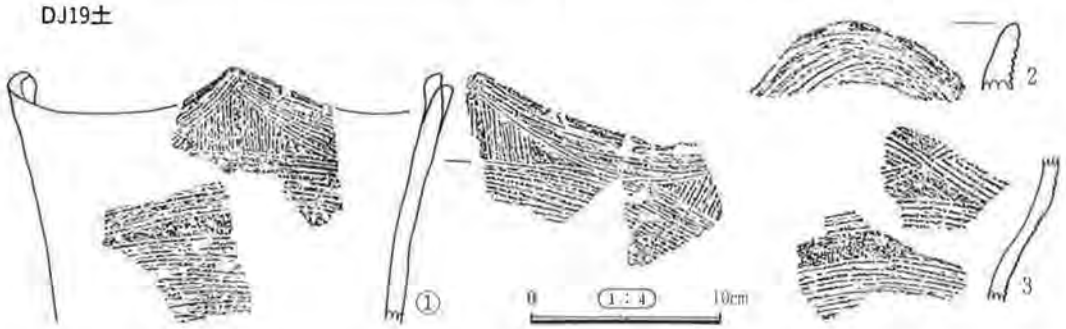


DJ14土



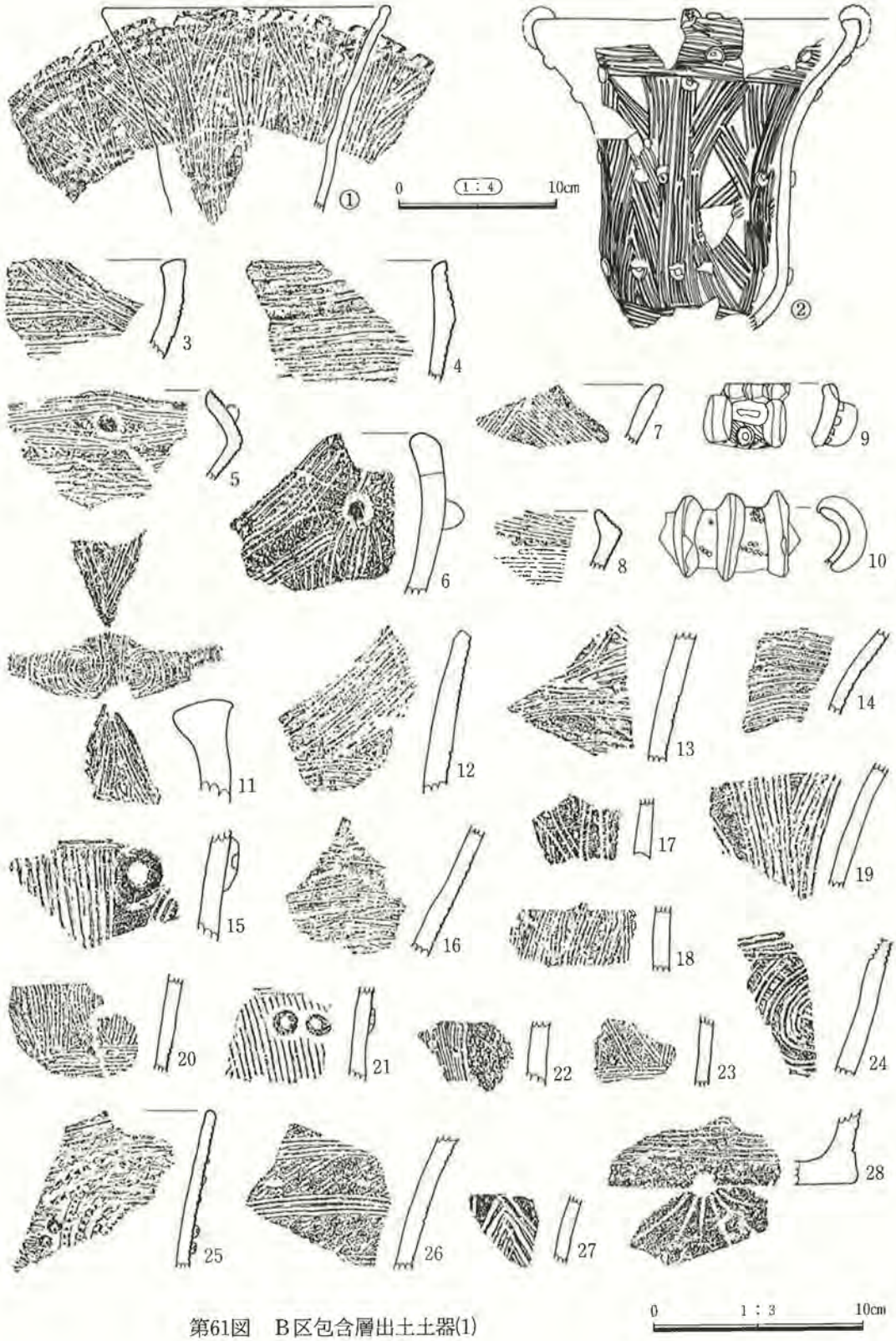
DJ18土

DJ19土



第60図　ＤＪ５・14・18・19号土坑出土土器

0　1：3　10cm

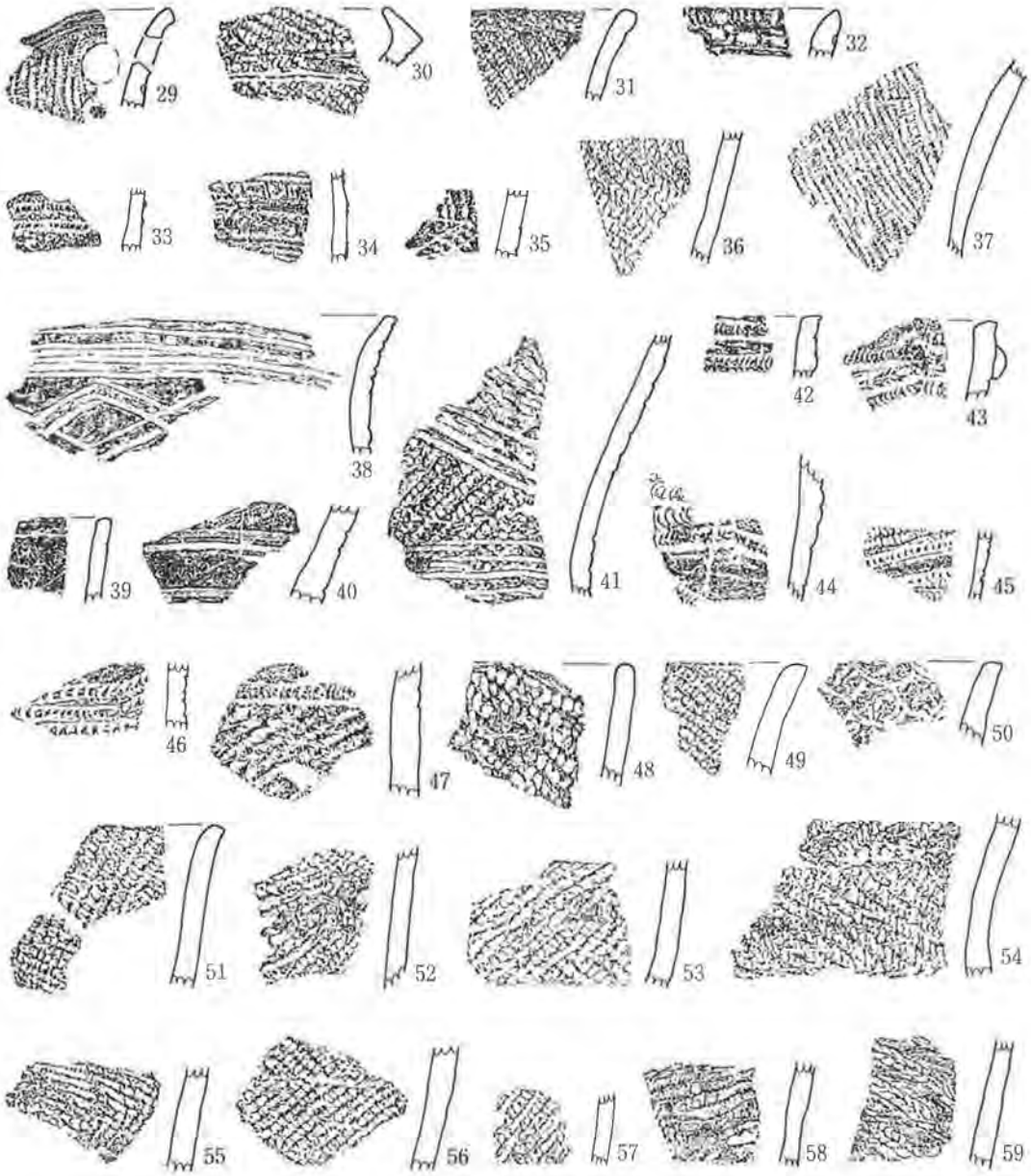


第61図　B区包含層出土土器(1)

ＤＪ５・14・18・19号土坑出土土器（第60図、観察表第36～39表）

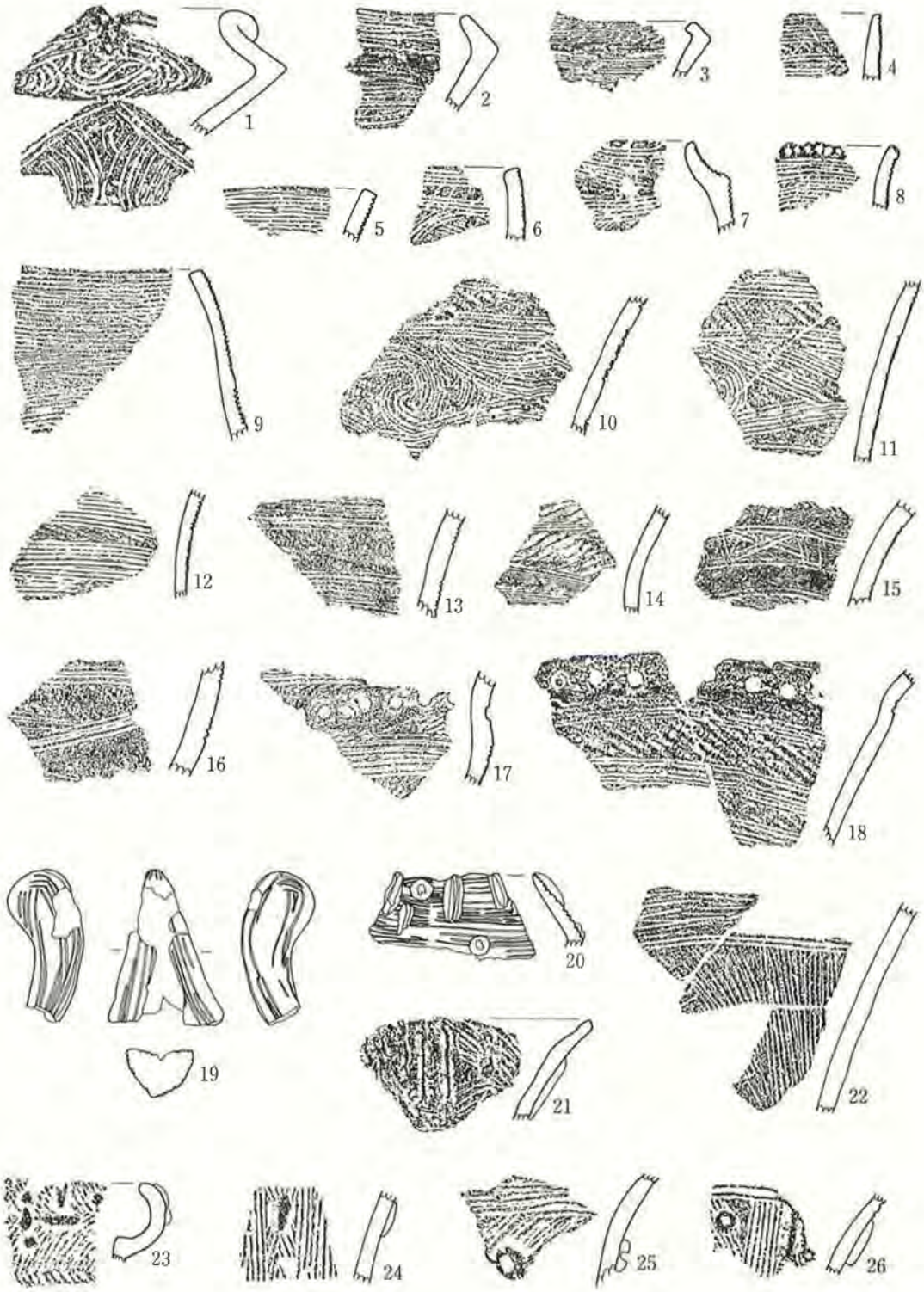
ＤＪ５号土坑１は内折波状口縁土器であるが、波頂部は欠失する。５は浅鉢で、１・５以外は含繊維土器である。６・７は同一個体である。

ＤＪ18号土坑１は平行沈線文の平口縁深鉢で、凹凸文・貼付文を付す。口径21.2cmを計る。２は平口縁で下端に平行沈線が認められる。４は浮線文土器で、浮線間に刺突文を連続する。



第62図　Ｂ区包含層出土土器(2)

0　1：3　10cm



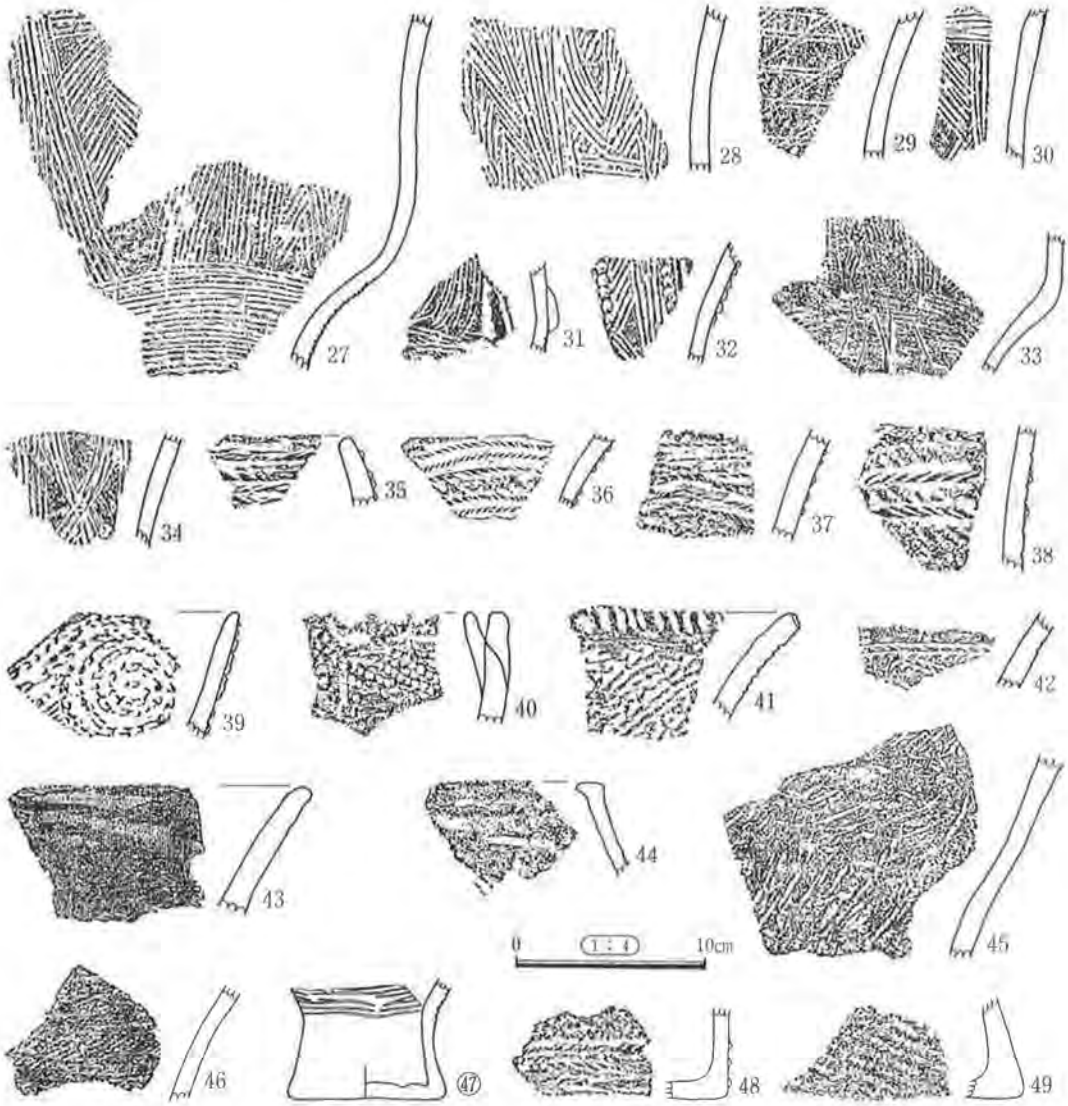
第63図　Ｊ８Ｅ出土土器(1)

0　1：3　10cm

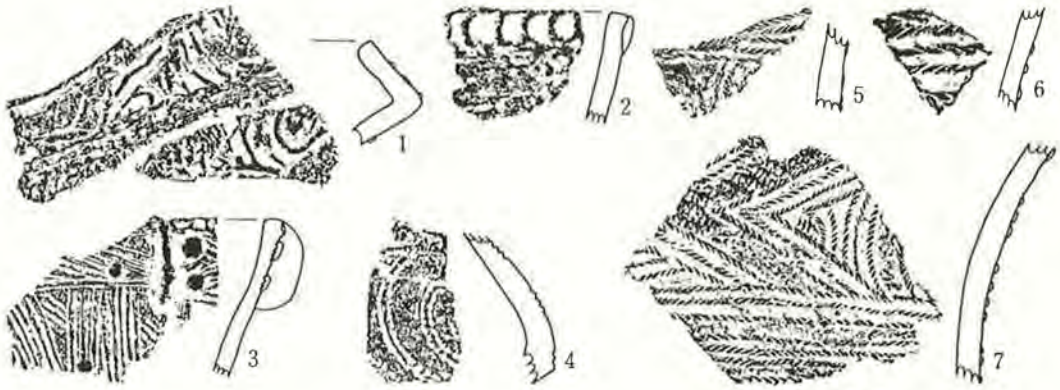
ＤＪ19号土坑１は平行沈線文の波状口縁深鉢であるが波頂部は内折する。口縁部最大径23.6cmを計る。２は波頂部破片、３は屈曲底部となる胴下端部破片である。

Ｂ区包含層出土土器（第61・62図、観察表第40表）

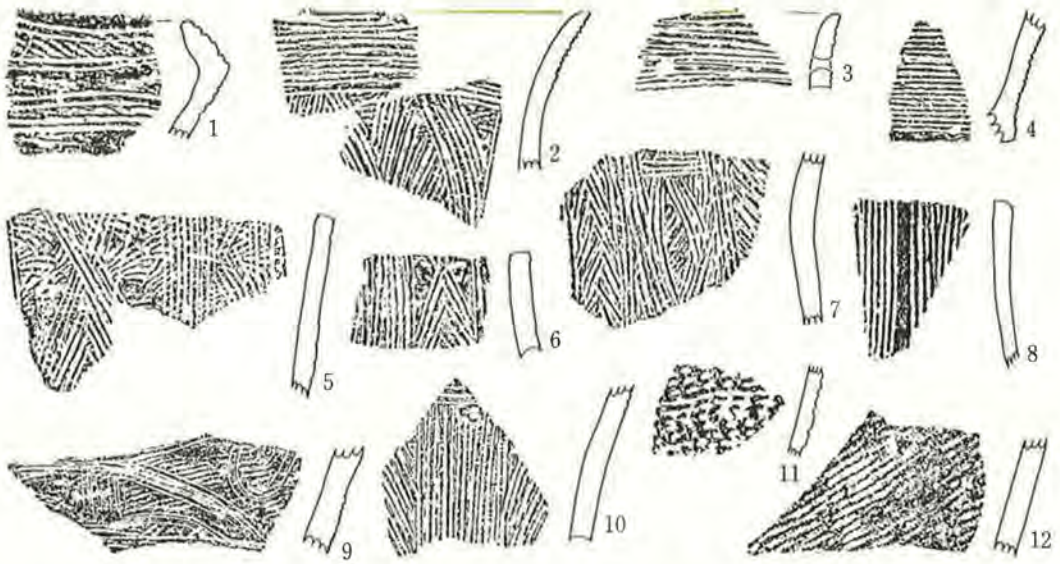
１は口縁端に雑な凹凸文（刺突文）を付すが、口縁部に横帯文を施文しない。口径18.4cmを計る。２は全体に疎らに貼付文を付す平口縁の深鉢で、底部は屈曲底部である。口径約21cm、残存高20cmを計る。口縁部破片は９・10を除くと波状口縁である。６は切り欠きにより２山状を呈す



第64図　Ｊ８Ｅ出土土器(2)

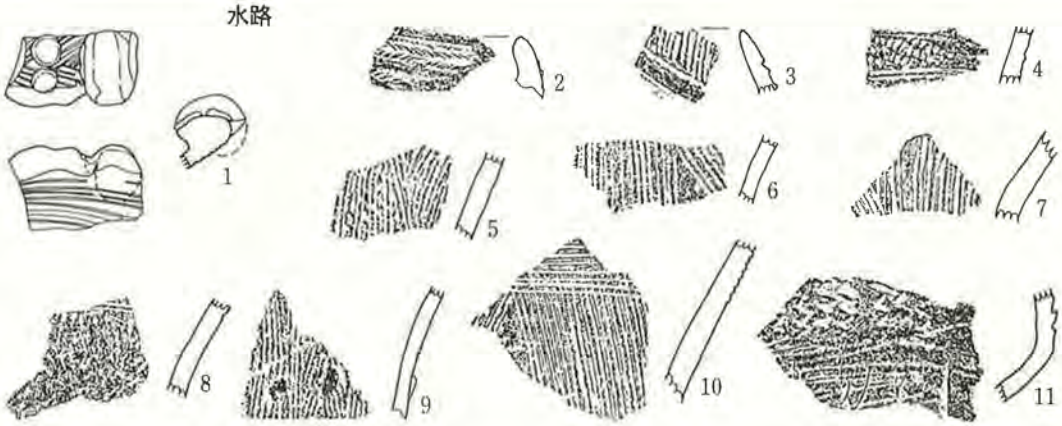


1井



2井

水路



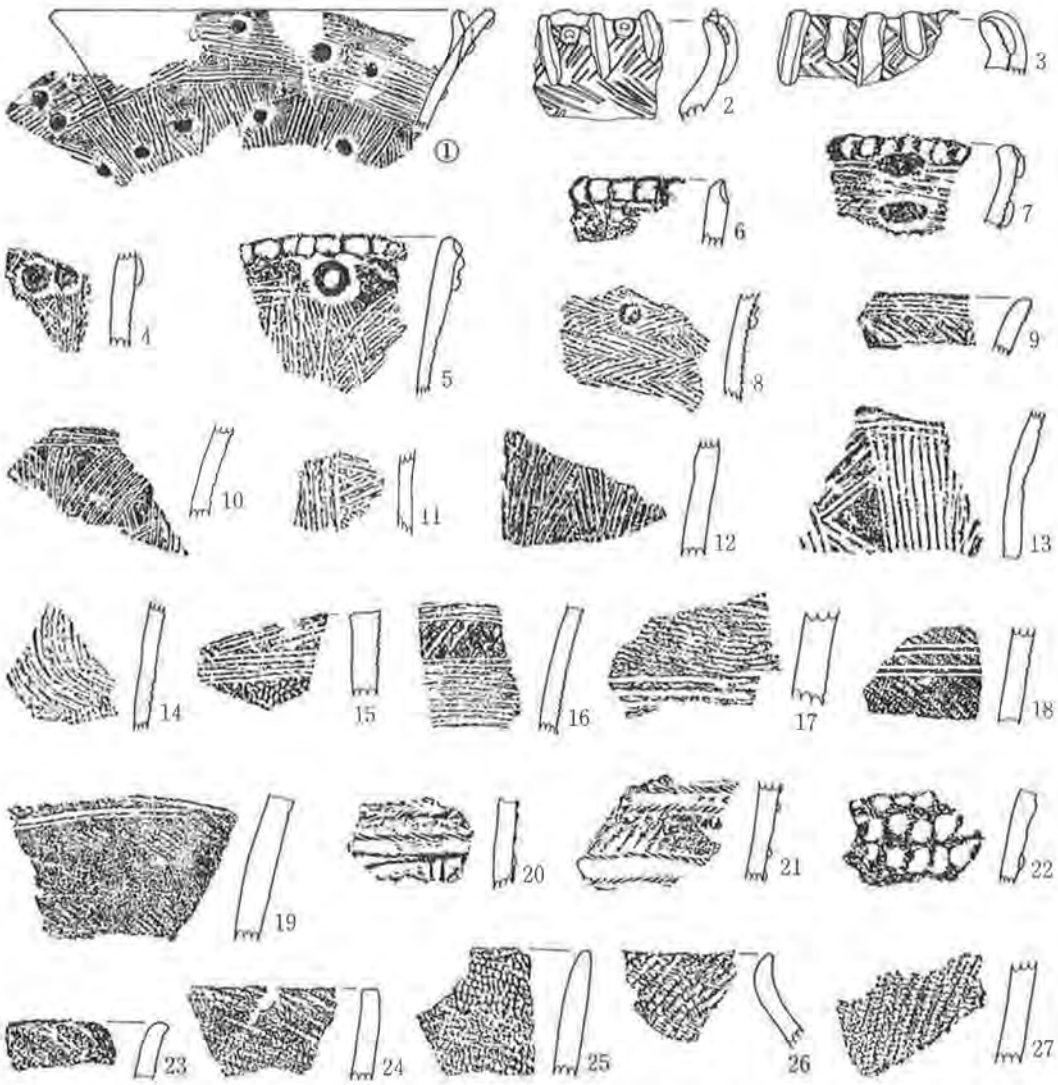
第65図　井戸・水路出土土器

0　1：3　10cm

る。11は大波状口縁の波頂部である。25は太めの結節浮線文土器である。28は底部で縁辺に円形の印刻を付し、底面に放射状の沈線を施文する。29は波頂下に円孔と円形刺突文を重ねる。38～59は含繊維土器である。39は口縁部下に単沈線を１本巡らし、ごく浅い沈線で斜格子文を施文する。42～47は爪形文である。48～59は縄文地文だけの土器である。

Ｊ８Ｅ出土土器（第63・64図、観察表第41表）

１～34は平行沈線文土器で、３・６・10・11・14・17は櫛歯状の原体、16は半截竹管状工具２



第66図　倒木痕出土土器

0　1：4　10cm　　0　1：3　10cm

本、18は3本を合わせて施文する。1は靴先状を呈する波状口縁で、波頂部から粘土を貼付文状に折り返す。17・18は括れ部分に円形刺突文を連続する。全体的には類似するが、円形刺突文の施文の仕方、平行沈線文、縄文地文ともに異なっており、別個体である。19は大波状口縁の波頂部である。21はごく細い棒状貼付文が垂下する。27・31・33は屈曲底部となる胴部下半・下端である。32の浮線上には結節に近い刺突文を付す。39は太めの結節浮線文である。40は内折波状口縁の口縁部で、口縁端部に押圧文を連続する。47は屈曲底部である。49は屈曲底部？である。

1号井戸・2号井戸・水路出土土器（第65図、観察表第42～44表）

1号井戸1はキザミ無しの浮線文で施文する。4は靴先状波状口縁の靴先部分である。平行沈線の沈線内に刺突文を連続する。全体的には浮線文土器が多い。

2号井戸は平行沈線文土器が多い。3は波状口縁で、焼成後円孔を穿つ。9は半截竹管状工具2本を一組にして施文する。11は貝殻文である。

水路も平行沈線文土器が多い。1は口縁端に横位の貼付文を付す。3は沈線の壁面に連続刺突文を施す。11は貝殻文で、屈曲底部となるか。

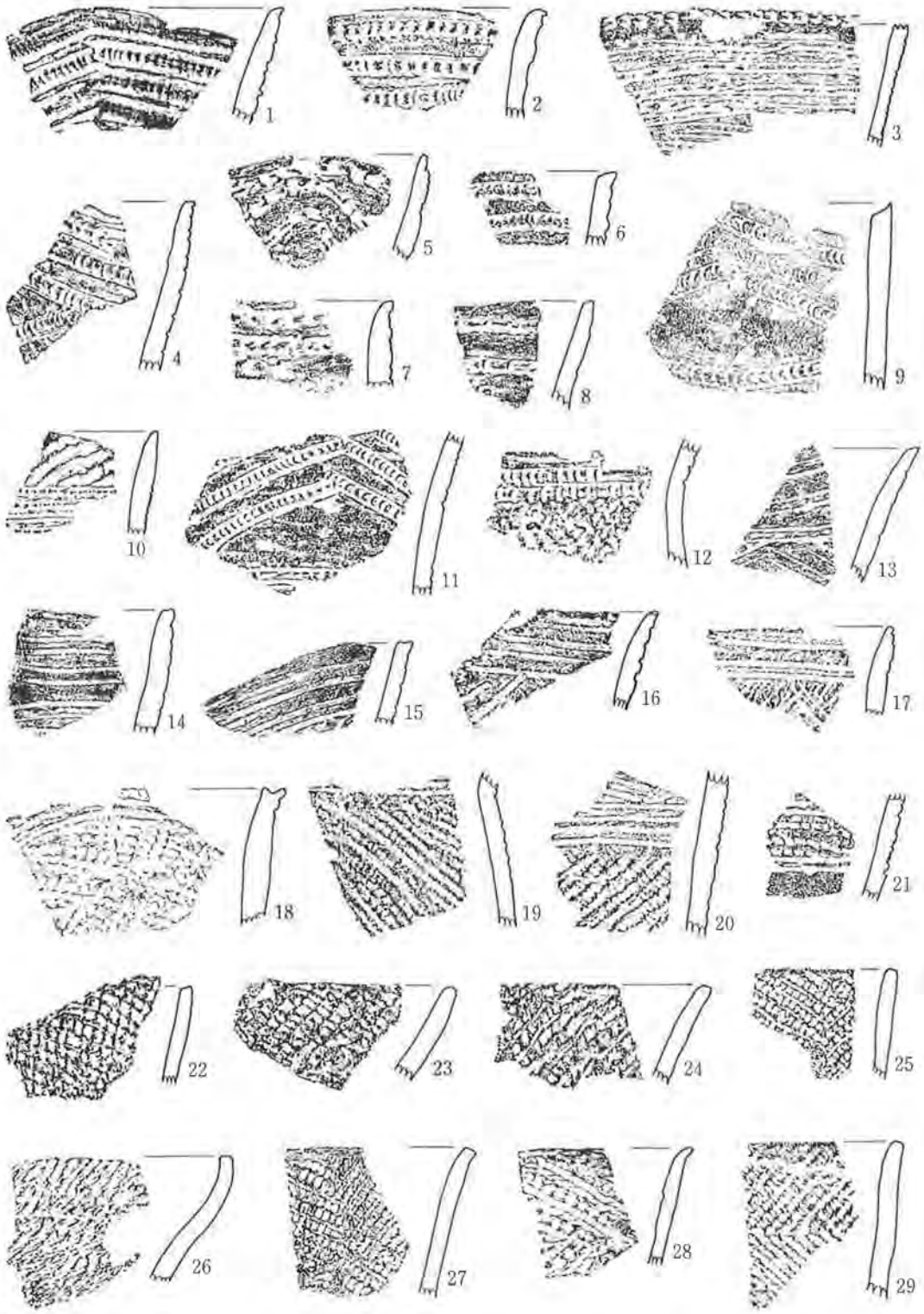
倒木痕出土土器（第66図、観察表第45表）

1は内折波状口縁の深鉢で口径23.0cmを計る。6は胴部無文と思われる。7は長円形の横長貼付文を2段に付す。26は波状口縁の可能性もある。

遺構外出土土器（第67～69図、観察表第46表）

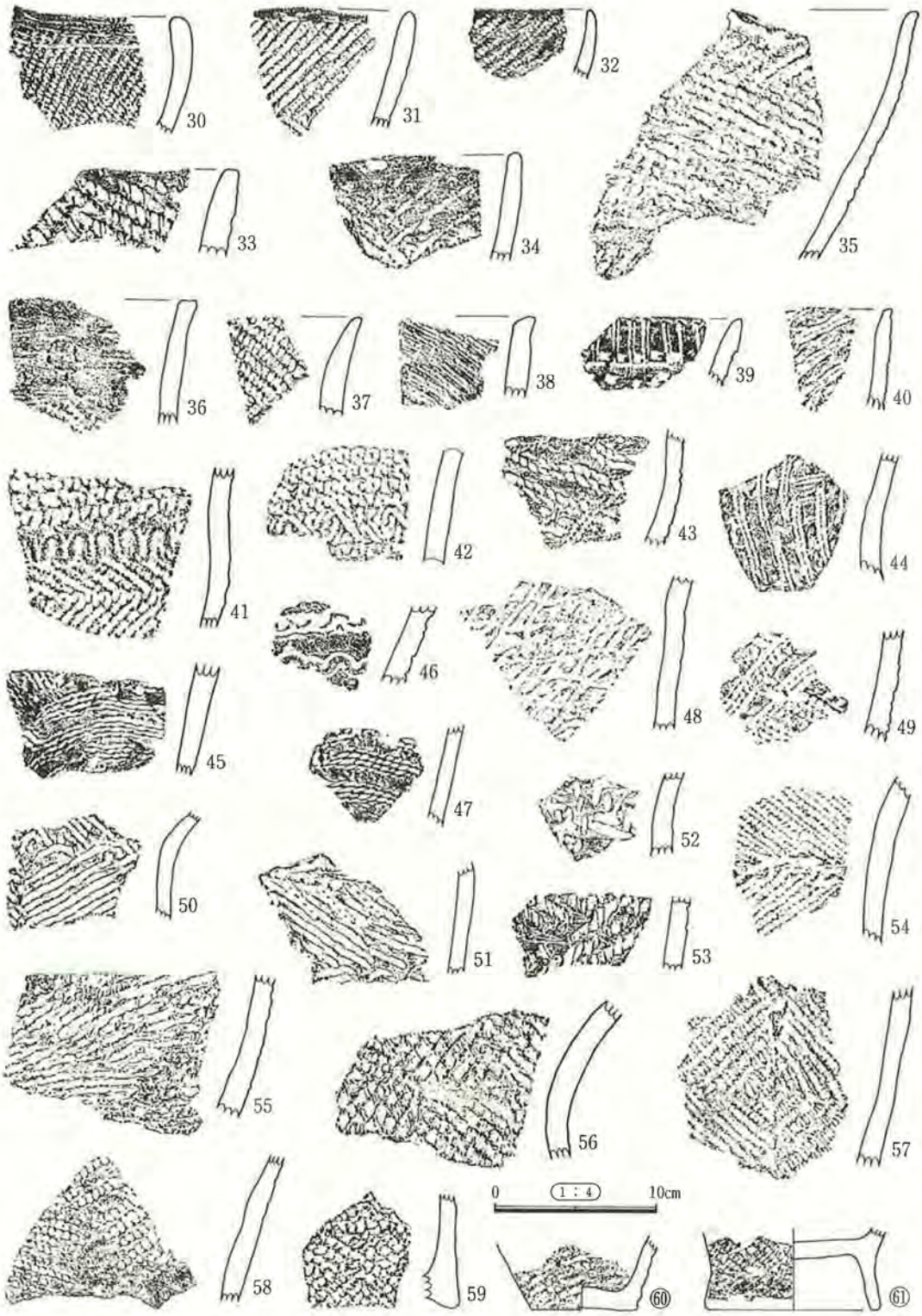
1～61は3・17・21・39を除いて含繊維土器である。1～12は爪形文で、3の口唇部には半截竹管状工具で刺突文を連続する。7は平行沈線外にも刺突を行う。3・5・7・8は結節沈線的な施文である。13～21は平行沈線文である。18は口唇部を凹ませる。21は刺突文を連続する。22～38・40は縄文施文の口縁部である。30は口縁部に単沈線と断続沈線を並走する。36の口縁部は幅広の無文帯である。39は口縁肥厚部に平行沈線をキザミ状に垂下し、その下端と段下に刺突文を連続する。41～58は胴部破片である。59～61は底部で61は高台状である。

62～72は平行沈線文の口縁部である。63は波状口縁であるが、器形変化、文様展開からすれば波頂部が2山状を呈する可能性がある。65は波先端の三角部分を切り取り、波頂平坦部の2ケ所を外折するもので、波頂部の上面観はW字状（外方からは）を呈する。波頂下にボタン状貼付文を2個並置し、貼付文上・波頂部口唇上にも縄文施文する。66は靴先状口縁である。69は口縁部に平行沈線でキザミ文、以下に結節沈線文を施文する。72は口縁の端部で、口唇端に横長の貼付文を付し、口縁端に刺突文を連続施文する。口唇部には矢羽根状の平行沈線文を施文し、ボタン状貼付文を付す。76は器形の想像がつかないが、上下逆の可能性もある。



第67図　遺構外出土土器―含繊維―(1)

0　1：3　10cm



第68図　遺構外出土土器ー含繊維ー(2)

0　1：3　10cm

第69図　遺構外出土土器―諸磯期―

0　1：3　10cm

遺構外出土土器―中・後期―(第70図、観察表第47表)

8は両耳壺？の口辺部である。12は波頂下に円孔が開く。13は波状口縁の波頂（把手）部である。20も両耳壺？の口縁部である。22は無文の深鉢胴部下半～底部である。底面の網代は不明瞭で原体の判別は不可能である。

第70図　遺構外出土土器―中後期―

第２表　Ｊ１Ａ号住居跡出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	波状口縁、屈曲底部、凹凸文、貼付文、集・連３㎜		粗砂	淡黄色～暗灰黄色
2	大波状口縁、凹凸文、貼付文、集合沈線２㎜	?	赤色粒、砂粒	にぶい黄橙色
3	平口縁、屈曲底部、凹凸文、貼付文、連続沈線2.5㎜		赤・白色粒、砂粒	明赤褐色～黒色
4	胴部、連続沈線２㎜		白色粒、砂粒	黒褐色～淡黄色
5	浅鉢、体部下半		金雲母、砂粒	にぶい褐色～黒褐色
6	波状口縁、平行・連続沈線２㎜弱	L	粗砂	明赤褐色～黒褐色
7	平口縁、連続沈線2.5㎜		白色粒	黒色
8	平口縁、連続沈線２㎜		白色粒	明赤褐色
9	波状口縁、連続沈線2.5㎜	ＬＲ	砂粒	にぶい黄橙色
10	胴部、連続沈線2.5㎜		白色粒、赤色粒	暗赤褐色～にぶい褐色
11	胴部、連続沈線2.5㎜		細砂	淡黄色
12	胴部、集合沈線３㎜		細砂	浅黄色
13	胴部下端、集合沈線1.5㎜		赤色粒	にぶい褐色
14	胴部、連続・集合沈線2.5㎜		砂粒	にぶい橙色
15	胴部下端、集合・連続沈線2.5㎜		細砂	浅黄色
16	胴部、集合沈線2.5㎜		赤色粒、砂粒	灰白色～褐灰色
17	胴部	多ＲＬ	粗砂	にぶい黄橙色～橙色

第３表　Ｊ１Ｂ号住居跡出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	胴部下半、屈曲底部、連続・集合沈線3.5㎜		白・赤色粒、砂粒	明赤褐色
2	平口縁、凹凸文、貼付文、集合・連続沈線２～2.5㎜		白色粒	にぶい橙色～黒褐色
3	波状口縁、平行沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	赤褐色～黒褐色
4	平口縁、凹凸文、集合・連続沈線2.5㎜		砂粒、白色粒	黒褐色
5	平口縁、貼付文、連続沈線2.5㎜		白色粒、赤色粒	淡黄色
6	平口縁、棒状貼付文上刺突、連続・集合沈線2.5㎜		白色粒	浅黄色～黒褐色
7	平口縁、貼付文、連続・集合沈線2.5㎜、６と同一？		白色粒	浅黄橙色
8	平口縁、貼付文、Ｃ字刺突文連続、集合沈線2.5㎜		粗砂、赤・白色粒	にぶい黄橙色～にぶい褐色
9	平口縁、連続沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	黒褐色（にぶい橙色）
10	平口縁、縦キザミ、貝殻文？		白色粒、砂粒	黒褐色
11	胴部、貼付文、集合沈線2.5㎜		砂粒	にぶい黄橙色
12	胴部、連続沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	黒褐色
13	胴部、連続沈線2.5㎜		砂粒	橙色
14	胴部、連続沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	灰黄褐色～黒褐色
15	胴部、連続沈線2.5㎜		白・赤色粒、砂粒	明赤褐色
16	胴部、平行沈線3.5㎜、22と同一個体	Ｌ？	白色粒多量、砂粒	橙色～暗赤褐色
17	胴部、貝殻文		白色粒、砂粒	淡黄色～黒褐色
18	平口縁	ＲＬ	赤色粒、砂粒	明赤褐色
19	平口縁、横ナデ痕顕著		白色粒	極暗赤褐色
20	平口縁、焼成後穿孔	L	砂粒	にぶい黄橙色～暗褐色
21	浅鉢、体部、ミガキ		粗砂多量	橙色
22	胴部、疎らに平行沈線3.5㎜、16と同一個体		白色粒多量、砂粒	にぶい橙色～暗赤褐色

第4表　J1A・B号住居跡出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　土	色　調
1	平口縁、キザミ（刺突）、ごく浅い爪形文9㎜		繊維	浅黄橙色
2	平口縁、連続沈線2.5㎜、口縁部は同工具でキザミ状		白色粒、赤色粒	にぶい褐色
3	平口縁、連続沈線2.5㎜、同上、2と同一個体？		赤色粒	浅黄色
4	平口縁、貼付文、連続沈線2㎜		砂粒	淡黄色
5	平口縁、凹凸文、集合・連続沈線2.5㎜		白色粒	にぶい橙色
6	平口縁、集合沈線2.5㎜		赤色粒	浅黄色
7	波状口縁、波頂部切り欠き2山状？、集合沈線2.5㎜	LR	赤・白色粒、砂粒	にぶい褐色
8	内折波状口縁、波頂部切り欠き、連続・集合沈線3㎜		赤色粒、粗砂、長石	にぶい褐色～黒褐色
9	平口縁、連続沈線2.5㎜		白・赤色粒、細砂	暗赤褐色
10	胴部、連続沈線2.5㎜	LR	白色粒、砂粒	浅黄色
11	胴部、集合沈線2.5㎜		砂粒	橙色～明赤褐色
12	胴部、雑な集合沈線2㎜	L	白色粒、砂粒	にぶい赤褐色～明赤褐色
13	胴部、連続沈線2.5㎜		粗砂、白色粒	橙色
14	胴部、連続沈線2㎜		白色粒、砂粒	赤褐色
15	胴部下端、連続沈線2㎜		粗砂	橙色
16	胴部、連続沈線3㎜		白色粒	にぶい赤褐色
17	胴部、連続沈線3.5㎜		赤色粒、砂粒	にぶい橙色
18	胴部、平行・連続沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	にぶい橙色
19	胴部、集合・連続沈線2.5㎜		粗砂多量	にぶい橙色
20	胴部下端、連続沈線3㎜		白色粒	にぶい橙色～明赤褐色
21	胴部、平行沈線4㎜、沈線内連続刺突文	R	砂粒	橙色～にぶい橙色
22	底部、連続沈線2.5㎜		白・赤色粒、砂粒	にぶい橙色
23	波状口縁、浮線上キザミ（口縁部）・縄文（胴部）	附加条	砂粒	にぶい褐色
24	胴部、浮線上キザミ	L	白色粒、砂粒	黒褐色（淡黄色）
25	胴部、浮線上キザミ、浮線際キザミ		砂粒	暗赤褐色
26	胴部、貝殻文？、ヘラ先状工具による押し引き？		細砂、雲母	灰褐色
27	波状口縁？	LR	繊維、砂粒	にぶい橙色～黒褐色
28	波状口縁、波頂部3山状	RL	石英、粗砂	暗赤褐色
29	平口縁　疎らにRL？	←	白色粒	橙色～黒褐色
30	胴部　疎らに多条RL	←	粗砂	にぶい褐色
31	浅鉢、体部		粗砂	にぶい褐色
32	平口縁、口縁部横ナデ痕顕著、胴部縦ケズリ・ミガキ		白色粒、粗砂	にぶい褐色～赤褐色

第5表　J2号住居跡出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　土	色　調
1	胴部、集合・連続沈線3㎜		粗砂、小礫	暗褐色（橙～浅黄橙色）
2	胴部、集合沈線2.5㎜		粗砂多量	橙色
3	胴部、貼付文、集合・連続沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	極暗赤褐色～黒褐色
4	胴部、貼付文、集合・連続沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	明赤褐色
5	平口縁、貼付文、集合沈線3㎜		粗砂多量	橙色
6	胴部、連続刺突文、集合・連続沈線2.5㎜		砂粒、白色粒	黒色～橙色
7	胴部、連続沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	浅黄橙色
8	胴部、集合沈線2㎜	LR	砂粒	黒色
9	胴部、集合沈線2.5㎜		粗砂多量	にぶい褐色
10	胴部、貼付文、連続沈線2㎜弱		粗砂	にぶい赤褐色
11	胴部下端、貼付文、集合沈線2.5㎜		粗砂	浅黄色
12	胴部、貼付文、集合沈線3㎜		粗砂、赤色粒	橙色
13	波状口縁、円形貼付文	RL	白色粒、粗砂	浅黄橙色

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
14	胴部下端、貼付文、集合沈線2.5mm		白色粗粒	暗赤褐色
15	胴部、連続沈線３mm		粗砂	にぶい赤褐色（橙色）
16	胴部、集合沈線3.5mm	R	粗砂多量	黒色
17	胴部、連続沈線（深浅）3.5mm		粗砂多量、白色粒	橙色
18	胴部	RL	白色粒、雲母	橙色
19	浅鉢、体部、黒色顔料による細線文		金雲母、砂粒	にぶい黄橙色～褐灰色

第６表　Ｊ３号住居跡出土遺物観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	内折波状口縁、連続沈線1.5mm強	L	白・赤色粒、粗砂	橙色～明赤褐色
2	波状口縁、貼付文、連続沈線２mm	L	白色粒、粗砂多量	浅黄橙色～黒褐色
3	胴部、平行・連続沈線３mm	L	粗砂、白・赤色粒	橙色～黒褐色
4	胴部、丁寧な集合沈線2.5mm		白色粒、粗砂	橙色
5	大波状口縁、集合・連続沈線2.5mm・２mm	R	粗砂多量	にぶい橙色～暗褐色
6	胴部、連続沈線２mm		白色粒、赤色粒	暗赤褐色
7	底部、平行沈線（深浅）５mm		砂粒、白色粒	にぶい赤褐色
8	浅鉢、円孔、黒色顔料による細線文		砂粒少量	にぶい黄橙～にぶい赤褐色
9	頸部	RL	繊維、砂粒	橙色
10	波状口縁靴先状、円形貼付文、平行・連続沈線３mm		粗砂、白色粒	橙色～黒褐色
11	波状口縁、連続沈線２mm	L	粗砂、白色粒	にぶい橙色～灰褐色
12	波状口縁、集合・平行沈線２mm	RL	粗砂、白色粒	にぶい褐色～黒色
13	内折波状口縁、円形貼付文２個一対、連続沈線2.5mm	LR	粗砂多量	浅黄橙色～橙色
14	波状口縁、連続沈線２mm	RL	赤色粒、砂粒	浅黄色～褐灰色
15	波状口縁、集合沈線2.5mm	RL	粗砂	暗褐色～黒褐色
16	波状口縁、連続沈線２mm	L	粗砂、白色粒	暗赤褐色～黒色
17	平口縁、連続沈線２mm	L	粗砂	橙色～暗褐色
18	大波状口縁、貼付文、連続沈線２mm	L	粗砂	にぶい黄橙色～褐灰色
19	平口縁？、押圧文、３本一組（深―浅―浅）5.5mm		砂粒、白色粒	明赤褐色
20	平口縁？、連続・集合沈線２mm	LR	砂粒、白色粒	赤褐色～暗赤褐色
21	平口縁、連続沈線2.5mm	RL	砂粒	にぶい褐色
22	波状口縁、沈線５本一組８～９mm	L	砂粒	黒褐色
23	平口縁、貼付文２個一対、連続沈線２mm	L	砂粒	にぶい赤褐色～暗赤褐色
24	波状口縁、平行沈線（沈線内連続刺突文）2.5mm		白色粒、赤色粒	橙色～黒褐色
25	大波状口縁、凹凸文、集合沈線２mm		砂粒	にぶい黄橙色～黒褐色
26	平口縁、凹凸文		砂粒、赤・白色粒	浅黄橙色
27	平口縁、凹凸文、集合・連続沈線2.5mm		粗砂	黒色
28	口辺部、凹凸文、平行・連続沈線２mm		砂粒	浅黄橙色
29	胴部、平行・連続沈線2.5mm	L	砂粒	にぶい黄褐色
30	胴部、平行沈線2.5mm		砂粒、赤色粒	橙色
31	胴部、沈線５本一組？９mm		赤・白色粒、砂粒	浅黄色～褐灰色
32	胴部、連続沈線２mm	RL	砂粒	灰褐色～黒褐色（浅黄色）
33	胴部、連続沈線1.5mm	LR	白色粒、砂粒	明赤褐色
34	胴部、集合沈線３mm		粗砂、白色粒	極暗赤褐色～黒褐色
35	胴部、集合沈線３mm	RL？	粗砂、白色粒	褐灰色～黒色
36	胴部、集合・連続沈線３mm	RL	白色粒、粗砂	にぶい黄橙色
37	胴部、平行・連続沈線２mm	R	砂粒少量	浅黄橙色
38	胴部、連続沈線２mm	L	白色粒、砂粒	にぶい赤褐色
39	胴部、集合沈線２mm	RL	粗砂	暗赤褐色
40	胴部下端、屈曲底部、集合沈線１mm・1.5mm		赤色粒、粗砂	にぶい橙色

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
41	胴部、平行・連続沈線2.5㎜		粗砂	暗赤褐色
42	胴部、平行・集合沈線２㎜	R	粗砂	暗赤褐色
43	平口縁	RL	粗砂	浅黄橙色～にぶい橙色
44	波状口縁	L	白色粒、砂粒	黒褐色
45	胴部	RL	雲母、砂粒	にぶい橙色
46	胴部	L	雲母、粗砂	にぶい褐色～暗赤褐色
47	波状口縁、単沈線、貝殻文、内面赤彩、Ｊ４住20と同		細砂	暗赤褐色
48	浅鉢、円孔		砂粒	浅黄色～橙色
49	浅鉢、円孔		金雲母多量	明赤褐色
50	底部、集合沈線２㎜（横帯文）・３㎜		砂粒	にぶい黄橙色
51	底部、連続沈線２㎜		片岩粗粒多量、砂粒	にぶい橙色～にぶい黄褐色
52	底部	R	白色粒、粗砂	橙色
53	底部、荒いナデ		白色粒、砂粒	橙色

第７表　Ｊ４号住居跡出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	平口縁、集合沈線2.5㎜		粗砂多量	にぶい橙色
2	胴部、平行沈線（深浅）５㎜	L	粗砂、黒色鉱物	にぶい橙色～褐色
3	口辺部、平行・連続沈線３㎜	L？	白色粒、石英	赤褐色
4	胴部、連続・集合沈線３㎜　　ＬとＲＬ？	←	砂粒	にぶい橙色
5	胴部、平行・連続沈線２㎜		粗砂多量	橙色
6	胴部、連続沈線2.5㎜		白色粒、粗砂	橙色
7	平口縁、貼付文、凹凸文、連続沈線３㎜		白色粗粒	赤褐色
8	胴部、丁寧な集合沈線2.5㎜、10・12と同一、剝落		粗砂	明赤褐色
9	胴部、連続沈線２㎜		白色粒多量、粗砂	黒色
10	胴部、丁寧な集合沈線2.5㎜、８・12と同一個体		白色粒	橙色
11	胴部下端、集合沈線2.5㎜	RL	砂粒少量	にぶい黄橙色
12	胴部、丁寧な集合沈線2.5㎜、８・10と同一、剝落		白色粒、粗砂	橙色
13	胴部、集合沈線２㎜		砂粒少量	褐色（にぶい黄橙色）
14	胴部、浮線上矢羽根状キザミ	RL	粗砂多量	にぶい赤褐色
15	胴部、結節沈線文2.5㎜	不明	砂粒少量	にぶい黄橙色～橙色
16	平口縁？	RL	砂粒	にぶい黄橙色～褐灰色
17	胴部	絡条体	砂粒少量	にぶい橙色（黒色）
18	胴部	L	砂粒	にぶい橙色（黒色）
19	胴部	RL	白色粗粒	にぶい赤褐色
20	波状口縁、単沈線、貝殻文、口縁部内面赤彩		砂粒	にぶい赤褐色～黒褐色
21	口辺部、単沈線、貝殻文		砂粒	にぶい赤褐色
22	浅鉢、円孔		白色粒、砂粒	明赤褐色
23	浅鉢？、単沈線で区画、爪形キザミ		白色粒	橙色
24	底部	RL	粗砂少量、繊維少量	にぶい赤褐色

第８表　Ｊ５号住居跡出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	平口縁、平行・連続沈線２・３㎜、単沈線（斜格子）		片岩、粗砂	橙色～にぶい赤褐色
2	胴部、連続・集合沈線３㎜		片岩、粗砂	橙色～にぶい赤褐色
3	胴部、連続・集合沈線３㎜		片岩、粗砂	にぶい赤褐色

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　土	色　調
4	波状口縁、集合・連続沈線 2 mm		粗砂	褐色
5	胴部下端、連続沈線 3 mm		細砂	浅黄色～黒色
6	胴部下端、丁寧な集合沈線 2 mm		白色粒、砂粒	暗赤褐色～にぶい褐色
7	胴部、連続沈線 3 mm		粗砂、黒色鉱物	にぶい黄橙色～褐灰色
8	平口縁、横方向ナデ痕顕著		粗砂多量	淡黄色～にぶい褐色
9	平口縁、屈曲底部、凹凸文中にも縄文施文	L	白色粒、石英、砂粒	浅黄橙色～黒褐色
10	胴部	RL	白色粒、砂粒	暗褐色
11	胴部、縦ミガキ		粗砂	明赤褐色
12	底部、ナデ		白色粒、粗砂	にぶい橙色
13	屈曲底部	RL	粗砂、白色粒	にぶい黄橙色
14	底部	LR	白色粒、粗砂	赤褐色
15	平口縁、滑車状貼付文（2個一対4単位）集合2.5mm		粗砂	橙色
16	平口縁、貼付文、凹凸文、三角孔、集合沈線2.5mm		粗砂、白粒、黒鉱物	浅黄色～黒褐色
17	平口縁、凹凸文、長棒状貼付刺突文、集合沈線2.5mm		粗砂、赤色粒	浅黄色
18	平口縁、貼付文（大貼付文4単位）、集合沈線2.5mm		砂粒少量	にぶい赤褐色～黒褐色
19	平口縁、貼付文、集合沈線2.5mm		白色粒	淡黄色～暗褐色
20	平口縁、貼付文、連続沈線2.5mm		白色粒、砂粒	浅黄橙色～黒褐色
21	平口縁、貼付文、集合沈線2.5mm		白色粒、赤色粒	淡黄色～黒褐色
22	胴部、貼付文、集合沈線2.5mm		砂粒	浅黄色～黒色
23	底部、貼付文、集合・連続沈線2.5mm		粗砂多量、白色粒	にぶい黄褐色～黒褐色
24	底部、貼付文（棒状貼付上刺突文）、集合沈線2.5mm		白色粒、赤色粒	にぶい赤褐色～にぶい橙色
25	内折波状口縁（波頂部が低い）、集合沈線 2 mm	RL	粗砂	橙色
26	波状口縁、貼付文、集合沈線2.5mm		白色粒	橙色
27	平口縁、横長貼付文、集合沈線 3 mm		石英、白・赤色粒	褐灰色
28	平口縁、凹凸文、横長幅広貼付文上刺突文、集合 3 mm		白色粗粒	淡黄色～黒色
29	平口縁、凹凸文、貼付文、集合沈線2.5mm		白色粒	浅黄橙色～にぶい黄褐色
30	平口縁、凹凸文、貼付文、集合沈線 3 mm		砂粒	灰白色～浅黄色
31	平口縁、貼付文、集合沈線 3 mm		粗砂、片岩、赤色粒	橙色
32	平口縁、貼付文、集合沈線2.5mm		砂粒少量	にぶい黄橙色
33	平口縁、貼付文、凹凸文、集合沈線 2 mm強		砂粒多量	浅黄橙色～にぶい橙色
34	平口縁、（滑車状）貼付文、横長貼付文、集合 3 mm		砂粒多量	浅黄色～暗褐色
35	平口縁、貼付文、集合・連続沈線2.5mm		白粗色粒、砂粒	にぶい橙色
36	平口縁、幅広貼付文上刺突文、凹凸文、集合2.5mm		赤色粒	にぶい橙色
37	平口縁、貼付文、集合沈線2.5mm		砂粒少量	灰褐色
38	平口縁、貼付文、凹凸文、集合沈線2.5mm		粗砂、小礫	橙色～明赤褐色
39	波状口縁、平行沈線2.5mm　★拓本上下逆	L	砂粒	浅黄色～褐灰色
40	波状口縁、連続沈線1.5mm		白色粒、砂粒	にぶい褐色～黒褐色
41	平口縁、凹凸文、貼付文、集合沈線2.5mm		砂粒	黒褐色
42	平口縁、集合・連続2.5mm		白色粒、砂粒	暗褐色
43	平口縁？、凹凸文、連続沈線 3 mm		白色粒、砂粒	橙色
44	平口縁、凹凸文	L	白色粒、砂粒	にぶい橙色～黒褐色
45	平口縁、横長貼付文（コーヒー豆型）、集合2.5mm		砂粒	暗赤褐色
46	平口縁、凹凸文3段、集合・連続沈線1.5mm		砂粒	淡黄色
47	平口縁、連続刺突文（押し引き）、連続沈線2.5mm	L	砂粒	黒褐色
48	平口縁、縦キザミ、結節沈線、櫛状工具で押し引き？		細砂	黒褐色
49	波状口縁？、縦キザミ、貝殻文、平行沈線5.5mm		細砂	にぶい橙色～にぶい褐色
50	平口縁	RL	白色粒、粗砂	暗赤灰色（にぶい褐色）
51	平口縁、ナデ痕明瞭、疎らにミガキ		粗砂、赤色粒	暗赤褐色
52	平口縁、ナデ		砂粒	にぶい黄橙色
53	口辺部、円形刺突文、集合沈線 2 mm		細砂	黒褐色
54	胴部、連続・集合沈線2.5mm	RL	砂粒	にぶい褐色

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
55	胴部、連続沈線２㎜		白色粒	暗赤褐色～黒色
56	胴部、連続沈線２㎜	ＲＬ	白色粒、砂粒	橙色～黒褐色
57	胴部、４本一組（沈線幅広一狭一広）5.5㎜	ＬＲ	赤色粒、砂粒	にぶい黄橙色
58	胴部、連続沈線2.5㎜		砂粒、白色粒	にぶい橙色～極暗赤褐色
59	胴部、平行・連続沈線2.5㎜		砂粒	淡黄色～暗褐色
60	胴部、集合・連続沈線３㎜		砂粒	にぶい赤褐色
61	胴部、平行・連続沈線３㎜		白色粒、砂粒	暗赤褐色～黒褐色
62	胴部、貼付文、集合沈線２㎜		赤色粒、粗砂	明赤褐色
63	胴部、貼付文、集合沈線２㎜		砂粒	にぶい褐色～暗褐色
64	胴部、貼付文、集合沈線2.5㎜		片岩、砂粒	にぶい赤褐色
65	胴部、貼付文、集合沈線３㎜		白色粒、砂粒	赤褐色
66	胴部、貼付文、集合沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	にぶい赤褐色
67	胴部、貼付文、集合沈線2.5㎜		砂粒	にぶい褐色～黒褐色
68	胴部、貼付文、集合・連続沈線3.5㎜		赤色粒、砂粒	浅黄橙色
69	胴部、貼付文、連続沈線2.5㎜		砂粒	淡黄橙色
70	胴部下端、平行・連続沈線1.5㎜・２㎜（横帯文）	Ｌ	砂粒	暗褐色～にぶい黄橙色
71	胴部下端、集合・連続沈線３㎜		白色粒、粗砂	にぶい黄橙色
72	胴部下端（屈曲底部）、集合・連続沈線２㎜		砂粒	橙色～褐色
73	胴部、凹凸文		白色粒	暗赤褐色
74	胴部、集合沈線２㎜		砂粒	赤黒色
75	口辺部、単沈線、貝殻文		細砂	にぶい黄橙色
76	胴部、貝殻文		細砂	浅黄色
77	胴部、貝殻文		細砂	黒褐色
78	胴部、浮線上矢羽根状キザミ		粗砂	にぶい黄褐色
79	胴部、浮線上矢羽根状キザミ、浮線間連続刺突文	ＲＬ	粗砂	浅黄色～灰白色
80	波状口縁、集合沈線２㎜		粗砂	浅黄橙色
81	大波状口縁、（把手部）、貼付文、集合沈線２㎜強		砂粒	にぶい褐色
82	大波状口縁、波頂部辺、集合沈線2.5㎜		砂粒	にぶい橙色
83	大波状口縁、波頂部辺、集合沈線2.5㎜		粗砂	浅黄橙色
84	大波状口縁、（把手部）、集合沈線２㎜強		砂粒	浅黄色
85	口辺部？、集合沈線2.5㎜		粗砂多量	にぶい黄橙色
86	大波状口縁、波頂部辺、貼付文、集合沈線２㎜		粗砂	浅黄色
87	大波状口縁靴先状、集合沈線2.5㎜		粗砂、石英	にぶい橙色
88	大波状口縁、波頂部辺、集合沈線2.5㎜		砂粒	にぶい褐色

第９表　Ｊ６Ａ号住居跡出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	平口縁、貼付文、集合・連続（横帯文）2.5㎜		砂粒	浅黄色～暗褐色
2	平口縁、凹凸文		砂粒、白色粒	浅黄橙色～黒褐色
3	波状口縁、平行・連続沈線2.5㎜	ＲＬ	片岩、砂粒	暗褐色～浅黄橙色
4	浅鉢、円孔、黒色顔料細線文、上一部浅沈線		白粒、砂粒、黒鉱物	にぶい橙色～明赤褐色
5	屈曲底部、集合沈線２㎜		白色粒、砂粒	にぶい橙色
6	屈曲底部、連続沈線2.5㎜		白・赤色粒、粗砂	橙色～にぶい橙色
7	底部、ミガキ		粗砂	にぶい橙色～褐灰色
8	平口縁、貼付文、連続（横帯文）・集合沈線2.5㎜		砂粒	にぶい橙色
9	平口縁、貼付文、横貼付文、連続沈線（深浅）2.5㎜		白色粒、砂粒	橙色
10	平口縁、貼付文、集合・連続沈線２㎜強		砂粒	灰白色～褐灰色
11	平口縁、貼付文、連続沈線2.5㎜		砂粒	黒色
12	波状口縁、連続沈線３㎜		砂粒、白色粒	黒褐色～暗赤褐色

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
13	波状口縁、連続沈線1.5mm	R	白色粒、砂粒	暗赤褐色～黒褐色
14	波状口縁、連続・集合沈線２mm	RL	砂粒	暗赤褐色
15	波状口縁靴先状、集合沈線2.5mm		砂粒	にぶい赤褐色
16	波状口縁、平行沈線２mm	RL	砂粒	にぶい橙色～黒褐色
17	波状口縁、波頂部切り欠き、集合沈線２mm		砂粒	にぶい黄橙色
18	波状口縁、連続沈線2.5mm	RL？	砂粒	浅黄橙色
19	内折波状口縁、波頂部切り欠き、集合沈線２mm強		白色粒、粗砂	橙色～黒褐色（明赤褐色）
20	波状口縁、集合沈線２mm	RL？	砂粒多量、片岩	にぶい黄橙色
21	波状口縁、連続沈線４mm	LR	砂粒	浅黄橙色～褐灰色
22	平口縁、凹凸文、連続沈線2.5mm		白色粒、砂粒	にぶい褐色
23	波状口縁、集合沈線２mm		白・赤色粒、砂粒	浅黄橙色～暗褐色
24	平口縁、連続沈線（深浅）３mm		粗砂	淡黄色～にぶい黄橙色
25	平口縁、連続沈線２mm弱		白色粒、砂粒	暗赤褐色
26	平口縁、凹凸文４段、貼付文、集合・連続沈線２mm		砂粒	にぶい橙色
27	平口縁、貼付文、連続沈線2.5mm、11と同一個体		砂粒	黒褐色
28	平口縁、口唇部連続押圧文、小貼付文、集合沈線３mm		砂粒	橙色
29	口辺部、集合・連続沈線２mm		砂粒	にぶい黄橙色
30	口辺部、連続・集合沈線２mm	LR	砂粒	にぶい橙色～暗褐色
31	口辺部、集合・連続沈線2.5mm	LR	砂粒	にぶい赤褐色
32	胴部、凹凸文、集合沈線3.5mm、37と同一個体			暗赤褐色～黒褐色
33	胴部、連続沈線２mm		砂粒	黒褐色
34	胴部、半截竹管２本一組？５mm		砂粒	褐灰色
35	胴部、平行沈線２mm（横帯文－沈線内刺突）・1.5mm	RL	白色粒、砂粒	にぶい褐色～黒褐色
36	頸部、横帯文は条線状単位不明瞭、連続沈線2.5mm		砂粒多量	黒褐色
37	胴部、集合沈線3.5mm、32と同一個体		粗砂	黒褐色
38	胴部下端、連続沈線２mm強		白色粒、砂粒	赤褐色～黒褐色
39	胴部、連続沈線1.5mm	LR	白色粒、砂粒	極暗赤褐色
40	口辺部、集合・連続沈線2.5mm	RL	白色粒、砂粒	にぶい褐色
41	胴部、平行沈線2.5mm	RL	砂粒	にぶい褐色
42	胴部、平行沈線3.5mm	RL	砂粒	にぶい赤褐色
43	胴部、貼付文、集合沈線2.5mm		細砂	にぶい黄橙色
44	胴部、貼付文、集合沈線2.5mm		砂粒	赤褐色～極暗赤褐色
45	胴部、貼付文、集合沈線２mm		白色粒、砂粒	にぶい黄橙色
46	胴部、平行・連続沈線2.5mm	RL	白色粒、砂粒	極暗赤褐色
47	胴部、単沈線或は平行沈線片側使用		白色粒、砂粒	暗褐色～黒褐色
48	胴部、平行沈線2.5mm	不明	砂粒	橙色～にぶい褐色
49	胴部、半截竹管内・外側組み合わせで条線伴う幅６mm		砂粒、白色粒	にぶい赤褐色
50	胴部、平行（連続）沈線３mm		白色粒、砂粒	にぶい赤褐色～暗褐色
51	波状口縁、結節沈線		砂粒	にぶい黄橙色～暗褐色
52	胴部、竹管背面による太沈線を断続施文、３本一組？		砂粒、白色粒	にぶい褐色
53	口辺部、浮線キザミなし、頸部はキザミ	RL	白色粒、砂粒	にぶい黄橙色～暗褐色
54	口辺部、浮線上一部キザミ		砂粒	浅黄橙色～暗褐色
55	胴部、浮線上部分的に縄文施文ＬＲ？		砂粒	浅黄橙色～暗褐色
56	平口縁？、太浮線上半截竹管連続刺突、平行沈線２mm		砂粒	にぶい黄橙色
57	口辺部、結節浮線文、小ボタン貼付文		金雲母多量、砂粒	暗赤褐色
58	胴部、浮線上矢羽根状キザミ	RL	砂粒、白色粒	明赤褐色
59	波状口縁、浮線上半截竹管内側で連続刺突文	RL？	砂粒	にぶい赤褐～にぶい黄橙色
60	胴部、浮線上半截竹管外側（Ｃ字状）で連続刺突文	RL	砂粒	にぶい褐色～黒褐色
61	胴部、浮線上Ｃ字状連続刺突文	RL	砂粒	暗褐色
62	平口縁、凹凸文	LR	砂粒	にぶい赤褐色～暗赤褐色
63	平口縁、ナデ痕明瞭に残す。		白色粒、砂粒	黒褐色

第10表　Ｊ６Ｂ号住居跡出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	平口縁？、集合沈線2.5㎜		白色粒、粗砂	橙色
2	波状口縁、平行沈線４㎜		砂粒	橙色
3	平口縁、貼付文、集合沈線３㎜		砂粒	にぶい赤褐色
4	平口縁、凹凸文、連続沈線3.5㎜		白色粒、砂粒	赤褐色～黒褐色
5	平口縁、貼付文、凹凸文、連続・集合沈線3.5㎜		白色粒、砂粒	黒色
6	平口縁、貼付文、凹凸文、集合・連続沈線２㎜		砂粒	橙色
7	胴部、沈線３本一組５㎜か集合沈線2.5㎜	ＲＬ	砂粒多量	褐色
8	胴部、沈線３本（浅一深一浅）一組８㎜	ＬＲ	白色粒、砂粒	にぶい褐色
9	胴部、連続・集合沈線3.5㎜		粗砂、片岩	橙色
10	胴部、集合沈線２㎜		白色粒、砂粒	にぶい黄褐色
11	平口縁、貼付文、連続沈線２㎜		砂粒	赤褐色
12	胴部，連続沈線（深浅）２㎜一片側見えない部分多い		白色粒，砂粒	にぶい橙色
13	胴部、連続・集合沈線2.5㎜	ＬＲ	粗砂、白色粒	橙色
14	胴部、平行沈線1.5㎜強		砂粒	浅黄橙色
15	胴部下端、集合沈線2.5㎜		白色粒、細砂	褐灰色
16	胴部、小ボタン状貼付文、集合・連続沈線２㎜	多ＲＬ	砂粒	褐灰色
17	胴部、集合沈線2.5㎜		砂粒、片岩	にぶい赤褐色～黒褐色
18	胴部、貼付文、集合沈線3.5㎜		粗砂	橙色
19	胴部、連続・集合沈線２㎜		粗砂、白色粒	にぶい赤褐色～黒褐色
20	胴部、集合沈線２㎜		砂粒	橙色～褐灰色
21	胴部下端、連続・集合沈線２㎜		白色粒、砂粒	暗赤褐色
22	胴部、集合沈線1.5㎜	ＲＬ	粗砂多量	にぶい黄橙色
23	胴部、集合沈線２㎜		砂粒	にぶい橙色
24	胴部、集合沈線1.5㎜	ＲＬ	白色粒、砂粒	にぶい橙色
25	波状口縁、浮線上矢羽根状キザミ、全体的に雑		砂粒	橙～褐色
26	胴部、浮線上縄文施文	ＲＬ	粗砂	浅黄色～灰黄褐色
27	胴部、浮線上キザミ		砂粒	浅黄橙色～にぶい黄褐色
28	胴部、浮線上～器面上矢羽根状キザミ		粗砂	褐灰色～黒色
29	胴部、平行沈線３㎜一縁辺矢羽根状キザミ		砂粒	にぶい黄橙色
30	平口縁？、円形貼付文	ＲＬ	砂粒	にぶい褐色
31	平口縁、口縁端三角状の切り欠き	ＲＬ	砂粒	灰黄褐色
32	胴部、結節浮線	ＲＬ	砂粒	黄橙色
33	胴部	ＬＲ	粗砂	にぶい黄橙色～暗褐色

第11表　Ｊ６Ｃ号住居跡出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	平口縁、貼付文、横長貼付文、連続・集合沈線３㎜		白色粒、砂粒	暗褐色～黒褐色
2	胴部、貼付文、集合沈線２㎜		白色粒	にぶい赤褐色～黒色
3	口辺部、貼付文、連続沈線2.5㎜		白色粒	にぶい橙色
4	胴下半部、屈曲底部、貼付文、集合・連続沈線２㎜	ＲＬ	白色粒、砂粒	明赤褐色
5	胴部、貼付文、集合・連続沈線2.5㎜		粗砂、黒色鉱物	にぶい黄橙色～灰黄褐色
6	胴部下端、屈曲底部、集合沈線1.5㎜		砂粒、赤色粒	明赤褐色
7	平口縁、口縁斜ナデ（指押さえ）・胴部横ナデ痕顕著		白色粒、砂粒	黒褐色
8	平口縁、ケズリ・ナデ		白色粒、砂粒	にぶい褐色～黒褐色
9	底部或は転用浅鉢	ＲＬ	白色粒、粗砂	にぶい黄橙色

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　土	色　調
10	胴部、縦ケズリ・ナデ		白色粒、砂粒	暗褐色
11	底部、連続沈線２㎜		白色粒、粗砂	橙色
12	屈曲底部、集合沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	にぶい黄橙色～暗褐色
13	底部	L	砂粒	にぶい橙色
14	屈曲底部		粗砂	にぶい黄橙色
15	底部		白色粒、粗砂	にぶい黄橙色
16	屈曲底部、集合沈線3.5㎜	RL	白色粒、赤色粒	明赤褐色
17	平口縁、貼付文、連続沈線３㎜		片岩、砂粒	にぶい褐色～にぶい赤褐色
18	平口縁、貼付文、連続沈線２㎜強		粗砂、黒色鉱物	にぶい黄橙色
19	平口縁、貼付文、凹凸文、連続沈線2.5㎜		白色粒多量、砂粒	明赤褐色
20	平口縁、貼付文、凹凸文、集合２㎜、Ｊ８住21と同一		白色粒、砂粒	にぶい橙色～褐灰色
21	平口縁、平行・連続沈線1.5㎜	LR	砂粒、雲母	橙色～暗赤褐色
22	平口縁？、貼付文、連続沈線2.5㎜		砂粒	黒色
23	平口縁、集合沈線2.5㎜		粗砂、赤色粒	にぶい褐色
24	平口縁、凹凸文、連続・集合沈線４㎜		白色粒	明赤褐色
25	平口縁、口唇部連続押圧文、連続沈線1.5㎜		白色粒、砂粒	明赤褐色
26	波状口縁、貼付文、集合沈線２㎜		砂粒	にぶい橙色～暗褐色
27	波状口縁、波頂部２山状、連続沈線２㎜		粗砂	黒色（にぶい黄橙色）
28	波状口縁、集合沈線２㎜	RL	粗砂、白色粒	にぶい黄橙色
29	波状口縁、集合沈線２㎜	R？	粗砂	にぶい橙色
30	平口縁、集合沈線2.5㎜	RL	砂粒	にぶい黄橙～にぶい黄褐色
31	大波状口縁把手部？、集合沈線２㎜		砂粒	黄橙色
32	波状口縁或は平口縁で突起、連続沈線3.5㎜	LR	砂粒	赤褐色
33	胴部、連続・平行沈線３㎜		砂粒	にぶい黄橙色～橙色
34	胴部、貼付文、集合沈線３㎜		砂粒	黒褐色（橙色）
35	胴部下端、貼付文、集合・連続2.5㎜・3.5㎜（横帯）		砂粒	暗赤褐色（にぶい赤褐色）
36	胴部、集合・連続沈線３㎜		砂粒	にぶい赤褐色
37	胴部、連続沈線２㎜		粗砂	にぶい黄橙色
38	胴部、貼付文、集合・連続沈線３㎜		砂粒	にぶい赤褐色
39	胴部、集合沈線２㎜		砂粒	にぶい黄橙色
40	口辺部、平行沈線2.5㎜、沈線間に連続刺突文	L？	白色粒、砂粒	にぶい赤褐色～黒褐色
41	口辺部、貼付文、凹凸文、集合沈線３㎜、45と同一		粗砂多量、白色粒	暗褐色～黒褐色
42	平口縁、貼付文、連続刺突文、集合沈線２㎜		砂粒	にぶい赤褐色
43	平口縁、縦キザミ状連続沈線2.5㎜、結節沈線３㎜		砂粒	浅黄橙色～黒褐色
44	胴部、貝殻文？		砂粒	にぶい黄橙色～褐色
45	胴部、凹凸文、貼付文、集合沈線３㎜、41と同一個体		粗砂	黒色
46	胴部下端、棒状貼付上連続刺突文、凹凸文、集合２㎜		白色粒、砂粒	暗赤褐色～明赤褐色
47	平口縁、凹凸文、斜位単沈線？		粗砂、白色粒	褐灰色～黒色
48	平口縁、貼付文、凹凸文	L	白色粒、細砂	褐色
49	波状口縁、浮線上矢羽根状キザミ・同方向キザミ	L？	砂粒	浅黄橙色～黒褐色
50	胴部、浮線上キザミ	RL	粗砂、白色粒、石英、雲母	明赤褐色～褐色
51	胴部、浮線上疎らにキザミ・L縄		砂粒	浅黄橙色～にぶい黄橙色
52	胴部	絡条体	白色粒、粗砂	暗赤褐色～黒褐色
53	胴部	L	粗砂	にぶい橙色
54	胴部、縦ヘラケズリ		粗砂、白色粒	橙色～黒褐色
55	胴部、粗い縦ミガキ		砂粒	灰白色～暗褐色

第12表　Ｊ７号住居跡出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	平口縁、貼付文、集合沈線3.5mm		粗砂多量	橙～暗褐色
2	平口縁、貼付文、集合沈線2.5mm		赤色粒、細砂	浅黄橙～暗赤褐色
3	平口縁、貝殻文		赤色粒、砂粒	にぶい橙～暗赤褐色
4	平口縁、貝殻文、口唇部キザミ		細砂	浅黄橙
5	平口縁、横方向ナデ痕		赤・白色粒、砂粒	にぶい橙～暗褐色
6	胴部下端、屈曲底部、集合沈線2.5mm		砂粒、片岩	浅黄橙色
7	土偶？、集合沈線２mm、円形陰刻文		粗砂	浅黄橙色
8	波状口縁、平行沈線５本一組11mm		赤・白色粒、石英	浅黄橙色
9	波状口縁、連続沈線2.5mm	L	白色粒、石英	黒褐色
10	平口縁、口縁部肥厚、貼付文、集合沈線２mm		砂粒多量	にぶい赤褐色
11	波状口縁靴先状、貼付文、集合沈線1.5mm		白色粒、粗砂	橙～褐灰色
12	波状口縁、連続沈線1.5mm	ＲＬ	白色粒、砂粒	にぶい橙～暗褐色
13	波状口縁、平行・連続沈線３mm	L	赤・白色粒、砂粒	にぶい橙～暗赤褐色
14	波状口縁、波頂部切り欠き、円錐形貼付文、連続沈線1.5mm強（口縁部）、3.5mm（胴部）	ＲＬ	砂粒	にぶい赤褐色～暗赤褐色
15	波状口縁、連続沈線２mm	L	白色粒、砂粒	にぶい赤褐色～暗赤褐色
16	波状口縁、集合沈線３mm		砂粒	にぶい赤褐色
17	大波状口縁の一部？、集合沈線２mm		白・赤色粒、砂粒	橙色
18	波状口縁、波頂切り欠き、連続沈線（深浅）２mm	ＲＬ	赤色粒	にぶい橙色
19	内折波状口縁？、集合沈線3.5mm		白色粒、砂粒	暗赤褐色
20	内折波状口縁、平行沈線2.5mm		赤色粒、砂粒	にぶい黄橙色
21	平口縁か内折波状口縁、凹凸文、連続沈線２mm		砂粒	橙～暗赤褐色
22	平口縁、貼付文、凹凸文、集合沈線２mm		砂粒	にぶい赤褐色
23	平口縁、凹凸文、集合・連続沈線3.5mm		白色粒、砂粒	にぶい赤褐色
24	平口縁、凹凸文、貼付文上も含め集合沈線２mm		白色粒	暗赤褐色
25	平口縁、凹凸文、集合沈線２mm		砂粒	にぶい褐色
26	平口縁、凹凸文	L	粗砂、雲母	にぶい橙色
27	平口縁、凹凸文、連続沈線２mm		赤色粒、砂粒	浅黄橙～暗褐色
28	胴部、集合・連続沈線２mm	ＲＬ	粗砂	浅黄橙～にぶい黄橙色
29	胴部、平行・連続沈線2.5mm	附加条	砂粒	にぶい褐～黒褐色
30	胴部、凹凸文、集合沈線2.5mm		砂粒	にぶい黄橙色
31	平口縁、凹凸文	ＬＲ	白色粒、砂粒	にぶい赤褐色
32	口辺部、平行沈線２～３mm或は３本一組８mm	Ｌ？	砂粒、石英	淡黄色～褐灰色
33	胴部、連続沈線2.5mm		粗砂多量	橙～暗褐色
34	胴部、連続沈線2.5mm		白・赤色粒、砂粒	暗褐色～褐灰色
35	口辺部、平行沈線3.5mm	不明	砂粒	にぶい黄橙色
36	胴部、連続沈線3.5mm	ＬＲ	白色粒、砂粒	黒褐色
37	胴部、貼付文、集合沈線３mm		白・赤色粒、砂粒	黒褐色
38	胴部下端、貼付文、集合沈線2.5mm		砂粒	橙色～黒色
39	胴部、貼付文、集合沈線2.5mm		赤色粒、白色粒	暗褐色
40	平口縁、貼付文、集合・連続沈線2.5mm		赤色粒、白色粒	浅黄橙色
41	平口縁、貼付文、連続・集合沈線2.5mm		砂粒	にぶい橙色
42	平口縁、横長棒状貼付文上に刺突、集合沈線2.5mm		白色粒	橙色～暗褐色
43	平口縁、貼付文、集合沈線２mm		石英、砂粒	にぶい橙色
44	平口縁、貼付文、連続沈線２mm		細砂	にぶい黄橙色
45	平口縁、貼付文、集合沈線？４mm		粗砂多量	橙色
46	平口縁、横長貼付文、集合・連続沈線2.5mm		粗砂	橙色
47	平口縁、貼付文、連続沈線？３mm		白色粒、砂粒	にぶい赤褐色～暗褐色
48	平口縁、貼付文、集合沈線３mm		砂粒多量	橙色～にぶい褐色
49	平口縁、浮線上矢羽根状キザミ、52と同一個体		白色粒	赤褐色

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
50	波状口縁、浮線上矢羽根状キザミ		砂粒	にぶい黄橙色～黒褐色
51	平口縁、単沈線・口唇部平行沈線、沈線縁辺キザミ	L	砂粒	にぶい黄橙色
52	胴部、浮線上（矢羽根状）キザミ		白色粒、砂粒	暗赤褐色
53	胴部、浮線文キザミなし		砂粒	にぶい黄橙色～橙色
54	波状口縁、浮線上C字刺突　　地文平行沈線２㎜	←	白色粒、砂粒	明赤褐色
55	平口縁、浮線上竹管刺突　　地文横集合沈線３㎜	←	白色粒、砂粒	浅黄橙色
56	胴部、結節浮線文、小ボタン状貼付文		砂粒	褐色
57	胴部、平行沈線2.5㎜	L？	砂粒	にぶい橙色～黒褐色
58	胴部、平行沈線（深浅）2.5㎜		細砂粒	黒褐色
59	底部、平行・連続沈線２㎜	L	白色粒、砂粒	明赤褐色
60	底部、平行・連続沈線２㎜	LR	赤色粒	浅黄橙色～橙色
61	底部、集合沈線２㎜	RL	粗砂、雲母	にぶい黄橙色
62	底部、連続沈線1.5㎜		粗砂多量	橙～暗褐色
63	底部、小ボタン状貼付文、集合沈線２㎜		白色粒、砂粒	浅黄橙色
64	胴部	RL	細砂粒	橙～浅黄橙色
65	胴部	RL	赤色粒多量、砂粒	橙色
66	底部	多RL	白色粒、砂粒	淡黄色
67	胴部	RL	白色粒、砂粒、繊維	橙色～暗褐色

第13表　Ｊ８号住居跡出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	小波状口縁、円形貼付文、平行沈線３㎜	？	白色粒多量、砂粒	にぶい赤褐色～黒褐色
2	胴部、連続・集合沈線３㎜		粗砂多量、片岩	にぶい褐色～にぶい赤褐色
3	胴部、連続沈線２㎜	R	粗砂多量	にぶい橙色～赤褐色
4	胴部、τ縄？側面圧痕の連続施文（平行沈線状）	RL	砂粒、赤・黒色粒	にぶい赤褐色
5	胴部、連続沈線3.5㎜		砂粒、石英	淡黄色～褐色
6	胴部	異束L	粗砂多量、繊維極少	にぶい橙色
7	胴部下半～底部、連続沈線３㎜	LR	白色粒	橙色
8	底部、連続沈線２㎜	L	砂粒	にぶい褐色
9	胴部下端、集合・連続沈線２㎜		白色粒、砂粒	橙色～にぶい褐色
10	底部　　LRと多条R	←	白色粒、砂粒	暗褐色
11	胴部下端		砂粒	淡黄色
12	屈曲底部、集合沈線2.5㎜	？	白色粒、砂粒	にぶい黄橙色～暗褐色
13	屈曲底部、連続沈線2.5㎜	RL	砂粒	にぶい橙色
14	底部		赤・白色粒、細砂	淡黄色
15	底部		細砂	橙色
16	浅鉢、体部下半		白色粒、砂粒	黒褐色～黒色
17	浅鉢、体部下半		白色粒、雲母	極暗赤褐色
18	ミニチュア土器、貼付文		細砂	橙色
19	平口縁、豆粒状貼付文密貼、平行・連続沈線1.5㎜	L	白色粒、砂粒	にぶい橙色～黒褐色
20	小波状口縁、連続沈線2.5㎜	LR	砂粒	橙色～にぶい褐色
21	平口縁、屈曲底部、貼付文、凹凸文、集合沈線2.5㎜		粗砂、白・赤色粒	にぶい橙色
22	頸部、集合沈線３㎜		粗砂、赤色粒	橙色
23	頸部、連続・集合沈線３㎜		白・赤色粒、石英	暗褐色
24	胴部下半、集合沈線４㎜		赤色粒、砂粒	にぶい橙色～暗褐色
25	胴部、連続沈線２㎜		粗砂多量	淡黄色～にぶい黄橙色
26	胴部、貼付文、連続沈線２㎜		粗砂、白色粒	橙色～にぶい褐色
27	胴部、貼付文、平行・連続沈線２㎜		粗砂、雲母	橙色～にぶい赤褐色
28	胴部、集合・連続沈線1.5㎜		赤色粒	浅黄橙色～褐灰色

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　土	色　調
29	胴部下半、貼付文、集合・連続沈線２㎜		粗砂	浅黄橙色～にぶい黄褐色
30	胴部下端、屈曲底部、集合沈線2.5㎜		粗砂多量	橙色
31	底部、連続・集合沈線2.5㎜		砂粒、黒色鉱物	赤褐色
32	底部、集合・連続沈線2.5㎜		白色粒多量、砂粒	暗赤褐色
33	波状口縁靴先状、沈線４本一組8.5㎜（幅3-3-2.5㎜）	ＲＬ	白色粒、砂粒	にぶい黄橙色～黒褐色
34	波状口縁靴先状、沈線４本一組８㎜	ＲＬ	砂粒多量	にぶい黄橙色～黒褐色
35	波状口縁靴先状、連続沈線２㎜	Ｌ	白色粒、砂粒	にぶい褐色～にぶい赤褐色
36	波状口縁靴先状、平行沈線3.5㎜	ＲＬ	白色粒、砂粒	にぶい褐色
37	小波状口縁、円形貼付文、沈線４本一組10.5㎜		砂粒	暗赤褐色
38	波状口縁、平行沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	橙色～黒褐色
39	波状口縁靴先状、集合・連続沈線2.5㎜	ＲＬ？	砂粒、黒色鉱物	橙色
40	波状口縁、連続沈線1.5㎜強	Ｌ	白・赤色粒、砂粒	橙色～暗赤褐色
41	大波状口縁、連続沈線３㎜	Ｌ	白色粒、砂粒	赤～暗赤褐色
42	小波状口縁、平行沈線2.5㎜		砂粒	橙色～にぶい褐色
43	平口縁？、連続沈線２㎜		白色粒、砂粒	赤褐色
44	波状口縁、集合沈線2.5㎜（胴部）と3.5㎜（口縁部）		粗砂多量	橙色～暗赤褐色
45	小波状口縁、平行・連続沈線3.5㎜		白色粒、砂粒	にぶい橙色～暗赤褐色
46	口辺部、波状口縁靴先状、連続・集合沈線２㎜		粗砂	にぶい褐色
47	口辺部、波状口縁靴先状、平行沈線2.5㎜		砂粒	褐色
48	小波状口縁、３本一組６㎜	Ｌ	砂粒、白色粒	灰褐色
49	小波状口縁、波頂部切り欠き、平行沈線２㎜	ＲＬ	砂粒多量	橙色
50	小波状口縁、円形貼付文、連続沈線２㎜	ＲＬ	白色粒、雲母	にぶい褐色
51	小波状口縁、連続沈線２㎜	ＬＲ	粗砂、赤色粒	にぶい黄橙色～にぶい褐色
52	小波状口縁、平行沈線２㎜		白色粒、砂粒	橙色～暗褐色
53	平口縁、連続沈線２㎜		白・赤色粒、砂粒	にぶい赤褐色～黒褐色
54	小波状口縁、平行沈線３㎜	Ｌ	砂粒	浅黄橙色～黒褐色
55	小波状口縁、平行沈線3.5㎜	ＲＬ	白色粒多量、粗砂	明赤褐色～褐灰色
56	波状口縁、平行沈線２㎜	Ｌ	白色粒	暗赤褐色
57	胴部、集合沈線２㎜	ＲＬ	粗砂多量	にぶい橙色～橙色
58	胴部、連続沈線３㎜	Ｌ	白色粒、砂粒	明赤褐色
59	胴部、平行・集合沈線1.5㎜強	ＲＬ	粗砂	にぶい赤褐色
60	胴部、平行沈線2.5㎜と単沈線？間隔４㎜	ＲＬ	砂粒	明黄褐色～にぶい赤褐色
61	胴部、集合沈線２㎜と平行沈線３㎜	多ＬＲ	白色粒、雲母、砂粒	にぶい橙色
62	胴部、連続沈線２㎜	Ｌ	白色粒、砂粒	にぶい橙色～橙色
63	胴部、集合沈線2.5㎜	Ｌ	粗砂	浅黄橙色
64	胴部、集合沈線2.5㎜	ＲＬ	砂粒，赤色粒	赤褐色～にぶい赤褐色
65	胴部、集合・連続沈線2.5㎜	ＲＬ	砂、白色粒、金雲母	浅黄橙色～褐色
66	胴部、集合沈線３㎜	ＲＬ縦	白色粒、粗砂	極暗赤褐色
67	胴部、集合・連続沈線３㎜	ＲＬ	白色粒、砂粒	極暗褐色～黒褐色
68	胴部、集合・平行沈線2.5㎜	ＲＬ	砂粒、赤色粒	淡黄色
69	胴部、連続・集合沈線３㎜	絡状体	粗砂、白色粒	暗褐色
70	胴部、連続沈線2.5㎜		砂粒	にぶい赤褐色
71	胴部、連続・集合沈線2.5㎜		白色粒	にぶい赤褐色～黒褐色
72	胴部、連続沈線２㎜		赤色粒、細砂	黒褐色～にぶい黄橙色
73	胴部、連続沈線2.5～３㎜　ＲＬと附加条	←	白色粒	暗褐色～にぶい橙色
74	胴部、集合沈線1.5㎜	ＲＬ	粗砂	にぶい黄橙色～黒褐色
75	胴部、連続沈線３㎜	Ｌ	砂粒	橙色～にぶい橙色
76	胴部、深さ不揃いの６本一組の沈線（条線）９㎜	Ｒ？	黒色鉱物、砂粒	にぶい橙色
77	胴部、連続・集合沈線2.5㎜	ＲＬ	白色粒、砂粒	にぶい黄橙色～褐灰色
78	胴部、平行沈線５㎜	Ｒ縦	赤色粒、砂粒	にぶい黄橙色～黒褐色
79	内折波状口縁、集合沈線2.5㎜　Ｊ６Ａ住19と同一？		白色粒、砂粒	黒褐色

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　土	色　調
80	平口縁？、連続沈線1.5mm		白色粒、粗砂	橙色
81	波状口縁、平行・連続沈線2.5mm	L	砂粒、赤色粒	にぶい褐色
82	波状口縁、波頂部切り欠き３山状、連続沈線1.5mm	RL	赤色粒、細砂	淡黄色
83	平口縁、連続沈線２mm		白色粒、砂粒	赤褐色
84	平口縁、口唇部キザミ、平行・連続沈線2.5mm	L	白色粒多量、砂粒	橙色
85	平口縁、平行沈線２mm或は４本一組6.5mm	RL	白色粒、砂粒	橙色～にぶい黄褐色
86	波状口縁、集合・連続沈線２mm		砂粒	暗褐色
87	平口縁、平行・連続沈線3.5mm		白色粒、粗砂	極暗赤褐色
88	平口縁、浅い連続沈線２mm		砂粒	灰褐色
89	平口縁、平行・連続沈線1.5mm		白色粒、細砂	明赤褐色
90	波状口縁、凹凸文、連続沈線２mm		白色粒、砂粒	にぶい赤褐色
91	平口縁、凹凸文、集合沈線２mm		砂粒	橙色
92	平口縁、凹凸文、連続沈線２mm		白・赤色粒、雲母	赤褐色
93	平口縁、凹凸文、集合沈線２mm		白色粒、細砂	橙色
94	平口縁、連続沈線2.5mm		白色粒、粗砂	にぶい橙色
95	平口縁、凹凸文、集合沈線４mm		粗砂	にぶい黄橙色
96	平口縁、凹凸文		金雲母、粗砂	暗褐色
97	平口縁、貼付文、凹凸文、連続沈線2.5mm		砂粒	にぶい赤褐色
98	平口縁、貼付文、凹凸文、集合・連続沈線2.5mm		赤色粒、砂粒	にぶい褐色
99	平口縁、内外面口縁端に凹凸文、連続沈線2.5mm		白色粒、砂粒	暗赤褐色～にぶい橙色
100	平口縁、凹凸文		白色粒、砂粒	褐灰色
101	平口縁、キザミ、貝殻文？		白色粒、砂粒	にぶい褐色
102	平口縁、凹凸文、集合沈線３mm		白粒、粗砂、黒鉱物	にぶい黄橙色
103	胴部、凹凸文　　105・Ｊ６Ａ号住２と同一		砂粒	黒褐色
104	胴部、凹凸文、集合沈線２mm弱		白色粒	黒色～暗褐色
105	平口縁、凹凸文　　103・Ｊ６Ａ号住２と同一		砂粒	黒褐色
106	胴部、連続沈線３mm		粗砂、片岩	にぶい暗褐色
107	胴部、集合沈線2.5mm		赤・白色粒、砂粒	橙色～暗褐色
108	胴部、連続沈線３mm		白色粒、砂粒	橙色
109	胴部下端、連続・集合沈線3.5mm？		白色粒、砂粒	橙色
110	平口縁、貼付文、凹凸文、集合・連続沈線2.5mm		白色粒、砂粒	にぶい赤褐色
111	平口縁、貼付文、集合・連続沈線３mm		石英、白色粒	赤褐色
112	平口縁、貼付文、連続・集合沈線３mm		雲母、砂粒	にぶい赤褐色
113	波状口縁、平行沈線（深浅）２mm、貼付文剝落		砂粒	にぶい黄橙色
114	平口縁、貼付文、連続・集合沈線2.5mm		白色粒、砂粒	浅黄橙色～橙色
115	平口縁、貼付文、連続沈線（深浅）2.5mm		赤色粒、砂粒	淡黄色
116	平口縁、貼付文、集合・連続沈線３mm		粗砂	橙色
117	平口縁、貼付文、連続沈線（深浅）2.5mm		白色粒、黒色鉱物	橙色
118	平口縁、横長貼付文上結節沈線状刺突文2.5mm		白・赤色粒多量	にぶい褐色
119	平口縁、貼付文、連続沈線2.5mm		粗砂多量	浅黄色
120	平口縁、貼付文、集合沈線４mm		赤色粒、粗砂	淡黄色～にぶい黄橙色
121	平口縁、貼付文、連続沈線1.5mm		砂粒	にぶい褐色～淡黄色
122	胴部、貼付文、集合沈線２mm		白色粒、黒色鉱物	浅黄色～橙色
123	胴部、貼付文、集合沈線2.5mm		白色粒	にぶい褐色
124	小波状口縁、平行沈線３mm		白色粒、細砂	明赤褐色
125	胴部、集合沈線３mm（横帯文）、2.5mm（縦区画）		粗砂	にぶい褐色
126	胴部、連続沈線2.5mm		粗砂多量	橙色
127	胴部、集合沈線３mm		赤色粒、細砂	浅黄橙色～橙色
128	胴部、連続沈線２mm		粗砂多、赤、金雲母	にぶい褐色
129	胴部、連続・集合沈線1.5mm		砂粒、白色粒	暗褐色
130	胴部、集合・連続沈線2.5mm		白色粒、砂粒	にぶい黄褐色～黒色

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
131	胴部、平行沈線２㎜と2.5㎜混用か？		粗砂	暗赤褐色
132	胴部、連続・集合沈線２㎜		砂粒	黒色
133	胴部、集合沈線２㎜		砂粒	淡黄色
134	胴部、連続・集合沈線２㎜		赤色粒、砂粒	暗赤褐色
135	胴部、集合沈線２㎜		赤色粒、砂粒	にぶい橙色
136	胴部、連続沈線2.5㎜		砂粒	浅黄橙色～橙色
137	胴部、連続沈線2.5㎜		砂粒	極暗赤褐色
138	胴部、貼付文、連続・集合沈線3.5㎜		粗砂、片岩	浅黄橙色
139	胴部、貼付文、集合沈線３㎜		赤色粒、砂粒	にぶい黄橙色
140	胴部、貼付文、集合・連続沈線3.5㎜		赤色粒、粗砂、片岩	浅黄橙色
141	胴部、貼付文、集合・連続沈線3.5㎜		砂粒多量、雲母	淡黄色～暗褐色
142	胴部、貼付文、集合沈線3.5㎜		砂粒多量	極暗褐色
143	胴部、貼付文、連続・平行沈線2.5㎜		砂粒	浅黄橙色
144	胴部下端、貼付文、連続沈線3.5㎜		白色粒、粗砂、石英	橙色～にぶい黄橙色
145	胴部、集合・連続沈線３㎜		白色粒、砂粒	橙色
146	胴部、小ボタン貼付文、連続沈線2.5㎜		雲母、白色粒	にぶい橙色～褐灰色
147	胴部、貼付文、集合・連続沈線2.5㎜		赤色粒、細砂	淡黄色～橙色
148	胴部、小ボタン貼付文、集合・連続沈線３㎜		砂粒、金雲母	極暗赤褐色
149	胴部、小ボタン貼付文、集合・平行沈線2.5㎜	ＲＬ	白色粒、砂粒少量	にぶい黄橙色～暗褐色
150	胴部、平行沈線2.5㎜と単沈線	Ｌ	白色粒、砂粒	暗赤褐色
151	胴部下端、集合・連続沈線2.5㎜		粗砂多量	浅黄橙色～橙色
152	胴部、集合沈線２㎜		白色粒、砂粒、雲母	浅黄橙色
153	胴部下端、集合沈線２㎜		粗砂、赤色粒	橙色
154	胴部、集合沈線2.5㎜		赤色粒、砂粒	淡黄色
155	胴部、貼付文、集合沈線２㎜強、斜格子は平行沈線		赤・白色粒、砂粒	にぶい橙色～赤褐色
156	胴部、連続沈線2.5㎜	ＲＬ	白色粒、砂粒	暗赤褐色
157	胴部、集合沈線２㎜		砂粒	暗褐色
158	胴部下端、平行・連続2.5㎜	Ｌ？	砂粒、赤色粒	暗褐色
159	胴部、連続沈線1.5㎜	ＲＬ	白色粒、砂粒	にぶい赤褐色
160	波状口縁靴先状、貼付文、浮線文キザミ		白色粒、砂粒	淡黄色～褐灰色
161	平口縁？、浮線上矢羽根状キザミ、浮線の色は淡黄色	ＬＲ	赤色粒、砂粒	にぶい橙色～褐色
162	平口縁、浮線上キザミ、浮線外縁辺にもキザミ		砂粒	にぶい黄橙色～灰褐色
163	平口縁、浮線文、キザミは疎ら、脚部か？		粗砂	橙色
164	波状口縁、小ボタン貼付文上と浮線上に雑なキザミ		砂粒	黒褐色（にぶい黄橙色）
165	口辺部、浮線上矢羽根状キザミ	ＲＬ	赤色粒、砂粒	極暗赤褐色
166	胴部、浮線上矢羽根状キザミ	ＲＬ	白色粒、砂粒	にぶい黄橙色～褐灰色
167	胴部、浮線上矢羽根状キザミ	ＲＬ	白色粒、砂粒	にぶい赤褐色
168	口辺部、浮線上矢羽根状キザミ		砂粒、白色粒	浅黄橙色
169	胴部、浮線上矢羽根状キザミ、地文ＲＬ－Ｌで羽状	←	砂粒、石英	暗赤褐色
170	胴部、横帯文は浮線上矢羽根状、頸部はキザミなし		砂粒	褐灰色
171	胴部、浮線上一方向キザミ	Ｌ？	砂粒	浅黄橙色
172	波状口縁、結節浮線文、小ボタン状貼付文		金雲母多量、砂粒	にぶい赤褐色
173	平口縁、口唇・口縁部集合沈線状縦キザミ、三角陰刻		砂粒	黒褐色
174	胴部、平行沈線４㎜、沈線内に疎らに刺突文	Ｌ	砂粒	浅黄橙色～橙色
175	胴部、平行沈線５㎜、沈線間に連続刺突文	ＲＬ	白色粒、砂粒	にぶい褐色
176	胴部、貝殻文、平行沈線３㎜		細砂、雲母	にぶい橙色
177	小型土器、平口縁、集合沈線２㎜		白色粒、雲母	明赤褐色
178	胴部、連続沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	にぶい赤褐色
179	胴部、平行沈線４㎜と単沈線？	Ｌ	白粒、砂粒、黒鉱物	にぶい橙色
180	胴部、沈線３本一組（浅－深－浅）７㎜		砂粒多量、赤色粒	暗褐色
181	胴部、連続沈線2.5㎜　地文Ｌ－Ｒ羽状？	←	白色粒、砂粒	にぶい橙色

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　土	色　調
182	胴部、連続沈線２㎜弱	L	白・赤色粒、石英	橙色
183	胴部、平行・連続３㎜	L？	砂粒	にぶい褐色～黒褐色
184	胴部、連続・集合２㎜	R	白色粒、砂粒	暗褐色
185	胴部、平行・集合３㎜	L？	白色粒、粗砂、雲母	橙色
186	胴部、集合沈線３㎜	RL	白色粒、砂粒	黒褐色
187	胴部、連続沈線２㎜、横帯文2.5㎜		白色粒、砂粒	暗褐色
188	胴部、連続沈線2.5㎜		砂粒、白色粒	にぶい褐色
189	胴部、連続沈線２㎜弱	LR？	砂粒	浅黄橙色
190	平口縁	RL	砂粒、繊維	にぶい橙色
191	平口縁	RL	砂粒、雲母	にぶい橙色
192	平口縁	LR	白色粒、砂粒	にぶい褐色
193	平口縁	L	白色粒多量、砂粒	極暗褐色～黒褐色
194	平口縁	L	白色粒、砂粒	明赤褐色
195	平口縁	L	白色粒、砂粒	暗褐色～黒褐色
196	平口縁	L	白・赤色粒	褐灰色～黒色
197	胴部	多LR	細砂	にぶい黄橙色
198	平口縁	RL	砂粒	にぶい褐色
199	胴部	L	白色粒、細砂	淡黄色
200	胴部	R？	白色粒、砂粒	にぶい赤褐色
201	平口縁、凹凸文	LR	砂粒	にぶい橙色
202	平口縁、凹凸文	L	赤色粒、砂粒	にぶい赤褐色
203	平口縁、貼付文　LR－RL羽状か？	←	白色粒、砂粒	にぶい赤褐色～黒褐色
204	胴部下端	L	砂粒	にぶい褐色
205	底部　下位L・上位LR？	←	砂粒	にぶい橙色
206	底部	RL	砂粒、繊維極少	にぶい黄橙色
207	平口縁		赤・白色粒、砂粒	暗赤褐色～黒褐色色
208	平口縁		白色・砂粒多量	淡黄色～にぶい褐色
209	平口縁		白色粒、砂粒	黒褐色
210	小波状口縁、横方向ナデ痕顕著		白色粒、砂粒	暗褐色
211	底部、荒いナデ		白色粒、砂粒	橙色～明赤褐色
212	浅鉢、体部、単沈線間キザミ		金雲母、白色粒	にぶい赤色粒褐色
213	浅鉢、円孔		砂粒、金雲母	赤褐色
214	浅鉢、円孔		金雲母多、赤・白粒	赤褐色
215	浅鉢、円孔		金雲母多量、赤色粒	にぶい赤褐色
216	浅鉢、体部		金雲母多量、砂粒	にぶい赤褐色
217	浅鉢、円孔、赤色塗彩		金雲母多、白・砂粒	橙色～黒褐色

第14表　ＡＪ１Ａ号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　土	色　調
1	平口縁、貼付文、凹凸文、屈曲底、連続・集合2.5㎜		白色粒、砂粒	明赤褐色～にぶい赤褐色
2	浅鉢、円孔、丁寧な横方向のミガキ		赤色粒、砂粒	浅黄橙色
3	屈曲底部、貼付文、連続・集合沈線２㎜		赤色粒、砂粒	にぶい黄橙色
4	底部、貼付文、集合沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	暗赤褐色
5	胴部、集合・連続沈線２～2.5㎜		砂粒	にぶい橙～橙色
6	平口縁、貼付文、連続・平行沈線3.5㎜		白色粒、砂粒	黒褐色
7	平口縁、貼付文、連続沈線（深浅）２㎜		白色粒	にぶい橙色
8	平口縁、貼付文、集合沈線2㎜		砂粒	にぶい橙色
9	平口縁、貼付文（コーヒー豆状、滑車状）、連続２㎜		白色粒	にぶい黄橙色

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
10	平口縁、貼付文、連続沈線２㎜		白・赤色粒	橙色～黒褐色
11	平口縁、横棒状貼付文上Ｃ字刺突、凹凸文、連続2㎜		白色粒	黒褐色～橙色
12	平口縁、貼付文、連続沈線2.5㎜		砂粒、白色粒	黒色（にぶい橙色）
13	平口縁？、貼付文、凹凸文	ＲＬ	赤・白色粒	極暗赤褐色～黒褐色
14	平口縁、貼付文、集合・連続沈線３㎜		粗砂、赤色粒	橙色～暗褐色
15	波状口縁、連続沈線２㎜	Ｌ	白色粒、砂粒	暗褐色
16	平口縁、連続沈線２㎜　　21・22と同一個体		白色粒、砂粒、石英	にぶい橙色
17	平口縁、キザミ、平行沈線２㎜（部分的に片側使用）	Ｌ	白色粒、細砂	にぶい黄橙色
18	平口縁、連続沈線2.5㎜		白色粒	暗赤褐色
19	胴部、平行沈線３㎜		白色粒、砂粒	浅黄橙色～黒色
20	胴部、貼付文、集合沈線２㎜		粗砂多量	にぶい黄橙色
21	胴部、連続沈線２㎜　　16・22と同一個体		白色粒、砂粒、石英	にぶい橙色
22	胴部、連続沈線２㎜　　16・21と同　個体		白色粒、砂粒、石英	にぶい橙色
23	胴部、丁寧な集合沈線２㎜		白・赤色粒、砂粒	にぶい黄橙色～赤褐色
24	胴部、集合・連続沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	暗褐色
25	胴部、沈線内に連続刺突文を伴う平行沈線３㎜	ＬＲ？	粗砂	にぶい褐色～橙色
26	胴部下端、貼付文、連続（横帯文）・集合沈線2.5㎜		白色粒	明赤褐色～橙色
27	胴部、集合・連続沈線2.5㎜		砂粒	にぶい赤褐色
28	胴部、集合・平行沈線2.5㎜		褐色、砂粒	にぶい褐色
29	胴部下端、集合・連続沈線2.5㎜		白色粒、粗砂	にぶい黄橙色
30	胴部下端、連続沈線1.5㎜		白色粒、砂粒	褐灰色～黒色
31	胴部	Ｌ	白色粒、砂粒	にぶい赤褐色
32	胴部、	多ＲＬ	砂粒	淡黄色
33	浅鉢、円孔		砂粒	にぶい赤色粒褐色
34	底部　　平行沈線一部残る		砂粒	にぶい橙色

第15表　ＡＪ２号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	浅鉢、小波状口縁、平行・連続沈線３㎜		粗砂、赤・白色粒	にぶい赤褐色
2	胴部、連続沈線３㎜	Ｌ	粗砂多量	黄橙色～浅黄橙色
3	胴下半部～底部		砂粒	浅黄色～橙色
4	波状口縁、平行沈線2.5㎜	Ｌ	白色粒、砂粒	明赤褐色
5	波状口縁、連続沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	暗褐色
6	波状口縁、連続沈線２㎜		砂粒	にぶい黄橙色
7	胴部、連続沈線2.5㎜	Ｌ	砂粒	にぶい橙色～暗褐色
8	胴部、平行・連続沈線３㎜	Ｌ？	赤色粒、砂粒	淡黄色
9	胴部、平行沈線3.5㎜	Ｌ	白色粒、砂粒	にぶい橙色
10	胴部、ごく浅い連続沈線３㎜		白色粒、砂粒	暗褐色
11	胴部、平行沈線3.5㎜と沈線４本一組７㎜	Ｌ	白色粒、砂粒	にぶい褐色
12	胴部、浅い連続沈線３㎜と深い単沈線？	Ｌ	白色粒、砂粒	暗赤褐色
13	胴部、平行・集合沈線1.5㎜	Ｌ	粗砂	浅黄橙色
14	胴部下端、集合沈線２㎜	ＲＬ	粗砂	暗褐色
15	平口縁	附加条	白色粒、細砂、石英	暗赤褐色
16	平口縁	ＲＬ	砂粒	浅黄橙色
17	胴部、平行沈線縁辺キザミ	ＬＲ？	白色粒、砂粒	にぶい褐色
18	胴部、浮線上キザミ、浮線間刺突文	Ｌ？	砂粒、白色粒	黒褐色
19	平口縁	ＲＬ	砂粒	淡黄色
20	胴部	多ＲＬ	白色粒、砂粒	暗赤褐色

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　土	色　調
21	胴部	RL	粗砂	極暗赤褐色
22	浅鉢、体部		白色粒、粗砂	にぶい褐色
23	浅鉢、円孔		金雲母、砂粒	にぶい赤褐色～黒色

第16表　ＡＪ３号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　土	色　調
1	波状口縁靴先状、波頂部粘土折り返し、連続沈線４㎜	RL？	白色粒	褐色
2	胴部、粗い沈線？　３と同一個体		粗砂、白色粒	褐色
3	胴部、不鮮明な平行沈線　２と同一個体		粗砂、白色粒	赤褐色
4	口辺部、浮線上矢羽根状キザミ　５・６・８と同一	RL	粗砂	にぶい黄橙色
5	胴部、浮線上矢羽根状キザミ　４・６・８と同一	RL	粗砂	浅黄色～灰黄褐色
6	胴部、浮線上矢羽根状キザミ　４・５・８と同一	RL	粗砂	浅黄色～灰黄褐色
7	胴部、浮線上矢羽根状キザミ	RL	白色粒多量、粗砂	灰黄褐色～黒褐色
8	胴部、浮線上矢羽根状キザミ　４・５・６と同一	RL	粗砂	にぶい黄橙色

第17表　ＡＪ６号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　土	色　調
1	平口縁、横方向ナデ痕顕著		白色粒、砂粒	暗褐色
2	平口縁、横方向ナデ痕顕著		白色粒、砂粒	極暗赤褐色～黒褐色
3	平口縁、口縁部横方向ナデ痕顕著、胴部縦ケズリ		白色粒、砂粒	にぶい赤褐色～暗褐色
4	胴部、連続沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	暗赤褐色～黒褐色
5	胴部	RL	白色粒、砂粒	橙色

第18表　ＡＪ７号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　土	色　調
1	胴部、貼付文、集合・連続沈線2.5㎜		砂粒	にぶい橙色
2	胴部、貼付文、集合・連続沈線2.5㎜弱		赤色粒多量、砂粒	淡黄色
3	胴部、貼付文、集合沈線２㎜		砂粒	暗褐色
4	胴部、貼付文、集合沈線2.5㎜		砂粒、赤色粒	にぶい橙色～灰褐色
5	胴部、連続沈線2.5㎜		砂粒	橙色
6	胴部、平行沈線5.5㎜と同一工具による連続刺突文		砂粒多量	暗褐色～極暗赤褐色
7	胴部	RL	粗砂	淡黄色

第19表　ＡＪ８号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　土	色　調
1	胴部	RL	粗砂、白粒、黒鉱物	橙色～灰黄褐色
2	波状口縁、縦キザミ、平行沈線間ヘラ状工具連続押引		粗砂少量、細砂多量	にぶい黄橙色～黒褐色
3	平口縁、貼付文、集合沈線2.5㎜		赤・白色粒、砂粒	浅黄色～褐灰色
4	平口縁、集合沈線2.5㎜		粗砂	橙色～黒褐色

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
5	胴部、集合沈線2.5mm		砂粒	浅黄色～にぶい黄橙色
6	胴部、集合沈線2.5mm		粗砂	橙色～にぶい褐色
7	胴部、連続・集合沈線2.5mm		砂粒	にぶい赤褐色
8	胴部、集合沈線2.5mm		砂粒	浅黄橙色
9	胴部、貼付文、集合沈線2.5mm		砂粒	にぶい赤褐色
10	胴部、貼付文、集合沈線2.5mm		白色粒、砂粒	暗赤褐色
11	胴部、貼付文、集合沈線2.5mm		砂粒	にぶい赤褐色
12	胴部、連続沈線2.5mm		白色粒多量	にぶい橙色
13	胴部、平行沈線4mm	R	砂粒、石英	黒褐色（橙色）
14	胴部、沈線5本一組7mm		金雲母、砂粒	灰褐色（にぶい黄橙色）
15	胴部、平行・連続2.5mm	LR	粗砂	浅黄色
16	胴部下端、集合沈線2mm		粗砂	にぶい黄褐色
17	胴部、浮線上矢羽根状キザミ		砂粒多量	にぶい橙色～にぶい赤褐色
18	胴部、浮線上キザミとキザミなし	R	粗砂多量	黒褐色
19	平口縁、凹凸文		黒色鉱物、砂粒	浅黄色
20	平口縁、口唇部棒状工具で連続押圧文、口縁端肥厚		砂粒	にぶい橙色～黒褐色
21	胴部	RL	砂粒	にぶい橙色
22	胴部、縦方向のナデ		砂粒少量	浅黄色～黄灰色

第20表　ＡＪ４号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	胴部、連続沈線1.5mm		白色粒、砂粒	にぶい黄橙色
2	胴部	LR	細砂	浅黄橙色

第21表　ＡＪ11号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	胴部	L	砂粒多量	にぶい赤褐色
2	胴部、連続沈線2mm	L	砂粒	にぶい橙色

第22表　ＡＪ14号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	胴部、連続・集合沈線3mm		砂粒	にぶい褐色

第23表　ＡＪ15・16号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	平口縁		粗砂	暗褐色

第24表　ＡＪ17号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	波状口縁、爪形文4mm		繊維、赤色粒、砂粒	にぶい橙色～暗褐色

第25表　ＡＪ19号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	胴部	ＲＬ	砂粒、繊維少量	にぶい橙色
2	胴部	附加条	繊維	橙色～暗褐色
3	胴部	Ｌ	繊維、砂粒	にぶい褐色～黒褐色

第26表　ＢＪ１号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	平口縁、貼付文、集合沈線２㎜		粗砂、白・赤色粒	にぶい橙色
2	平口縁	Ｌ	砂粒、白色粒	にぶい赤褐色
3	胴部、集合沈線２㎜強　（ＢＪ２号土坑）		砂粒	黒褐色（にぶい赤褐色）
4	胴部、集合沈線３㎜	ＲＬ	白色粒、砂粒	にぶい橙色～暗褐色
5	胴部	Ｒ	繊維、砂粒多量	にぶい黄橙色～暗褐色
6	胴部　（ＢＪ２号土坑）	多ＬＲ	繊維、砂粒	にぶい橙色
7	胴部	ＲＬ	砂粒	にぶい黄橙色～灰褐色
8	底部、荒いナデ		砂粒	浅黄橙色

第27表　ＢＪ３号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	平口縁、集合・連続沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	黒褐色
2	内折波状口縁、貼付文、連続沈線２㎜		砂粒多量	にぶい橙色
3	平口縁、連続沈線（深浅）２㎜	ＬＲ？	砂粒	にぶい赤褐色
4	胴部、集合沈線2.5㎜	ＲＬ	白色粒、砂粒	暗赤褐色
5	平口縁、連続沈線２㎜	Ｒ？	砂粒	にぶい褐色～黒褐色
6	胴部　Ｒ－Ｌ羽状	←	繊維、砂粒	橙色～にぶい赤褐色
7	胴部　ＬＲ－ＲＬ、結束？	←	砂粒	黒色
8	胴部、連続沈線2.5㎜	ＲＬ	砂粒	暗褐色
9	底部、連続沈線2.5㎜	Ｌ	白色粒、砂粒	にぶい赤褐色～暗褐色

第28表　ＢＪ５号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	波状口縁、平行沈線単位不明瞭、深浅？		砂粒	にぶい赤褐色
2	頸部、貼付文、連続沈線３㎜		白色粒、砂粒	暗赤褐色
3	波状口縁、爪形文		砂粒、繊維	にぶい橙色
4	胴部、連続沈線3.5㎜		砂粒	黒色
5	平口縁？	Ｌ	繊維、砂粒	にぶい黄橙色～褐灰色
6	浅鉢、体部、ミガキ		砂粒	にぶい赤褐色
7	大波状口縁、波頂辺部、貼付文、集合・連続沈線２㎜		砂粒	にぶい橙色

第29表　ＢＪ６号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	平口縁、口縁直下部分的にタテ条施文　ＲＬ－ＬＲ	←	繊維、砂粒	浅黄橙色～暗褐色
2	胴部　多条ＲＬ－多条ＬＲ	←	繊維、粗砂、片岩	にぶい赤褐色

第30表　ＣＪ１号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	胴部　多条ＬＲ－多条ＲＬ	←	砂粒、繊維	にぶい橙色
2	胴部	ＲＬ	砂粒、繊維	にぶい褐色
3	胴部	多ＬＲ	繊維、砂粒	黒褐色
4	胴部	ＲＬ	砂粒	にぶい赤褐色
5	胴部、連続沈線２㎜	ＬＲ	白色粒、砂粒	にぶい黄橙色

第31表　ＣＪ３号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	胴部	Ｌ、Ｒ	繊維、砂粒	にぶい黄橙色～暗褐色
2	胴部	Ｌ、Ｒ	繊維、砂粒	暗褐色
3	胴部、円形刺突文		砂粒、繊維	暗赤褐色
4	波状口縁、連続沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	にぶい橙

第32表　ＤＪ１号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	波状口縁、平行沈線４㎜　ＲＬ－ＬＲ羽状	←	繊維、砂粒	淡黄色～暗褐色
2	平口縁、２単位低突起　ＲＬ－ＬＲ羽状	←	繊維	浅黄色～黒褐色

第33表　ＤＪ４号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	波状口縁、平行沈線2.5㎜	ＲＬ	粗砂多量	黒褐色～にぶい黄褐色
2	平口縁　多条ＬＲ－ＲＬ	←	繊維	赤褐色
3	波状口縁、平行沈線３㎜、口縁部は平行沈線内刺突	ＲＬ	砂粒	にぶい橙色～橙色
4	胴部、浮線上矢羽根状キザミ、浮線ごく薄い	ＲＬ	粗砂多量	にぶい橙色
5	頸部、平行沈線５㎜、爪形文	ＬＲ	繊維	にぶい橙色～黒褐色
6	平口縁		繊維、砂粒	赤褐色
7	浅鉢、体部		粗砂多量	浅黄色

第34表　ＤＪ６号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	胴部　Ｌ－Ｒ羽状？	←	繊維、粗砂	にぶい黄橙色
2	胴部　ＬＲ－多条ＲＬ羽状？	←	砂粒、繊維少量	にぶい赤褐色
3	胴部	ＲＬ	片岩、砂粒	にぶい橙色
4	胴部	多ＲＬ	繊維、砂粒	にぶい褐色

第35表　ＤＪ13号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	胴部	Ｌ？	繊維、白色粒、砂粒	にぶい橙色

第36表　ＤＪ５号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	小波状・内折波状口縁、連続沈線２㎜		白色粒、砂粒	暗赤褐色～黒褐色
2	胴部	附加条	繊維、砂粒	にぶい赤褐色
3	胴部	ＬＲ？	繊維、砂粒	橙色
4	胴部	Ｌ	繊維、砂粒、片岩	褐色～暗褐色
5	浅鉢、体部		金雲母、粗砂	赤褐色
6	胴部　Ｌ－Ｒ羽状	←	粗砂多量、繊維	にぶい橙色
7	胴部　Ｌ－Ｒ羽状	←	粗砂多量、繊維	にぶい橙色～黒褐色

第37表　ＤＪ14号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	平口縁、集合沈線２㎜		白色粒、砂粒	赤褐色～極暗赤褐色
2	平口縁	Ｌ	繊維、白色粒、砂粒	褐灰色
3	胴部、集合沈線２㎜	ＬＲ	白色粒、砂粒	淡黄色～暗褐色
4	胴部、平行沈線内と縁辺にキザミ	多ＲＬ	砂粒	淡黄色
5	浅鉢、単沈線、キザミ		砂粒	浅黄色～橙色

第38表　ＤＪ18号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	平口縁、貼付文、凹凸文、集合・連続沈線2.5㎜	ＲＬ	赤色粒、砂粒	にぶい褐色
2	平口縁、横方向ナデ痕、下端に平行沈線2.5㎜		砂粒	暗褐色
3	胴部、連続・集合沈線2.5㎜	Ｌ	白色粒、細砂	にぶい褐色
4	胴部、浮線上矢羽根状キザミ、浮線間連続刺突文	ＲＬ	粗砂	浅黄色
5	胴部　結節縄文、附加条	←	細砂	橙色

第39表　ＤＪ19号土坑出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	波状口縁、連続沈線２㎜		白色粒、赤色粒	暗赤褐色
2	波状口縁、連続沈線2.5㎜		白・赤色粒、砂粒	橙色～明赤褐色
3	口辺部、集合沈線２㎜	ＲＬ	粗砂多、白・赤色粒	浅黄橙色

第40表　Ｂ区包含層出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	平口縁、雑な凹凸文（刺突文）、連続・集合沈線４㎜		赤色粒、砂粒	にぶい橙色
2	平口縁、屈曲底部、貼付文、集合・連続沈線３㎜		白色粒多量、砂粒	明赤褐色～にぶい褐色
3	波状口縁、集合・連続沈線３㎜		砂粒	橙色～暗褐色
4	波状口縁、連続・集合沈線３㎜		砂粒	橙色
5	波状口縁、円形貼付文、集合・連続沈線３㎜	ＲＬ	砂粒、白色粒	にぶい橙色～黒色
6	波状口縁、波頂切欠、円形貼付文、連続沈線３㎜		粗砂、石英	にぶい橙色
7	波状口縁、連続沈線２㎜		砂粒	にぶい橙色
8	波状口縁、集合沈線２㎜		粗砂多量	橙色～浅黄橙色

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　土	色　調
9	平口縁、貼付・横長貼付文、凹凸文、集合沈線2.5mm		赤色粒	橙～にぶい黄橙色
10	平口縁、貼付文	RL	粗砂	にぶい橙色
11	大波状口縁波頂部、連続沈線2mm		粗砂	浅黄色
12	口辺部、連続沈線2mm	RL	粗砂、白色粒	にぶい黄橙色
13	口辺部、平行・連続沈線2.5mm		砂粒	にぶい褐色～灰褐色
14	胴部、集合沈線2.5mm		細砂	浅黄色
15	胴部、貼付文、集合沈線4mm		細砂、赤色粒	浅黄橙色
16	胴部、平行・連続沈線（深浅）3mm		白色粒	赤褐色
17	胴部、平行沈線3mm		細砂	浅黄色
18	胴部、集合沈線2mm		砂粒	にぶい橙色
19	胴部、連続・集合沈線3mm		白色粒、粗砂	橙色～にぶい黄橙色
20	胴部下端、櫛歯状工具？と平行沈線一単位不明瞭		砂粒	橙色～黄橙色
21	胴部、貼付文、集合沈線3mm		黒色鉱物、砂粒	にぶい褐色
22	胴部、櫛歯状工具？　単位不明瞭	L？	粗砂	にぶい橙色～褐灰色
23	胴部、深一深一浅の沈線3本一組5mm	RL？	粗砂、白色粒	暗赤褐色
24	口辺部、平行・連続沈線3mm	RL	白色粒、砂粒	暗赤褐色～黒褐色
25	波状口縁、結節浮線文、貼付文、集合・連続沈線3mm	←	砂粒	にぶい黄橙～にぶい黄褐色
26	胴部、連続沈線2.5mm	L	砂粒	にぶい黄橙色
27	胴部、集合・連続沈線4mm		粗砂	にぶい橙色～黒褐色
28	底部、円形陰刻、放射状沈線、連続沈線2mm		砂粒	浅黄橙色
29	波状口縁、円孔、円形刺突文	多RL	細砂	橙色～にぶい黄橙色
30	波状口縁、平行沈線、稜上際刺突文、縄文節内刺突文	RL	砂粒	赤褐色～にぶい黄橙色
31	平口縁、口縁端部肥厚	RL	粗砂	明赤褐色
32	平口縁、口縁端キザミ、連続刺突文、平行沈線		砂粒	黒褐色（暗赤褐色）
33	胴部、浮線上キザミ		砂粒	にぶい橙色
34	胴部、浮線上キザミ・キザミなし		粗砂	にぶい橙色（浮線浅黄色）
35	胴部、単沈線区画、貝殻文		細砂	浅黄橙色
36	胴部	RL？	砂粒	暗赤褐色～黒色
37	胴部、円形刺突文	多RL	細砂	橙色
38	平口縁、平行沈線6mm		繊維	浅黄色
39	平口縁、単沈線、粗い斜格子文		繊維、砂粒	褐色
40	胴部、沈線中に条線が入る平行沈線6mm		繊維、砂粒	にぶい赤褐色
41	波状口縁口辺部、平行沈線8mm　LRと多条RL	←	白色粒、繊維	にぶい黄橙色～黒褐色
42	平口縁、爪形文7mm		繊維、砂粒	にぶい橙色～黒褐色
43	波状口縁、貼付文、爪形文7mm		繊維	にぶい橙色
44	口辺部、爪形文9mm		粗砂，繊維	にぶい橙色
45	口辺部、爪形文3.5mm	LR	粗砂少量、繊維？	にぶい橙色～黒褐色
46	頸部、爪形文6mm		砂粒、繊維	にぶい褐色
47	胴部、爪形文7mm	L	粗砂、繊維、白色粒	にぶい黄橙色～黒褐色
48	平口縁	RL？	繊維、砂粒	にぶい橙色
49	平口縁	RL	繊維、粗砂	にぶい黄橙色～暗赤褐色
50	平口縁　絡条体？LR＋R？	←	白色粒、繊維	赤褐色
51	平口縁　多条LR－RLで羽状	←	繊維多量、砂粒多量	黒色
52	胴部　RLとLR	←	粗砂、白色粒、繊維	橙色～黒褐色
53	胴部　RL－LRで羽状	←	粗砂多量、繊維少量	灰黄褐色～黒褐色
54	胴部　多条RL－多条LRで羽状	←	白色粒、繊維、砂粒	にぶい橙色
55	胴部　R－Lで羽状	←	繊維少なめ	にぶい黄橙色
56	胴部　RL－LRで羽状	←	白色粒、繊維	にぶい黄橙色
57	胴部　太LRに細RLを附加？	←	砂粒、繊維	
58	胴部	L	繊維、粗砂	にぶい黄褐色
59	胴部　L組にLRとRLを附加	←	繊維	浅黄色～黒色

第41表　Ｊ８Ｅ出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	波状口縁靴先状、波頂部折返、平行・連続沈線3.5mm		粗砂	にぶい赤褐色～暗赤褐色
2	波状口縁、連続沈線２mm		赤色粒、砂粒	浅黄橙色
3	波状口縁、沈線６本一組6.5mm		砂粒	にぶい赤褐色～黒褐色
4	平口縁、連続沈線1.5mm	ＲＬ	白色粒、砂粒	にぶい赤褐色
5	平口縁、集合沈線1.5mm		砂粒	赤黒色
6	平口縁、沈線４本一組６mm		砂粒、赤・白色粒	橙色～にぶい褐色
7	波状口縁、集合沈線２mm		粗砂多量	淡黄色～褐灰色
8	平口縁、凹凸文に近いキザミ、連続沈線1.5mm		砂粒	にぶい褐色
9	平口縁、連続・集合沈線２mm	ＲＬ	砂粒	にぶい黄橙色
10	胴部、沈線５本一組９～10mm、11・18？と同一個体	ＲＬ	粗砂多量	にぶい黄橙～にぶい赤褐色
11	胴部、沈線５本一組９～10mm・６本一組11～12mm	ＲＬ	白色粒、砂粒	にぶい橙色～にぶい褐色
12	胴部、集合沈線２mm	Ｒ	白色粒、砂粒	橙色
13	胴部、集合・連続沈線２mm	ＲＬ	砂粒	にぶい赤褐色
14	胴部、浅い沈線６本一組6.5mm？	Ｌ	白色粒、砂粒	暗赤褐色～極暗赤褐色
15	胴部、平行沈線2.5mm		砂粒、白色粒	極暗赤褐色
16	胴部、半截竹管２本一組（沈線４本）6.5mm	ＲＬ	砂粒	暗褐色
17	胴部、円形刺突文、沈線５～６本一組７～８mm	Ｌ	白色粒、砂粒	にぶい赤褐色～黒褐色
18	胴部、刺突文、半截竹管３本一組（沈線６本）12mm	ＲＬ	白色粒、砂粒	にぶい橙色～黒褐色
19	大波状口縁波頂部、平行・集合沈線2.5mm		白色粒、赤色粒	暗赤褐色
20	平口縁、貼付文、連続沈線（深浅）1.5mm		砂粒	にぶい橙色～暗褐色
21	波状口縁？、縦長棒状貼付文、集合沈線2.5mm強		粗砂多量、片岩	赤褐色
22	胴部、連続沈線2.5mm、横帯文は深浅施文		砂粒	黒色
23	平口縁、貼付文、横長貼付文、連続沈線２mm強		粗砂多量、片岩	にぶい黄橙色
24	胴部、貼付文、集合沈線2.5mm		砂粒	橙色～にぶい橙色
25	胴部、貼付文、連続沈線２mm・2.5mm（横帯文）		赤色粒、砂粒	淡黄色
26	胴部、貼付文、集合沈線2.5mm		白色粒、砂粒	暗赤褐色
27	胴下半部～屈曲底部、集合沈線２mm		砂粒	浅黄橙色
28	胴部、集合・連続沈線２mm強	Ｌ	砂粒	にぶい褐色
29	胴部、平行・連続沈線２mm		白色粒、細砂	暗褐色
30	胴部、集合沈線２mm		砂粒	にぶい赤褐色
31	胴部下端、貼付文、連続沈線２mm		白色粒、砂粒	にぶい橙色
32	胴部、棒状貼付文上結節に近い刺突文、集合沈線２mm		砂粒	にぶい黄橙色
33	胴下半部～屈曲底部、集合沈線２mm		白色粒、砂粒	橙色
34	胴部、連続・集合沈線2.5mm	ＬＲ	白色粒、砂粒、雲母	にぶい黄橙色
35	波状口縁、浮線上不定キザミ	ＲＬ？	砂粒	にぶい黄橙色～褐灰色
36	胴部、浮線上矢羽根状キザミ、浮線間に連続刺突文	ＲＬ	砂粒	にぶい褐色～暗褐色
37	胴部、浮線上基本的に矢羽根状キザミ		砂粒多量	褐色（浮線にぶい黄橙色）
38	胴部、浮線上矢羽根状キザミ	ＲＬ	砂粒	暗赤褐色
39	波状口縁、結節浮線文（連続刺突文）集合沈線2.5mm	←	砂粒	にぶい橙色
40	内折波状口縁、口縁端連続押圧、口縁端折り返し	ＲＬ	砂粒	浅黄橙色～黒色
41	平口縁、口唇部キザミ	附加条	細砂	にぶい黄橙色
42	胴部、平行沈線３mm、沈線間・縁辺斜キザミ		細砂	淡黄色～にぶい褐色
43	平口縁		砂粒	にぶい橙色～暗褐色
44	平口縁、単沈線？		砂粒	暗褐色
45	胴部	Ｌ？	砂粒、白色粒	暗赤褐色
46	胴部	Ｌ	砂粒、繊維	にぶい褐色～黒褐色
47	屈曲底部、連続沈線2.5mm		白色粒、砂粒	にぶい黄橙色～明赤褐色
48	底部、浮線上雑な矢羽根状キザミ	ＲＬ	白色粒、砂粒	にぶい橙色
49	底部（屈曲？）	ＲＬ	砂粒、白色粒	にぶい橙色

第42表　1号井戸出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	波状口縁、浮線文キザミなし	不明	粗砂、片岩、金雲母	にぶい橙色
2	平口縁、凹凸文		白色粒、砂粒	明赤褐色
3	平口縁、小ボタン貼付文、凹凸文、集合・連続2.5㎜	R	砂粒	にぶい褐色～極暗赤褐色
4	口辺部、平行沈線、沈線内連続刺突文		白色粒、粗砂	浅黄橙色～暗褐色
5	胴部、浮線上矢羽根状キザミ、浮線間連続刺突文		砂粒	暗褐色
6	胴部、浮線上矢羽根状キザミ		砂粒	にぶい赤褐色
7	胴部、浮線上矢羽根状キザミ	RL	砂粒多量	にぶい褐色～淡黄色

第43表　2号井戸出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	波状口縁、平行沈線9.5㎜	RL	白色粒、砂粒	にぶい橙色～黒褐色
2	平口縁、集合沈線2.5㎜	LR	白色粒、砂粒	極暗赤褐色
3	波状口縁、円孔、集合・連続沈線2.5㎜		細砂	にぶい橙色
4	底部、集合沈線2㎜		砂粒	にぶい橙色
5	胴部、集合沈線2.5㎜	不明	白色粒、砂粒	赤褐色～暗赤褐色
6	胴部、集合・連続沈線2.5㎜	LR	細砂	にぶい橙色
7	胴部、連続・集合沈線2.5㎜	L	細砂	にぶい褐色
8	胴部、集合沈線2.5㎜強		砂粒、白色粒	にぶい橙色～黒褐色
9	口辺部、半截竹管2本揃（沈線4本一組）6㎜	L	砂粒	明赤褐色～暗赤褐色
10	胴部、連続・集合沈線2.5㎜		白色粒	暗赤褐色
11	胴部、貝殻文？		細砂	にぶい橙色～暗褐色
12	胴部	L	細砂	淡黄色～にぶい褐色

第44表　水路出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	平口縁、貼付文、横長貼付文、集合・連続2.5㎜		赤色粒、砂粒	にぶい橙色
2	波状口縁、浮線上矢羽根状キザミ		砂粒	浅黄橙色
3	波状口縁、口縁端縦キザミ、沈線壁に連続刺突文		砂粒、雲母	黒褐色
4	胴部、平行沈線2.5㎜	RL	細砂	浅黄橙色
5	胴部、集合沈線2㎜	LR	白色粒、石英、砂粒	暗赤褐色
6	胴部、集合・連続沈線2㎜		砂粒	にぶい褐色～にぶい赤褐色
7	胴部、連続沈線2.5㎜		砂粒	黒褐色
8	胴部、平行沈線2㎜	不明	白色粒、砂粒	暗赤褐色
9	胴部、貼付文、集合沈線2㎜弱		砂粒	にぶい橙色
10	胴部、連続沈線2.5㎜・深浅3㎜（横帯文）		砂粒、白色粒	橙色
11	屈曲底部、貝殻文、平行・連続沈線3.5㎜		金雲母、砂粒	にぶい黄橙色

第45表　倒木痕出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
1	内折波状口縁、貼付文、連続・集合沈線2.5㎜		赤色粒	にぶい黄橙色～黒褐色
2	平口縁、貼付文、横長貼付文、連続・集合沈線2㎜		砂粒	橙色（黒褐色）

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調
3	平口縁、貼付文、集合沈線３㎜		砂粒	浅黄色（黒褐色）
4	胴部、貼付文、連続沈線３㎜		白色粒	にぶい橙色
5	平口縁、凹凸文、貼付文、連続沈線（深浅）２㎜		砂粒、片岩	にぶい褐色
6	平口縁、凹凸文		白色粒、砂粒	暗褐色
7	平口縁、凹凸文、横長貼付文、連続・集合沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	にぶい赤褐色
8	胴部、貼付文、集合沈線2.5㎜		砂粒、白色粒	にぶい橙色
9	平口縁、集合沈線２㎜	ＲＬ	砂粒	暗褐色
10	胴部、連続沈線３㎜		粗砂多量、赤色粒	淡黄色～にぶい黄橙色
11	胴部、集合沈線4.5㎜	ＲＬ？	白色粒、砂粒	黒褐色
12	胴部、連続・集合沈線2.5㎜		砂粒	暗褐色
13	胴部、集合沈線３㎜		雲母、砂粒	にぶい赤褐色
14	胴部、連続沈線３㎜	ＲＬ	白色粒	浅黄橙色～褐灰色
15	胴部、連続・集合沈線２㎜	ＲＬ	砂粒	浅黄橙色
16	胴部、連続沈線2.5㎜	Ｌ	砂粒	橙色～浅黄橙色
17	胴部、平行沈線６㎜	ＲＬ	粗砂	淡黄色～にぶい黄橙色
18	胴部、平行沈線３㎜	ＲＬ	白色粒、細砂	にぶい橙色
19	胴部、平行沈線2.5㎜	ＲＬ	白色粒、砂粒	赤褐色
20	胴部、浮線上キザミ・キザミなし		赤色粒、砂粒	にぶい黄橙色
21	胴部、浮線上矢羽根状キザミ	Ｌ	砂粒、赤色粒	暗赤褐色～黒色
22	胴部、凹凸文		細砂	浅黄色
23	平口縁	附加条	砂粒、白色粒	にぶい赤褐色
24	平口縁	附加条	砂粒	暗褐色
25	平口縁	ＲＬ	白色粒、砂粒	黒褐色
26	平口縁	ＬＲ	細砂	黒褐色
27	胴部	ＬＲ	雲母、石英	にぶい黄橙色～暗赤褐色

第46表　遺構外出土土器観察表

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調	出土位置
1	波状口縁、爪形文10㎜		繊維、砂粒	にぶい橙色	Ｊ８住
2	平口縁、爪形文９㎜		繊維、赤色粒	にぶい橙色	Ｊ３住
3	平口縁、口唇部刺突文、平行沈線４㎜、部分的に刺突		粗砂	にぶい赤褐色	Ｊ３住
4	波状口縁、爪形文7.5㎜		繊維	にぶい黄橙～浅黄橙色	Ｊ３住
5	波状口縁、爪形文（結節沈線）4.5㎜		砂粒、繊維	暗褐色	Ｊ８Ｅ
6	平口縁、爪形文5.5㎜		赤色粒、砂粒、繊維	にぶい橙色	Ｊ７住
7	平口縁、爪形文（結節沈線）5.5㎜、連続Ｃ字刺突文		繊維	浅黄橙色～黒色	Ｊ５住
8	波状口縁、爪形文（結節沈線）５㎜		繊維、砂粒	赤褐色～暗赤褐色	２井
9	波状口縁、爪形文８㎜		繊維、砂粒	橙色～にぶい赤褐色	Ｊ１Ａ住
10	波状口縁、爪形文３㎜	Ｌ	粗砂、赤・白、繊維	極暗赤褐色	Ｊ４住
11	口辺部、爪形文6.5㎜		白色粒、粗砂、繊維	橙色	Ａ区中央
12	胴部、爪形文6.5㎜	ＲＬ	繊維、粗砂	にぶい黄橙色～褐色	Ｊ６Ｃ住
13	波状口縁、平行沈線５㎜		繊維、砂粒	にぶい橙色	２井
14	波状口縁、平行沈線６㎜		繊維、砂粒	にぶい黄橙色	Ｊ６Ａ住
15	波状口縁、平行沈線７㎜	Ｌ	白色粒、砂粒、繊維	橙色～にぶい褐色	Ｊ６Ａ住
16	平口縁、平行沈線９㎜		繊維、砂粒	にぶい黄橙色	Ｊ８住
17	平口縁、平行沈線６㎜	Ｌ	白色粒、砂粒	にぶい赤褐色	Ｊ８住
18	波状口縁、平行沈線5.5㎜		砂粒、繊維	にぶい褐色	Ｊ５住
19	胴部、平行沈線４㎜	ＲＬ	砂粒、繊維	にぶい橙～にぶい褐色	Ｊ８Ｅ
20	胴部、平行沈線５～６㎜	ＬＲ	繊維、白色粒、砂粒	にぶい赤褐～極暗赤褐	Ｊ７住

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調	出土位置
21	胴部、平行沈線4.5㎜、連続刺突文		粗砂	淡黄色～にぶい黄橙色	A区中央
22	波状口縁	RL？	繊維、砂粒	極暗赤褐色	J8住
23	平口縁	LR	繊維、砂粒	にぶい橙色～暗赤褐色	J8住
24	平口縁　附加条L＋r？	←	繊維、砂粒	褐灰色	J8住
25	平口縁　附加条で羽状	←	赤・白・砂粒、繊維	にぶい黄橙色	J8E
26	平口縁	L	繊維、砂粒	浅黄橙色～黒褐色	J4住
27	平口縁　2LR＋L－2RL＋Rで羽状	←	繊維、砂粒	にぶい褐色	J8E
28	平口縁　直前段合撚		繊維少量	にぶい褐色	J3住
29	平口縁　R－多条LRで羽状	←	繊維、砂粒	にぶい橙色	試掘
30	波状口縁、単沈線、断続沈線	LR	砂粒、繊維	にぶい黄褐色～黒色	J8E
31	平口縁　LR－RLで羽状	←	砂粒、繊維	暗赤褐色～明赤褐色	J3住
32	平口縁	LR	砂粒、繊維	にぶい黄橙色～橙色	J3住
33	平口縁　L－R？で羽状	←	繊維、砂粒	にぶい黄橙色	2井
34	平口縁	不明	繊維、砂粒	浅黄橙色～黒褐色	倒木痕
35	波状口縁　RL－LRで羽状？	←	繊維、砂粒、赤色粒	暗褐色	J3住
36	平口縁、口縁部横方向ナデ	RL	繊維、石英、白色粒	黒褐色	J3住
37	平口縁	RL	繊維、砂粒	にぶい赤褐色	J8E
38	波状口縁	附加条	繊維、砂粒	にぶいき黄橙色	J6A住
39	平口縁、キザミ（平行沈線2.5㎜）、連続刺突文		細砂	浅黄橙色	D区東端
40	平口縁	絡条体	砂粒、繊維	にぶい黄橙色～黒色	J7住
41	胴部　ループ文、コンパス文、RL－LR羽状	←	粗砂、赤色粒、繊維	にぶい橙色～暗褐色	J7住
42	胴部　ループ文、結節文	←	砂粒、繊維	橙色	倒木痕
43	胴部　絡条体2R＋2L	←	繊維	にぶい橙色～暗褐色	D区中央
44	胴部　絡条体2R＋2L	←	繊維、砂粒	暗褐色	2井
45	胴部　絡条体4R	←	繊維、砂粒	橙色	J8住
46	胴部　コンパス文	←	粗砂、片岩、繊維	明褐色	J8E
47	胴部　絡条体4R	←	砂粒、繊維	にぶい橙色	2井
48	胴部　単軸絡条体第2種	←	繊維、砂粒	にぶい橙色	J5住
49	胴部　附加条？＋3R、？＋（R・2L）	←	繊維、砂粒	暗赤褐色	J4住
50	胴部　結束、L－R	←	繊維、砂粒	にぶい赤褐色	J8E
51	胴部、短斜爪形文　結束、L－R	←	繊維、砂粒	にぶい褐色	J8E
52	胴部	？	砂粒、繊維	褐灰色	J6A住
53	胴部　L－R羽状？	←	繊維、砂粒	橙色	J8E
54	胴部　附加条LR＋R－RL＋L	←	繊維、粗砂	にぶい赤褐色	J3住
55	胴部	L	白色粒、繊維、砂粒	明赤褐色	D区東端
56	胴部　L－R羽状	←	砂粒、繊維	明赤褐色～にぶい褐色	J8住
57	胴部　RL－多条LR	←	繊維、粗砂	浅黄橙色～褐灰色	試掘
58	胴部　RL－LR	←	繊維、粗砂、長石	にぶい赤褐色	J4住
59	底部　RL－LR	←	繊維、砂粒	橙色	J8E
60	底部	L	粗砂、繊維	浅黄橙～にぶい赤褐色	A区南
61	底部	多RL	繊維、粗砂	にぶい橙色	J6A住
62	平口縁、平行沈線3.5㎜	RL	白色粒、砂粒	にぶい橙色～褐灰色	A区中央
63	波状口縁、波頂部切欠2～3山、連続・集合2.5㎜	R	金雲母、砂粒	淡黄色	A区中央
64	平口縁、貼付文、連続・集合沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	褐色	表採
65	波状口縁、波頂部口唇上・貼付文上にも縄文施文	多LR	細砂	黒褐色～淡黄色	2住
66	波状口縁靴先状、平行・連続沈線2.5㎜	RL	白色粒、砂粒	橙色～暗褐色	試掘
67	波状口縁、集合沈線2.5㎜	RL	白色粒、砂粒	橙色	表採
68	平口縁、縦キザミ、集合・連続沈線2㎜		白色粒、細砂	赤褐色	試掘
69	平口縁、縦キザミ、結節沈線文（連続刺突文）2.5㎜		細砂	にぶい橙色～褐灰色	試掘
70	平口縁、連続沈線3.5㎜		白色粒、砂粒	にぶい赤褐色	表採

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調	出土位置
71	平口縁、貼付文、横長貼付文、集合・連続沈線2.5㎜		白色粒、砂粒	にぶい赤褐色	C区
72	平口縁、横長貼付文、集合沈線３㎜、連続刺突文		細砂	橙色	D区西端
73	胴部、貼付文、棒状貼付文上刺突文、集合沈線２㎜		白色粒、砂粒	にぶい橙色	表採
74	胴部、連続沈線3.5㎜		細砂	暗褐色	A区中央
75	胴部、貝殻文？		砂粒	黒褐色（にぶい褐色）	D区東端
76	胴部、貼付文、集合沈線2.5㎜		白・赤色粒、砂粒	明赤褐色～暗赤褐色	２住
77	平口縁、浮線上矢羽根状キザミ	RL	粗砂	にぶい赤褐色	D区東端
78	胴部、貝殻文		砂粒	にぶい黄橙色	２住
79	平口縁、浮線上矢羽根状キザミ		砂粒	にぶい黄橙色	D区東端
80	波状口縁、浮線上キザミ一定せず	?	白色粒、砂粒	褐灰色～灰褐色	D区東端
81	波状口縁、浮線上矢羽根状キザミ	RL	粗砂	暗赤褐色	D区東端
82	波状口縁、浮線上矢羽根状キザミ		砂粒	黒色	D区東端
83	胴部、浮線上矢羽根状キザミ、浮線間連続刺突文	R	砂粒	暗褐色	D区東端
84	胴部、半截竹管２本揃え（中央の間隔が狭い）４㎜	L	砂粒	にぶい褐色～暗赤褐色	２住
85	胴部、平行沈線５㎜		白色粒、砂粒	にぶい橙～にぶい褐色	C区北端
86	口辺部、貝殻文		細砂	淡黄色	D区東端
87	胴部、貝殻文		細砂	にぶい橙色	表採
88	胴部	RL	砂粒	にぶい黄橙色～黒色	D区
89	胴部、円形刺突文	RL	砂粒、黒色鉱物	にぶい橙色	試掘
90	底部、集合沈線２㎜		粗砂、白色粒	橙色	倒木痕

第47表　遺構外出土土器観察表―中期・後期―

番号	器種・器形・部位・文様要素など	地文	胎　　土	色　　調	出土位置
1	平口縁、太沈線２本で口縁部無文帯区画	多LR	砂粒	灰褐色	J６B住
2	平口縁、微隆帯で口縁部無文帯を区画	LR	白色粒、砂粒	褐灰色	試掘
3	平口縁、縄文施文→太沈線区画→区画外磨消	RL	粗砂、赤色粒	褐灰色	試掘
4	平口縁、微隆帯中央に太沈線で狭い口縁部無文帯区画	RL	砂粒	にぶい褐色	試掘
5	胴部、懸垂帯→縄文→円形刺突文	RL	白色粒、砂粒	にぶい赤褐色	J７住
6	胴部、隆帯区画→縄文施文→懸垂区画→区画内磨消	LR	赤色粒、砂粒	褐灰色	試掘
7	胴部、太沈線で縦位区画→１区画おきに縄文施文	RL	砂粒	にぶい黄橙色	試掘
8	両耳壺？、口辺部、微隆帯で区画→胴部縄文施文	LR	石英、砂粒	灰白色	J６住南
9	胴部、隆帯で口縁部区画→縄文→太沈線で区画→磨消	RL	白色粒、砂粒	にぶい橙色	J７住
10	胴部、太い沈線で広狭に区画→広区画内に縄文充填	RL	砂粒	淡黄色	試掘
11	口縁部肥厚（隆帯）、沈線で区画→区画内縄文施文	LR	砂粒	にぶい橙色	J７住
12	波状口縁、波頂下に円孔６㎜、11と同一個体	LR	白色粒、砂粒	にぶい橙色～暗褐色	J７住
13	波状口縁、把手		砂粒	浅黄橙色～にぶい橙色	１水口
14	胴部、沈線で区画→区画内疎らに縄文施文	LR	砂粒多量、白色粒	にぶい褐色	J７住
15	胴部、14・16と同一個体	LR	砂粒多量、白色粒	にぶい褐色	２井戸
16	胴部、14・15と同一個体		砂粒多量、白色粒	にぶい褐色	２住
17	胴部	LR	砂粒	淡黄色～褐灰色	試掘
18	胴部	RL	砂粒	にぶい橙色	倒木痕
19	口縁部		砂粒、白・赤色粒	にぶい褐色	倒木痕
20	口縁部、両耳壺？		砂粒	淡黄色	倒木痕
21	口縁部、単沈線で横帯区画	L	砂粒	淡黄色	試掘
22	底部、網代底の原体は不明瞭		砂粒	褐色	F区

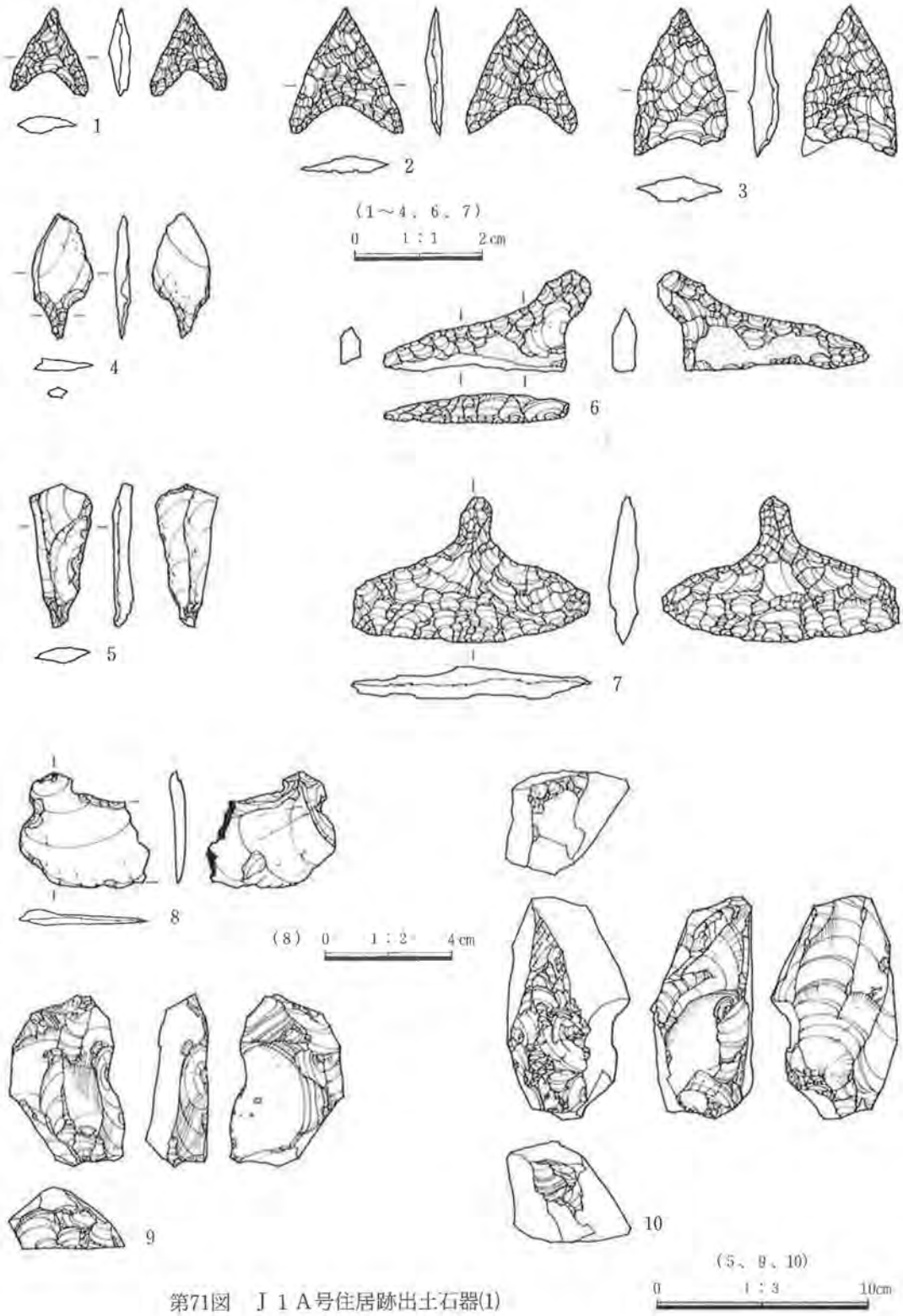
5．縄文時代の石器

出土石器の数量は第48表に示した通りである。全体的な出土傾向は把握できると思われる。

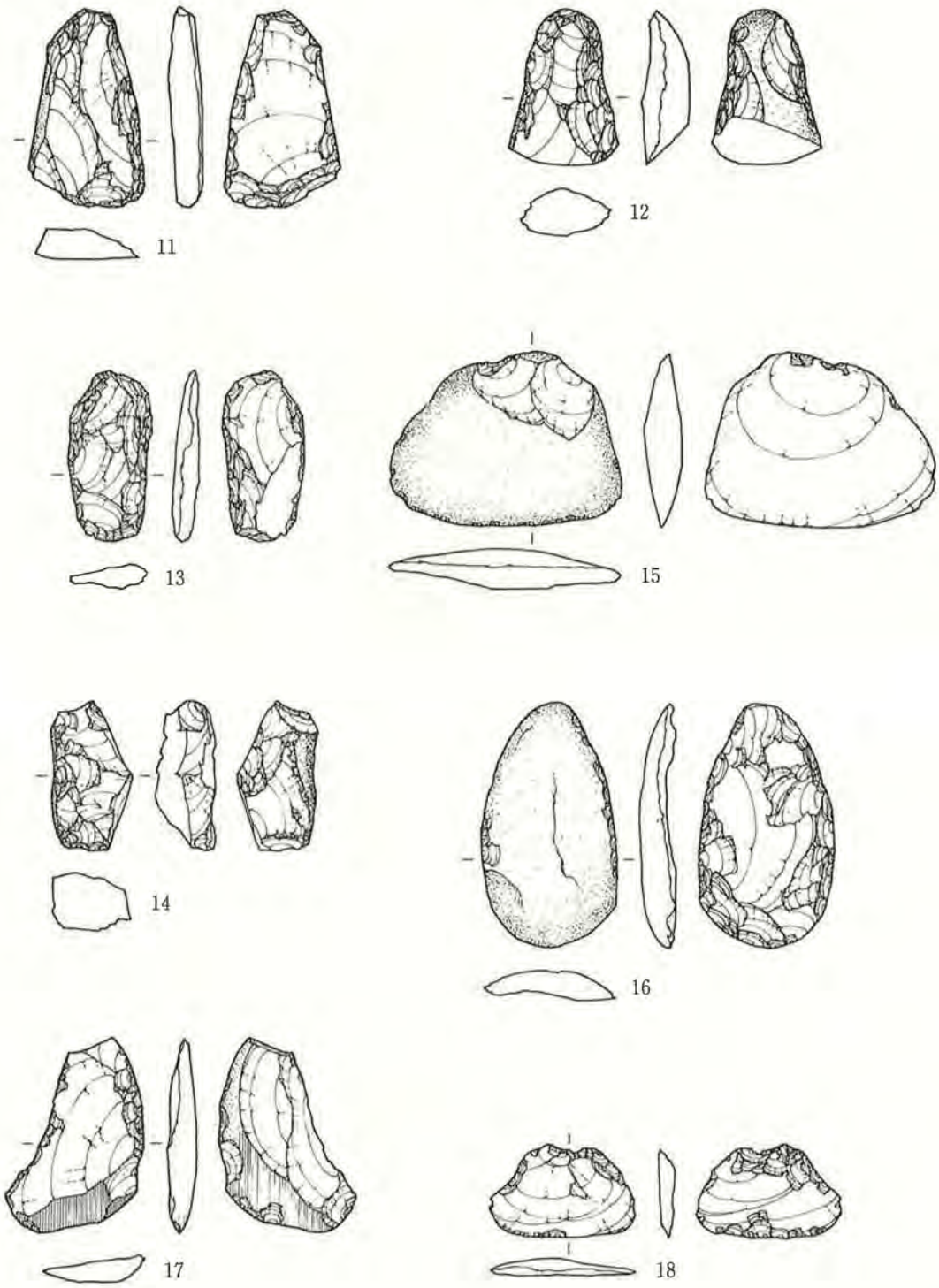
縄文時代の石器も土器と同様に住居跡を主体に多量に出土している。住居跡での出土石器の数量は出土土器の数量の多寡にほぼ対応する中で、Ｊ１Ａ号住居跡の製品（石鏃・石錐・磨石・凹石）・剥片の多さが際立つ。石材としては広面遺跡全体でも黒曜石が多いが、特にＪ１Ａ・Ｊ３号住居跡からは製品・未製品・剥片とも多量に出土している。

第48表　出土石器数量表

遺構名	石鏃	石錐	石匙	打製石斧	磨製石斧	磨石・凹石	石皿	多孔石	剥片石器	その他	石器類計	剥片	合計
Ｊ１Ａ号住居跡	21	8	2	1	0	24	0	0	34	石核13	103	361	464
Ｊ１Ｂ号住居跡	4	3	1	0	0	5	0	1	18	石核５	37	104	141
Ｊ２号住居跡	5	1	0	2	0	1	1	0	10		20	87	107
Ｊ３号住居跡	6	7	3	21	0	20	0	1	117	台石３など計12	187	183	370
Ｊ４号住居跡	0	3	0	2	0	2	0	1	27	石核７	42	62	104
Ｊ５号住居跡	14	2	0	5	0	8	0	0	72	台石１	102	217	319
Ｊ６Ａ号住居跡	12	1	0	8	0	15	0	0	63		99	168	267
Ｊ６Ｂ号住居跡	2	0	0	1	0	0	0	0	28	砥石１、石核３	35	36	71
Ｊ６Ｃ号住居跡	13	2	2	5	0	18	0	1	55	石核３など計７	103	151	254
Ｊ７号住居跡	1	1	1	6	0	6	1	0	32	砥石１、軽石１	50	106	156
Ｊ８号住居跡	4	2	4	33	1	33	2	1	151	石核５など計８	239	208	447
住居跡小計	82	30	13	84	1	132	4	5	607	59	1,017	1,683	2,700
Ａ区土坑	2	3	1	1	1	2	0	0	32	石核６、砥石１	49	183	232
Ｂ区土坑	1	0	0	1	0	0	0	0	10		12	47	59
Ｃ区土坑	0	0	0	0	0	0	0	0	1		1	2	3
Ｄ区土坑	0	0	0	1	0	1	1	0	6		9	21	30
土坑小計	3	3	1	3	1	3	1	0	49	7	71	253	324
Ｂ区包含層	2	3	0	3	1	6	0	0	20	耳飾１、敲石２	38	96	134
Ｊ８Ｅ	0	0	0	3	0	1	0	0	19		23	32	55
井戸・水路	0	0	1	2	0	9	0	0	24	砥石１	37	57	94
倒木痕	2	0	0	3	0	1	1	0	0		7	92	99
Ａ区	2	0	0	1	0	3	0	0	8		14	41	55
Ｂ区	1	0	0	0	0	0	0	0	11		12	17	29
Ｃ区	0	0	0	0	0	0	0	0	2		2	6	8
Ｄ区	9	3	0	2	0	8	0	0	23	軽石製品１	46	75	121
試掘	0	0	1	2	0	0	0	0	14	敲石１	18	24	42
遺構外小計	16	6	2	16	1	28	1	0	121	6	197	440	637
総合計	101	39	16	103	3	163	6	5	777	72	1,285	2,376	3,661

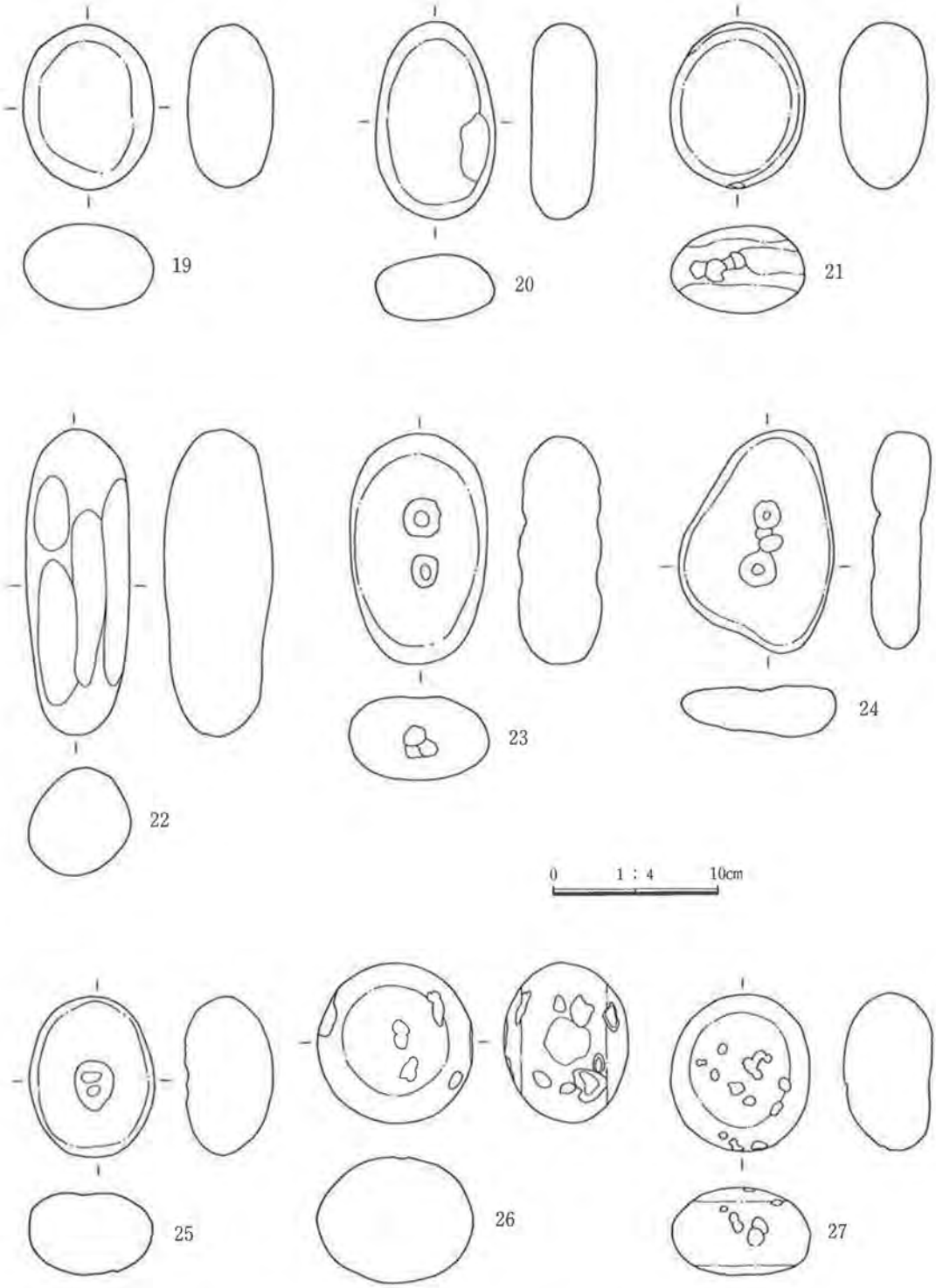


第71図　Ｊ１Ａ号住居跡出土石器(1)

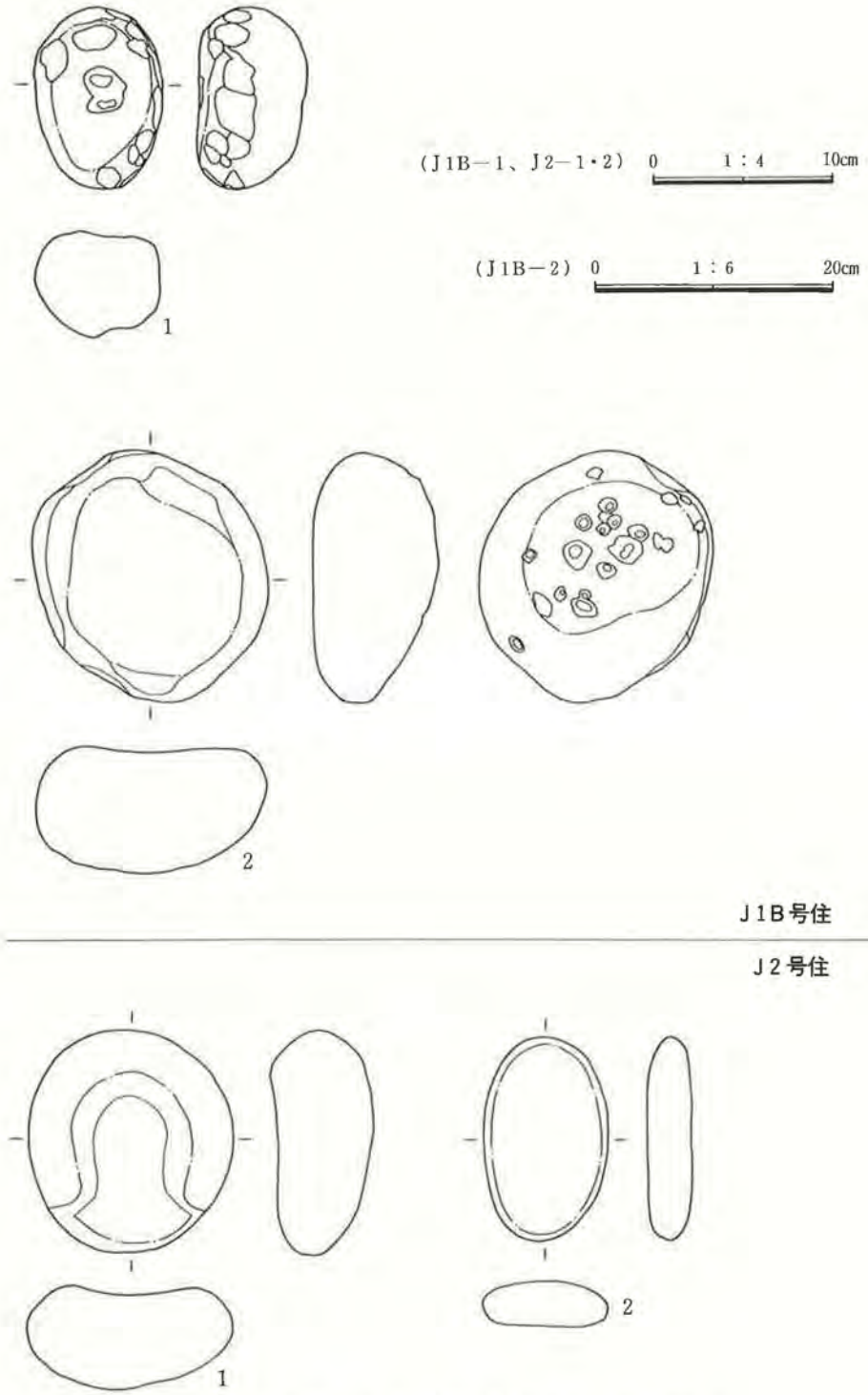


第72図　Ｊ１Ａ号住居跡出土石器(2)

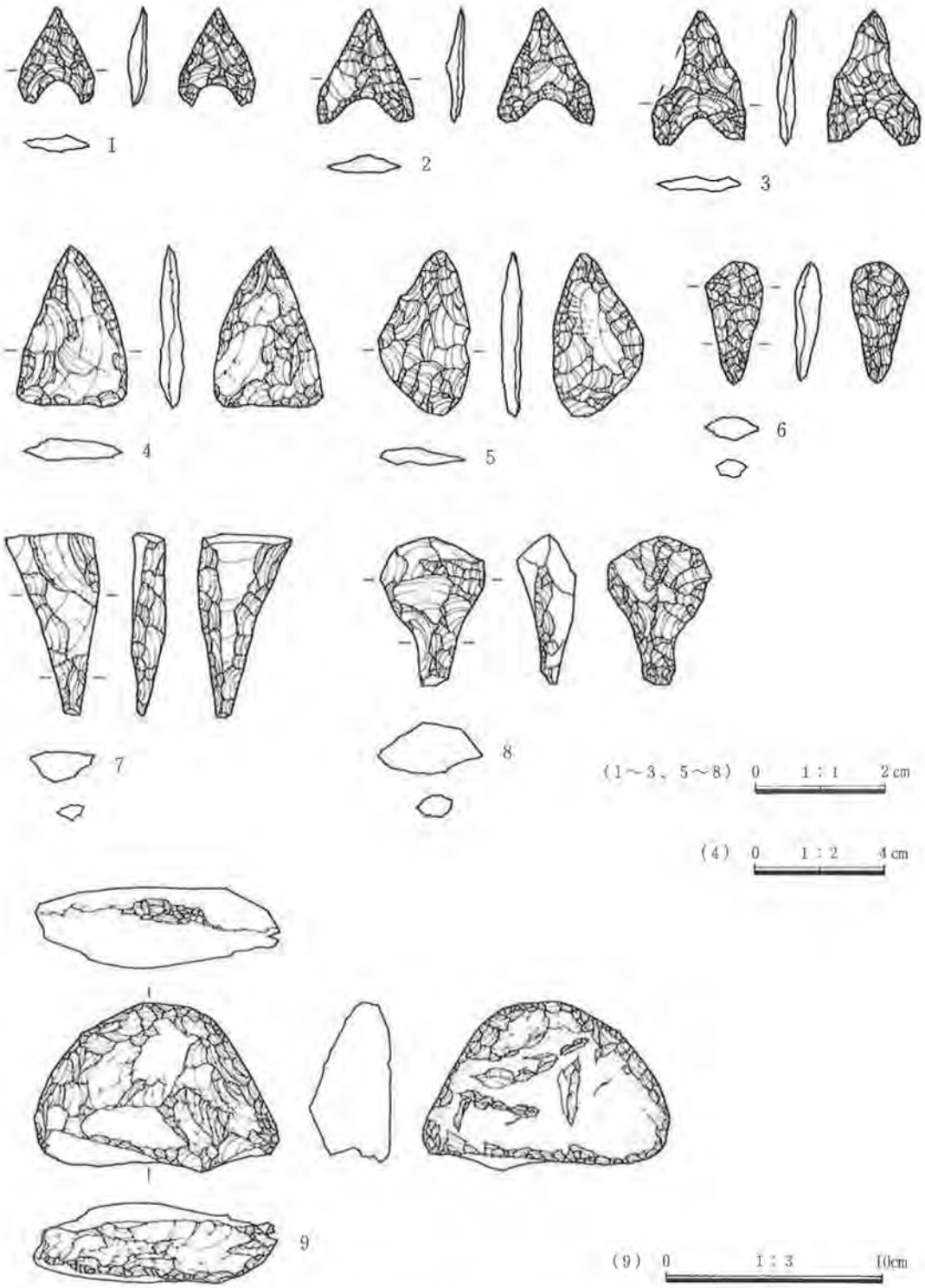
0　1：3　10cm



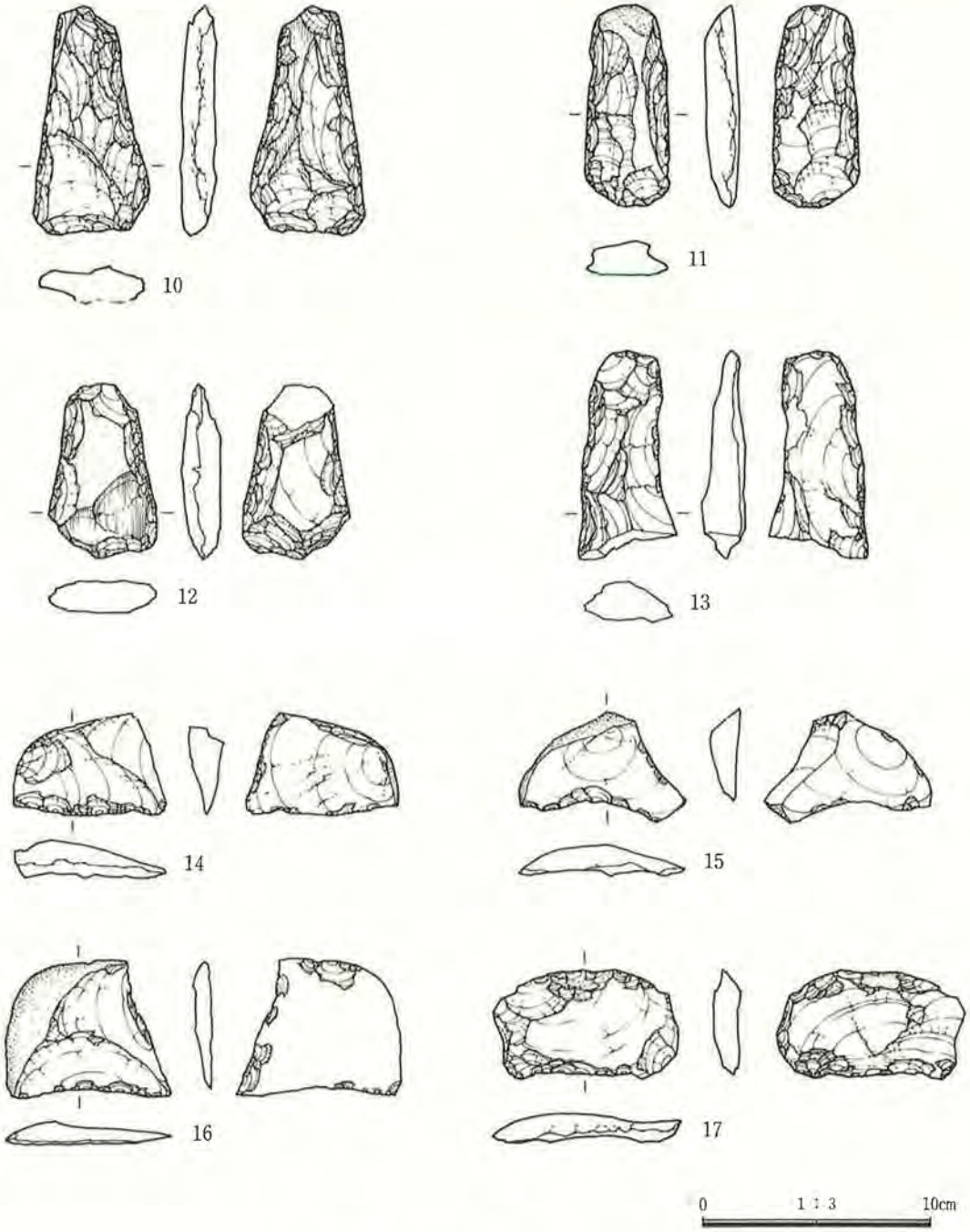
第73図　Ｊ１Ａ号住居跡出土石器(3)



第74図　J１B・J２号住居跡出土石器

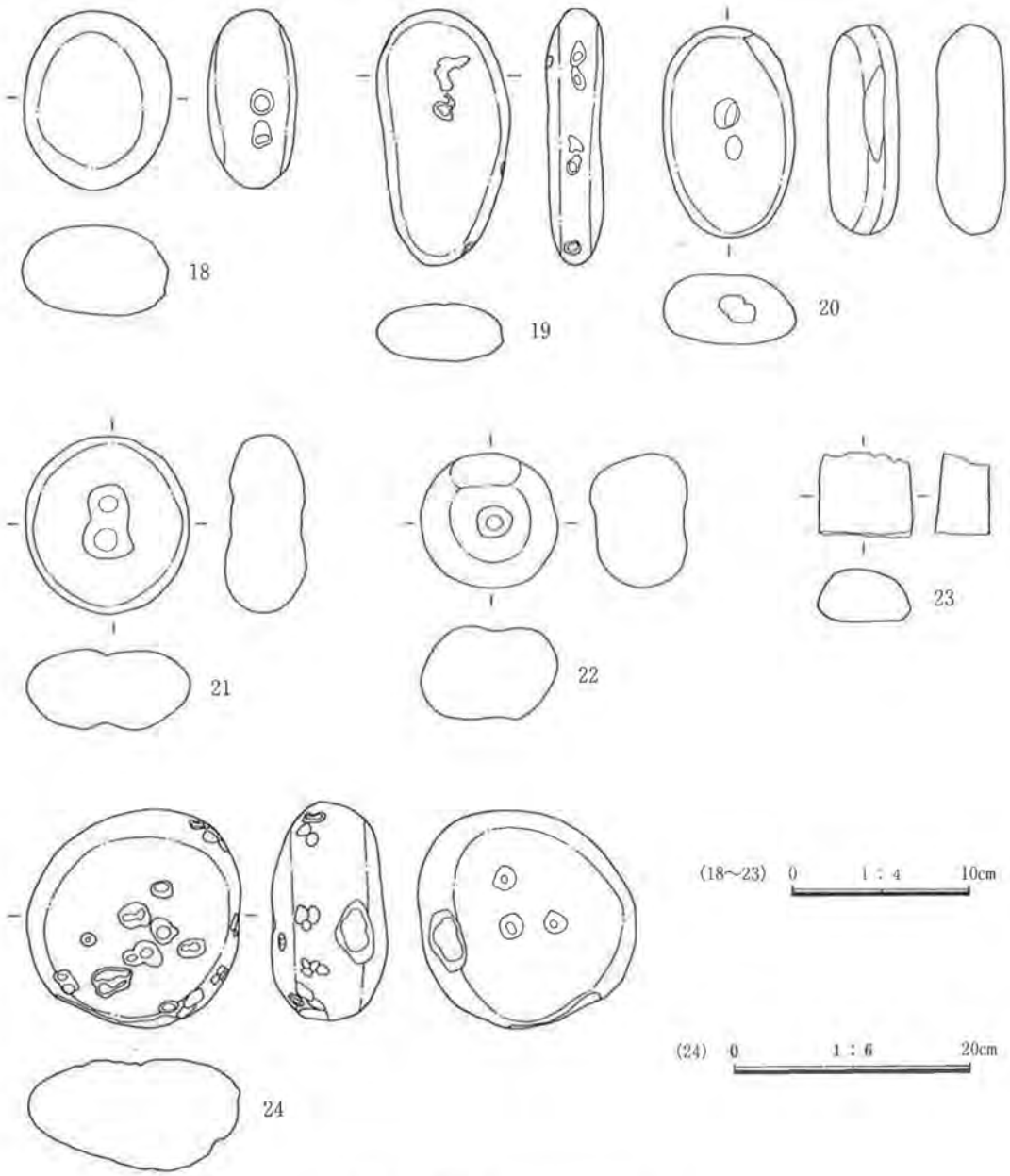


第75図　J 3号住居跡出土石器(1)



第76図　Ｊ３号住居跡出土石器(2)

実測図の掲載基準は、当然残存状態が良好なものを優先したが、完形品で掲載していないものも決して少なくはない。主に時間の制約から実測を途中で打ち切って掲載したものである。石匙・石錐やＪ８号住居跡の磨石・凹石等が未実測・未掲載である。



第77図　Ｊ３号住居跡出土石器(3)

第49表　Ｊ１Ａ号住居跡出土石器計測表

（単位：cm、g）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材
1	石鏃	1.4	1.2	0.3	0.25	黒曜石
2	石鏃	2.0	1.8	0.2	0.5	黒曜石
3	石鏃	2.3	1.4	0.45	1.0	チャート
4	石錐	1.4	0.9	0.2	0.35	黒色頁岩
5	石錐	(6.8	2.9	0.9	13.5	黒色頁岩
6	石匙	(1.6	(3.2	0.3	1.5	黒曜石
7	石匙	2.3	3.7	0.4	2.6	チャート
8	石匙	3.6	(4.1	0.5	5.4	黒色頁岩
9	石核	8.1	5.4	2.9	113	黒曜石
10	石核	10.5	5.8	4.8	233	黒曜石
11	打製石斧	8.9	5.2	1.5	73.8	黒色頁岩
12	打製石斧	6.9	4.9	2.1	69.0	黒色頁岩
13	打製石斧	7.6	3.8	1.2	34.9	黒色頁岩
14	石核	6.7	3.6	2.7	72.8	黒色頁岩
15	スクレイパー	7.8	10.3	1.7	139	黒色頁岩
16	スクレイパー	11.0	6.0	1.7	111	黒色頁岩
17	スクレイパー	8.7	6.1	1.3	56.8	黒色頁岩
18	スクレイパー	4.2	6.5	0.8	22.8	黒色頁岩
19	磨石	10.0	8.0	5.2		粗輝安
20	磨石	12.0	7.3	4.0	506	石英閃緑岩
21	磨石	10.2	8.2	5.4	580	粗輝安
22	磨石？	18.6	6.2	6.6	1100	石英閃緑岩
23	凹石	14.1	8.3	5.2	774	粗輝安
24	凹石	13.6	9.2	3.6	560	粗輝安
25	凹石	10.0	7.6	5.4	548	粗輝安
26	凹石	9.9	9.2	7.6	932	粗輝安
27	磨石	9.6	8.4	5.3	644	粗輝安

第50表　Ｊ１Ｂ号住居跡出土石器計測表

（単位：cm、g）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材
1	凹石	10.1	7.2	6.0	458	粗輝安
2	多孔石	21.2	19.5	10.7	5600	粗輝安

第51表　Ｊ２号住居跡出土石器計測表

（単位：cm、g）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材
1	石皿	12.6	11.0	5.8	1014	粗輝安
2	磨石	11.3	6.9	2.9	324	輝緑岩

第52表　Ｊ３号住居跡出土石器計測表

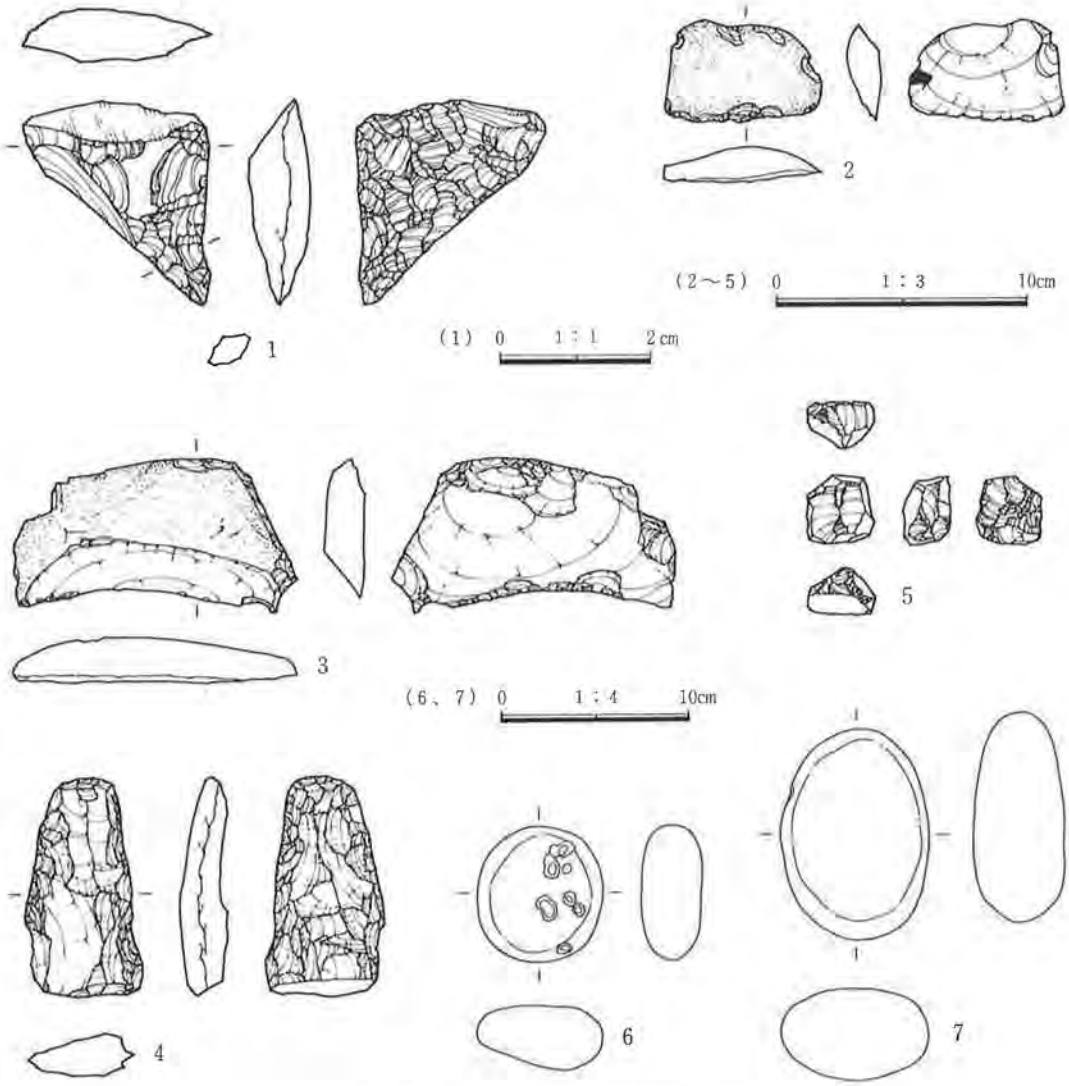
（単位：cm、g）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材
1	石鏃	1.5	1.15	0.3	0.25	黒曜石
2	石鏃	1.7	1.5	0.3	0.35	黒曜石
3	石鏃	2.0	1.4	0.25	0.4	黒曜石
4	石鏃	4.9	3.4	0.8	9.2	黒色安山岩
5	石鏃	2.4	1.5	0.3	1.0	チャート
6	石錐	1.85	0.85	0.4	0.5	黒曜石
7	石錐	2.8	1.5	0.5	1.6	黒色頁岩
8	石錐	2.3	1.6	0.9	1.9	黒曜石
9	礫器	7.7	11.4	3.6	360	黒色安山岩
10	打製石斧	9.9	4.9	1.6	83.9	点紋片岩
11	打製石斧	8.7	3.8	1.5	59.9	黒色頁岩
12	打製石斧	7.6	4.7	1.7	67.1	黒色頁岩
13	打製石斧	(9.1	(4.3	1.9	65.2	黒色頁岩
14	スクレイパー	4.4	6.5	1.5	39.1	黒色頁岩
15	スクレイパー	4.7	7.2	1.4	28.0	黒色頁岩
16	スクレイパー	6.0	7.1	0.9	39.0	黒色頁岩
17	スクレイパー	4.7	8.1	1.3	52.0	黒色頁岩
18	磨石	10.1	8.2	5.0	552	粗輝安
19	磨石	14.5	7.4	3.6	500	粗輝安
20	凹石	11.8	7.5	3.8	524	粗輝安
21	凹石	10.0	9.2	4.5	516	粗輝安
22	凹石	7.6	7.6	5.4	354	粗輝安
23	磨製石斧？	(4.8	5.2	3.1	125	細輝安
24	多孔石	21.0	17.8	9.6	3600	粗輝安

第54表　Ｊ５号住居跡出土石器計測表

（単位：cm、g）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材
1	石鏃	2.1	(1.4	0.4	0.7	黒曜石
2	石鏃	1.8	(1.2	0.3	0.3	黒曜石
3	石鏃	1.5	1.4	0.3	0.5	黒曜石
4	石鏃	2.8	1.8	0.3	1.0	黒曜石
5	石鏃	1.2	(1.2	0.3	0.3	黒曜石
6	石錐	3.7	1.8	0.8	4.2	チャート
7	石錐	(1.8	1.9	0.9	2.7	黒曜石
8	尖頭器	6.3	4.0	1.2	33	黒色頁岩
9	礫器	5.5	4.6	2.1	57.4	黒色頁岩
10	凹石	9.6	8.8	6.1	614	粗輝安
11	磨石	9.1	8.2	5.5	485	粗輝安
12	凹石	9.9	6.0	5.2	356	粗輝安



第78図　J 4号住居跡出土石器

第53表　J 4号住居跡出土石器計測表

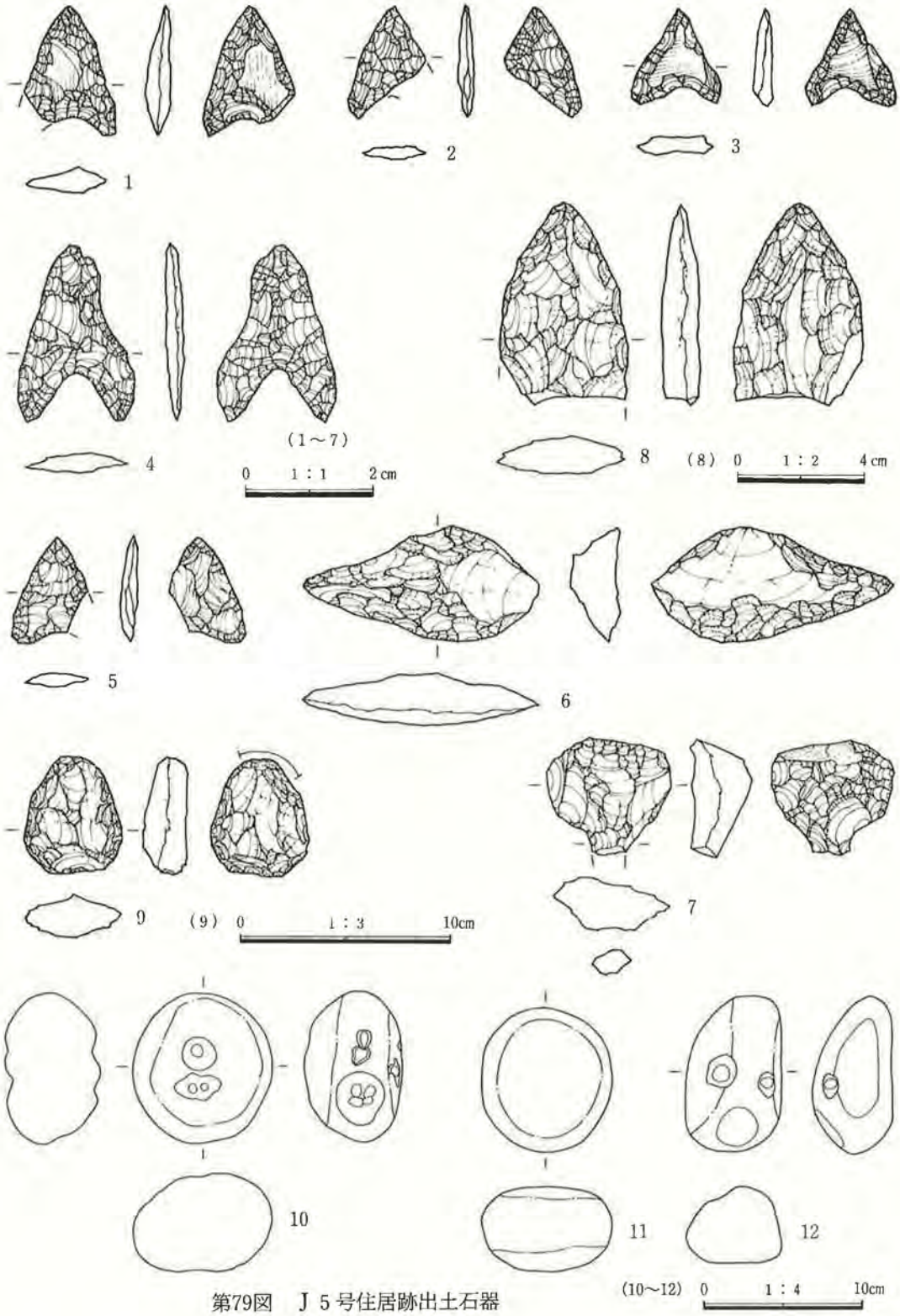
（単位：cm、g）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材
1	石錐	2.7	2.5	0.8	3.9	黒曜石
2	スクレイパー	4.0	6.2	1.3	35.2	黒色頁岩
3	スクレイパー	6.0	11.2	1.6	125	黒色頁岩
4	打製石斧	(8.7	4.6	1.9	77.7	黒色頁岩
5	石核	2.7	2.6	1.9	13.9	黒曜石
6	磨石	7.2	6.5	3.3	189	粗輝安
7	磨石	11.4	7.7	4.8	610	石英斑岩

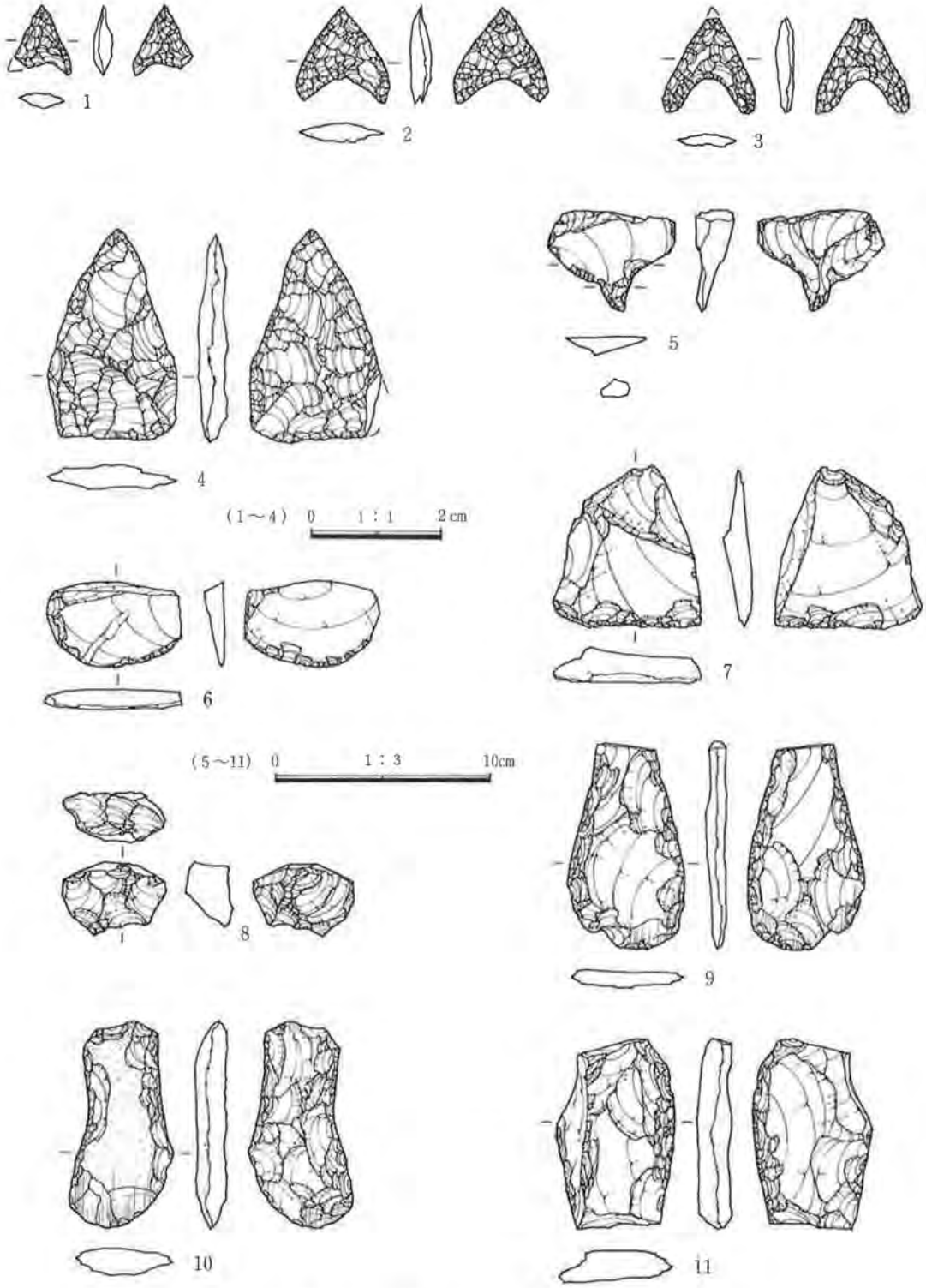
第58表　J 7号住居跡出土石器計測表

（単位：cm、g）

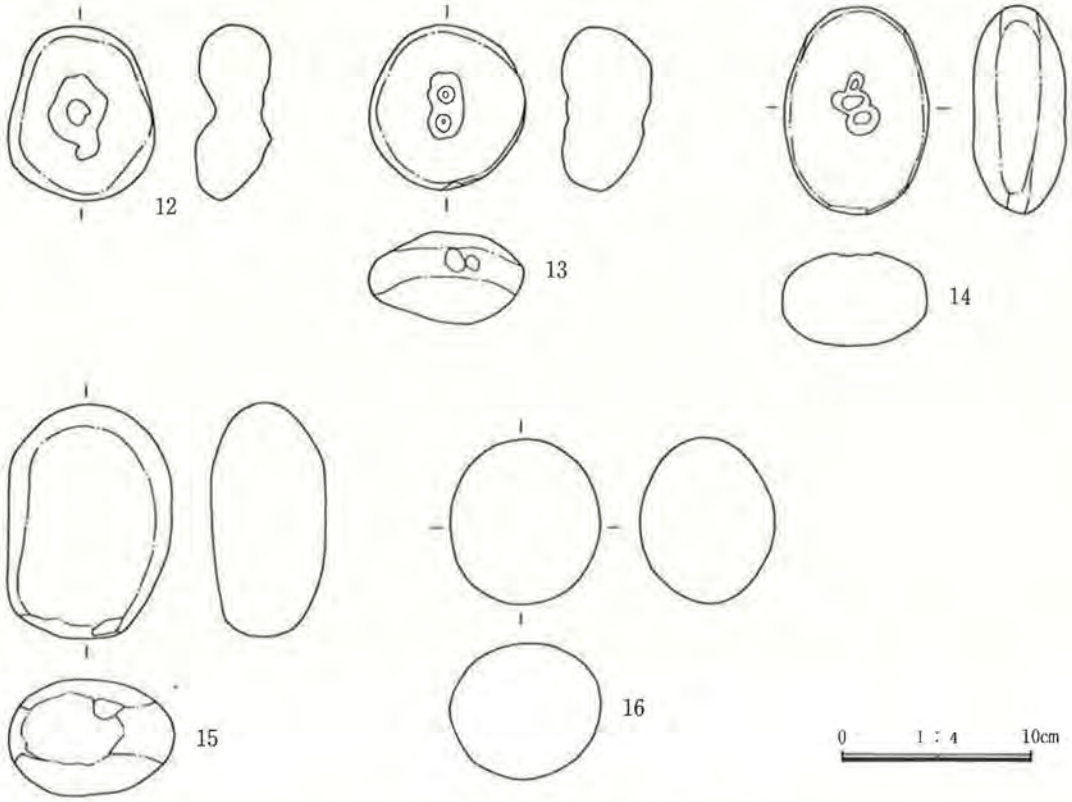
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材
1	石鏃	(2.8	(1.8	0.4	1.4	黒色頁岩
2	凹石	9.4	8.2	5.3	560	粗輝安
3	凹石	10.4	6.4	5.6	530	粗輝安
4	軽石製品	4.5	4.4	2.5	26	安山岩
5	軽石製品	4.8	4.0	2.7	16	安山岩
6	石皿	33.2	21.6	4.2	4120	緑泥片岩



第79図　J 5号住居跡出土石器



第80図　Ｊ６Ａ号住居跡出土石器(1)



第81図　Ｊ６Ａ号住居跡出土石器(2)

第55表　Ｊ６Ａ号住居跡出土石器計測表

（単位：cm、g）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材
1	石鏃	(1.0	(0.9	0.3	0.2	黒曜石
2	石鏃	1.5	1.5	0.3	0.4	黒曜石
3	石鏃	(1.4	1.4	0.25	0.3	黒曜石
4	石鏃	3.2	(2.0	0.4	2.5	黒曜石
5	石錐	4.6	5.8	1.8	32.3	黒色頁岩
6	スクレイパー	4.0	6.3	0.9	25.2	黒色頁岩
7	スクレイパー	7.5	6.8	1.6	67.0	黒色頁岩
8	石核	4.7	3.4	2.3	34.3	黒色頁岩
9	打製石斧	(9.6	5.4	1.0	53.6	黒色頁岩
10	打製石斧	9.6	4.8	1.5	77.5	黒色頁岩
11	打製石斧	(8.8	5.5	1.6	95.7	黒色頁岩
12	凹石	9.3	7.6	4.0	348	粗輝安
13	凹石	8.8	8.1	4.8	356	粗輝安
14	凹石	11.1	7.6	4.9	594	粗輝安
15	磨石	12.8	8.4	5.9	974	粗輝安
16	磨石	8.7	8.0	7.2	650	粗輝安

第56表　Ｊ６Ｂ号住居跡出土石器計測表

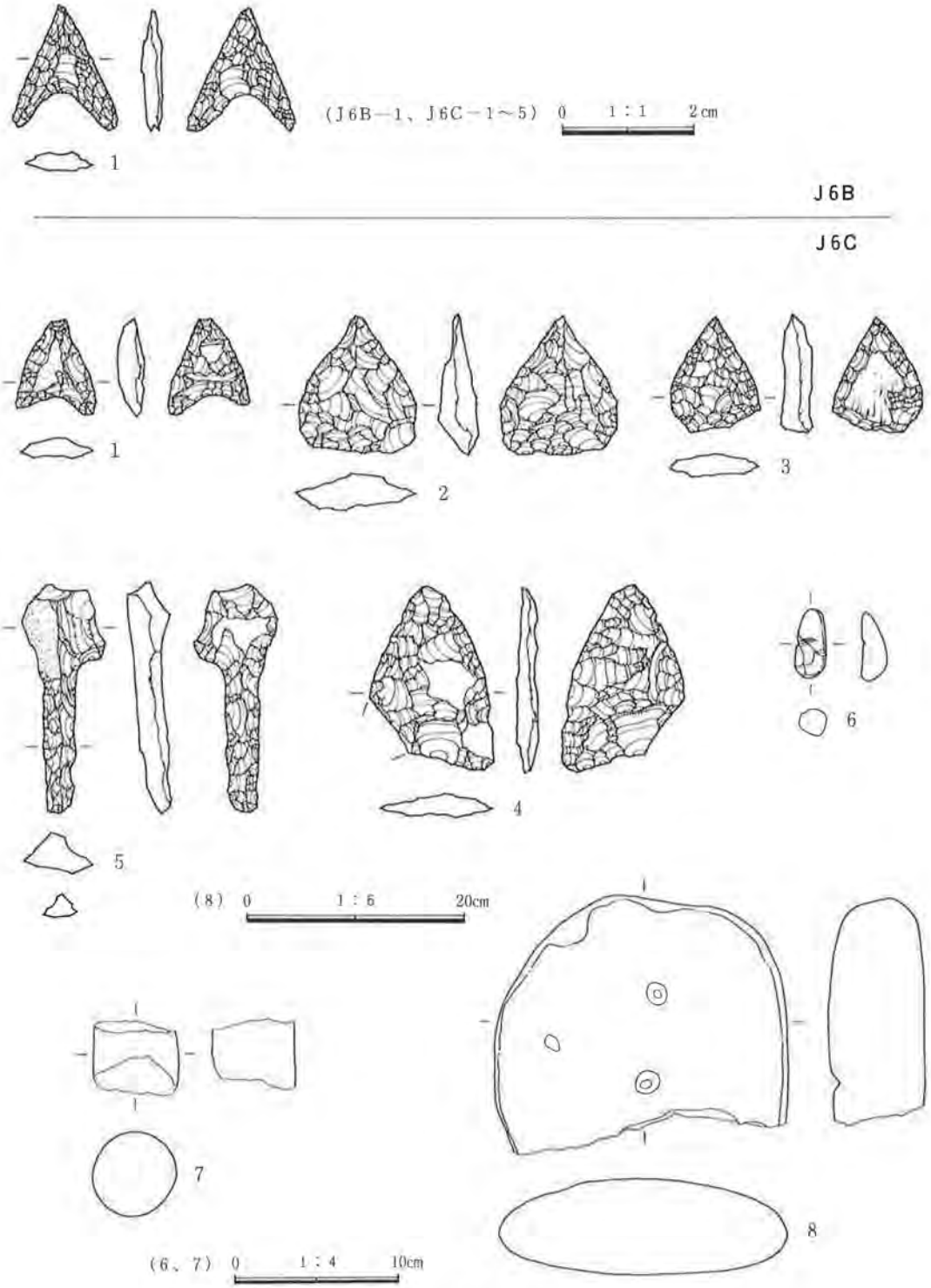
（単位：cm、g）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材
1	石鏃	1.8	1.6	0.3	0.5	チャート

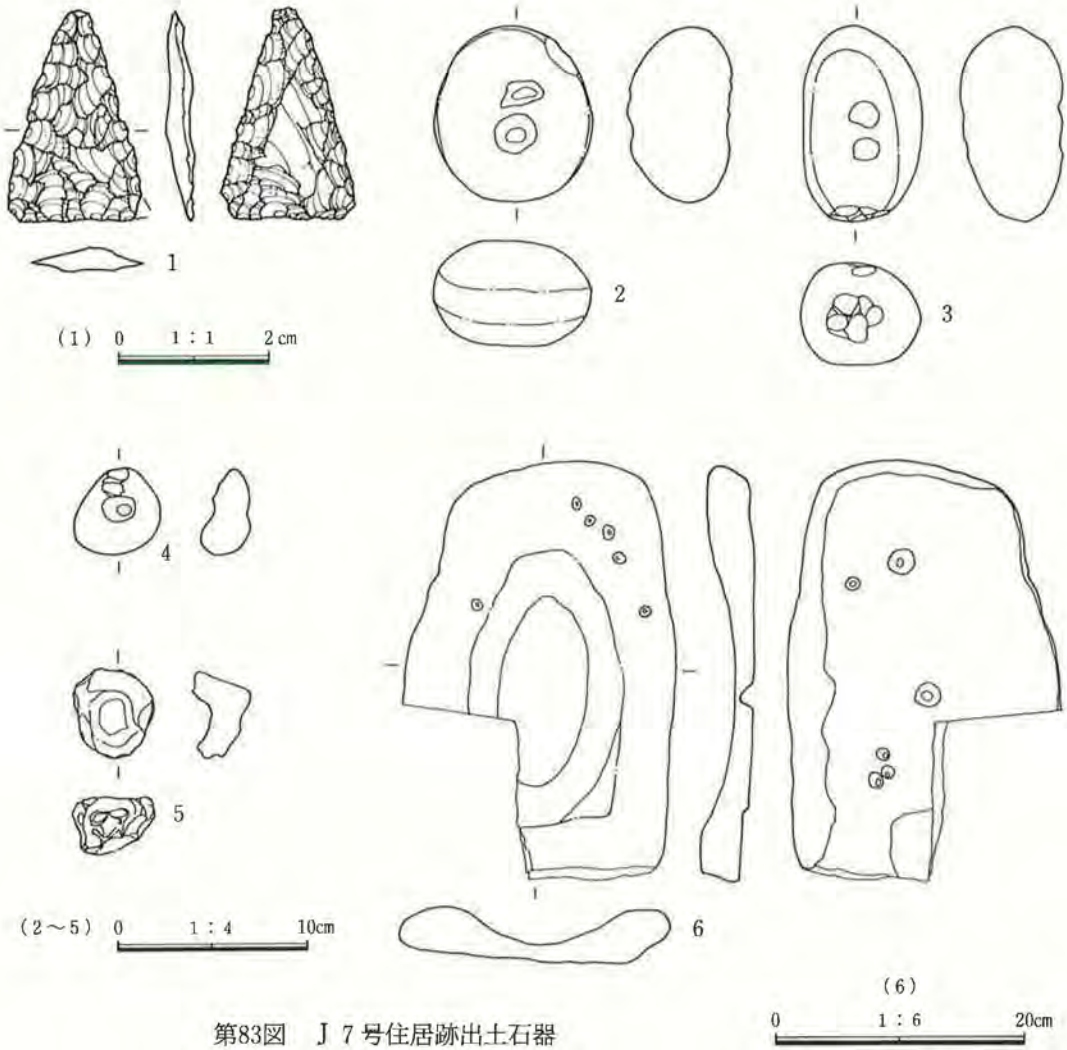
第57表　Ｊ６Ｃ号住居跡出土石器計測表

（単位：cm、g）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材
1	石鏃	1.4	1.2	0.4	0.5	黒曜石
2	石錐？	2.1	1.8	0.6	1.7	チャート
3	石鏃未製品？	1.8	1.4	0.4	0.95	黒曜石
4	石鏃	2.8	(1.9	0.3	1.8	チャート
5	石錐	3.5	1.3	0.6	1.5	黒曜石
6	軽石製品	4.2	1.8	1.5	4.0	安山岩
7	石棒	4.7	5.2	5.0	171	不明
8	台石	24.0	26.5	8.9	8210	粗輝安



第82図　Ｊ６Ｂ・Ｊ６Ｃ号住居跡出土石器

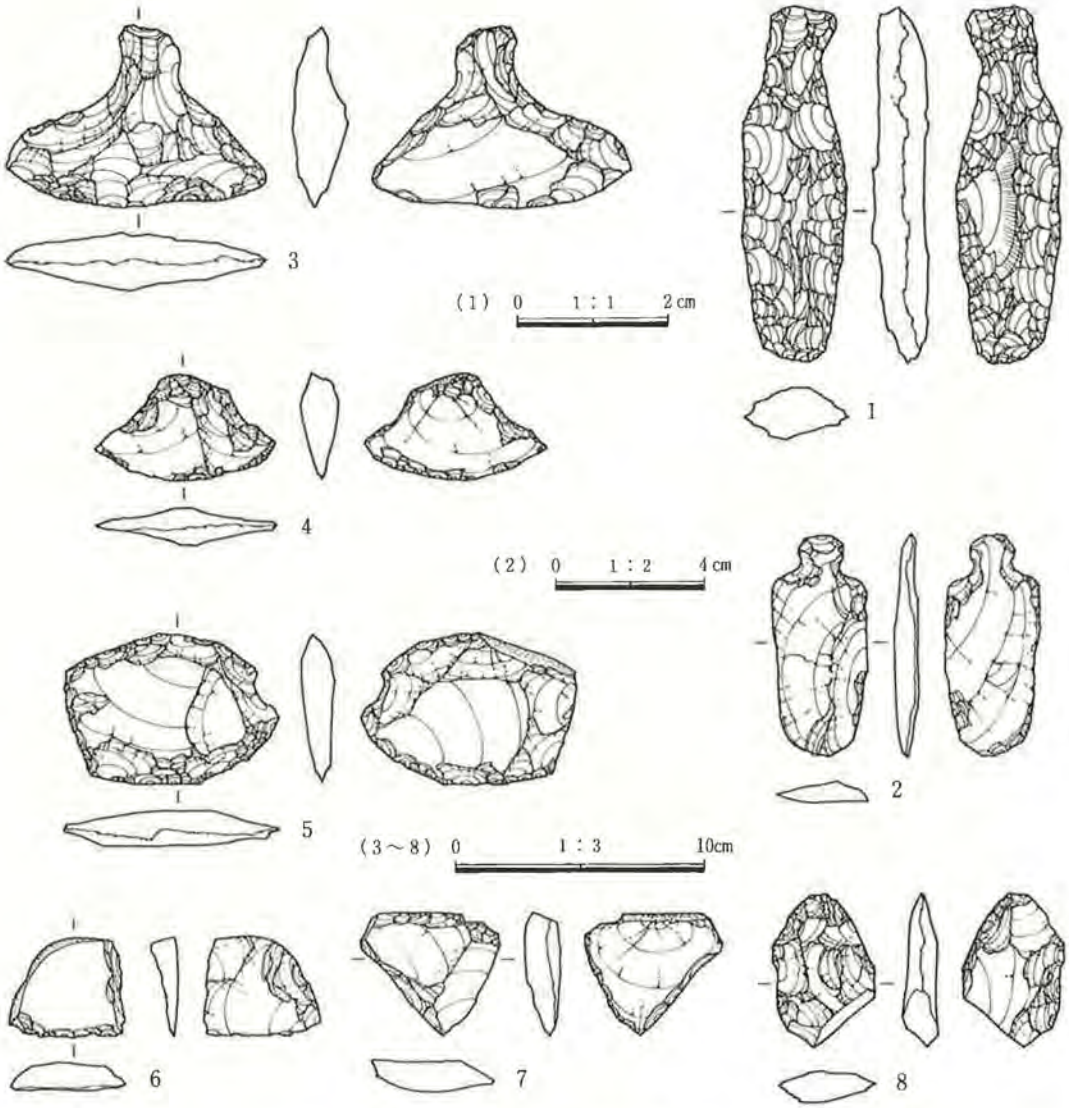


第83図　J 7 号住居跡出土石器

第59表　J 8 号住居跡出土石器計測表

（単位：cm、g）

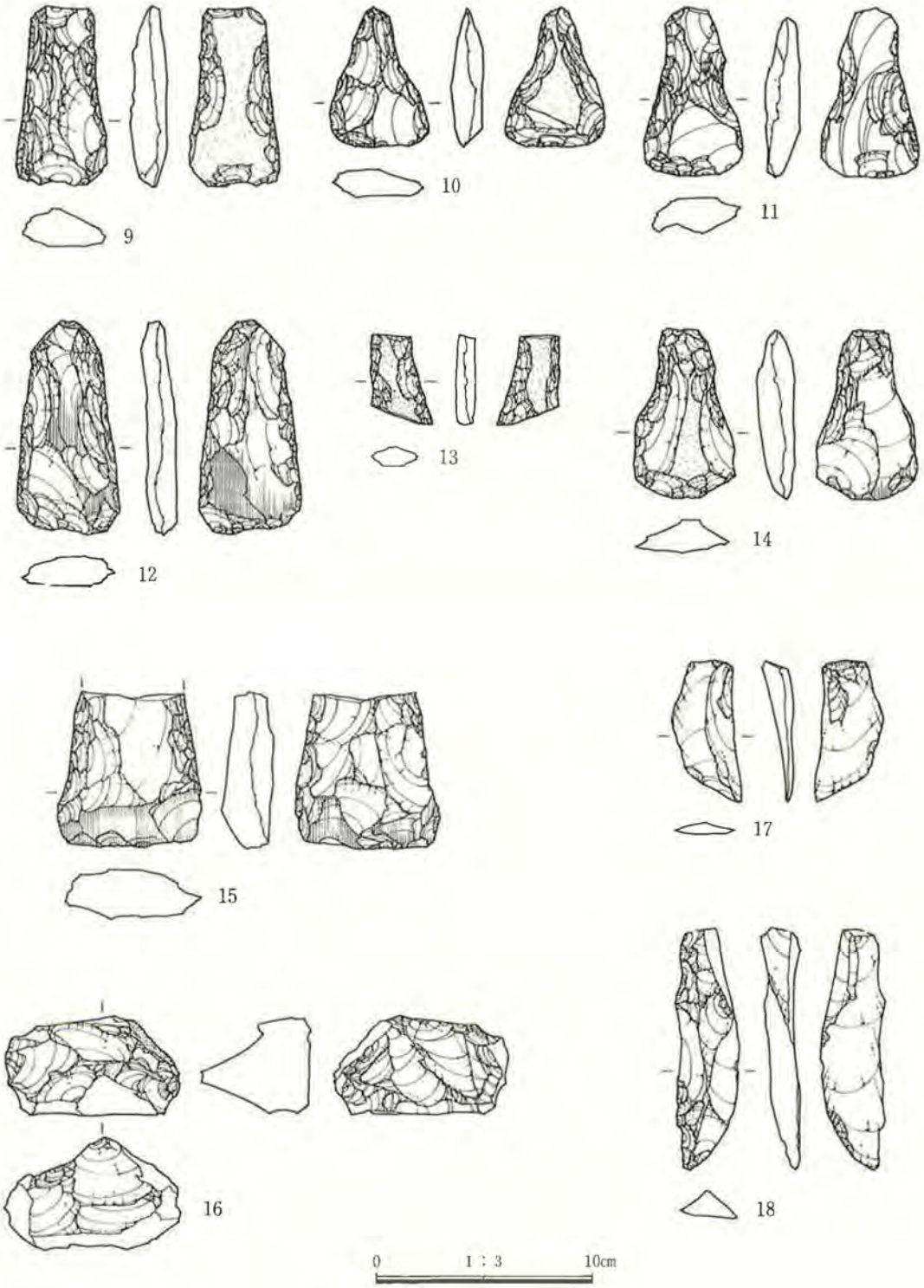
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重さ	石　材
1	石　匙	4.7	1.4	0,7	4.6	黒　曜　石
2	石　匙	5.9	2.5	0.6	8.4	黒色頁岩
3	石　匙	7.1	10.2	2.2	104	黒色頁岩
4	石　匙？	4.2	7.1	1.5	30.1	黒色頁岩
5	スクレイパー	6.0	8.4	1.4	68.3	黒色頁岩
6	スクレイパー	4.0	4.6	1.1	18.4	黒色頁岩
7	スクレイパー	4.8	5.5	1.4	36.1	黒色頁岩
8	スクレイパー	6.0	4.0	1.3	30.7	黒色安山岩
9	打製石斧	8.2	4.2	1.7	68.5	黒色頁岩
10	打製石斧	6.4	4.5	1.5	36.0	黒色頁岩
11	打製石斧	7.7	4.5	1.6	50.6	黒色頁岩
12	打製石斧	9.8	4.7	1.6	82.5	黒色頁岩
13	打製石斧？	4.1	2.9	0.9	12.9	チャート
14	打製石斧	7.8	4.6	1.8	56.4	黒色頁岩
15	打製石斧	(7.1	6.6	2.4	136	黒色頁岩
16	石　核	8.0	5.1	4.4	197	黒色頁岩
17	剝　片	6.4	3.2	1.4	15.5	黒色頁岩
18	使用痕剝片？	11.0	2.9	1.8	44.5	黒色頁岩
19	凹　石	11.0	8.7	4.8	640	粗　輝　安
20	凹　石	10.2	9.1	4.4	534	粗　輝　安
21	凹　石	9.9	7.2	4.0	380	粗　輝　安



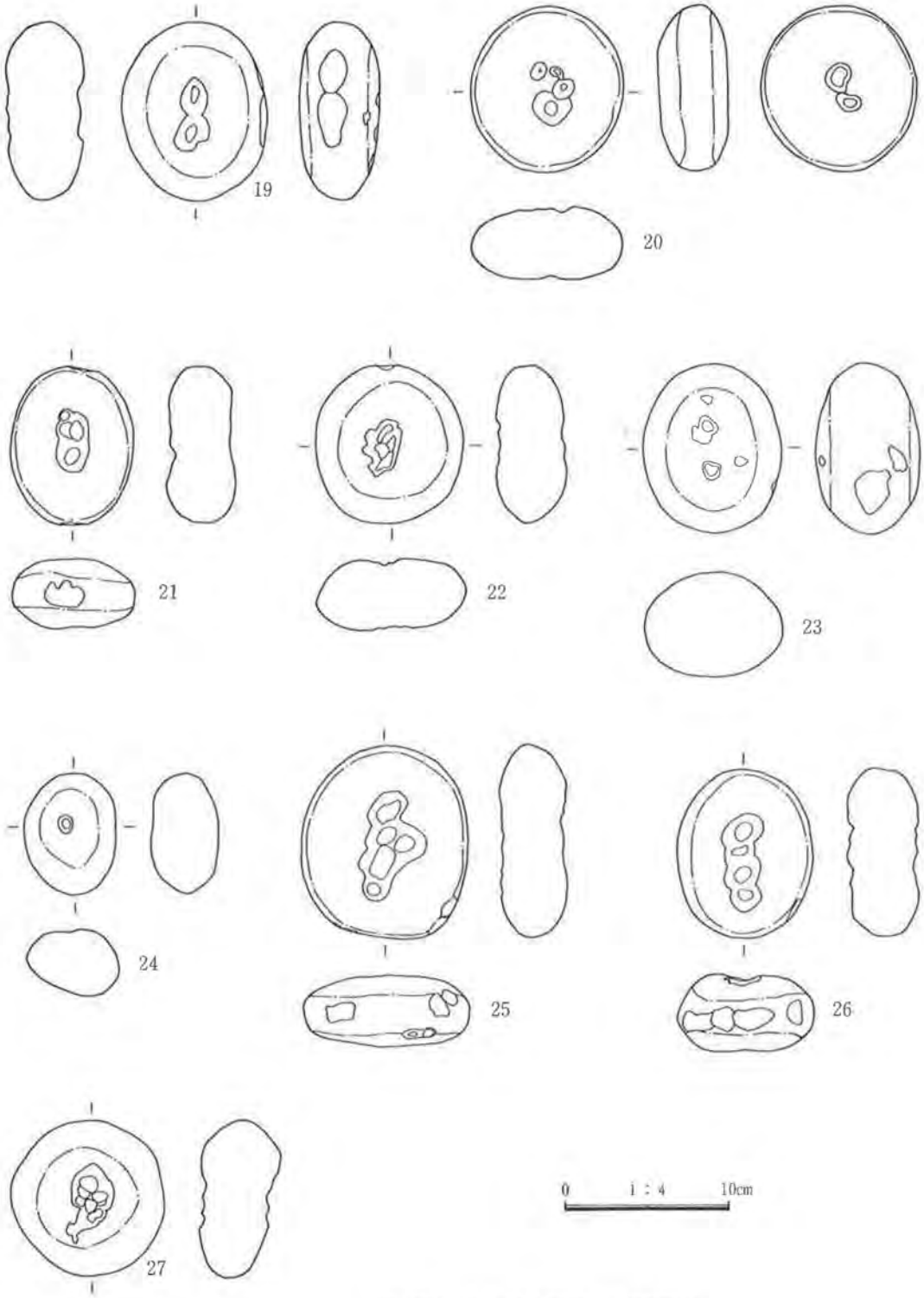
第84図　J 8号住居跡出土石器(1)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材
22	凹石	9.8	8.8	4.3	512	粗輝安
23	凹石	10.3	8.4	6.4	800	粗輝安
24	凹石	7.5	5.5	4.1	218	粗輝安
25	凹石	11.9	10.0	4.0	718	粗輝安
26	凹石	10.4	8.3	4.7	538	粗輝安
27	凹石	9.6	9.5	4.8	588	粗輝安

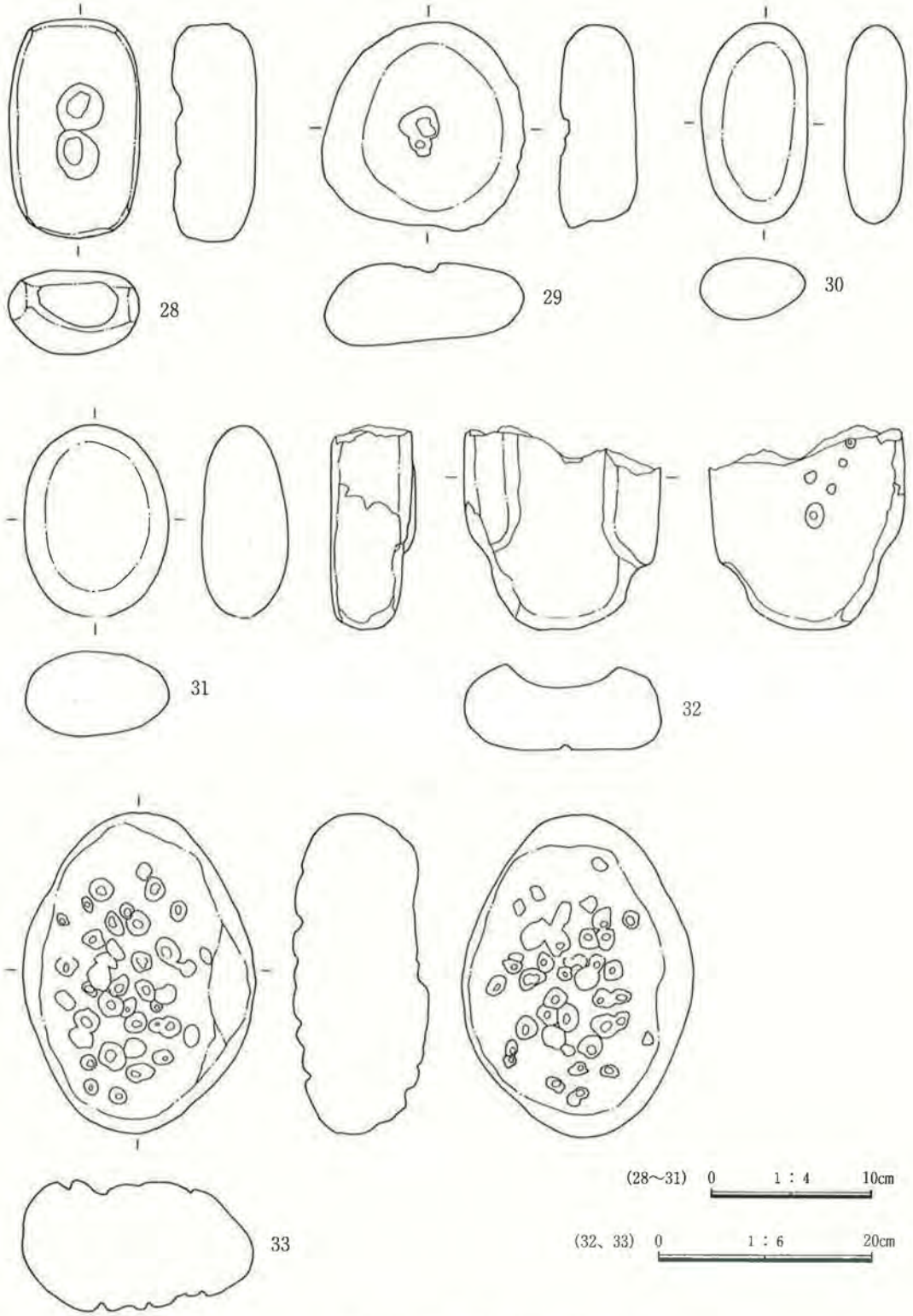
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材
28	凹石	13.5	8.0	5.2	826	粗輝安
29	凹石	12.7	12.3	5.1	712	粗輝安
30	磨石	12.4	6.5	3.7	498	粗輝安
31	磨石	12.0	8.7	5.2	752	粗輝安
32	石皿	18.8	18.0	7.6	3,350	粗輝安
33	多孔石	29.8	21.3	12.4	8,370	粗輝安



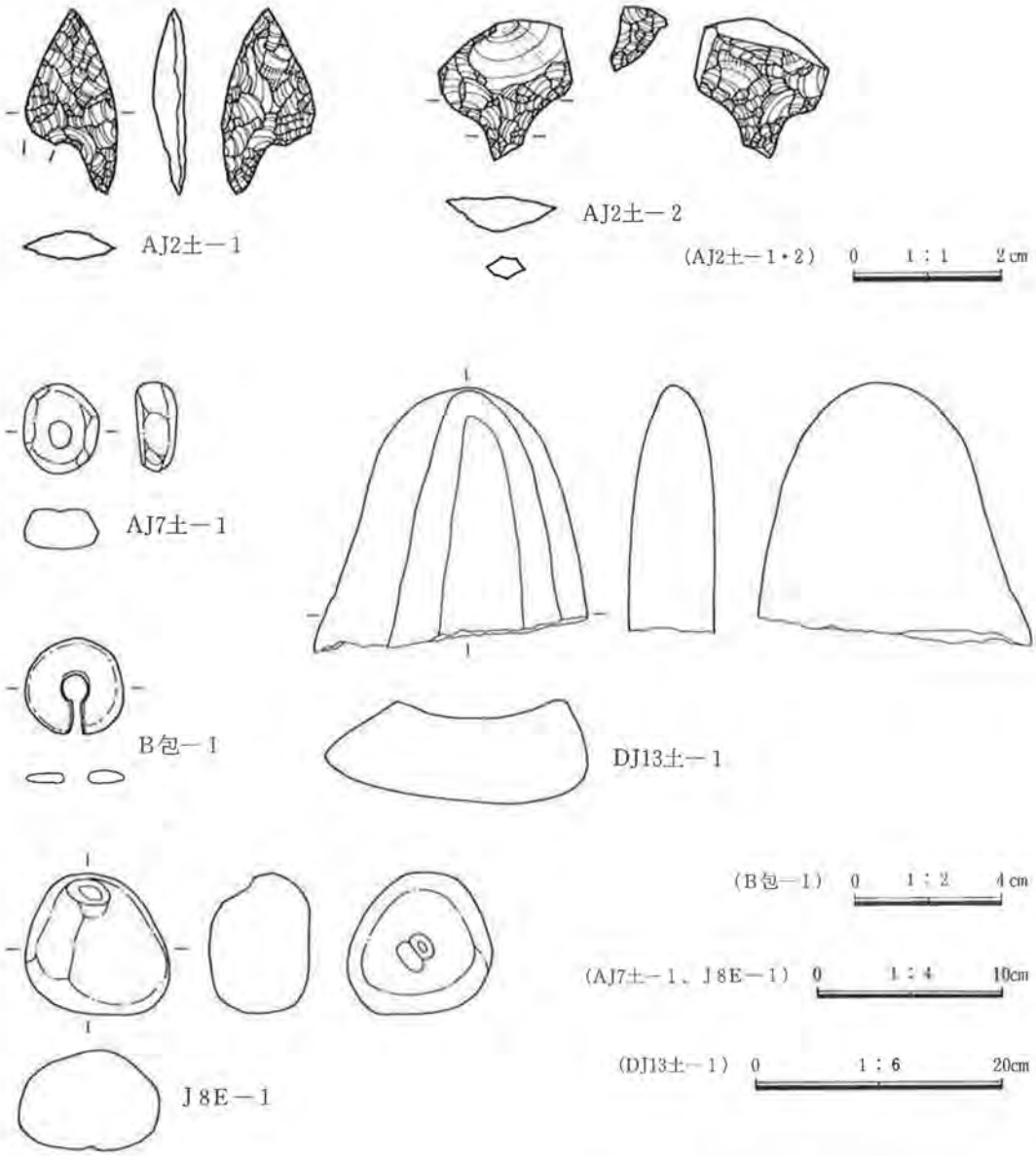
第85図　Ｊ８号住居跡出土石器(2)



第86図　Ｊ８号住居跡出土石器(3)



第87図　Ｊ８号住居跡出土石器(4)



第88図　土坑・遺構外出土石器

第60表　土坑・遺構外出土石器計測表
(単位：cm、g)

遺構名	番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材
AJ2号土坑	1	石鏃	2.0	(1.3	0.4	0.8	黒曜石
AJ2号土坑	2	石錐	1.9	1.8	0.8	1.5	黒曜石
AJ7号土坑	1	軽石製品	4.8	4.0	2.2	22.0	安山岩
DJ13号	1	石皿	21.8	22.0	8.5	4090	粗輝安
B区包含層	1	玦状耳飾	2.6	2.6	0.3	3.2	蛇紋岩
J8E	1	凹石	7.6	7.6	5.5	416	粗輝安

6．その他の遺構と遺物

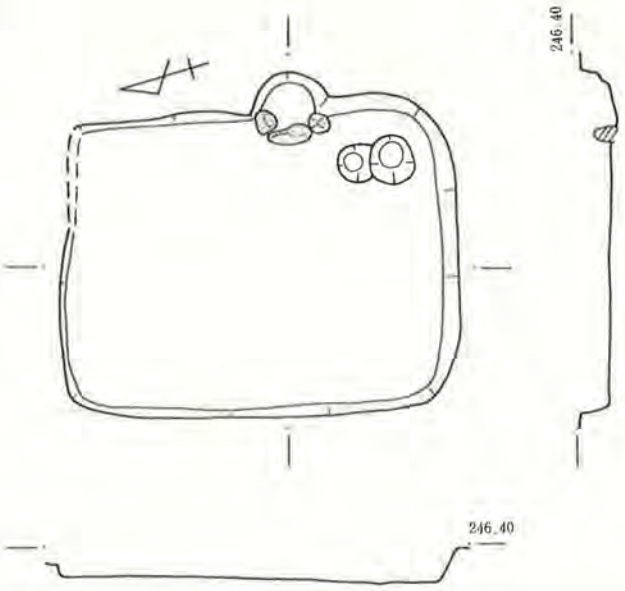
(1) 平安時代の住居跡

1号住居跡（遺構第89図）

B区東半部に位置する。調査区域内に近接する同時期の遺構は無い。

東西3.4m、南北4.2mを測り隅丸長方形を呈する。壁高は約40cmである。床面は軟弱で、柱穴は検出されていない。南東隅には壁から離れてピットがあるが、規模が小さく性格不明である。東壁の若干南寄りにカマドが付設されている。袖口に石を立て、天井石を架けた鳥居状の石組と思われるが、天井石は崩落していた。

遺物は全く出土していないが住居やカマドの構造から、平安時代頃の構築と思われる。

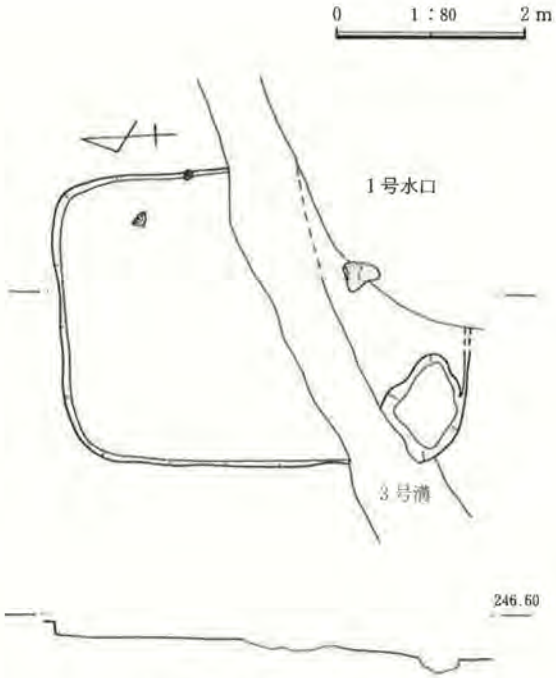


第89図　1号住居跡

2号住居跡（遺構第90図、遺物第92図）

D区中央部に位置する。3号溝、1号水口によって撹乱されている。

東西3.2m、南北4.3mを測り、隅丸長方形を呈する。壁高は約10cmと浅い。床面は軟弱である。南西隅に土坑が掘削されているが、性格不明である。カマドは3号溝等によって削平されたと思われ、他の施設も検



第90図　2号住居跡

出されていない。遺物は土師器の坏が２点出土した。遺構の時期は平安時代と思われる。

坏は２点とも径約12cm、高さ約３cmを計り、にぶい橙色～褐色を呈する。

(2) 江戸時代の暗渠

４号溝（遺構第91図、遺物第92図）

Ｅ区の北半部に位置する。時期不明の小ピット以外に近接する遺構は無い。

わずかに蛇行しながらおおむね南北方向に走向するが、南端で若干西方に向きを変える。幅1.5～2.4mの掘り方内に赤城山起源の自然石（山石）を用いて構築している。基本的に長さ60cm未満で様々な形状・大きさの用材の平の面を内側にして立て並べ、この上に天井石を架構する。中央部南寄りの掘り方が最大幅となる部分では壁材として縦・横ともに60cmを計る最大の石材を並置させ、現状では天井石を架構していなかった。管理施設的な性格が推測される。暗渠の内法は20cm前後である。遺物は掘り方を中心に陶磁器類が出土している。

(3) 時期不明の遺構（実測図未掲載）

１・２号溝

Ｃ区の北寄りに２条が並んで検出されている。１号溝は長さ４m、幅1.2m、深さ0.6m前後を測る。２号溝は長さ６m前後で同様な規模で、南端は採石坑と重複するが、新旧関係は不明である。遺構の性格は不明であるが、位置的にみると採石跡と関連する可能性が強い。

３号溝

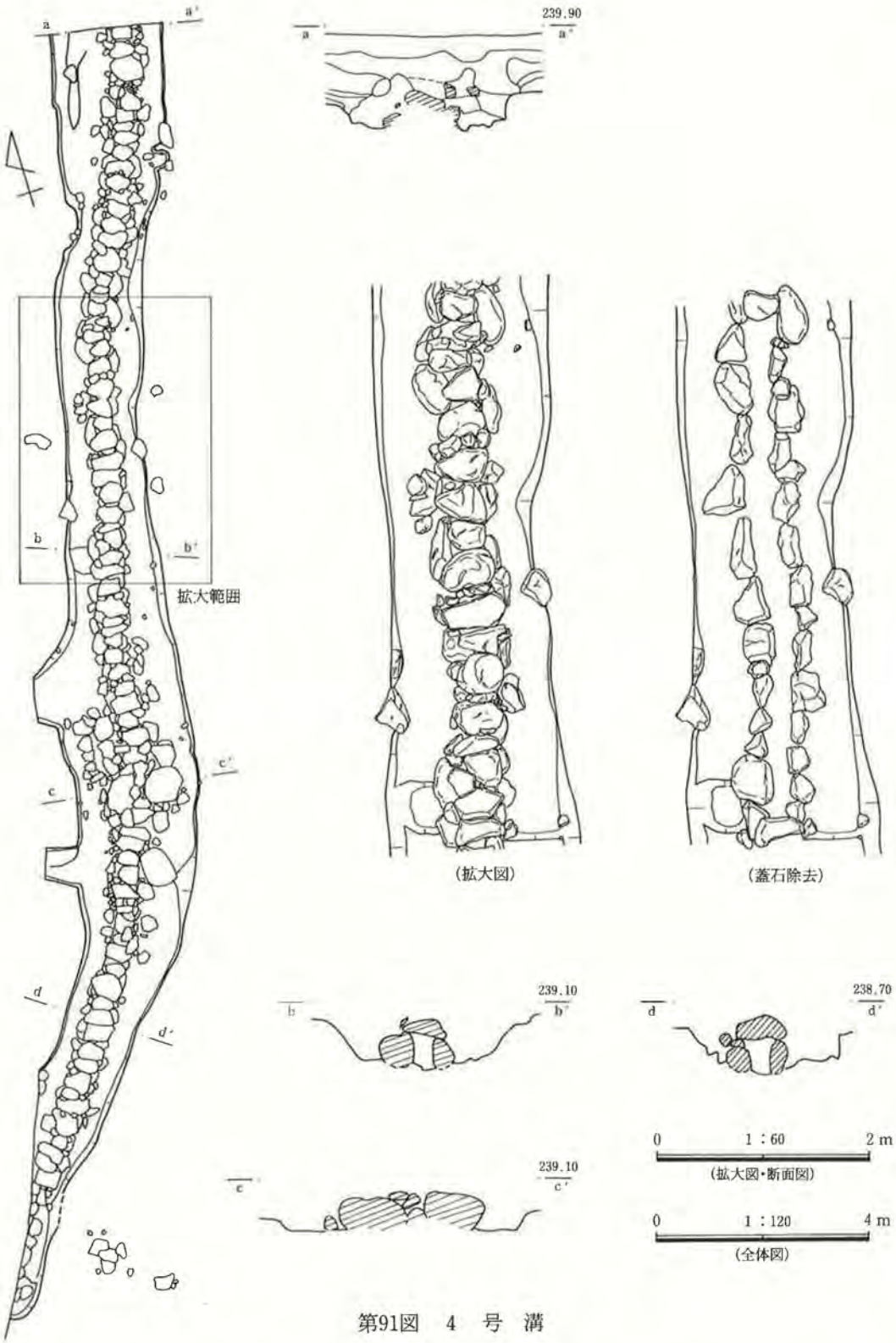
Ｄ区中央部からＣ区南端にかけて、ほぼ台地の縁辺に沿って敷設された溝である。２号住居跡より新しく、１・２号水口よりも古い。上幅80cm前後、深さ20cm未満のごく浅い溝である。遺物は出土していないが、覆土等の様相から平安時代頃の構築と推察する。

１・２号井戸、水路、１号水口

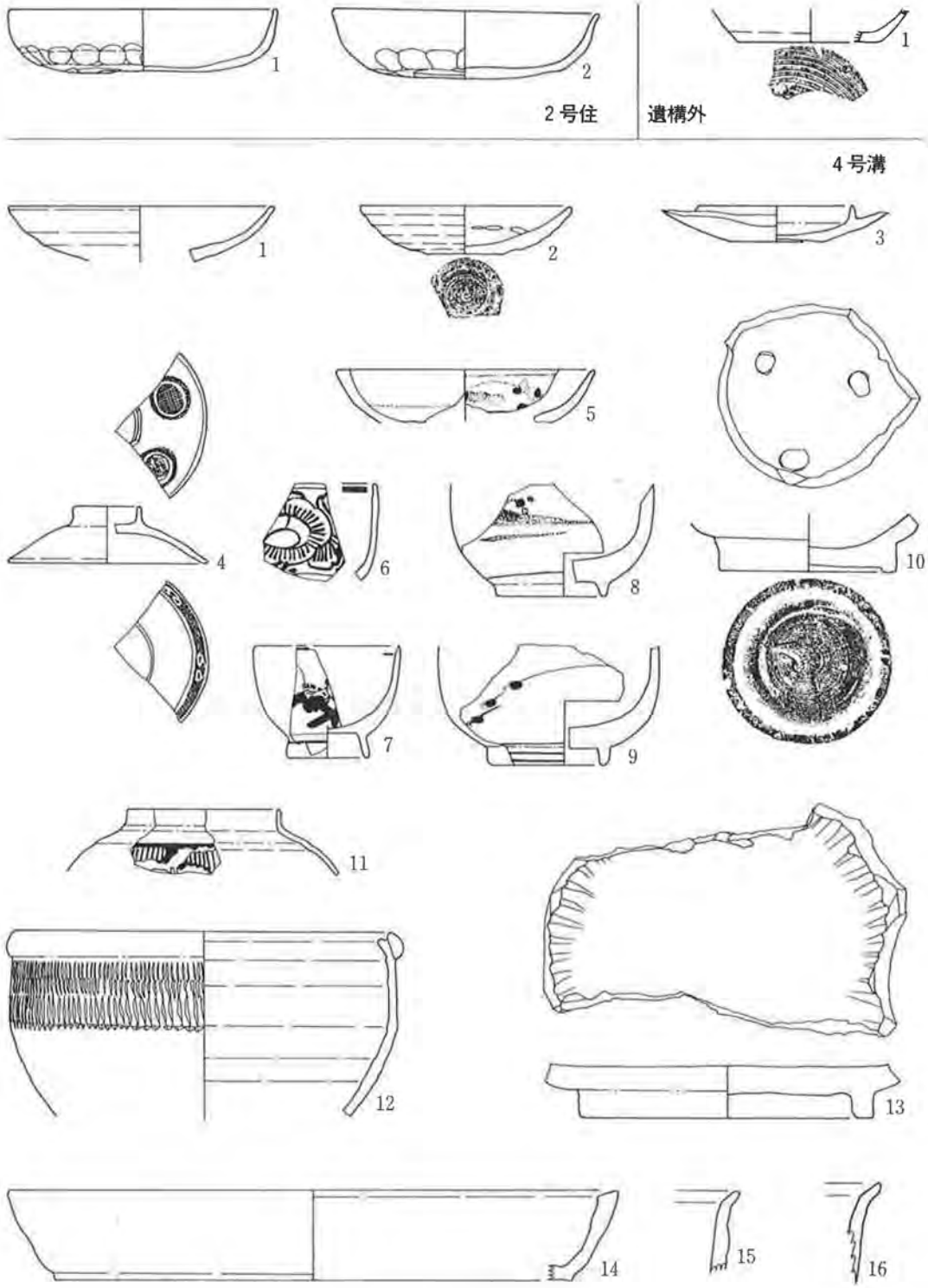
Ｄ区の中央部に位置する。１・２号井戸はＪ８号住居跡を壊して構築している。１号井戸と２号井戸の距離は約４mで、この間にトンネル状に水路が穿たれているが、人為的なものか、或は自然に形成されたものであるか判然としない。２号井戸の南に接して１号水口があり、南方に開口している。これら３（４）遺構はほぼ南北に配置されており、密接な関連が伺われる。

２号水口

１号水口の西方に並んで位置する。調査区の関係もあるが井戸は伴っていない。


a
a'
239.90
a
a'
b
b'
拡大範囲
c
c'
d
d'
(拡大図)
(蓋石除去)
239.10
b
b'
238.70
d
d'
0
1：60
2 m
(拡大図・断面図)
239.10
c
c'
0
1：120
4 m
(全体図)

第91図　4　号　溝



第92図　平安時代・近世出土遺物

Ⅲ　まとめにかえて

広面遺跡からは諸磯ｂ～ｃ式期の遺構・遺物が主体的に出土した。広面遺跡の範囲は明確ではないが、調査地から北側の広大な範囲に展開していると思われ、富士見村の縄文時代遺跡の中でも有数の大遺跡と考えられる。富士見村では広面遺跡と同じ平成２年度に、諸磯ｂ式期を主体とする愛宕山遺跡の調査を行っており、この両遺跡を合わせると本期の変遷段階の大半をカバーできる（但し、ｃ式期は貼付文を密に付す２段の屈曲口縁の段階まで）ようである。

土器の諸属性の変化や組成の分析により型式細分が可能になると思うが、時間的な制約に加え属性の観察が不充分なこともあり、現時点では分析を行うに至っていないため、今回は段階を判別する属性を絞り込み、大まかな土器変遷をみることで型式細分を目指した基礎作業としたい。

諸磯ｂ式からｃ式への変化、あるいはｃ式内での変化は、①口縁部形状は大波状口縁の極大化から平口縁へ、②貼付文は口縁部４単位から口縁部密、さらに、胴部貼付（粗→密）から小ボタン状貼付文、③（胴部）文様は横位区画から縦位区画、さらに縦位４単位区画から４単位の崩壊と施文順序の変化、④貼付文と平行沈線文の施文順序の変化、⑤縄文地文の減少などが主要な目安としてあげられるが、ここでは口縁部形状と貼付文の変化に主眼をおき段階分別を行う。また諸磯ｂ式とｃ式の区分は胴部文様の横位構成から縦位構成への変化の段階に置く。

遺構、特に住居跡出土の土器にはいわゆる「流れ込み」を除いても様々な時期のものが混在するため、遺構検出状況と出土土器の様相から、遺構ごとに土器の段階分けを行い、それらを比較することで全体的な段階設定を行いたい。主要な土坑についても段階設定の作業に加える。

〈遺構出土土器の段階〉

Ｊ１Ａ号住居跡　ほぼ単一時期の土器組成と思われる。口縁部形状は大波状口縁、小波状口縁、平口縁ともあり、文様は４単位規制が強い。諸磯ｃ式期でも最も古い段階。

Ｊ１Ｂ号住居跡　Ｊ１Ａ号住居跡・ＡＪ８号土坑の土器が混入している可能性があるが、ほぼ単一時期の土器組成と思われる。口縁部は平口縁が主体である。貼付文は口縁部密から胴部に進出し始める段階である。Ｊ１Ａ号住居跡より後の段階である。

Ｊ２号住居跡　別遺構の重複は認められず、土器様相も明瞭には複数の段階を認められない。貼付文は胴部に比較的密に付されるものと、付されないものとが併存するが、ウメガメには密に付されている。また、ウメガメの文様は４単位ではない。諸磯ｃ式期でＪ１Ｂ号住居跡よりも後出する段階と思われる。

Ｊ３号住居跡　土坑等の別遺構の重複が予想され、その遺物が混在する可能性がある。出土土器の主体は諸磯ｂ式期（Ｊ３古）で、諸磯ｃ式期（Ｊ３新）のものが少量混在する。Ｊ３古の口縁部は波状口縁、平口縁ともある。器形・器種組成的にはＪ

１Ａ号住居跡に近似しており、Ｊ１Ａ号住の直前段階と思われる。Ｊ３新は胴部に貼付文が付されない－Ｊ１Ａ号住頃の段階である。

Ｊ４号住居跡　縁辺部に土坑が重複する。諸磯ｂ式期、諸磯ｃ式期ともに出土している。資料数が少なく時期判断が難しいが、諸磯ｃ式期の可能性が強い。段階的にはＪ１Ｂ号住の時期と思われる。諸磯ｂ式土器はＪ３号住の段階である。

Ｊ５号住居跡　遺構の調査状況からは少なくとも住居跡３軒程度の重複が予想されている。出土土器も複数段階の様相を呈するが、主体は貼付文が胴部に比較的密に付されるＪ２号住の段階（Ｊ５新）である。さらに胴部に貼付文が付されないＪ１Ｂ号住の段階(Ｊ５中)、貼付文、胴部文様ともに強い４単位規制下にあるＪ１Ａ号住の段階（Ｊ５古）が次ぐ。このほかｂ式期のＪ３号住段階もある程度出土している。但し、ｃ式期の土器についてはいずれも連続する段階であり、個別の破片については明瞭に段階分けが困難なものも多い。

Ｊ６Ａ号住居跡　Ｊ６Ｂ号住居跡や土坑と重複しており、さらには性格不明なＪ８Ｅの土器が混入している可能性がある。諸磯ｃ式期はＪ１Ａ号住段階、Ｊ２号住段階(Ｊ６Ａ新）も出土しているが、主体は諸磯ｂ式期で、Ｊ３号住段階より若干古い様相である（Ｊ６Ａ古)。１は覆土最上層から出土している。

Ｊ６Ｂ号住居跡　諸磯ｂ～ｃ式期の土器が出土しているが資料数が少なく時期は不明確である。

Ｊ６Ｃ号住居跡　ｃ式期主体で、貼付文が胴部に付される段階－Ｊ２号住段階である。Ｊ１Ａ号住段階或はそれ以前の遺物はＪ６Ｂ号住居跡からの混入の可能性がある。

Ｊ７号住居跡　重複により少なくともＪ８号住居跡の土器が混入している可能性がある。諸磯ｃ式期主体で、貼付文が胴部に付される段階である。復元個体の口縁部には２段の屈曲口縁のものがあり、胴部に４単位規制は認められないが、口縁部の貼付文に４単位の意識が残るものがある。－Ｊ２号住居跡の段階

Ｊ８号住居跡　Ｊ７号住居跡の土器を分離できていない。また他の遺構の重複も予想される。複数時期のものが出土しているが、主体はｂ式期－Ｊ６Ａ号の段階（Ｊ８古）とｃ式期－Ｊ１Ａ号を前後する段階（Ｊ８中）である。Ｊ２号段階（Ｊ８新）の土器は本来的にはＪ７号住居跡に帰属すると思われる。

ＡＪ１号土坑　諸磯ｃ式期である。貼付文は口縁部密、胴部無～少で、Ｊ１Ｂ号住段階である。

ＡＪ２号土坑　諸磯ｂ式期で沈線文だけの組成である。Ｊ３号住古の段階である。

ＡＪ３号土坑　諸磯ｂ式期で浮線文と沈線文が併存する。Ｊ６号住古より古い段階である。

ＡＪ７号土坑　諸磯ｃ式期で貼付文が胴部に付される。Ｊ２号住段階である。

ＡＪ８号土坑　諸磯ｃ式期で貼付文が胴部に付されるものもある。Ｊ２号住段階前後である。

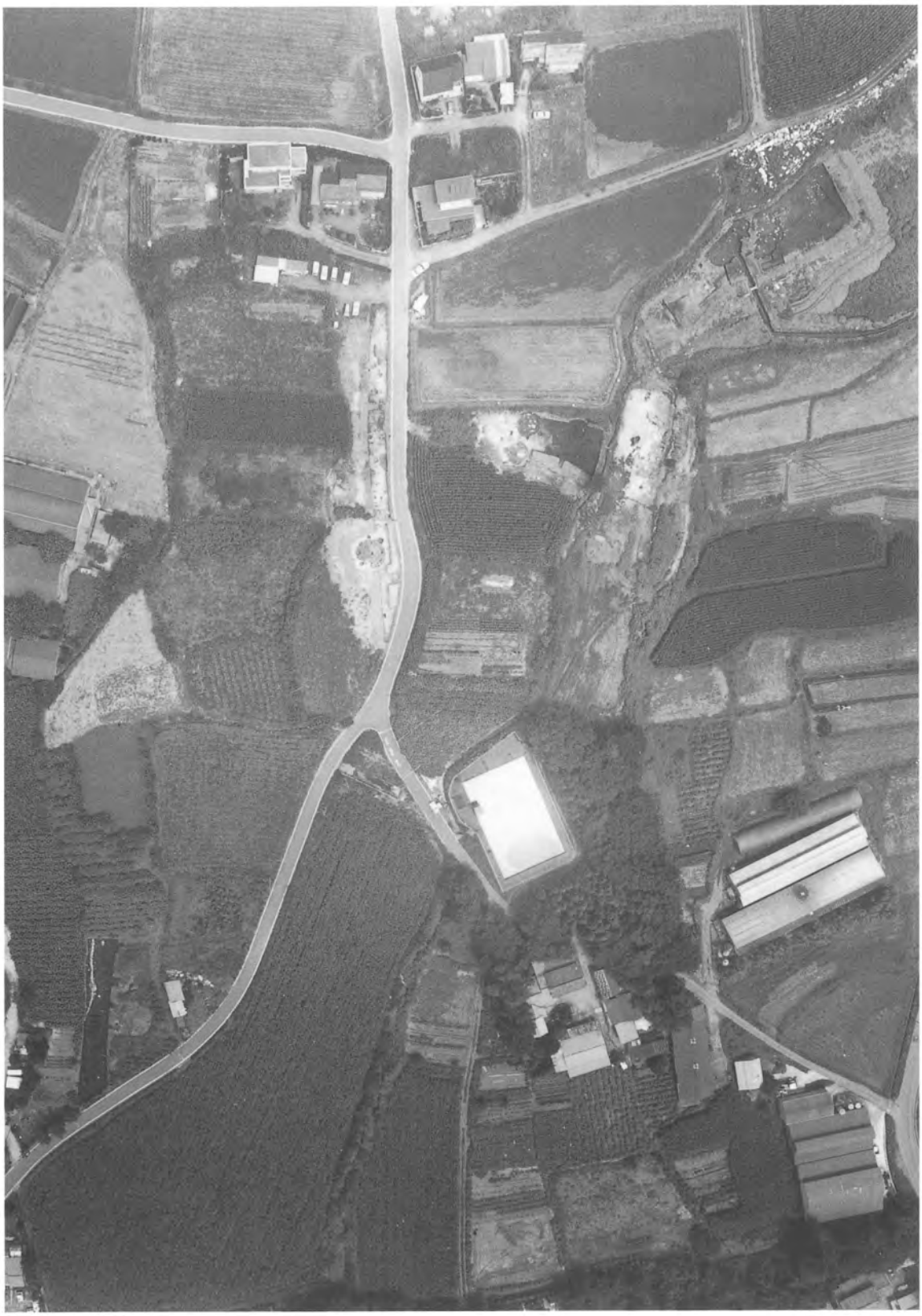
以上をまとめ、属性の一部を付加したものが第61表である。今後、広面遺跡出土土器の観察を改めて行い、諸属性の変化・段階ごとの組成、器種・器形の構成等を分析し、他遺跡・他地域の資料の検討も経た上で改めて諸磯ｂ～ｃ式土器の型式細分について考えてみたい。また、群馬県地域ではいわゆる諸磯ｃ式新段階の土器は非常に希薄であり、広面遺跡でも同様な状況であるが、富士見村では単体ではあるが坂上遺跡（平成３年度調査）と上百駄山遺跡（本年度調査）からこの段階の復元資料が出土しており、陣場遺跡（平成元年度調査）からは破片資料が多いものの比較的まとまった量の資料が出土しているので、これらの資料の整理を待って改めて富士見村全体の該期の土器の変遷を提示できるようにもしたいと考えている。

第61表　広面遺跡の諸磯ｂ～ｃ式土器の変遷表

段　階	住居跡	土　坑	器　形	文　様	文様要素
広面第１段階		ＡＪ３土	波状口縁（靴先状）	横帯（区画）文 渦巻文	浮線文 平行沈線文
広面第２段階	Ｊ６Ａ古 Ｊ８古	ＡＪ２土 ＤＪ４土	波状口縁（靴先状） 平口縁	横帯（区画）文 渦巻文 孤線文	平行（集合）沈線文 縄文地文 波頂下貼付文
広面第３段階	Ｊ３古	ＤＪ14土 ＤＪ19土	大波状口縁（靴先状） 中波状口縁 小波状口縁 平口縁 内折波状口縁	横帯（区画）文 横矢羽根 レンズ状文（向孤線文） 連子文 孤線文	平行（集合）沈線文 縄文地文 波頂下貼付文
広面第４段階	Ｊ１Ａ Ｊ３新 Ｊ５古 Ｊ８中	ＢＪ３土 ＢＪ５土 ＤＪ５土	大波状口縁 中波状口縁 小波状口縁 平口縁 内折波状口縁 屈曲底部	横帯文 懸垂区画文４単位 レンズ状文（向孤線文） 横矢羽根 レンズ状区画内格子目文 懸垂区画帯内縦矢羽根 レンズ状区画内横帯区画	平行（集合）沈線文 縄文地文 凹凸文 貼付文４単位
広面第５段階	Ｊ１Ｂ Ｊ４ Ｊ５中	ＡＪ１土 ＡＪ６土 ＢＪ１土	平口縁 内折波状口縁 屈曲底部	横帯文 懸垂区画文 レンズ状文（向孤線文） 横矢羽根	平行（集合）沈線文 縄文地文 凹凸文 貼付文口縁部密
広面第６段階	Ｊ２ Ｊ５新 Ｊ６Ａ新 Ｊ６Ｃ Ｊ７（Ｊ８新）	ＡＪ８土 ＤＪ18土 ＡＪ７土	平口縁 ２段屈曲口縁 屈曲底部	横帯文 （懸垂区画文） レンズ状文（向孤線文） 横矢羽根	平行（集合）沈線文 （縄文地文） （凹凸文） 貼付文口縁～胴部密

注：本表中の（集合）沈線文は観察表中の施文技法（集合、連続、平行）の集合でなく、一般的な集合沈線文の意味である。

写 真 図 版



1、広面遺跡全景（上空から－上が北）

1、広面遺跡A～D区全景（南上空から）

2、広面遺跡A～C区全景（東上空から）

1、Ｊ１Ａ・Ｂ号住居跡全景（西から）

2、Ｊ１Ａ号住居跡遺物出土状態近接（東から）

3、Ｊ１Ａ号住居跡柱穴及び遺物出土状態（西から）

4、Ｊ１Ｂ号住居跡（北から）

5、Ｊ２号住居跡（西から）

PL4

1、Ｊ３号住居跡全景（南から）

2、Ｊ４号住居跡全景（西から）

3、Ｊ５号住居跡全景（東から）

4、Ｊ５号住居跡遺物出土状態（北から）

5、Ｊ６Ａ～Ｃ号住居跡全景（東から）

1、Ｊ６Ａ号住居跡遺物出土状態近接（南から）

2、Ｊ６Ａ号住居跡遺物出土状態近接（南から）

3、Ｊ６Ｃ号住居跡全景（東から）

4、Ｊ６Ｃ号住居跡埋甕（西から）

5、Ｊ７・８号住居跡（東から）

6、Ｊ７号住居跡遺物出土状態近接（南から）

7、Ｊ７号住居跡遺物出土状態近接（西から）

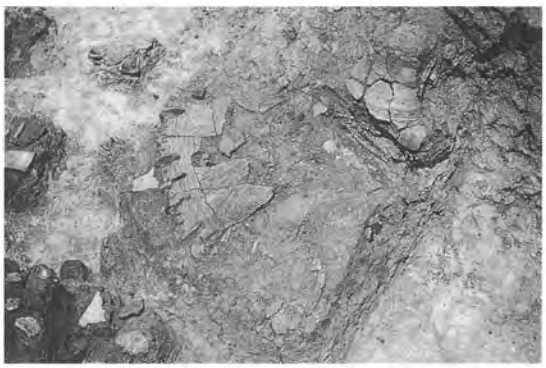
8、Ｊ７号住居跡遺物出土状態近接（東から）

PL6

1、A区中央部縄文土坑群（南から）

2、A区北半部縄文土坑群（北から）

3、ＡＪ１Ａ・Ｂ号土坑全景（南から）



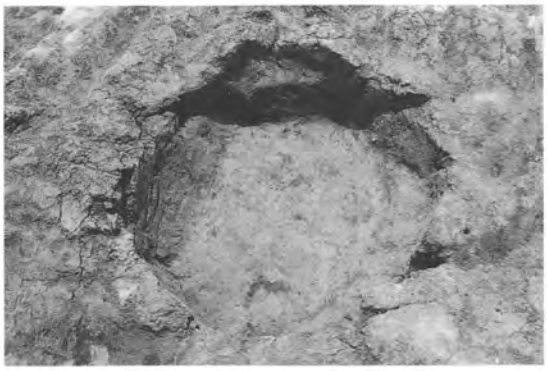
4、ＡＪ１Ａ号土坑遺物出土状態近接（東から）

5、ＡＪ２号土坑全景（東から）

6、ＡＪ２号土坑遺物出土状態近接（南から）

7、ＡＪ７号土坑全景（南から）

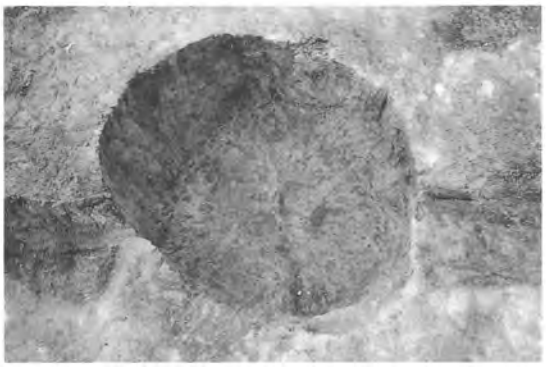
8、ＡＪ８号土坑全景（西から）



1、ＡＪ９号土坑全景（北から）

2、ＡＪ10号土坑全景（東から）

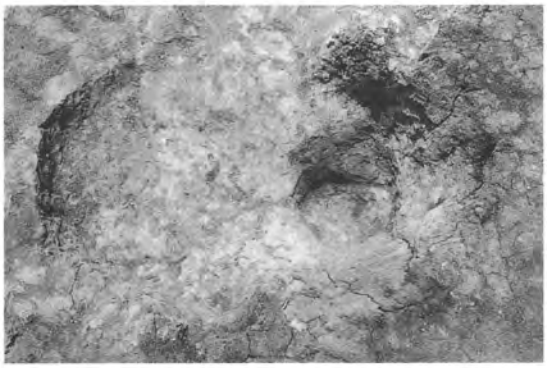
3、ＡＪ13号土坑（北から）



4、ＡＪ14号土坑全景（西から）

5、ＡＪ15・16号土坑全景（東から）

6、ＡＪ17号土坑全景（西から）

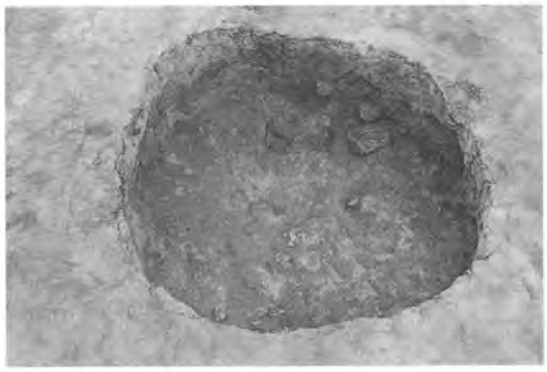


7、ＡＪ19号土坑全景（南から）

8、ＡＪ20号土坑全景（北西から）

PL8

1、ＢＪ１号土坑全景（西から）



2、ＢＪ２号土坑全景（西から）

3、ＢＪ３号土坑全景（東から）

4、ＢＪ６号土坑全景（北から）

5、ＣＪ１号土坑全景（北から）

6、ＣＪ２号土坑全景（南から）

7、ＣＪ３・４号土坑全景（東から）

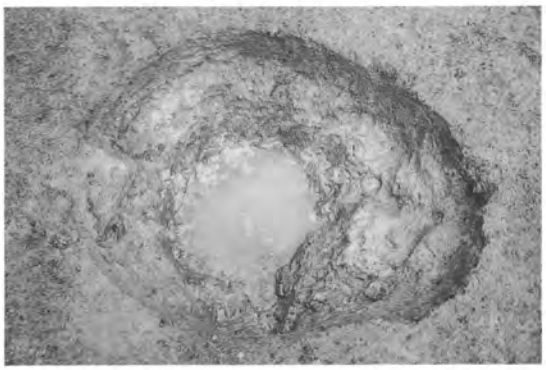
8、ＣＪ５号土坑全景（北から）

1、D区縄文土坑群（北西から）

2、ＤＪ１・２号土坑全景（北から）

3、ＤＪ９号土坑全景（東から）

4、ＤＪ７・８号土坑全景（東から）



5、ＤＪ10号土坑全景（西から）

1、１号住居跡全景（西から）

2、２号住居跡全景（西から）

3、１号溝（北西から）

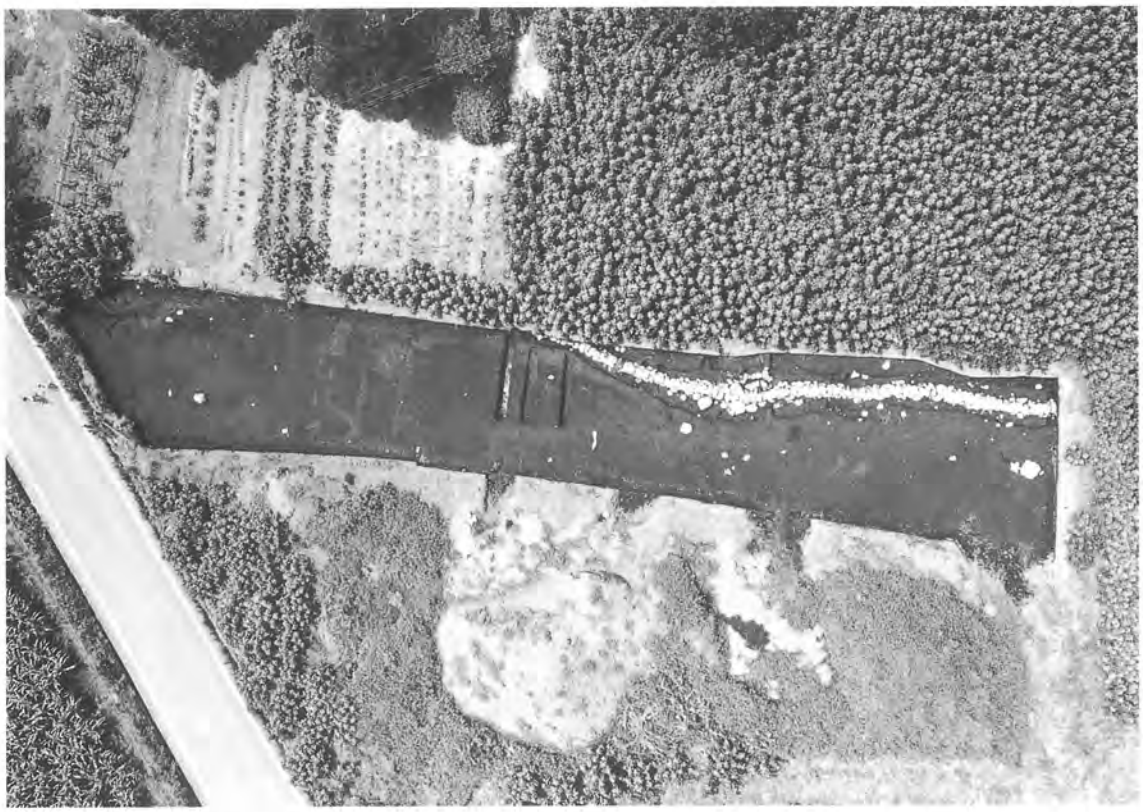
4、２号溝（北西から）

5、３号溝（北東から）Ｃ区

6、３号溝（西から）Ｄ区

7、採石跡（北から）

8、作業風景　Ｊ８号住居跡



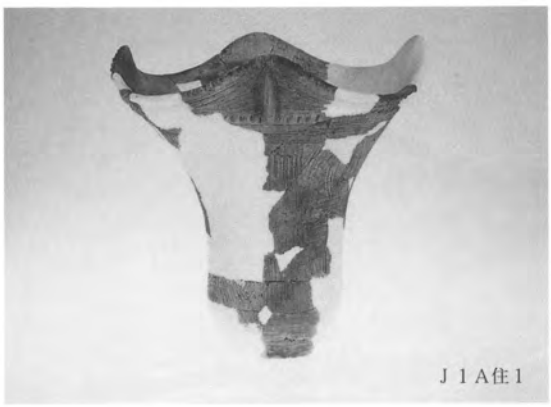
1、E区全景（上空から－上が西）

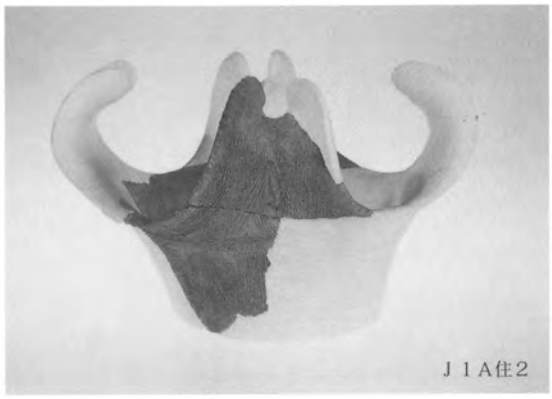
2、4号溝（北から）

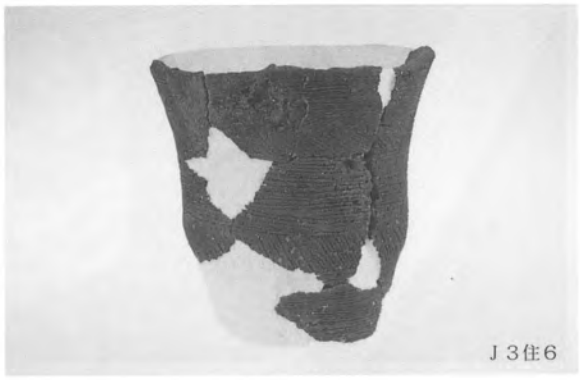
3、4号溝（北から）

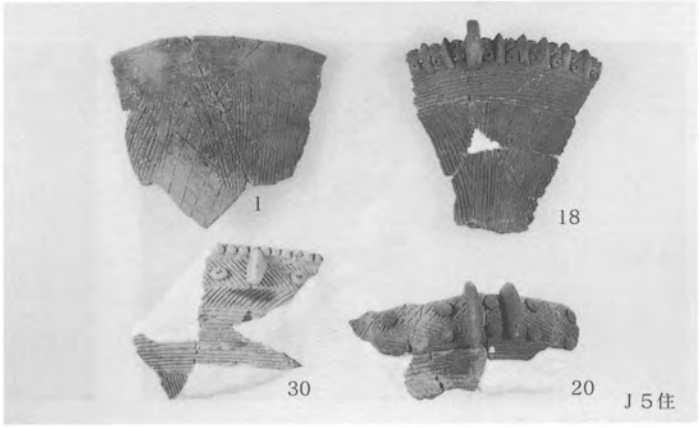
4、4号溝検出状況（北から）

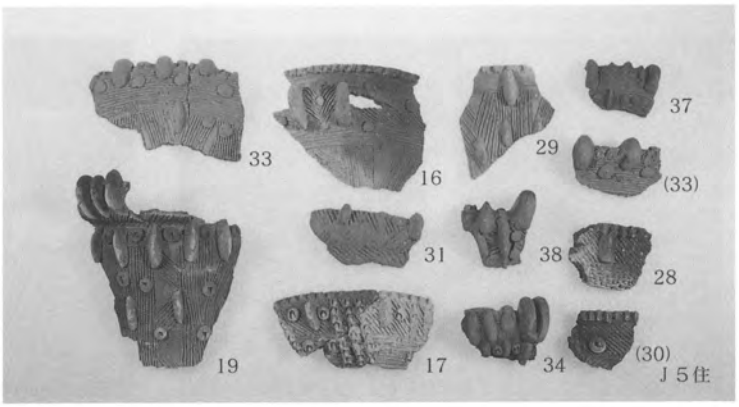
5、4号溝蓋石除去（南から）



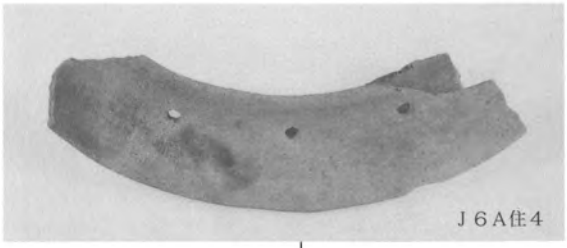


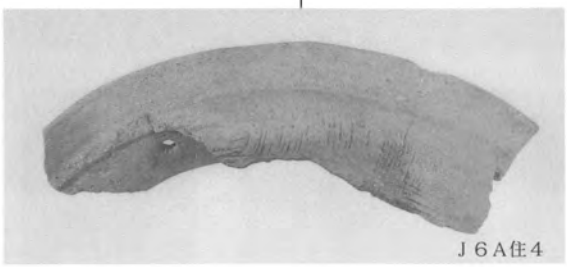


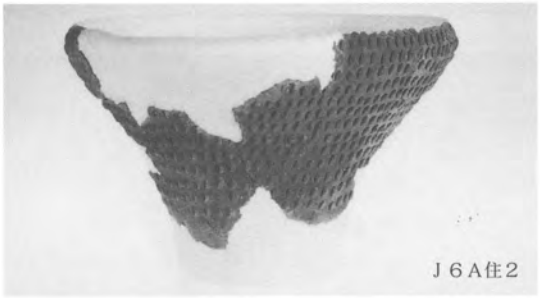


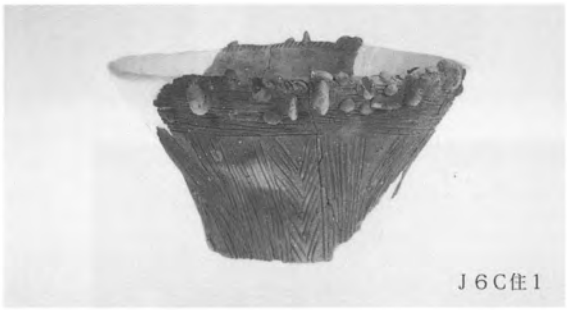


J１A・J３・J５号住居跡出土土器



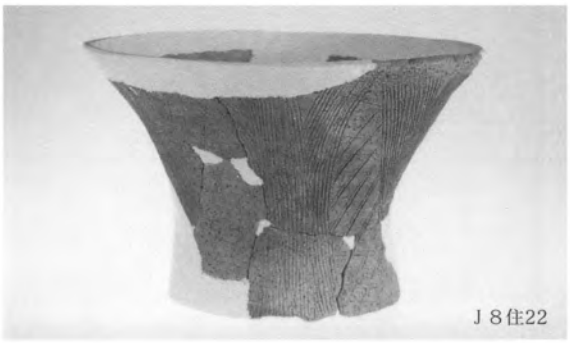






Ｊ６Ａ・Ｃ号住居跡、Ｊ７号住居跡出土土器

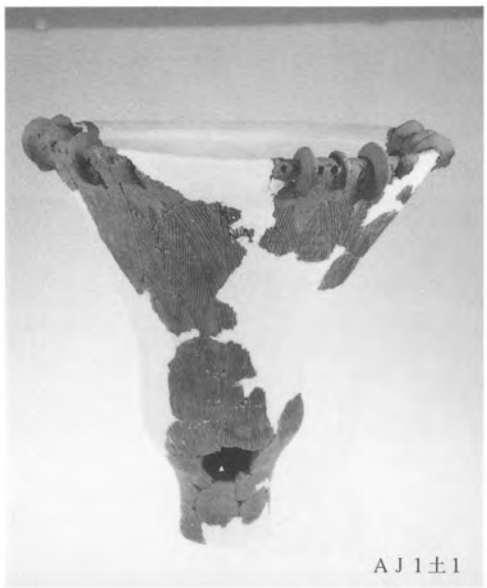
J８住19

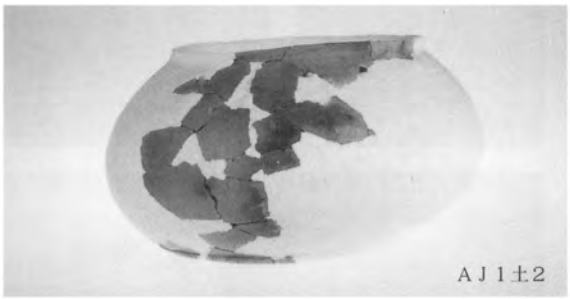

J８住22

J８住7

J８住18

J８住152


AJ１土1


AJ１土2

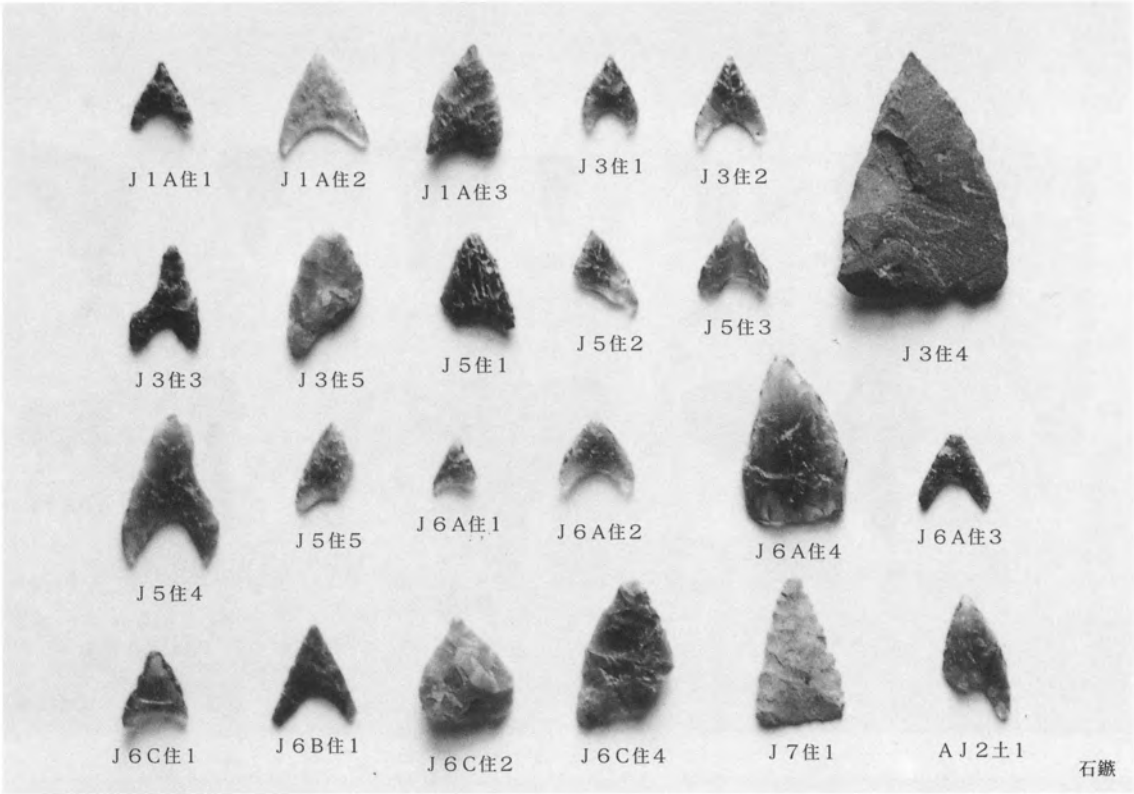
AJ２土1

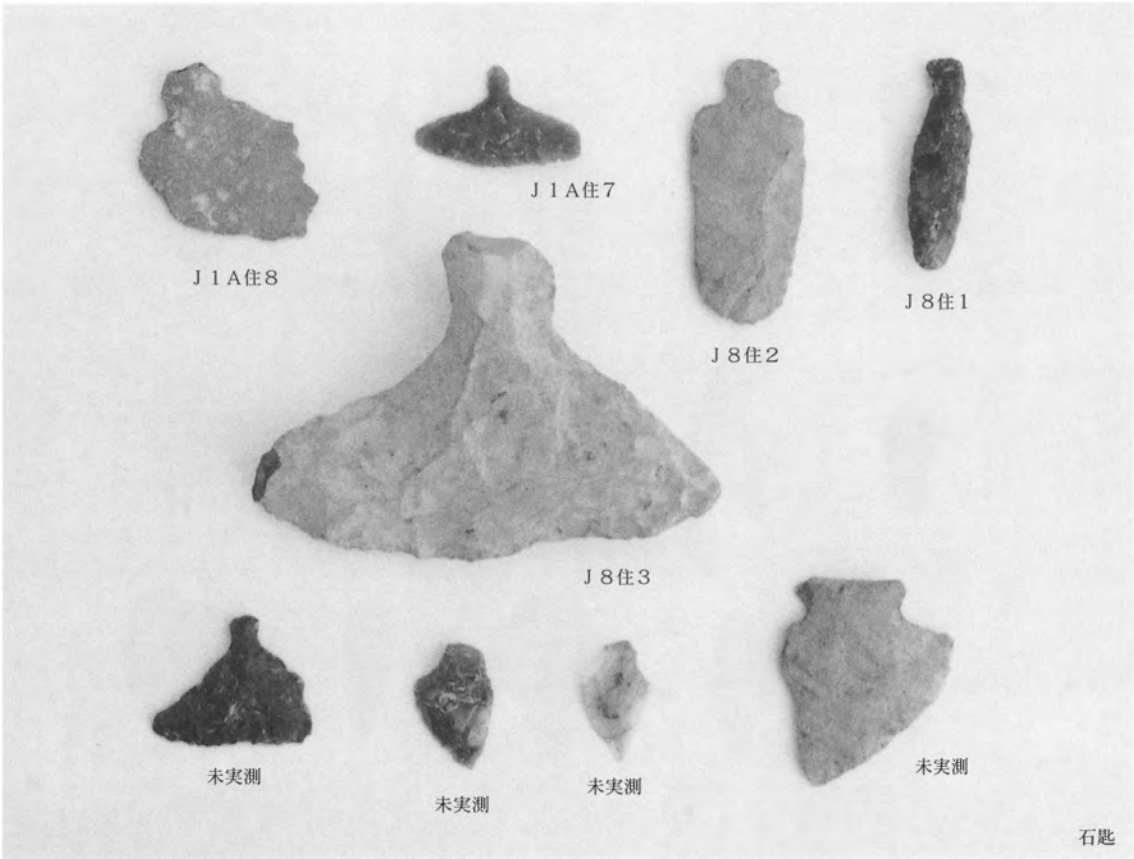
DJ１土1

B包1

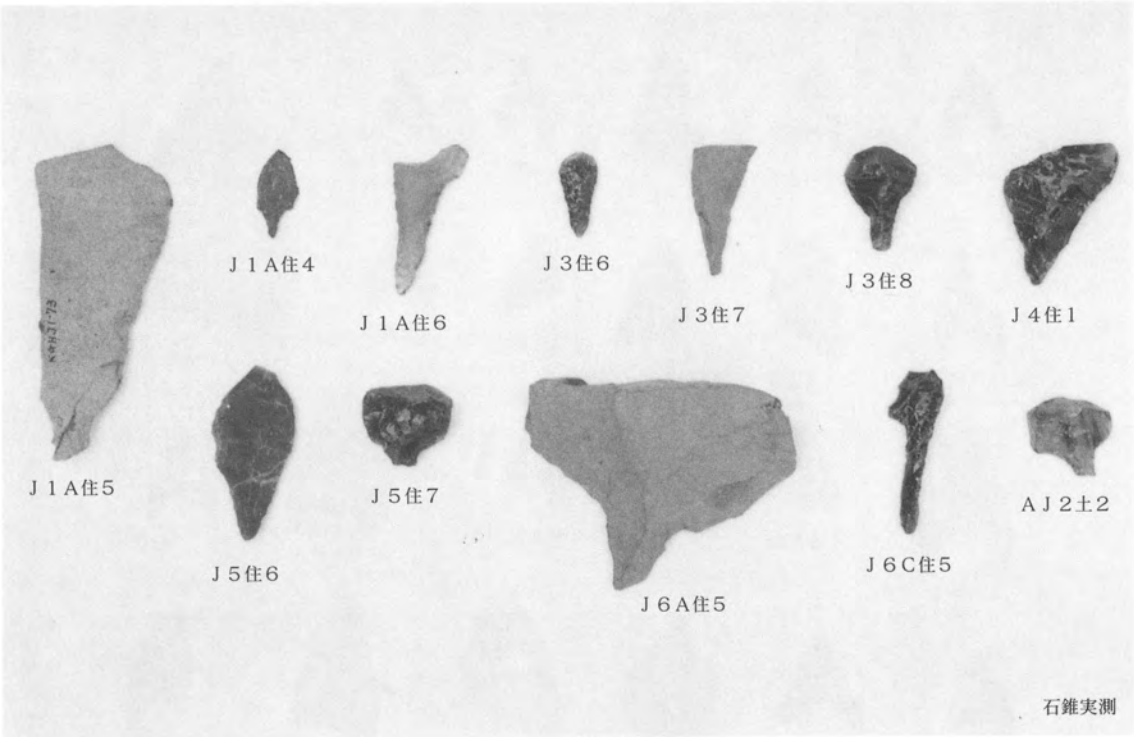
B包2

Ｊ８号住居跡、土坑、Ｂ区包含層出土土器


J１A住１
J１A住２
J１A住３
J３住１
J３住２
J３住４
J３住３
J３住５
J５住１
J５住２
J５住３
J５住４
J５住５
J６A住１
J６A住２
J６A住４
J６A住３
J６C住１
J６B住１
J６C住２
J６C住４
J７住１
AJ２土１
石鏃


J１A住７
J１A住８
J８住１
J８住２
J８住３
未実測
未実測
未実測
未実測
石匙

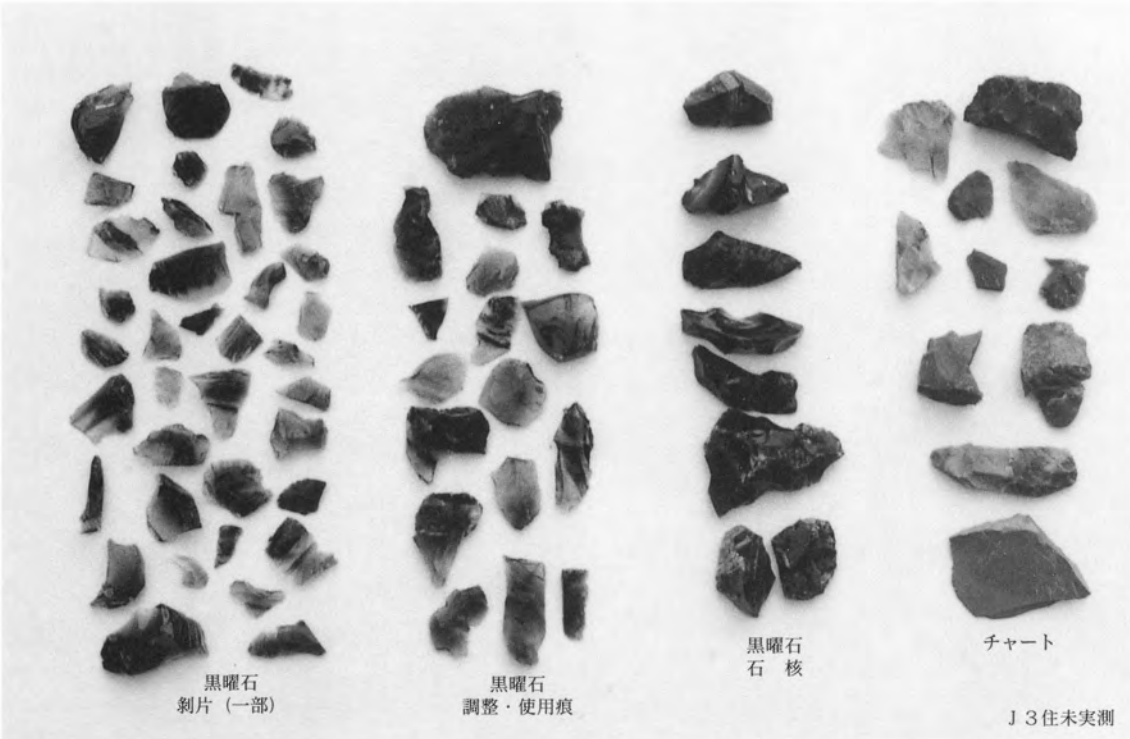
出土石器（1）－石鏃・石匙－



石錐実測

石錐未実測

出土石器（2）－石錐－



出土石器（３）－Ｊ１Ａ・Ｊ３号住居跡出土石器－

出土石器（4）－Ｊ３号住居跡出土石器未実測－

小暮地区遺跡群
広面遺跡

平成2年度県営ほ場整備事業嶺地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成6年3月24日印刷
平成6年3月31日発行

編集・発行/群馬県勢多郡富士見村教育委員会
群馬県勢多郡富士見村大字田島866-1
電話(0272)88-6111
印　　刷/朝日印刷工業株式会社